



「ジョセフ・スミス・ジュニア」 Grant・Romney・Crosby 画,

原作者はウィリアム・ロジャーズと思われる

ジョン・テラー大管長(1808-1887年)は、預言者ジョセフ・スミスについてこう語った。「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。……

彼は神とその民の目に偉大な者として生き、偉大な者として死んだ。」(教義と聖約135:3)

リアホナ

2 第176回半期総大会の大会概要

土曜午前の部会

- 4 全世界に対するわたしたちの証^{あかし}
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 6 主は重荷を負っている人を癒^{いよ}される
十二使徒定員会 ダリン・H・オークス
- 9 神殿は家族にかかわる場所です
七十人 リチャード・H・ウィンケル
- 11 第一世代
七十人 ボール・B・パイパー
- 13 信仰、奉仕、忠誠
七十人 デビッド・S・バクスター
- 15 忍耐の力
七十人 会長会 ロバート・C・オークス
- 17 おお、賢くありなさい
十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード
- 20 主の弟子となる
大管長会第二顧問 ジェームズ・E・ファウスト

土曜午後の部会

- 23 教会役員^のの支持
大管長会第一顧問 トーマス・S・モンソン
- 24 聖文 救いを得させる神の力
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ
- 28 日曜日は必ずやって来る
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン
- 31 永遠に目を向ける!
中央若い女性会会長第二顧問
イレイン・S・ダルトン
- 33 贖罪^{しゅくざい}は人生を清め、再生し、聖なるものとする
七十人 シェーン・M・ボーエン
- 35 什分^{じゅうぶん}の一の律法
七十人 ダニエル・L・ジョンソン
- 37 個人の証^{あかし}が持つ力
十二使徒定員会
ディーター・F・ワークトドルフ
- 40 贖^{あがな}いは、平安と幸福を確固としたものとする
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット

神権部会

- 43 神権定員会
十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング
- 46 真の男になる
七十人 会長会 D・トッド・クリストファーソン
- 49 偉大な幸福の計画
七十人 マーカス・B・ナッシュ
- 51 主からの信頼
七十人 スタンレー・G・エリス
- 53 霊の栄養
大管長会第二顧問 ジェームズ・E・ファウスト

- 56 神権者としての信頼にこたえる
大管長会第一顧問 トーマス・S・モンソン

- 59 立ち上がり、神に仕える男たちよ
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

日曜午前の部会

- 62 堅固な土台
大管長会第一顧問 トーマス・S・モンソン
- 69 救いの計画
十二使徒定員会 L・トム・ベリー
- 72 3本のタオルと25セントの新聞
管理ビショップリック第一顧問
リチャード・C・エッジリー
- 74 あなたがたの幼い子供たちを見なさい
中央初等協会会長第一顧問
マーガレット・S・リファース
- 76 「大きな驚くべき愛」
七十人 アンソニー・D・パーキンズ
- 79 散らされたイスラエルの集合
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
- 82 山を動かす信仰
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

日曜午後の部会

- 85 防御と避け所
十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・バックナー
- 89 何も彼らをつまづかすことはできません
十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー
- 92 御霊^{みたま}によって受ける
中央日曜学校会長 A・ロジャー・メリル
- 94 主に近づく
七十人 クレグ・A・カードン
- 97 主の御手^{みて}に使われる者となる
七十人 ドン・R・クラーク
- 99 彼らが主を知るように
七十人
キース・R・エドワーズ
- 102 だから、
心を決めなさい
七十人
ラリー・W・ギボンズ

- 104 またこの地に預言者たちが
十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド

- 107 閉会の言葉
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

中央扶助協会集會

- 108 主の愛に永遠に抱かれて
中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン
- 111 主の愛を思い起こす
中央扶助協会会長第一顧問
キャスリーン・H・ヒューズ
- 113 キリストに目を向け、手を伸ばし、
キリストのもとに来る
中央扶助協会会長第二顧問
アン・C・ビングリー
- 115 主の愛の御腕^{みうで}
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

- 119 わたしたちの時代のための教え
- 120 指導者の言葉
大会の教えを生活に取り入れるために
- 122 アロン神権者および若い女性用
リソースガイド
- 125 中央補助組織会会長
- 126 チャーチ・ニュース



第176回半期総大会の大会概要

2006年9月30日土曜午前，一般部会

管理 ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会 トーマス・S・モンソン管長。開会の祈り メリル・J・ベイトマン長老。閉会の祈り リチャード・J・メインズ長老。音楽 タバナクル合唱団；指揮 クレーグ・ジェソップ，マック・ウィルバーク；オルガニスト リチャード・エリオット，ジョン・ロングハースト。“ Arise, O God, and Shine”『賛美歌』英語 265番；“ We Ever Pray for Thee”『賛美歌』英語 23番，ウィルバーク編曲，未刊；“ Each Life That Touches Ours for Good”『賛美歌』英語 293番，カンディック編曲，ジャックマン刊；“ イスラエルの救い主”『賛美歌』4番；“ 家庭の愛”『賛美歌』181番，ウィルバーク編曲，未刊；“ 悩めるイスラエル”『賛美歌』6番，ウィルバーク編曲，未刊

2006年9月30日土曜午後，一般部会

管理 ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会 トーマス・S・モンソン管長。開会の祈り デール・E・ミラー長老。閉会の祈り ジーン・R・クック長老。音楽 プロボ宣教師訓練センターの合同聖歌隊；指揮 ダグラス・ベンチリー；オルガニスト リンダ・マーゲッツ。“ 信じ、進まん”デイリー，ナリー編曲，未刊；“ いやしく生まれ”『賛美歌』113番，カーセン編曲，ジャックマン刊；“ 山の上に”『賛美歌』2番；“ 天よりの声聞け”『賛美歌』166番，ダフィン編曲，未刊

2006年9月30日土曜夜，神権部会

管理 ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会 トーマス・S・モンソン管長。開会の祈り クレート・W・マスク・ジュニア長老。閉会の祈り W・クレーグ・ズウィック長老。音楽 ユタ州ブリガムシティーのメルキゼデク神権者による聖歌

隊；指揮 N・ジェフリー・アンダーソン；オルガニスト クレー・クリスチャンセン。“ See, the Mighty Angel Flying”『賛美歌』英語 330番；“ 導きたまえよ”『賛美歌』41番，ウィルバーク編曲，未刊；“ 喜べ，主を”『賛美歌』32番；“ 取り巻く闇の中を”『賛美歌』52番，ウィルバーク編曲，未刊

2006年10月1日日曜午前，一般部会

管理 ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会 ゴードン・B・ヒンクレー大管長。開会の祈り カール・B・プラット長老。閉会の祈り W・ダグラス・シャムウェー長老。音楽 タバナクル合唱団；指揮 クレーグ・ジェソップ，マック・ウィルバーク；オルガニスト ジョン・ロングハースト。“ 主のみ言葉は”『賛美歌』46番；“ 祈りは魂の”『賛美歌』83番；“ 天のお父様の愛”『子供の歌集』16；“ いざ救いの日を楽しまん”『賛美歌』5番；“ How Lovely Is Thy Dwelling Place”ブラームス，ジェソップ編曲；“ 来たりてうたえ”『賛美歌』51番，ウィルバーク編曲，未刊

2006年10月1日日曜午後，一般部会

管理 ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会 トーマス・S・モンソン管長。開会の祈り ジェイ・E・ジェンセン長老。閉会の祈り ドナルド・L・ステューラー長老。音楽 タバナクル合唱団；指揮 クレーグ・ジェソップ，マック・ウィルバーク；オルガニスト ボニー・グッドリッフェ，リンダ・マーゲッツ。“ I Saw a Mighty Angel Fly”『賛美歌』英語 115番，ウィルバーク編曲，未刊；“ 主イエスよ，わが胸”『賛美歌』80番，ウィルバーク編曲，未刊；“ 来たれ，主の子ら”『賛美歌』31番；“ 感謝を神に捧げん”『賛美歌』11番，ウィルバーク編曲，未刊

2006年9月23日土曜夜，中央扶助協会集会

管理 ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会 ボニー・D・パーキン。開会の祈り ジュリー・ヘイルズ。閉会の祈り デニス・I・ヘイルズ。音楽 ユタ州ソルトレーク・シティーの幾つかのステーキの扶助協会による聖歌隊；指揮 エリザベス・バラントイン；オルガニスト ボニー・グッドリッフェ。“ Sing Praise to Him”『賛美歌』英語 170番，ウィルバーク編曲，未刊；“ When I Feel His Love”ペリー，プライムレコーディングズ未刊（独唱 メリнда・ロックウッド）“ Beautiful Savior”『子供の歌集』英語 62，ウィルバーク編曲，未刊（フルート ジャニーン・ゴーカーリツ，イングリッシュホルン ボニー・シユローダー）“ O Holy Jesus”ウィルコックス，セークレッド・ミュージック・プレス刊（ハーブ タマラ・オズワルド）

総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したCDやDVDなどは、通常、教会管理本部配送センターから大会後2か月以内に多くの言語で入手できるようになっています。

インターネット上での大会説教

インターネットにより、多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。アドレスは次のとおりです。 <http://www.lds.org>にアクセスし、Gospel Library”；General Conference”の順にクリックし、言語を選択してください。（訳注 日本語版の文字データを閲覧するには、<http://www.ldschurch.jp>にアクセスし、「ライブラリー」大会説教」の順にクリックしてください。）

ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては、訪問する会員の必要性に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

表紙の説明

「キリストと少年」カール・ヘンリック・ブロック画

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー クレーグ・ダイヤモンド，ウェルデン・C・アンダーセン，ジョン・ルーク，マシュー・ライアー，クリスティーナ・スミス，レス・ニルソン，スコット・デイビス，アンバー・クローソン，ロッド・ポアム，エミリー・リー・シュマン，ジェフリー・マカリスター，ダスティン・ファイフ。パハマ ブッキー・ジョセフ。ブラジル ラウレニ・フォチェット。カンボジア トレバー・ライト。メキシコ クリスチャン・バラガン，イスラエル・グティエレス。フィリピン ダニー・ソレタ，L・カルベル・ホワイティング。ロシア ウラジミール・エゴロフ。スコットランド マーク・フィンチ・ヘデングレン。トンガ メレ・ナウ



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン,
ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オクス, M・ラッセル・バラード,
ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング,
ディーター・F・ワークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン
顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン, 菊地良彦
実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク
編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ
主任編集者:ラリー・ヒラー, リチャード・M・ロムニー
グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボーク
編集主幹:ピクター・D・ケーブ
編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド
副編集長:ライアン・カー, アダム・C・オルソン
編集補佐:スーザン・バレット
編集スタッフ:シャナ・バトラー, リンダ・ステール・クーパー, ラリー・ン・
ポーター・カーント, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビ・
ン・リービット, サリー・J・オデカーク, ジュディス・M・バーラー, ビビアン・
ポールセン, サラ・R・ポーター, ジェニファー・ローズ, ドン・L・サー・
ル・ベッカ・M・テラー, ロジャー・テリ, ジャネット・トーマス, ボール・
バンデンバーグ, ジュリー・ワデル, キンバリー・ウェップ
主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン
編集インタン:ブリタニー・ジョーンズ・ビーム, ニュール・セイモア
マーケティング部長:ラリー・ヒラー
実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ
アートディレクター:スコット・バン・カンペン
制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ
デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オーヌ, ハ・
ワード・G・ブラウン, ジュリー・バーテッド, トーマス・S・チャイルド, レ・
ジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー,
タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ビュクストン,
印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック
配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

定期購読は、『リアホナ』注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ
.....〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリ
スト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円
『リアホナ』への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール:liahona@ldschurch.org

『リアホナ』(モルモン書)に出てくる言葉、『羅針盤』または『指示器』の意は、以下の
言語で出版されています。
アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクラ
イナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロ
アチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セ
ブアノ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, デルグ語, デン
マーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語,
フィンランド語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド
語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトア
ニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります)
©2006 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本
『リアホナ』に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい
て臨時に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。
視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている
場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。
英語版承認-1996年8月 翻訳承認-1996年8月
原題-International Magazines November 2006.
Japanese. 26991 300
『リアホナ』は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で
掲載されています。英語の場合は Gospel Library(福音図書館)をク
リックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers In the United States and Canada:
November 2006 no. 11 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-
4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints,
50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is
\$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage
Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days'
notice required for change of address. Include address label from a recent
issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian sub-
scriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below.
Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa,
MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste
Information: Publication Agreement #40017431)
POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者リスト(50音順)
アイリング,ヘンリー・B43
ウイング,リチャード・H9
ワークトドルフ,ディーター・F37
エッジリー,リチャード・C72
エドワーズ,キース・R99
エリス,スタンレー・G51
オクス,ダリン・H6
オクス,ロバート・C15
カードン,クレグ・A94
ギボンズ,ラリー・W102
クラーク,ドン・R97
クリストファーソン,Dトッド46
ジョンソン,ダニエル・L35
スコット,リチャード・G40
ダルトン,イレイン・S31
ナッシュ,マーカス・B49
ネルソン,ラッセル・M79
パイパー,ポール・B11
パーキン,ボニー・D108
パーキンス,アンソニー・D76
バクスター,デビッド・S13
バッカー,ボイド・K85
バラード,M・ラッセル17
ヒューズ,キャスリーン・H111
ピングリー,アン・C113
ヒンクレー,ゴードン・B,
.....4, 59, 82, 107, 115
ファウスト,ジェームズ・E, 20, 53
ヘイルズ,ロバート・D24
ベドナー,デビッド・A89
ペリー,L・トム69
ボーエン,シェーン・M33
ホランド,ジェフリー・R,104
メルル,A・ロジャー92
モンソン,トーマス・S, 23, 56, 62
リファース,マーガレット・S, ...74
ワースリン,ジョセフ・B28

テーマ別索引
あ 愛9, 74, 108, 115
証37, 62, 104
贖い6, 33, 40, 99
哀れみ108
イエス・キリスト6, 15, 24,
28, 46, 69, 76, 113
イスラエルの集合79
一貫性13
一致43
祈り62, 82
戒め102
癒し6
男らしさ46
か 開拓者82
回復79
家族9, 85
神の性質76
パイパー,ポール・B11, 94
傷つく89
犠牲20, 82
希望28, 76
義務56
教育59, 115
教会の発展4
清さ31
悔い改め 31, 33, 40, 49, 113
高潔さ46, 72
幸福40, 49
個人のふさわしさ76
子供74
さ 死28
慈愛15, 97, 113
姉妹同士のきずな108
従順11, 20, 40, 97
什分の一35
祝福35
正直72

自立115
試練6, 13, 85, 99
神権 43, 51, 53, 56, 59, 94
信仰 13, 35, 53, 62, 82, 115
神殿4, 9, 31
信頼56
救いの計画49, 69
正義94
聖文24, 53, 62, 92, 111
聖約51, 79
聖霊37, 92, 97, 111
責任46
選択の自由89
総大会104, 107
た 堪え忍ぶ99
知恵17
弟子20
伝道活動4, 69
同性愛6
道徳102
な 忍耐15, 89
は 背教79
標準85, 102
ふさわしさ 31, 51, 53, 56, 59
扶助協会115
復活28
平和40, 107, 111
奉仕 13, 17, 43, 53, 56, 62
ボルノグラフィ6, 59
ま 学ぶ92
守り74
召し17
模範11
モルモン書24
や 誘惑49
赦し33, 76, 89
預言者104
ら 霊性53

全世界に対する あかし わたしたちの証

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

主は御自身の教会を豊かに祝福してくださっています。そして、わたしたちの義務は全力を尽くして前進することです。



わたしの愛する兄弟姉妹の皆さん、再び総大会に集うこの機会に、教会が引き続き強さと影響力を増していると報告できることをうれしく思います。24年前の1982年、わたしは日記にこう記しています。「将来、10月の総大会の衛星放送が、300か所以上で受信される日が来るだろう。つまり、ステーキセンターが300か所以上になる日が来るのだ。そして、聖徒たちは国中から集まり、大会に参加するだろう。」

現在、教会が所有する衛星中継の受信施設は83の国に、6,066あるという報告を受けています。わたしは教会員が増しているだけでなく、世界中の末日聖徒に映像と音声届け、コミュニケーションを取る手段が増していることに感謝しています。

さて、わたしたちは合衆国とカナダでバ

プテスマがもう少し増えるようにと望んでいます。世界中のどの国でも、同じことが言えるでしょう。しかし、約160の国の会員たちが携わる刈り入れの業はすばらしいものです。少し前まで末日聖徒がわずかしかいなかった地域にも、今では堅固なワードやステーキが存在し、男女を問わず、忠実で有能な指導者がいます。

わたしたちが実際に訪問するには限界がありますが、その代わりに、大管長会、十二使徒定員会、七十人の兄弟たちは、世界中の多くのステーキに、衛星放送を通じて語りかけることによって、それを補っています。

状況は変わりましたが、わたしたちのメッセージは変わりません。わたしたちが世界に伝えている証は、天が開かれ、永遠の御父である神とその御子、復活された主が御姿を現され、語られたということです。わたしたちは、永遠の祝福の鍵と権能を持つ神権が回復されたことを厳かに証しています。

わたしたちは最近カリフォルニア州サクラメントに神殿を奉献しました。カリフォルニア州で7番目、世界では123番目の神殿です。またソルトレーク地域で別の神殿の鋳入れ式も行いました。

ソルトレーク・タバナクルの修復が予定どおりに進んでいると発表できることもうれしく思います。来春、タバナクル合唱団の歌声は再び、あの、他に類を見ないすばらしい建物から毎週流れるようになる



でしょう。

教会は、テンプルスクウェアの環境を守るために、大規模な開発プロジェクトを行っています。多大な費用がかかりますが、什分の一基金からの支出が行われる



ことは一切ありません。

しかしながら、聖徒たちの忠実さは、引き続き、什分の一やささげ物を納めることによって示されます。

要するに、主は御自身の教会を豊かに

祝福してくださっています。そして、わたしたちの義務は全力を尽くして前進することです。

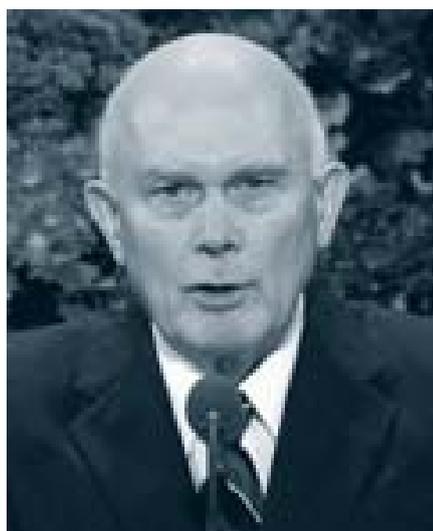
では、兄弟姉妹の皆さん、これから聖歌隊の歌を聞いた後で、兄弟姉妹たちのお

話を聞くことにしましょう。このすばらしい大会を始めるに当たり、この大会に終始主の導きがあり、わたしたちの心があふれんばかりに満たされますように、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。

主は 重荷を負っている人を 癒される

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス

主イエス・キリストの癒しの力は、……この世のいかなる苦難にも及ぶのです。



救 い主はこう言われました。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ11:28)

重荷を負っている人は多くいます。愛する人と死別した人、体が自由にならない人を介護している人、離婚によって心に傷を負った人もいます。あるいはまた、永遠の結婚を待ち望んでいる人、常習性のある物質の奴隷になっている人、アルコールやタバコや麻薬、ポルノグラフィーなどが習慣になってしまった人もいます。また、身体的または精神的に障害を持つ人、あるいは同性愛に苦しむ人、ひどい

うつ症状や、自分はふさわしくないという思いに悩む人もいます。多くの人には、何らかの形で、重荷を負っているのです。

わたしたち一人一人に対して、救い主は次のような愛にあふれる招きの言葉をかけておられます。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。(マタイ11:28-30)

聖文には、救い主が重荷を負っている人を「癒された」記録が数多く残されています。目や耳の不自由な人、手足の障害を持つ人、重い皮膚病を患う人が癒され、^{けが}汚れた霊は追い出されました。こうした肉体的な病から救われた人々について、聖文では、しばしば、完全に治ったという意味で「いやされた」と表現しています。(マタイ14:36; 15:28; マルコ6:56; 10:52; ルカ17:19; ヨハネ5:9参照(訳注

欽定訳聖書では、以上の聖句にはすべて「いやされた」の意の「made whole」という表現が使われているが、日本語訳では「救われた」と訳されている場合もある))

イエスは、肉体的な病気に苦しむ多く

の人々を癒されましたが、それだけにとどまらず、主の癒しの手は、そのほかの病から「いやされる」ことを求める人々にも伸べられました。マタイはそのことについて、イエスは民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをお癒しになったと記しています(マタイ4:23; 9:35参照)。また、群衆がついて来たので、「彼らを皆いやし」たともあります(マタイ12:15)。もちろん、こうした癒しの中には、情緒的、精神的、霊的な面での癒しも含まれていました。

イエスは、伝道を開始されて間もなく、会堂で説教されたとき、次のようなイザヤの預言の言葉をお読みになりました。「主は貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださった。主はわたしをつかわして、悲嘆に暮れている者を癒させ、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、傷つけられている者に自由を得させ(るのである)。(欽定訳ルカ4:18から和訳)イエスは、この預言を成就するために来たと言われましたが、特に、肉体的な病を持つ人には癒しを施すことを明言なさいました。また同時に、囚人を解放し、傷つけられている人に自由を得させ、悲嘆に暮れている人を癒すと宣言されました。

ルカによる福音書には、そうした教導と癒しの例が数多く記載されています。あるときは、「おびたしい群衆が〔イエスの〕教を聞いたり、病気をなおしてもらったりするために、集まってきた(ルカ5:15)とあり、また別のときには、「イエスはさまざまの病苦……に悩む人々をいやし(ルカ7:21)とあり、「また治療を要する人々をいやされた(ルカ9:11)とあります。さらに、群衆がユダヤ、エルサレム、シドンの海岸地方から、「教を聞こうとし、また病気をなおしてもらおうとして(ルカ6:18)平地に押し寄せて来た」という記述もあります。

新世界に住む義にかなった人々の前に御姿を現されたときも、救い主は、足の不自由な者、目の見えない者、そのほか肉体的な障害を持つ者たちに前に進み出るよう呼びかけられました。主は「どんなことでも苦しんでいる者」たちも同じように



招かれました(3ニーファイ17:7)。「彼らをここに連れて来なさい。癒してあげよう。(7節) モルモン書には、群集が「どんなことでも苦しんでいる者たちを伴って前に進み出た」様子が記述されています(9節)。その中には当然、あらゆる種類の肉体的、情緒的、精神的な病を持つ人々がいたに違いありません。そして、聖文は、イエスが「連れて来られた者をごとごとく癒された」と証しています(9節)。

救い主の教えによれば、この世には**かんなん**が待ち受けています。しかし、わたしたちは「勇気を出」する必要があります。なぜなら、救い主は「すでに世に勝って」おられるからです(ヨハネ16:33)。救い主の贖いは、罪の代価を支払うだけでなく世のあらゆるわずらいを癒すほど、力強く、すべてに及ぶのです。モルモン書はこう教えています。「神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。(アルマ7:11。2ニーファイ9:21も参照)

救い主はわたしたちの苦悩を御存じです。救い主は、わたしたちのためにおられるのです。主は、自らたとえて教えられた良いサマリヤ人のように、わたしたちが道

端で傷を負っているときに、傷の手当てをし、世話をしてくださいます(ルカ10:34参照)。兄弟姉妹の皆さん、主の贖いの癒しの力は、皆さんのため わたしたちのため、すべての人のためにあるのです。

贖いの包括的な力については、賛美歌「主よ、嵐すさび」の靈感あふれる歌詞の中によく表れています。

われはうなだれて 悲しみ深し
主よ、われは祈るを 救いたまえや
罪の流れにて 溺れ死ぬを
急ぎてこの流れを 主よ、とどめたまえ
(『賛美歌』59番)

わたしたちは、メルキゼデク神権の権能を通して癒されます。イエスは使徒たちに「あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやす」権能をお授けになりました(マタイ10:1。マルコ3:15;ルカ9:1-2も参照)。使徒たちは出て行って「いたる所で福音を宣べ伝え、また病気をいやした。」(ルカ9:6。マルコ6:13;使徒5:16も参照)七十人たちも同様に権能と指示を受けて、出て行き、病人を癒したのでした(ルカ10:9;使徒8:6-7参照)。

救い主は御自分が癒そうと考える人はだれでも癒すことができになりますが、

主の神権の権能を持つ人は、常にそうではありません。神権の権能をこの世で行使する場合、その権能の持ち主である主の御心に従う必要があります。その結果、たとえ長老から祝福を受けたとしても「死に定められてい[る]」人は癒されないと教えられています(教義と聖約42:48)。同じように、使徒パウロは、「肉体に[与えられた]一つのとげ」から癒されたいと願いましたが、主はあえて癒されませんでした(2コリント12:7)。後日、パウロは、主が「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」と説明してくださったと書いています(9節)。パウロは、主の説明に従順に応じて、「キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇[った]。)...なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである」と述べています(9-10節)。

癒しの祝福は様々な形でもたらされま
す。わたしたちのことを最も深く愛しておられる御方が御存じのままに、それぞれの必要に合わせてもたらされるのです。ときに、「癒し」は病気を治し、重荷を軽くしてくれます。しかし、ときには、託された重荷に耐えられるだけの力や理解力、忍耐力が与えられることによって「癒され

る」こともあります。

アルマに従った人々は、邪悪な圧制者
の下で奴隷の状態にありました。奴隷か
らの解放を祈り求めると、主はこう告げら
れました。最終的には救い出すが、しばら
くの間は「荷を軽くし、あなたがたが奴隷
の状態にある間、あなたがたの背にその
荷が感じられないほどにしよう。わたしが
このようにするのは、あなたがたがこの後、
わたしのために証人になれるようにするた
め、また主なる神であるわたしが、苦難の
中にいる自分の民を訪れるということ、
……知ることができるようにするためであ
る。(モーサヤ24:14) この場合、民は重
荷を取り除いていただいたわけではあり
ません。そうではなく、主が力を与えてく
ださって、「彼らが容易に重荷に耐えられ
るように彼らを強くされた。そこで彼らは
心楽しく忍耐して、主の御心にすべて
従った」のです(15節)。

夫と死別した、あるいは離婚した母親
たち、独身で孤独な人々、負担を抱える
介護者たち、中毒に陥っている人々、何
であれ重荷を負っているすべての人も、
この同じ約束と癒しの力を受けることが
できます。預言者は言っています。「キリ
ストのもとに来て、キリストによって完全
になりなさい。(モロナイ10:32)

ときには、重荷の大きさに絶望するこ
とがあるかもしれませんが。人生に嵐がす
さんでいるように思えるとき、見捨てられ
たと感じて、嵐の中のあの弟子たちのよ
うに泣き叫びたくなるかもしれません。「先
生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかま
いにならないのですか。(マルコ4:38)
そのようなとき、主が弟子たちにどうお答
えになったかを思い出すとよいでしょう。
「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして
信仰がないのか。(40節)

重荷が取り除かれる場合も、使徒パウ
ロのように重荷に耐える力を授かって重
荷とともに生きる場合も、主イエス・キリ
ストの癒しの力は、この世のすべての苦
難に及ぶのです。

総大会で以前ボルノグラフィーの害に
ついて話したところ(「ボルノグラフィー」
『リアホナ』2005年5月号,87-90)、この



習癖に悩む人々から数多くの手紙を受け
ました。中には、ボルノグラフィーを克服
した男性の手紙もありました。ある男性
はこう書いています。

「捕らえた人々の生活を徹底的に支配
するあの罪の暗闇から抜け出すという経
験を通じて、わたしは幾つかのことを学
びました。(1)これは大きな問題であって、
信じられないほど克服し難いものです。
……(2)悔い改めの過程で、最も大切な
支えと励ましとなるのは、救い主です。
……(3)聖文を毎日真剣に学ぶこと、神殿
に定期的に参入すること、聖餐の儀式に
出席して真剣に瞑想すること、これらは皆、
真の悔い改めの過程に不可欠です。これ
らは皆、救い主との関係を深め、強めるも
のであり、救い主の贖いの犠牲について
理解を深め、主の癒しの力に対する信仰
を増してくれるのだと思います。(2005年
10月24日付けの手紙)

救い主は言われました。「わたしのも
とにきなさい。……そうすれば、あなたが
たの魂に休みが与えられるであろう。」
(マタイ11:28-29) 重荷を負ったこの男
性は救い主に頼りました。わたしたち一
人一人もそうすることができます。

夫がボルノグラフィーに溺れてしまっ
たために結婚生活が破綻しそうだった女性
からも手紙を受け取りました。彼女は5年
間苦しみに耐えながら夫に寄り添いまし
た。こう書いています。「救い主の栄光に
満ちた贖いというかけがえのない賜物に

より、そして、主から学んだ救しに関する
教えにより、(夫は)ついに自由になりまし
た。……そして、わたしも自由になりまし
た。」彼女自身は罪からの清めを必要と
していませんでしたが、愛する人が束縛
から解放されることを願って、夫にこう助
言しています。

「主と話してください。主はあなた
の親友なので。主はあなたの心の
痛みを御存じです。すでにあなたのため
にその痛みを感じておられるのです。主
はあなたの重荷を喜んで負ってください
ます。主を信頼して、その重荷を主の足
もとに置いて、主に負ってもらってくだ
さい。そうすればあなたの苦悩は、あなた
の胸のいちばん奥で、主の平安に変わる
でしょう。(2005年4月18日付けの手紙)

ある中央幹部は、贖いの力から助けを
受けて、同性愛を克服することができた男
性から手紙を受けました。その男性は神
殿の聖約に違反し、自分の子供に対する
責任をないがしろにする重大な背きを犯し
て、破門されました。その後、福音に従
う努力をするか、それとも教えに反する道
を進み続けるかの決断を迫られたのです。

彼からの手紙です。「困難であることは
覚悟していましたが、実際どれほど辛い
経験になるか分かりませんでした。」手紙
には、悔い改めの道のりで経験した空虚
感、孤独感、信じ難いほどの心痛につ
いて触れられています。彼は救いを求めて、
ときには何時間も必死に祈りました。聖
文を読むこと、優しいビショップとの交
わり、神権の祝福を通して、彼は支えを受
けました。しかし、最終的に違いをもたら
したのは、救い主からの助けでした。男
性はこうつぶやいています。

「救い主と主の贖いがなければ不可能
でした。……感謝の念に圧倒されそう
です。ときには苦痛が限界を超えそうにな
りました。でも、救い主の苦痛に比べれば、
はるかに小さな痛みでした。かつての生
活は暗闇でしたが、今は愛と感謝で満た
されています。」

手紙はこう結ばれています。「変わるた
めにはセラピーが唯一の答えだと言う人
もいます。彼らはこの問題をよく研究して

いますし、この問題に悩む人にとって大きな助けとなるでしょう。……でも、そのような人たちは天父に助けを請うことを忘れていないか心配です。変われるとすれば、神の御心によって変われるのです。さらに、(同性愛の)原因を探ろうとする人が多いことも心配です。……(この問題を)抱えた理由を探る必要などないのです。そうした性癖を持って生まれたのか、環境的要因があったのかは知りません。大切なのは、わたしの人生にはこの問題が存在するという事実と、これからそれにどう対処していくのかということなのです。(2006年3月25日付けの手紙)

こうした手紙を書いた人たちは、イエス・キリストの贖いをよく知っています。贖いが持つ「癒し」の力の方が、悔い改める機会を与えるという事実を超えることを知っているのです。贖いはまた、「あらゆる苦痛と苦難と試練」に耐える強さを与えてくれます。それは、救い主がその身に「御自分の民の苦痛と病」を受けられたからにはほかなりません(アルマ7:11)。兄弟姉妹の皆さん、たとえ皆さんの信仰と祈りと神権の力によって皆さんが苦難から癒されないとしても、贖いの力によって、皆さんは確かに、重荷に耐える力を受けることができます。

救い主は言われました。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがた(の魂)を休ませてください。(マタイ11:28-29)

預言者モルモンが息子モロナイのために祈った言葉を借りて、わたしもこの世の問題と闘うわたしたち一人一人のために祈ります。「キリストに支えられて、キリストの苦しみと死と、……キリストの憐れみと寛容と、キリストの栄光と永遠の命とを願う望みが、とこしえにあなたの心の中にとどまるように。(モロナイ9:25)

わたしは、イエス・キリストが救い主であり、御自分のみもとに来て、キリストにあって完全な者となるよう、わたしたちすべてを招いておられることを証します。イエス・キリストはわたしたちの傷に包帯を巻き、重荷を負う人を癒してくださいませ。イエス・キリストの御名により、アーメン。

神殿は家族にかかわる場所です

七十人
リチャード・H・ウィンケル

神殿に行くと、それまでに感じたことがないほどの深い愛で家族を愛するようになります。



つ 先ほどゴードン・B・ヒンクレー大管長の言葉にあったように、最近カリフォルニア州サクラメントにおいて、末日聖徒イエス・キリスト教会の123番目の神殿がヒンクレー大管長によって奉獻されました。この美しい神殿は、サクラメントとその周辺地域に住む8万人を超す、喜びにあふれたすばらしい教会員が使用することになります。オープンハウスには16万8,000人以上の人が訪れ、世界中のどの場所にも増してこの壮麗な建物の中で、教会員が救い主イエス・キリストに近づくことができることと教えられました。教会員は、今日の混乱した世にあって自分と家族を支える平安と希望を、救い主を通して見いだせることを知っています。

神殿に行くと、それまでに感じたことがないほどの深い愛で家族を愛するようになります。神殿は家族にかかわる場所なのです。妻のカレンとわたしは、神殿で奉仕を重ねるにつれて、互いと子供たちへの愛を深めてきました。しかも、さらに発展して、親、きょうだい、おじ、おば、いどこ、先祖、そして特に孫たちへの愛が深くなりました。これこそエリヤの霊であり、家族歴史の業の真髄です。聖霊から促されると、先祖の心は子孫に、子孫の心は先祖に向くようになります。神権によって夫と妻はともに結び固められ、子供たちは両親に永遠に結び固められます。それによって家族は永遠となり、死によって引き離されることはなくなるのです。

わたしたち夫婦が若いころ、信仰箇条を暗記するように我が家の幼い子供たちを励ました。覚えられたらお父さんと夜外出するというのが、ご褒美でした。上の3人が全部覚えたときは、うれしかったものです。7歳の息子が初めて信仰箇条を13条とも暗記したとき、わたしは息子と座って、いつ、何をするかを決めようと思いました。けれども、わたしは仕事や社交、教会の責任で予定が詰まっており、それから2週間ばかり、息子のために一晩も空けることができそうにありません。息子はすっかりしょげてしまいました。しかし、当時住んでいた町に24時間営業のボーリング場が見つかりました。さっそく行く日を決め、朝の5時にボーリングを始めることにしまし



た。4時に起きて朝食を済ませ、町に行くという計画でした。

当日になると、まだかなり早い時間に、だれかがわたしの肩をゆすっているような気がしました。何とか目を開けようとするわたしの耳に、「お父さん、もう時間？」という息子の声が聞こえてきます。目覚まし時計を見ると、まだ2時になったばかりでした。

「寝てなさい。まだ時間じゃないよ」とわたしは答えました。

1時間後、また同じことが起こりました。「お父さん、お父さん、もう行く時間じゃないの？」息子をもう一度ベッドに戻しましたが、息子の興奮した気持ちがひしひしと伝わってきました。

やっと4時になり、わたしたちは起きて朝食を取り、ポーリング場に出かけました。とても楽しい時間でした。

このような思い出に残る活動を子供たち全員と定期的に行っていた、と言えたらいいのですが、そうはできませんでした。昔に戻って色々やり直せたらと幾度も願う親がいますが、わたしもまたその一人なのです。

皆さんと同じように、わたしも自分の子供を一人として失いたくありません。家族全員と永遠に一緒にいたいのです。神殿はすべての人に、現世の生涯を終えた後も家族関係が続き、強まっていくという特別な希望を与えてくれます。神殿で執行される結び固めは、さらなる祝福を約束

しています。

「預言者ジョセフ・スミスが宣言した次の教えほど、慰めとなる教義はありません。すなわち、忠実な両親は、永遠の結び固めと、真理の大義のために雄々しく仕える者が受ける神聖な約束により、自分自身だけでなく子孫をも救うことができます。群れからはぐれる羊もいることでしょう。しかし、羊飼いの目は彼らのうえに注がれています。遅かれ早かれ、群れからはぐれた子供たちは、主の御手が差し伸べられ、群れへ引き寄せようとしておられるのを感じるのです。この世か、来るべき世のいずれかにおいて、彼らは戻って来るでしょう。正義に対する自らの負債を払い、自分の罪のために苦しみ、いばらの道を歩むかもしれません。しかし、あの放蕩息子のように、最終的に愛と救いの心にあふれる父親のもとへと導かれるなら、その苦しい経験は報われるのです。」¹

自分に結び固められた子を持つ親にとって、なんと慰めになる言葉でしょうか。

神殿には、そのほかの祝福もあります。神殿はこの世からの避け所です。 sacramentの会員たちはオープンハウスの訪問者に次のように言っていました。「問題を抱えて気が動転していることもあると思います。そのようなときは一時にどっとしなくてはいけないこと」が沸き上がってきて、何もはっきり考えることができ……ないものです。神殿では、心の混乱に舞い上がったほころも地面に降りて行き、霧やかすみもうのように晴れて、混乱した心そのままでは到底見いだすことのできなかつたような……物事も、はっきりと『見る』ことができるのです。」²

神殿の日の栄えの部屋は特に、平安で静かな美しい場所です。物事をゆっくり考え、思いを巡らし、祈り、瞑想し、天の御父と救い主の愛を感じることができる静かな安息の場所なのです。神殿で思いを巡らし、瞑想していると、思いは自然と家族に向かっていきます。

サムエル記下第22章7節でダビデは言いました。「苦難のうちにわたしは主を呼び、またわが神に呼ばわれた。主がその宮からわたしの声を聞かれて、わたしの

叫びはその耳にとどいた。」神殿は、自身自身の管理の職を祝福する、個人の啓示を受ける場所なのです。

ヒンクレー大管長は言いました。「贖い主がすべての人のために御自身の命を身代わりの犠牲として差し出し、それによって救い主になられたように、わたしたちも神殿で身代わりの業を行うとき、わずかながら、幕の向こう側にいる人々の救い手となれるのです。地上にいる人々が身代わりの業を行わないかぎり、死者には前進する手立てがないからです。」³

それほど大切な奉仕の業を、わたしたちは行っているのです。この世を去った兄弟姉妹は文字どおりわたしたちとつながっていくのです。

神殿は、御父と御子を知る場所であり、神の存在を、身をもって知る場所です。預言者ジョセフ・スミスはこう懇願しました。「皆さんに助言します。……もっと深く神の奥義を探し求めてください。」⁴ それにはどこで探せばよいのでしょうか。神の宮の中です。

神殿に参入する民、神殿を愛する民になりましょう。神殿は家族にかかわる場所であることを証します。神殿のすべての事柄はイエス・キリストを証しています。神殿に入ると、主が愛と奉仕の模範であられたことが分かります。神殿は主の聖なる宮です。主が神の御子であり、わたしたちの救い主、贖い主、仲保者、そして、御父に対するわたしたちの弁護者であることを知っています。主はわたしたちを愛し、家族が幸せになって永遠にともにいることを願っておられます。

イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. オーソン・F・ホイットニー、Conference Report, 1929年4月, 110
2. ボイド・K・バッカー「聖き宮居」『聖徒の道』1992年6月号, 23参照
3. Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000 - 2004 (2005年), 265
4. History of the Church, 第6巻, 363

第一世代

七十人

ポール・B・パイパー

家族の中で最初に福音を受け入れた皆さんは第一世代となります。これは選ばれた世代であり、過去の世代も現在の世代も、そして未来の世代も皆さんを通して祝福を受けることになります。



数 日前、家族と食事をしていて、集会で話をすることが話題になりました。13歳の娘クラリッサが、わたしたちの集うモスクワの支部の聖餐会で話をすることになっていたのです。娘はその準備をしていましたが、少し不安を感じていました。「すべてうまくいくからだいじょうぶだよ」とわたしは励ましました。そして、「少なくとも、総大会で何万人もの人に向けて話さないといけないわけじゃないんだから」と言って、自分でも少なからず感じていた不安を伝えました。すると今度は、クラリッサがわたしにこう助言してくれました。「だいじょうぶよ、お父さん。大きな支部で話すだけだと思えばいいのよ。」兄弟姉妹の皆さん、確かにとてつもなく大きな支部です。

今朝わたしは、末日聖徒イエス・キリスト教会の第一世代の会員に向けて話すこ

とにしました。つまり、イエス・キリストの福音が、生ける預言者、聖見者、啓示者とともに今日地上に回復されたというメッセージを、家族の中で最初に聞いて受け入れた人のことです。皆さんはへりくだり、信仰を行動に移し、すべての罪を悔い改めました。そして、水に沈めるバプテスマによってイエス・キリストの御名と聖霊とを受けました。¹ 家族の中で最初に福音を受け入れた皆さんは第一世代となります。これは選ばれた世代であり、過去の世代も現在の世代も、そして未来の世代も皆さんを通して祝福を受けることになります。²

第一世代の教会員であるのは、容易なことではありません。家族の中でだれも歩んだことのない道を歩むのですから。問題の多い状況にある人もいるでしょう。自分のすることを理解し、支持してくれる人が友達や親戚の中に数人いるだけ、あるいはまったくいないという人もいるでしょう。時には落胆し、こうまでして教会に集う価値があるのかと迷うことがあるかもしれません。今朝わたしの話を通して、その価値があることを確信してもらえたらと思います。

第一世代の教会員は、教会や家族の中で特別で重要な位置にいます。第一世代の教会員が教会員全体の半分以上を占めているということを知っていたでしょうか。³ 第一世代がこれほど教会員総数の大きな部分を占めるのは、恐らく教会初期のころを除けば、ほかになかったのではないのでしょうか。皆さんの信仰と証は、ほかの



フィリピンの集会所に到着した家族。

人々にとって大きな力であり、祝福です。皆さんのおかげでわたしたちは福音の原則を深く理解し、証を強めることができるのです。

皆さんがワードや支部で王国を築くために証や才能、能力を用い、勢力を尽くすとき、教会には非常に大きな力が加わり増します。皆さんは偉大な模範となって福音を分かち合い、伝道に出、子供たちを伝道に出し、新会員を歓迎しています。周囲の人々に優しい手を差し伸べ、御霊に導かれた奉仕を通して彼らを強め、祝福します。今日の教会で行われていることの非常に多くは、皆さんの努力なしには成し遂げられません。

さらに大事なことは、第一世代の教会員として、皆さんは家族の中で大切な役割を担っているということです。イエス・キリストの真の弟子として、皆さんは家族の模範です。彼らが教会員であろうとなかろうと、家庭で福音を実践するとき、周りの人は皆さんを通して救い主の愛を感

じます。家族は、あなたが何か善いことをしているのは分かっています。たとえ彼らがそれを理解できなくても、またそれを受け入れるだけの信仰がなかったとしてもです。ですから、忍耐強く、愛を示してください。家族に仕える方法が分かるよう毎日祈ってください。主は、家族に良い影響を与えられるよう皆さんを助け、祝福してください。常に善良かつ正直であることによって、信仰と義の模範となることができます。このような模範は皆さんの人生を形作りますが、さらに重要なのは、それが家族や子孫の標準になるということです。

第一世代として、皆さんは福音を聞かず、救いの儀式を受けずに亡くなった先祖に対して主の祝福への扉を開く鍵でもあります。彼らの代わりにこの業に取り組むというまとない機会と特権に、皆さんはあずかっているのです。先祖は自分たちを捜し当ててほしいと強く願っていますから、記録の探求を助けてくれることで

しょう。名前が見つかったなら、ふさわしい生活をしてきた皆さんは神殿に参入して救いに不可欠な儀式を彼らのために施すことができます。この儀式は皆さんと先祖を結びつけ、皆さんの生活に偉大で霊的な力をもたらします。

皆さんは第一世代の教会員なので、その一つ一つの選択が大切です。小さくて取るに足りないように見える決断が、皆さん自身の生活だけでなく、過去と未来の世代にまで影響を及ぼすことがあるのです。第一世代の教会員であるクリスは、若くしてバプテスマを受けた翌日、職場でアルコールを勧められました。友達が皆集まって飲んでいましたから、仲間からの圧力は相当なものでした。しかも、前日にバプテスマを受けて主と約束を交わしたことを知る人はいません。しかし、彼は飲まないという決断をし、そのために、ひどい扱いを受けました。後にこのときのことを振り返って、クリスは次のように書いています。「あの〔バプテスマの〕約束を交わしてからもう40年になります。そして、はっきりと言えるのは、わたしは……知恵の言葉を守ってきたということです。もしもあのときアルコールを飲んでいたら、恐らくわたしは一生知恵の言葉を守れなかったでしょう。」

しかし、クリスはバプテスマの約束を守りました。その後、忠実な会員と出会って結婚し、力を合わせて8人の子供たちを福音の教えに添って育てました。今では子孫は6代目にまで及び、信仰深い子孫は数百人を数えます。その多くが伝道に出て人々に福音を宣べ伝えました。また家族歴史の探求に努めたおかげで、さらに数百人の人々に福音の祝福への扉が開かれました。第一世代の一人の教会員が下した小さな決定が、これほど大勢の人々の行く末を変えたのです。

第一世代がどれほど重要な存在か分かったでしょうか。自分が置かれた立場と自分が持つ良い影響力を理解できたでしょうか。自分の存在価値と、人に与える影響力を決して過小評価しないでください。サタンは皆さんの価値を知っているので、間違った選択をするよう力の限りを尽

信仰, 奉仕, 忠誠

七十人
デビッド・S・バクスター

信仰をはぐくみ, 奉仕により成長し, 何が起きてもすべてのことに忠実であるなら, 救い主の愛を感じられます。



39年前, 主の宣教師が二人, スコットランドのグラスゴーにあった我が家の玄関をノックしました。二人の輝きや謙虚さ, 信仰に, わたしたちは深い感銘を受けました。二人が訪問してくれるときには, いつでも愛と平安を感じました。純粋な美徳を感じていたのです。

二人は, 経験を踏まえながら誠実に優しく福音を教えてくれ, わたしたちはすぐに福音が真実だと分かりました。数週間後にバプテスマと確認を受けると, 時を置くことなく, 新しい家族のような教会員や指導者の友情と親切に包まれました。

こうして, 福音の旅が始まって, 人生はあらゆる面で豊かで祝福に満ちたものとなり, 深遠で永続する目的と方向性^{きょう}とを見いだして心が穏やかになりました。今日は, この旅を通して学んだ福音の3つの基本原則を紹介します。この原則が新しく教

会員となった方々の役に立つことを願っています。

第1は, 人を動機づけ, 変化させる, イエス・キリストへの信仰の力です。そのような信仰は, いわば霊の酸素です。わたしたちの心の内を信仰で満たすなら, 霊的な感覚が目覚め, 活気づき, 霊に命が吹き込まれます。

信仰で満たされると, 御霊^{みたま}のささやきに敏感になり, 波長が合うようになります。知性は啓発され, 霊の鼓動は高まり, 心が動かされます。

信仰により希望は膨らみ, 見方が変わり, 展望は明確になります。人生や人々に目を向けるときに, 最も悪い部分ではなく, 最良の部分を見るようになります。そして, 人生の目的や意義を深く理解し, 落胆は喜びに変わります。

このような信仰は天与の賜物^{たまもの}であると同時に, 探求し, はぐくむものでもあります。聖書辞典(Bible Dictionary)にあるとおり, しばしば「信仰深い人の証^{あかし}を聞くと, 信仰に火が付きまします。」¹そして自分から信じることによって, 信仰は養われていきます。どの徳も同じですが, 信仰も働かせることで強くなります。あたかも深い信仰を持っているかのように生活し, 行動するのです。信仰は, 義にかなった望みをもって信じ, 従うことから生まれるのです。

こうした例にモルモン書のラモーナイ王の父親が挙げられます。この父王はアロンの証を聞いて自ら信じて行い, 次のような謙虚な祈りをささげました。「もしも神が生きてましますならば, そしてあなたがその神であられるならば, あなた御

くして誘惑してきます。精いっぱい努力していても, だれもが時には間違った選択をしてしまうものです。幸いなことに, 天の御父は, 悔い改めて, 御子の贖い^{あがな}に頼ることによってこのような過ちを克服できるよう道を備えてくださいました。間違いを犯したからといって落胆することはないのです。悔い改めては力強く前進するというのが, 恐らく第一世代の成長にとって最も重要なパターンではないでしょうか。従順に忍耐強く前進してください。

教会では, 教会初期の歴史に出てくる開拓者について読んだり話したりすることがよくあります。彼らは皆さんと同様, 第一世代の教会員です。日々家族や仕事, 信仰にかかわる様々な問題に取り組みながら生きていました。善良な人として普通に生活し, 忠実に教会で奉仕して, 家族に祝福を与えてきました。失敗することがあっても再び立ち上がり, 進み続けたのです。今彼らの子孫であるわたしたちは, 歴史を振り返り, 開拓者たちの信仰に感謝と敬意の念を抱いています。

同じ第一世代の教会員として, 皆さんは開拓者からの受け継ぎを享受することができます。信仰を持ち, 周囲の人に仕え, 家族を祝福し, 正しい選択をしてください。皆さんは第一世代です。過去, 現在, 未来の世代に祝福を与える選ばれた世代です。わたしは皆さんをたたえます。過去と未来の世代の人々も皆さんをたたえていることでしょう。しかし, 最も重要なのは, 第一世代として忠実に生活している皆さんのことを, 神もたたえておられるということです。イエス・キリストの御名^{みな}によって, アーメン。

注

1. 信仰箇条1:4; 教義と聖約20:37参照
2. 1ペテロ2:9参照
3. 教会会員統計記録課によると, 第一世代の教会員は, 2006年7月現在, 教会員総数の64パーセントを占めている。
4. *History of Heinrich Friedrich Christian Pieper and Emma Frieda Alber and Their Family* (1987年), 29



自身のことをわたしにお知らせください。わたしはあなたを知……るように、自分の罪をすべて捨てます。」²

わたしたちも同じです。証の御霊に触れ、信仰を働かせ、望み、深く考え、探求する、すなわち信仰をばくむときに、信仰は強くなるのです。

第2は、奉仕によって人が成長するという原則です。ジョージ・アルバート・スミス大管長はこう教えました。「人生が豊かなのは、何を得たかではなく、何を与えたかによります。」³

無私の奉仕は、世界中に蔓延する利己主義から派生する病に対する妙薬です。人から十分に関心を受けていないと感じると、苦々しい思いや不安を抱く人がいます。そのような人も、自分以外の人の必要にもっと目を向けさえすれば、人生は豊かなものになるでしょう。

利己主義の解決法は、自分の心配をするよりも隣人の問題の解決に手を貸すところにあります。自分が落ち込んでいるときでさえも、人の重荷を取り除くような生活を送り、人生の報いを積んだ車が自分を通り過ぎて行くのを嘆くのではなく、肩

の力をもって車を押すのです。

全力を尽くして奉仕をするうちに、苦勞や悩み、試練は克服できます。人の重荷を背負うことに力を注ぐなら、奇跡が起きます。自分の重荷は軽くなり、幸せが増し、人生がさらに充実してくるのです。

第3は、主の弟子であっても人生の嵐に遭わないという保証はないことです。どんなに細くて狭い道を用心深く忠実に進んでいたとしても、人生の障害物や試練は避けられません。そのような日々が数日で終わらず、何か月、何年と続くことがあるかもしれません。逆境や苦惱、孤独、痛み、悲しみはそれぞれ公平に経験するものですが、時には多くて不公平だと感じることもあるでしょう。

逆境に直面したらどうすればよいのでしょうか。することは、一つだけです。堅く立ち、最後まで堪え忍ぶのです。確固としてすべてのことに忠実であってください。真の悲劇が起こるのは、人生の嵐に身を任せて道からそれるときだけです。

危機や試練に直面し、最も信仰を働かせる必要のあるときに、信仰を捨てることを選ぶ人がいます。熱心に祈る必要があ

るまさにそのときに祈りを怠り、また美德を大切にはくむ必要のあるときに、軽率にも放り出してしまいます。そして人の弱さゆえに主に見放されたと思い込んで、神を捨ててしまうのです。

実際は、唯一安全な道は正しい教えを守り抜くことであり、希望はそこから得られます。自分から神の言葉である鉄の棒を離さないかぎり、暗黒の霧のただ中にあっても道に迷うことはありません。

岩の上に家を建てた賢い人に関する救い主のたとえにとっても説得力があるのは、人生の試練が賢い人にも降りかかることを示しているからです。雨が降り、風が吹いて、洪水が押し寄せますが、賢い人はどれも乗り切ります。なぜなら堅固な土台の上に家を建て、さらに大切なことには、嵐がきてもそこにとどまっていたからです。

ジョン・バニヤンは、あるキリスト教信者の巡礼記の中でこう記述しています。

真の勇気を見なければ
ここに来て、見るがよい
風や嵐が吹こうとも

決してひるまない人がいる
彼は決して忘れない
巡礼者の道を歩もうと
心に誓った日のことを
忘れず、決してくじけない⁴

使徒パウロはコロサイ人にこう激励しました。「ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。」⁵

コリント人に対しては、力強い証を述べました。

「わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。

迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。」⁶

なぜそのような考え方ができるのでしょうか。パウロは理由をこう語っています。「『やみの中から光が照りいでよ』と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。」⁷

信仰をはぐくみ、奉仕により成長し、何が起きてもすべてのことに忠実であるなら、救い主の愛を感じられることを証します。贖いの大きく深い祝福に手が届く場所に身を置き、一人の会員から弟子へと変わることができます。強められ、清められ、活気づけられて、霊的にも情緒的にも癒しを受けることができるのです。

これらをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

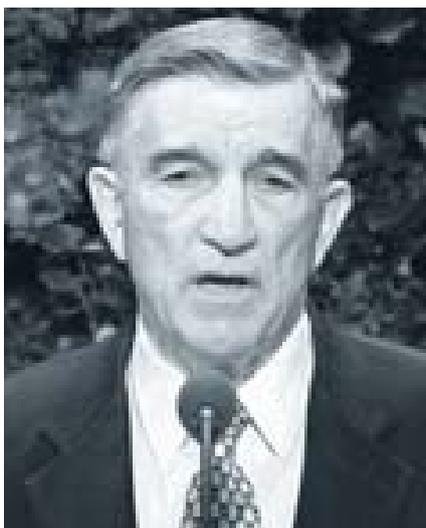
注

1. Bible Dictionary、「信仰」の項、669
2. アルマ22：18
3. Conference Report、1935年4月、46
4. *The Pilgrim's Progress*(1997年)、295
5. コロサイ1：23
6. 2コリント4：8、9
7. 2コリント4：6

忍耐の力

七十人会長会
ロバート・C・オークス

忍耐は、掛け橋のような徳であり、赦し、寛容、信仰など、それに類する徳を伸ばし、強めます。



わたしは、末日の聖文に記されている、徳に関する教えに心から感謝しています。それはクリスチャンの核となるものです。

モルモン書には、忍耐と慈愛の関係が説明されています。モルモンは「慈愛がなければ、その人は何の価値もない。したがって、人には慈愛が必ずなければならない」と指摘してから、慈愛すなわちキリストの純粋な愛について13の要素を挙げています。わたしはこの「なければならない」13の要素のうち、4つは「忍耐」(モロナイ7：44 - 45参照)に関係していることに注目しています。

まず、「慈愛は長く堪え忍ぶ」。これはまさに忍耐のことです。「容易に怒ら[ない]」というも、「すべてを忍ぶ」というも、慈愛という徳質の要素です。最後に「慈愛はすべてに耐える」というも、まさに忍耐を言い表しています。(モロナイ

7：45) これらの要素から明らかなのは、もし忍耐によって霊性を高めていないのであれば、キリストのような特質をまだ十分に身に付けていないということです。

聖書の中で、ヨブは忍耐の典型的な模範を示しています。広大な土地や子供までも失ったヨブは、ゆるぎない信仰によりこう宣言することができました。「……主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな。」あらゆる艱難と苦痛の中にあっても「……ヨブは罪を犯さず、また神に向かって愚かなことを言わなかった」のです(ヨブ1：21 - 22)。

虐げられている人が愚かにも「どうして神はこんなことをされるのだろうか」と言うのをよく耳にします。本来であれば、そういうときにこそ「すべてを忍び」、「すべてに耐え」る強さを得るために祈らなければならないのです。

聖文に見られる忍耐の最大の模範は、イエス・キリストの生涯に見いだすことができます。主の辛抱強さ、堪え忍ぶ力が最も現れているのは、キリストがゲツセマネで贖いの苦しみを受けた悲痛の夜にこう語られたときでした。「……わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかしわたしの思いのままにではなく、みこころのままになさってください。(マタイ26：39)

主はまことにあらゆることを我慢し、忍び、耐えられました。

キリストはカルバリで十字架にかけられても、忍耐の完璧な模範を示し続けられました。次の驚くべき言葉を語られたのです。「……父よ、彼らをおゆるしくだ



さい。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。(ルカ23:34)

このような忍耐の模範は、第3ニーファイ第27章27節の勧告について考えるときに、より大きな意味を持ちます。「したがって、あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならぬ。(3ニーファイ27:27)

聖文には、忍耐という徳の重要性について数多く記されています。その幾つかを紹介しましょう。

「人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。(ヤコブの手紙1:19)

「にもかかわらず、主は御自分の民を懲らしめるのを、御心にかなうことと見ておられる。まことに、主は民の忍耐と信仰を試される。(モーサヤ23:21)

モーサヤ書でベニヤミン王は、わたしたちは忍耐やその他の徳を通して聖霊の勧めに従わないかぎり、「神の敵である生

まれながらの人」になると教えています(モーサヤ3:19)。

ジョセフ・スミスは「忍耐は天の徳である」と述べました。(History of the Church, 第6巻, 427)

忍耐という徳には、深く考え、追求するだけの重要性和価値があるでしょうか。確かにあります。もし慈愛とそれに付随する美德のない人に対して使われる「何の価値もない者」という恥ずべき名を受けたくなければ、また神の敵である生まれながらの人になるのではなく、天にふさわしくあって、「キリストのように」なるうとしているのであれば、忍耐にはその価値があります。

忍耐心のない、生まれながらの人は至る所にいます。ニュースでは、親がかつとなつて子供を虐待し、死に至らしめたことが報道されています。運転中にいらしたり逆上したりすることから、大きな事故を引き起こしたり、死者を出したりすることもあります。

そこまで衝撃的でなくても、もっと日常的なものでは、レジの順番待ち、延々と続くセールスの電話、言うことを聞きたくない子供にいらいらして怒ったり、ひどい言葉を口にしたりすることもあります。皆さんにも身に覚えはないでしょうか。

あまり報告されることはありませんが、幸いなことに忍耐について考えさせられるすばらしい話もあります。最近わたしは親友の葬儀に参列しました。彼の息子は両親の忍耐についてすばらしい話をしてくれました。息子がまだ若かったころ、父親はオートバイの店を経営していました。ある日びかびかのオートバイが何台か入荷されて、店内に展示されました。男の子ならだれでもするように、この息子はいちばん近いところにあったオートバイによじ登ったのです。エンジンもかけてみました。そしてこれ以上はやってはいけなだろうと判断して、飛び降りました。すると驚いたことに、降りたときに最初のオートバイが倒れ、まるでドミノ倒しのように次々と倒れていきました。父親は騒ぎを耳にして、仕事をしていた仕切りの後ろから顔を出しました。そしてゆっくりとほほえみながらこう言ったのです。「なあん、1台修理して売れば、残りの分は支払えるよ。」

それは、わたしの友人が示した、親としての忍耐の模範でした。

忍耐は、掛け橋のような徳であり、赦し、寛容、信仰など、それに類する徳を伸ばし、強めます。ペテロがキリストに、兄弟を何回赦せばよいのかと尋ねると、キリストは、ペテロが言った7回ではなく、「7の70倍」と答えられました(マタイ18:21-22参照)。7の70倍赦すには、実に大きな忍耐が必要となります。

ニール・A・マックスウェル長老は、忍耐と信仰をこのように結びつけて教えました。「忍耐は天の御父への信仰と密接なかわりがあります。実際、必要以上にいらいらしているとき、わたしたちは何が最善なのか自分で知っている、つまり神よりも自分の方がよく知っていると言っているようなものです。あるいは少なくとも、わたしたちの時刻表の方が神の時刻表より優れている

ると主張しているのです。(“Patience,” Ensign, 1980年10月号, 28)

神の目的が生活の中で明らかにされるのを進んで待つときに、わたしたちの信仰ははぐくまれます。それは神の方法で、神の時に応じて行われます。

いらだちは自然に起きるものです。では、忍耐という神の特質をはぐくむにはどうすればよいのでしょうか。わたしたちの振る舞いを、生まれながらの人から、イエス・キリストの忍耐強く、完全な模範に近づけるには、どうすればよいのでしょうか。

まず、回復された福音の祝福をすべて得たいのであれば、忍耐が必要とされることを理解しなくてはなりません。そのような理解があってこそ、次の行動につながるのです。

1)『聖句ガイド』の「忍耐」の項に列挙してある聖句を読み、キリストが示された忍耐の模範について考える。

2)忍耐というはかりに照らすとき、自分の状態を知るために自己評価する。さらにキリストようになるには、どれほどの忍耐力が必要でしょうか。自己評価することは容易ではありません。配偶者や家族に助けをもらうことができます。

3)忍耐といら立ちについて日々身近な模範に目を向けるようにする。忍耐強いと思われる人を見習うようにしましょう。

4)もっと我慢強い人になるために日々決意を新たにします。家族のだれかに助けをもらいましょう。

これらは大変な努力を必要とすることかもしれませんが、価値ある目標を達成するのに苦労は避けて通れません。生まれながらの人を克服し、もっとキリストのように忍耐強くなることは、この上なく適切な目標です。わたしたちが勤勉に、そして熱心にこの道を歩めるよう祈ります。

イエスがキリストであり、教会の頭であって、生ける預言者を通してわたしたちを導いておられることを証します。主は御自身のように努力するわたしたちを祝福してください。イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。

おお、賢くありなさい

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード

わたしたちが神の王国で奉仕する平易な方法に目を向け、自分自身の生活を含め、人々の生活を変えるために常に努力を傾けることができますように。



兄 弟姉妹の皆さん、先日、モルモン書を学んでいたときに預言者ヤコブの教えの一つに心を引かれました。御存じのようにヤコブは、リーハイと家族がエルサレムを去った後に、荒野でリーハイに生まれた二人の息子のうちの一人です。彼は数々の奇跡が起きるのを見ただけでなく、不従順と謀反により家族が離散するのを目の当たりにしました。ヤコブは、ニーファイを理解し愛していたのと同じように、レーマンとレムエルをも理解し愛しており、ヤコブにとって両者のあつれきは、ごく身近で個人的なものでした。彼にとっては、思想や信条、神学上の問題ではなく、家族に関する問題だったのでした。

ヤコブは、同胞がキリストについての「預言者たちの言葉を拒み」、「神の力と、聖霊の賜物を否定し、……偉大な贖いの計画をあざける」ことに対して深刻な懸念

を示しました(モルモン書ヤコブ6:8)。彼の心に、深い思いやりと苦悩があったことは明らかです。

そして、彼が別れを告げる直前に語った短い言葉が、今朝のわたしの話のテーマです。ヤコブの願いは、「おお、賢くありなさい。わたしはこのうえ、何を言えようか。」というものでした(モルモン書ヤコブ6:12)。

両親、あるいは祖父母である方は、ヤコブがそのときに感じていた気持ちを、恐らく理解できるのではないのでしょうか。ヤコブは民を愛していました。自分の家族でもあったからです。そして、できるかぎり分かりやすく、全精力を込めて彼らに教えました。「狭い門から入り、……細い道を歩み続ける」ことを選ばないときにどのようなことが起きるのか、平易な言葉で警告を發しました(モルモン書ヤコブ6:11)。警告や説得をし、元気づけ、やる気を出させるためにほかにどのように語ればよいのか、彼には思いつきませんでした。そこで彼は、簡潔ながらも深い意味を込めてこう語ったのです。「おお、賢くありなさい。わたしはこのうえ、何を言えようか。」

わたしはこれまで、世界の多くの国々で教会員と会ってきました。そして、大勢の会員が持つ、気高い心と活力に深い感銘を覚えてきました。彼らは心に感動を抱き、祝福に満ちた生活を送っています。御業は力強く前進しており、わたしは深い喜びを感じています。しかし、行うことすべてにおいて、教会員がもっと賢く生活する方法がたくさんあると感じています。

限りない知恵をお持ちの主は、教会を



総大会の部会が始まるのを待つ大管長会。ゴードン・B・ヒンクレー大管長(中央),第一顧問のトーマス・S・モンソン管長(右),第二顧問のジェームズ・E・ファウスト管長(左)

職業聖職者ではない一般の人々で運営できるように組織なさいました。すなわち、互に見守り、助け合うようにとお命じになったのです。天の御父と主イエス・キリストがわたしたちを愛してくださるように、わたしたちは互いに愛し合わなければなりません。召しや環境は時々刻々変化していきますが、常に新たな、またとない奉仕と成長の機会を与えてくれます。教会のほとんどの指導者と教師たちは、責任をまっとうすることに熱心に取り組んでいます。人によって能力に差があることは事実ですが、ほとんどの人が、意義深い福音の奉仕をしようと心から努力しています。

時折、教会の奉仕に熱心になりすぎて、生活のバランスを失う人を見かけます。そのような人は、管理しているプログラムの方が、自分が仕えている人々よりも大切だと思込むようになるのです。彼らは、多大な時間やお金、労力を消費する不必要な飾りもので奉仕を複雑なものにしてしまいます。委任することを拒み、ほかの人々が責任を果たすことで成長する機会を奪ってしまうこともあります。

そして、教会の奉仕にあまりにも多くの時間と精力を注ぐことにより、永遠の家族のきずなが弱められたり、仕事で十分な結果を出せなくなったりすることもあります。これは、霊的側面やほかの面から見

ても、健全な状態とは言えません。教会の召しに、より大きな努力と、普段以上の力を注ぐことが求められることもあるかもしれませんが、常に物事のバランスを正しく保つ努力をする必要があります。人生においてももっと高い優先順位を置いて心向けなければならぬ事柄よりも、教会の奉仕を優先するようなことがあってはなりません。ベニヤミン王の助言に耳を傾けましょう。「これらのことはすべて、賢明に秩序正しく行うようにしなさい。人が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。(モーサヤ4:27)

賢明に、かつ効果的に奉仕をする6つの方法を紹介します。

第1。プログラムに対してではなく、人と原則に集中してください。イエス・キリストの福音を通してわたしたちの行う最も重要な事柄の一つは、人々を成長させることです。適切に人々に奉仕するためには、一人一人の性格、長所、悩み、希望や夢などを知り、個人として理解することが大切です。そうすることで、的確な助けや支援を提供できます。正直なところ、人々を理解して真の奉仕を実践するよりも、単にプログラムを管理することの方がはるかに容易なものです。教会指導者の集会では、どのように人々を教導かということについて話し合うべきです。通常

の情報や調整事項を、電話や電子メール、手紙などで済ませることができれば、評議会の議題を人々が必要としている事柄に絞り込むことができます。

わたしたちの目標は、人々を高め、鼓舞し、助け、教え、愛し、完全な者とするために教会のプログラムを活用するというものでなければなりません。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。(教義と聖約18:10) プログラムは手段です。運営や人材の配置は、本来プログラムから祝福と奉仕を享受すべき人々の必要以上に優先すべきではありません。

第2。創造力を発揮してください。自分の召しを尊んで大いなるものとするために働くとき、わたしたちが奉仕をする人々に対して最善の方法で問題を解決できるように、御霊による靈感を求めてください。わたしたちには指導手引きがあり、その指針に従うべきです。しかし、その枠組みの範囲内でも、考え、創造力を発揮し、個人の才能を活用する機会には存分にあります。自分の召しを尊んで大いなるものとするという指示は、尾ひれを付けて物事を複雑にしなさい、という意味ではありません。また、創造力を発揮するという言葉は、必ずしも膨らませるという意味を持つのではなく、往々にして簡素化すること

を指しています。

選択の自由という永遠の原則により、わたしたちは自由に選び、考えることが許されているので、さらに効果的に問題を解決することができるはずで、時に失敗をすることもありますが、福音の原則と指針に従うかぎり、失敗から学び、人々をよりよく理解できるようになり、さらに効果的に奉仕できるようになります。

創造的であるとは、すべきことに対して何か何まで指示を受ける必要がないことを意味します。主はおっしゃいました。「わたしがすべてのことを命じるのは適切ではない。すべてのことを強いられて行う者は怠惰であって、賢い僕ではない。(教義と聖約58:26) 兄弟姉妹、皆さんが靈感を用いてくださると信じています。皆さんは、教会の方針と原則の枠組みの中ですべきことを行ってくださることでしょ。皆さんが奉仕する人々の人生に信仰と証を築く助けとなるため、賢明に助言をし合ってくださいと信じています。

第3. 仕事を分担し、責任を委任してください。責任をもって仕事をやり遂げることと、自分で仕事を行うことは同義語ではありません。例えば、長老定員会のだれかがホームティーチングを行わなかった場合に、定員会の会長は、自分が訪問しなければならないと気に病む必要はありません。扶助協会会長も訪問教師に関して同じことが言えます。ほかの人に代わって会長が訪問するのは、賢明でないばかりでなく、本来のホームティーチングや家庭訪問ではないのです。ホームティーチングは数字や報告のための訪問ではありませんし、訪問自体や数字が尺度ではないのです。ホームティーチングは人々への愛の業であり、天の御父の子供たちに仕え、彼らを養うことが目的です。

もっと割り当てが行われ、責任が委任される必要があります。そして会員には、できるかぎり自分の管理の務めを果たす機会が与えられるべきです。指導者は、助言し、提案し、説得し、動機付けを与えますが、彼らの仕事を代わりに行ってしまっはいいけません。人々の進歩成長を助けてください。たとえそのために



完壁かんべきとは言えない結果を報告しなくてはならなくなったとしてもです。

第4. 罪悪感を取り除いてください。言うまでもないことですが、罪悪感を与えることはイエス・キリストの福音にかかわる指導者や教師にとって、正しい動機付けの方法ではありません。わたしたちは罪悪感によってではなく、常に愛と心からの関心によって動機付けをしなければなりません。わたしは、「人々の善い行いに目を向けよう」という考えが好きです。

そうは言うものの、教会の奉仕をした後で何らかの罪悪感を持つ人もいます。このような気持ちは、様々な義務や優先事項に追われて、時間と関心を一つのことに集中することができなくなった場合に生じます。人間である以上、一度にすべてのことはできません。したがって、わたしたちは物事を「賢明に秩序正しく」行う必要があります(モーサヤ4:27)。つまり、一つの優先事項を行うために、一時的に延期しなければならないことが出て来ます。ときには、家族にすべての注意を注ぐ必要があります。また別のときには、仕事のうえでの責任が第一に来ます。そして、教会の召しが第一に来ることもあります。良いバランスは、適切な時に物事を行うことによって実現できます。準備を引き延ばしたり、ぎりぎりまで責任を果たさなかったりすることでは得られません。

さらに、キリストは悔い改める者の罪を赦し、取り除くために地上に来てくださったことを覚えておく必要があります(アルマ24:10参照)。主は悩める者に平安をもたらしためにお生まれになりました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く」と主はおっしゃいました。「わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。

あなたがたは心を騒がせるな(ヨハネ14:27)。贖いの奇跡を通して、主はわたしたちに「わたしのくびきを負(い)……なさい」とお勧めになりました。「そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられる」のです(マタイ11:29)。

わたしたちの人生に贖いの力が及び始めると、救い主がすでにわたしたちの罪の重荷を負ってくださっていることが理解できるようになります。わたしたちが賢くあって、そのことが理解でき、必要に応じて悔い改めて、罪を遠ざけることができますように。

第5. わたしたちの資源である時間、収入、労力、関心を思慮深く配分してください。皆さんに一つのちょっとした奥義をお教えます。すでに知っている人もいるでしょう。もしもまだ知らないのであれば、そろそろ知っておくべきときです。その奥義とは、皆さんの家族の必要が何であれ、また教会の責任が何であれ、「すべて完了」という状態はいつまでたっても訪れないということです。しなければならぬことというのは、常に何かしら出て来るものです。例えば、注意を向けるべき家族の用事がもう一つ出て来ますし、準備が必要なもう一つのレッスンや、行うべきもう一件の面接、参加しなければならないもう一つの会議などです。わたしたちは、自分たちの健康を維持し、ヒンクレー大管長がよく与えてくれる「精いっぱいやりましょう」という助言に従える賢明さを身に付ける必要があります。

わたしが考えるに、鍵かぎとなるのは自分の能力と限界を知って理解し、自分のペースをつかみ、永遠の旅路において、家族やほかの人々を賢く助けるために自分の時間と関心、持っているものを、適切な優先順位に基づいて配分することです。

第6. これは指導者の皆さんへのお願いですが、会員たち、特に改宗したばかりの会員に責任を与えてください。ヒンクレー大管長は、すべての新会員が教会での責任を必要としている、と語りました。どのような責任であれ、新会員の重荷にならず、教会の教義を学んだり親切な会員たちと交わったりすることで、彼らが

教会に打ち解けられる十分な機会を与えるものでなければなりません。そのようにして彼らは証を強め、意義ある奉仕を行うことを通して、回復された福音との結びつきをさらに強いものとするのです。

兄弟姉妹、わたしたちが神の王国で奉仕する平易な方法に目を向け、自分自身の生活を含め、人々の生活を変えるために常に努力を傾けることができますように。教会の責任の最も重要なことは、報告するための統計やミーティングではなく、救い主がなさったように一人一人を教え導くことです。一人一人が高められ、力づけられ、最終的に変わることができたかどうかということです。わたしたちの務めは、福音によってしか得られない平安と喜びを人々が見いだせるよう助けることです。イエスは、わたしたちがこのことをどのように達成できるかについて、簡潔な言葉で語られました。こう言われたのです。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。(ヨハネ14:15)

現代はいろいろな面でヤコブの時代と似通っています。わたしの勧告はヤコブと同じです。「悔い改めて、十分に固い決意をもって神のもとに来て、神があなたを心にかけてこられたと同じように、あなたがたも神に堅くついて離れないように」家族に関して賢くあってください(モルモン書ヤコブ6:5)。兄弟姉妹の皆さん、教会の責任を果たすうえで賢くあってください。自分の時間を賢く使ってください。自分の持つすべての責任のバランスを保つうえで賢くあってください。愛する兄弟姉妹、どうか、賢くあってください。わたしはこのうえ、何を言えるでしょうか。

神が、御子イエス・キリストを愛する分別を与えてくださり、わたしたちが主の業を果たすに当たって賢く働けますように。主が生きておられることを証します。これは、主の教会です。わたしたちが携わっているのは、主の業です。主の平安がわたしたちとともにありますように。そしてそれぞれの責任を賢く果たしていけますように。これらのことを、イエス・キリストの御名により、へりくだり祈ります、アーメン。

主の弟子となる

大管長会第二顧問

ジェームズ・E・ファウスト

この世と永遠の世における最も偉大な祝福の一つは、主イエス・キリストの献身的な弟子の一人に教えられることです。



ガリラヤの岸辺で教え導かれた救い主に、おびたしい群衆が従いました。より多くの人に声が届くよう、主はペテロの釣り舟に乗り、岸から少しこぎ出すようおっしゃいました。話が済むと、主は夜通し漁に出て何も捕れなかったペテロに、もう一度沖へこぎ出し、深く網を下ろすように言われました。主に従ったペテロは、網が破れるほど多くの魚を捕らえました。ペテロは仲間のヤコブとヨハネを呼び、助けを求めました。捕れた魚の数の多さに皆が驚きました。

イエスはペテロに言われました。「恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ。」続いてルカはこう書いています。「そこで彼らは舟を陸に引き上げ、いっさいを捨ててイエスに従った。」¹ 彼らは主の弟子になったのです。

弟子(*disciple*)と規律(*discipline*)と

いう言葉は、どちらも「教え子」という意味のラテン語(*discipulus*)を語源とし、実践や訓練を強調しています。自己鍛錬や自制は、「いっさいを捨ててイエスに従った」ペテロ、ヤコブ、ヨハネの模範に見られるように、イエスに従う人々の共通で不変の特質です。

「弟子となる」とはどういう意味でしょうか。それは第1に救い主に従うことです。「弟子となる」とは多くを意味します。純潔を守り、自分の一を納め、家庭の夕べを行い、すべての戒めを守り、良くないものを遠ざけることなどです。この世のすべてのものは代価を必要とします。この世においては平和を、来るべき世においては永遠の命を受けるといふ主の偉大な約束を考えると、代価を払ってでも弟子となる価値があります。その代価は支払えないほど大きなものではありません。弟子になるための要件は、約束された祝福に比べれば、ずっと小さなものです。

キリストの弟子は、世俗的なものを追求しないだけでなく、日々十字架を背負うという召しを受けました。十字架を背負うとは、主の戒めに従い、地上に主の教会を確立することです。また、自制をも意味します。² ナザレのイエスはこう教えられました。

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」³ 「自分の十字架を負うてわたしについて来るものでなければ、わたしの弟子となることはできない。」⁴

初等協会の愛唱歌は、主に従うすべて



の人の心に響きます。

わたしもなりたい
イエス様のように
言葉行いで 愛を示そう⁵

イエスがなされた事柄を少し考えてみましょう。わたしたち皆が見習えることです。

1. イエスは「よい働きをしながら……巡回されました。」⁶ 機会を探し求めれば、わたしたちは家族や友達、あるいは知らない人にさえ、毎日何か善いことができます。
2. イエスは良い羊飼いでした。羊を見守り、失われた羊たちを気にかけておら

れました。⁷ わたしたちは孤独な人や教会に来ていない会員を捜し出して、友達になることができます。

3. イエスはハンセン病を患った人など多くの人に憐れみあわを示されました。⁸ わたしたちも憐れみを持つことができます。モルモン書には「悲しむ者とともに悲し」⁹むようにと書いてあります。
4. イエスは御自分の神聖な使命と御父の偉大な業について証あかしをされました。わたしたちは皆、「いつでも……神の証人になる」¹⁰ことができます。
5. イエスは「幼な子らを〔御自分の〕所に来る」¹¹ように招かれました。子供たちは、わたしたちの世話だけでなく、関

心と愛を必要としています。

救い主に真に従う者は、自分の命をささげる覚悟をしておかなければなりません。実際に命をささげた人もいます。教義と聖約にはこう書かれています。「だれもわたしのために自分の命を捨てるのを恐れてはならない。わたしのために自分の命を捨てる者は、再びそれを見いだすからである。また、わたしのために進んで自分の命を捨てない者は、わたしの弟子ではない。」¹²

使徒行伝には、弟子であったステパノの話が載っています。彼は「恵みと力とに満ちて、民衆の中で、めざましい奇跡とするしとを行って」¹³ました。ステパノは、人々の前で変貌へんぼうしたにもかかわらず、エルサレムの人々から冒瀆ぼうとくのぬれぎぬを着せられました。ステパノは救い主の神性を証しましたが、人々に悔い改めを叫ぶと、民衆から反感を買いました。「しかし、彼は聖霊に満たされて、天を見つめると、神の栄光が現れ、イエスが神の右に立っておられるのが見えた。」¹⁴ 彼は石で打たれて死ぬ間際に、このような言葉を残しました。「主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい。」¹⁵

メキシコで教会が設立されたばかりのころ、キリストの弟子であった二人の忠実な指導者が信仰のために殉教しました。命を失ったのはラファエル・モンロイとピセンテ・モラレスです。

メキシコ革命のとき、ラファエル・モンロイはメキシコの小さな支部、サンマルコス支部の会長で、ピセンテ・モラレスは第一顧問でした。1915年7月17日、彼らはサパティスタ国民解放軍に捕らえられました。そして武器を引き渡し、その聞き慣れない宗教も捨てるなら解放すると言われました。モンロイ兄弟は武器を持っていないことを伝え、ポケットから聖書とモルモン書を取り出して言いました。「皆さん、これらの書物が、わたしが今までに持ったことのある唯一の武器です。誤りに対する真理の武器です。」

武器を持っていないことが分かると、解放軍は武器の隠し場所を聞き出すために、この兄弟たちを残酷ごうごんな拷問にかけま

した。しかし武器はありませんでした。解放軍は彼らを町の外れの護衛に引き渡し、銃殺隊の前にあるトネリコの大木のそばに立たせました。将校は、もし自分たちの宗教を捨て、サパティスタ国民解放軍に加わるなら自由を与えと言いました。しかしモンロイ兄弟はこう答えました。「わたしの宗教は自分の命よりも大事なものです。捨てることはできません。」

二人は銃殺を宣告され、最後に何か望むことがあるか、と聞かれました。ラファエル兄弟は、処刑される前に祈ってもよいか訪ねました。彼は執行者たちの前でひざまずくと、神が彼の愛する人々を祝福し守り、指導者を失う小さな弱い支部を見守ってくださるよう皆に聞こえる声で祈りました。祈り終わると、彼は救い主が十字架上でおっしゃった言葉で、死刑執行者たちのために祈りました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」¹⁶ そしてモンロイ兄弟とモラレス兄弟は銃殺隊に処刑されたのです。¹⁷

何年前か前、ステーキ会長会を再組織するためにメキシコを訪問しました。面接を行っていると、ラファエル・モンロイ兄弟の子孫と知り合う特権にあずかりました。わたしは彼の証の深さと福音への献身に深く感銘を受けました。モンロイ兄弟のほかの子孫たちについて尋ねると、その多くが伝道に出て、忠実に教会に集っていると話してくれました。

教会初期のころ、ジョセフ・スミスやハイラム・スミス以外にも、イエス・キリストの福音のために命をささげた弟子がいました。教義と聖約には、教会の最初のピショップだったエドワード・パートリッジの信仰について記されています。¹⁸

1833年7月20日、エドワードは、出産を終えたばかりの疲れ切った妻の傍らに腰かけていました。すると3人の暴徒が押し入り、彼を街頭の騒乱へと引きずり出し、すでにチャールズ・アレンが捕らえられていた広場へと引っぱって行きました。

300人から成る暴徒たちの主導者は、エドワードとチャールズにモルモン書への信仰を捨てるか、さもなければ町を去るよ

う要求しました。エドワード・パートリッジはこう答えました。「自分の宗教のために苦しまなければならないとしても、先駆者たちも同じ苦しみを受けているのだ。わたしには郡のだけかを傷つけた覚えはなく、従って立ち去ることに同意しない。わたしはだれも傷つけたことはない。もしもわたしに危害を加えるのなら、無実の者を傷つけるのだ。」暴徒たちは、皮膚を溶かす真珠の灰を含んだ熱いタールをエドワードとチャールズの頭から足まで塗りつけ、その上に羽毛を付けました。¹⁹

預言者ジョセフ・スミスは、何年後、46歳で他界したエドワードの死をこのように述べました。「エドワードはミズーリでの迫害の結果、命を落とした。そして、彼は、その血の責任を暴徒たちに要求する者の一人に数えられる。」²⁰ エドワード・パートリッジは、大勢の義にかなった子孫たちの心に生き続ける遺産を残しました。

しかし、わたしたちの多くに求められるのは、教会のために死ぬことではなく、生きることです。多くの人々にとって、キリストのような生活を毎日送ることは、命をささげることよりも難しいかもしれませんが。戦時中には、多くの人々が命を顧みずに、無私で勇敢な、気高い行いをしました。しかし、戦争が終わって祖国へ戻ると、日々の苦勞に耐えられず、最後には命を奪うことになるタバコやアルコール、ドラッグ、その他の不道徳の奴隷となっていきました。

ある人はこう言うかもしれません。「わたしは平凡な人間で、地位も名声もありません。教会に入ったばかりで、大した才能も能力もありません。何の力にもなれません。」あるいはこう言う人もいます。「わたしは変わるには年を取りすぎています。もう人生の大半を終えてしまっているのに、どうして変わる必要があるのですか。」変わるのに遅すぎることはありません。弟子になるのに、高い地位や富、学歴などは必要ありません。イエスの弟子には、あらゆる階層の人々がいます。しかし、弟子になるには邪悪な罪を捨て、スペンサー・W・キンボール大管長が言う「救いの奇跡」²¹を味わう必要が

あります。これは、悔い改めからしか得ることはできません。つまり、罪を捨て、真理と正義につく者となる決意を日々新たにすることです。イエスはこう教えられました。「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようであらなければならない。」²²

多くの人は、弟子になるための代価はあまりにも高価で、負担が大きいと考えています。多くのことをあきらめなければならない人もいます。しかし、十字架は見た目ほど重くはありません。従順を通して、十字架を背負う力が増し加えられます。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。²³

主の道が自分の道となったと確信をもって言えるようになったとき、弟子の真の資格が得られるのです。

弟子になる祝福は、代価を支払う意志のあるすべての人に用意されています。弟子になると、人生を当てもなくさまようのではなく、みもとへと通じる、あの細くて狭い道を歩み続けるという目的が得られます。また、悲しみのときに慰めが与えられ、心の平安や、奉仕の喜びがもたらされます。これらはすべてイエスのようになる助けとなります。

救い主の弟子となるとき、わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の救いの原則と儀式を思いと心で知り、信じるようになります。弟子となるとき、現代に救いの原則を回復した、預言者ジョセフ・スミスの深遠な使命に対する感謝の念が深まります。わたしたちは、神権の鍵と権能が、預言者ジョセフ・スミスから現在の預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長まで受け継がれていることを喜んでいきます。

救い主の弟子になることで、充足感、幸福、達成感とともに、この世において平和を受ける²⁴という主の約束を享受できるこ

とに感謝しています。弟子になることを通して、人生の試練を克服するのに必要な、霊的強さを授かることができるのです。

この世と永遠の世における最も偉大な祝福の一つは、主イエス・キリストの忠実な弟子の一人に数えられることです。わたしはこの真理に対して強い証を持っています。これらをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. ルカ5:1 - 11参照
2. アルマ39:9, 脚注2参照
3. ルカ9:23
4. ルカ14:27
5. 「イエス様のように」『子供の歌集』40 - 41
6. 使徒10:38
7. マタイ15:24, ヨハネ10:11 - 12参照
8. マルコ1:40 - 42
9. モーサヤ18:9
10. モーサヤ18:9
11. マルコ10:14
12. 教義と聖約103:27 - 28
13. 使徒6:8
14. 使徒7:55
15. 使徒7:60
16. ルカ23:34
17. レイ・L・プラット, "A Latter-day Martyr," *Improvement Era*, 1918年6月, 720 - 726
18. 教義と聖約124:19参照
19. B・H・ロバーツ, *A Comprehensive History of the Church*, 第1巻, 333; アンドリュー・ジェンソン, *Latter-day Saint Biographical Encyclopedia*, 全4巻(1901 - 1936年) 第1巻, 220
20. *History of the Church*, 第4巻, 132
21. 『救しの奇跡』363
22. 3ニーファイ27:27
23. マタイ11:28 - 30
24. 教義と聖約59:23

教会役員の支持

大管長会第一顧問

トーマス・S・モンソン



の任地に赴くのです。兄弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長の依頼により、これから、教会の中央幹部、地域七十人、ならびに中央補助組織会長の名前を提示しますので、賛意の表明をお願いします。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持して下さるよう、また、大管長会第一顧問としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第二顧問としてジェームズ・エストラス・ファウストを支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、

美しい歌声でした。すべての宣教師が付けている名札をご覧になりましたか。彼らはもうすぐ宣教師訓練センターを出て、世界各地



また十二使徒定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、ディーター・F・ウークトドルフ、デビッド・A・ベドナーを支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

大管長会顧問、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

ロナルド・T・ハルバーソン、デール・E・ミラー、H・ブライアン・リチャーズ、ドナルド・L・ステューリー、デビッド・R・ストーン、H・ブルース・ストゥーキ、ロバート・J・ホエットン、リチャード・H・ウインゲルの各長老を七十人第二定員会から解任するよう提議いたします。

わたしたちとともに、この兄弟たちに感謝の意を表明して下さる方は、その意を表してください。

また、同様の感謝をもって、セザール・A・S・ミルダール、ミンヘーキー 関恵基、なかのまさゆき 中野正之を地域七十人から解任するよう提議いたします。

わたしたちとともに感謝の意を表明して下さる方は、その意を表してください。

エリック・W・コピシュカを新たな地域七十人として支持するよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

ヒンクレー大管長、提議は、全員一致で賛意の表明が得られたようです。

兄弟姉妹の皆さんの変わらぬ信仰と祈りに感謝します。

聖文 救いを得させる神の力

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ

神聖な記録は救い主を証し、わたしたちを救い主のもとへ導いてくれます。



聖文はわたしたちの救いのために与えられた神の御言葉です。聖文は、イエス・キリストと主の福音の証を受け入れるために欠くことができません。この末日に神から与えられた聖文は、旧約聖書、新約聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠です。これらの神聖な記録は救い主を証し、わたしたちを救い主のもとへ導いてくれます。そのようなわけでエノスのような偉大な預言者は聖文が保たれるように信仰の祈りを主にささげたのです。

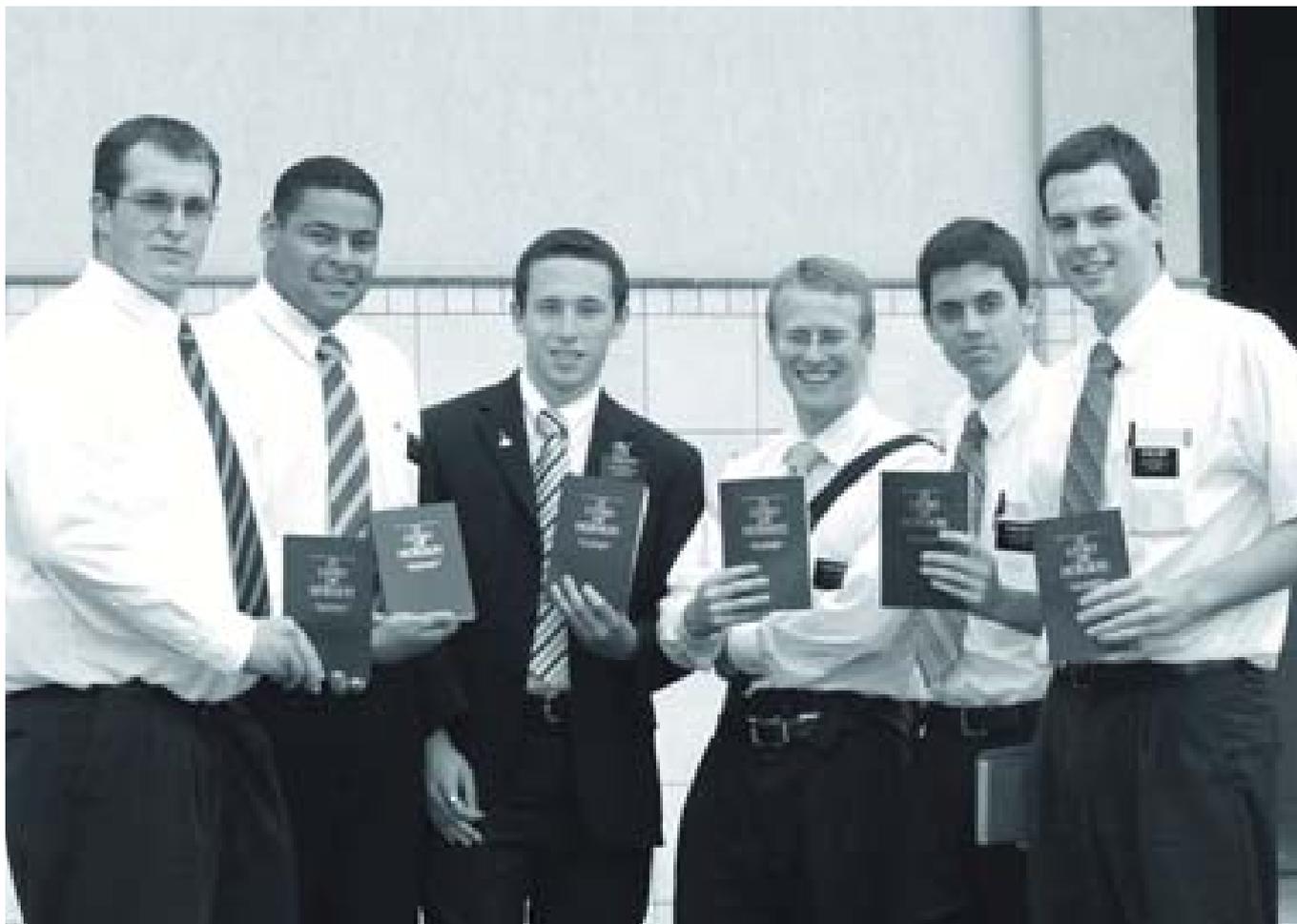
わたしと一緒にモルモン書の表紙を開いてみてください。タイトルページには、モルモン書は「戒めにより、また預言と啓示の霊により書き記された」とあります。モルモン書は「神の賜物と力によりもたら

され」「神の賜物により」翻訳されました。それは「主が……どのような偉大なことを行われたか」を示す書物であり、わたしたちは「とこしえに捨てられない」という「主の聖約を〔わたしたち〕に分かるように示すもの」です。最も重要なのは、モルモン書は「イエスがキリストであり、永遠の神である」ことをわたしたちに確信させるために書かれたということです。

では、序文を開いてください。預言者の手になるこの記録は「『聖書』と肩を並べる聖典」であると記されています。この書物には「完全な永遠の福音が記され」「救いの計画の概要を説き〔わたしたち〕がこの世で平和を得、後の世で永遠の救いにあずかるには何をしなければならぬか」が教えられています。「イエス・キリストのもとに来て、イエス・キリストの福音の律法と儀式に従うすべての人が救われる」とわたしたち一人一人に約束しているのです。

この神聖な書物が今日果たす重要な役割とは何でしょうか。すべての聖文の目的について、この書物はどのようなことを述べているのでしょうか。

モルモン書の最初の書であるニーファイ第一書の最初のページからは、紀元前約600年にリーハイが家族を連れて荒野へ逃げるように導かれたことが分かります。しかし、リーハイがそれほど遠くへ行かないうちに、主は息子たちを戻らせるようにお命じになります。真鍮版に刻



自分のモルモン書を見せるブラジル・サンパウロの宣教師たち。

まれた聖文を取り戻すためです。非常に大切なものであったので、リーハイの息子たちはそれを取り戻すために命を危険にさらし、すべての財産を失いました。そして、主の助けとニーファイの信仰により、やっとのことで、奇跡的に真鍮版を手に入れることができました。ニーファイと兄たちが戻ると、彼らの父であるリーハイは喜び、聖文を「最初から」調べ、「それが望ましいものであることを知」りました。「〔リーハイとその子供たちが〕子孫に主の戒めを残すことができるものであり、……大きな価値のあるものである」ことが分かったのです。

確かに、真鍮版はリーハイの先祖の記録であり、その中には彼らの言語、系図、さらに重要なことは、神の神聖な預言者たちが教えた福音が載っていました。リーハイは真鍮版を調べ、以下の事柄を学びました。それは聖文の学習を通してわたしたちも学んでいる事柄です。

わたしたちは何者であるか
わたしたちはどのような者になることができるか
わたしたちとわたしたちの子孫に対する預言
永遠の命を得るために従うべき戒めや律法、儀式、聖約
最後まで堪え忍び、誇りをもって天の御父のみもとへ帰るために、どのように生活するべきか

これらの真理は非常に重要なため、天の御父はリーハイとニーファイに鉄の棒の示現をお見せになり、神の御言葉についてははっきりと教えられました。二人とも、この強く確固とした、完全に信頼できる棒をしっかりと握りしめることが、救い主のみもとへ導くあの細くて狭い道にとどまる唯一の方法であることが分かったのです。

モルモン書の幾つかの章で、リーハイとニーファイがこの教訓に従って、聖文を調べ、引用しています。明らかに、二人

は自分の家族やわたしたちに聖文、特にイザヤの預言の大切さを理解するよう望んでいました。イザヤは、わたしたちの時代に、福音が回復され、彼らの記録、すなわちモルモン書が出現することを預言しています。

モルモン書には、リーハイの家族をはじめとする幾つかの文明が、どのように聖文を重視したか、あるいは軽視したかが記されています。リーハイは主の命令に従って、エルサレムの民がバビロニア人に捕らえられる前にエルサレムから脱出しました。それから神の指示に従って造った船で海を渡り、約束の地へ行ったのです。しかし、リーハイの子供たちは二派に分かれました。義人ニーファイに従ったときに聖文を持って行き、「〔彼らは〕永遠の御言葉の光に照らされるようになった」²のです。

しかし、レーマンとレムエル、そして彼



らの子孫から成るレーマン人は、聖文を拒み、無知、争い、破滅という闇の中を歩きました。紀元400年ごろには、ニーファイ人も神の御言葉を拒み、「不信仰に陥って」滅ぼされ、約1,000年続いたニーファイ人の文明が終わりを告げるのです。

エテル書には、紀元前2,200年ごろ、バベルの塔の時代に旧世界を去った民、ヤレド人の文明にまつわる歴史が記されています。主は彼らに船の造り方を教え、約束の地まで海を渡って旅をするよう言われました。ヤレド人は、正しい行いをしたときには祝福されましたが、主の御言葉や悔い改めを拒んだときには、主の御霊からの励ましが途絶えました。ついに彼らは主の道を離れ、紀元前600年ごろに、互いに殺し合うようになりました。このようにして、約1,600年続いたヤレド人の文明は滅びるのです。

リーハイが約束の地に到着したのは、ちょうどヤレド人が滅亡したころでした。数年後、ミュレクと彼の従者たちが約束の地に到着し、別の文明を築きます。彼らは、ヤレドの民の記録に名を残したヤレド人最後の生存者であり王でもあったコリアンタマーという人物を発見しました。ミュレク人は聖文を持っていなかったた

め、約400年後にモーサヤとニーファイ人によって発見されたとき、言語がなまっていた、創造主への信仰も失われていました。彼らは自分たちが何者であるか知りませんでした。ミュレク人は、ユダヤ人の神聖な記録を記した真鍮版を持つニーファイ人が主から遣わされたことを喜び、ニーファイの民に加わりました。

これらの民が聖文にあるとおりの運命をたどったのは、全世界に対する証です。すなわち、神の御言葉を持たなければ、あるいは神の御言葉にすがりもせず、注意を傾けることもしなければ、わたしたちは見知らぬ道に迷い、個人であれ、家族であれ、国家であれ、消滅するのです。

「地から叫ぶ者の声」とともに、主の預言者は今日、地上のわたしたちに、聖文を研究するようと呼びかけています。聖文にすがり、聖文によって歩み、聖文によって生き、聖文を喜びとし、聖文を味わってください。ほんの少しだけかじるのではだめです。聖文は、救い主イエス・キリストのみもとへ導き、「救いを得させる神の力」³ なのです。

もし今日、救い主がわたしたちの間におられたら、かつて地上におられたときと同じように聖文から教えてくださるでしょ

う。ナザレの会堂で、「預言者イザヤの書が手渡されたので、……イエスは、『この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した』と説きはじめられた。」⁴ 後に、パリサイ人とサドカイ人が難しい質問をしたとき、「イエスは答えて言われ〔まし〕た、『あなたがたは聖書も神の力も知らないから、思い違いをしている。』」⁵ また、主が復活された後、エマオへ行く途中、「〔弟子たち〕は互に言った、『道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか』と」⁶ 当時も今もなお、主の弟子たちの耳には主の御言葉がはっきりと聞こえます。「聖文を調べなさい。この聖書は、わたしについてあかしをするものである。」⁷ これは聖霊による証です。なぜなら、「聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知る」⁸ からです。

兄弟姉妹の皆さん、聖文は「ある賢明な目的のために」「主の御手によって〔わたしたちのために〕保存され、残され」⁹ てきたことを証します。リーハイはこう預言しました。「この真鍮の版は決して朽ちることなく、またこれから先どれだけ歳月を経ても、さびて読めなくなることはまったくない……。」¹⁰ 主は聖文を保存し、「御自身がふさわしいと思うときに」¹¹ 聖文を世に出すとエノスに約束されました。モルモン書について、預言者モロナイは「書き記され……、封じられ、主に託し隠され、損なわれることのないようにされたもの」¹² であると記しています。わたしたちが持っている聖文には預言と約束が載せられていて、それらは今日成就しているのです。

何とすばらしい祝福でしょう。神に話しかけたいときには、祈り、神から話しかけてもらいたいときには、聖文を読むことができます。なぜなら神の御言葉は神の預言者を通して語られるからです。そして、聖霊の促しに耳を傾けると、教えを授けていただけるのです。

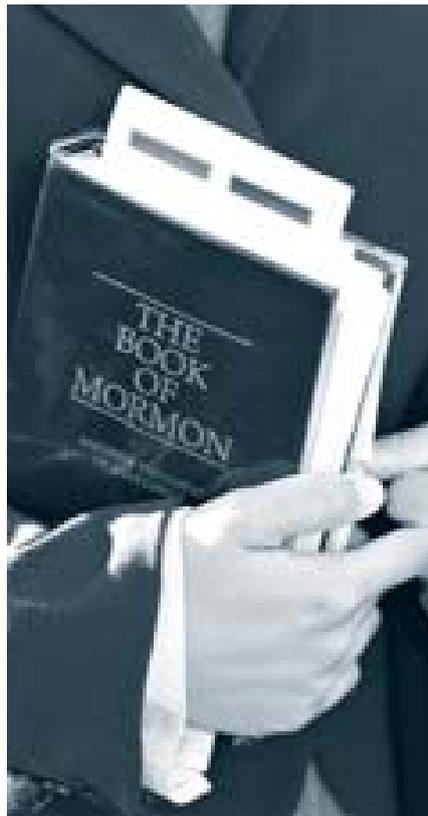
最近、神の声を聞いていない人は、聖文を新鮮な気持ちで読み、その言葉に耳を傾けてください。聖文はわたしたちの霊的な命綱です。鉄のカーテンの闇の向

こうで、聖徒たちが信仰を保つことができたのは、彼らが聖文を通して神の声に耳を傾けたからです。世界のそのほかの地域でも、教会員は教会へ集えなかった時期に、聖文を通して神の声に耳を傾けることによって、神を礼拝し続けることができました。末日聖徒は聖文を通して主の声を聞くことによって、前の世紀の戦争を生き延び、現在起きている紛争の中を生き続けているのです。主はこのように述べておられます。「聖文が授けられ、わたしの選民は救われるであろう。彼らはわたしの声を聞き、わたしを見、また眠ることなく、わたしが来る日に堪えるであろう。わたしが清いように、彼らは清められるからである。」¹³

2,000年以上も前に、イザヤは神の御言葉についてこう記しました。「いま行って、これを彼らの前で札にし、書物に載せ、後の世に伝えて、とこしえにあかしとせよ。」¹⁴ 後の世とは現代のことです。今日の世界は聖文を必要としています。救い主が来られる前に、神の子供たちは皆、準備の律法であるモーセの律法により教えを受ける必要がありました。「目には目を、歯には歯を」¹⁵ が許された律法です。今日の世界でも多くの人々が今でもその恐ろしい掟に支配されており、その証拠がわたしたちの周囲に見られます。

わたしたちは恐れずに宣言します。この末日の恐怖、破壊、大量虐殺に対する答えは聖文の中にあります。旧約聖書の福音は新約聖書の中で成就されました。聖書の預言はモルモン書の中で成就されました。教義と聖約と高価な真珠は完全な福音が現在、地上にあることを証しています。

創世記からマラキ書に至るまで、またモーセ書からアブラハム書に至るまで、救い主の来臨が預言されていました。マタイによる福音書から黙示録に至るまで、ニーファイ書からモロナイ書に至るまで、そしてジョセフ・スミスから愛する生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長に至るまで、預言者たちは皆、長い間待ちこがれたメシヤであるイエス・キリストの来臨と再臨を証しています。主にあって、「古いものは廃されて、すべてのものが新



しくなった」¹⁶ のです。神聖な聖文を通して、主の新しくかつ永遠の福音が次のように宣言しています。すなわち、「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」¹⁷ 「あなたがたの敵を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたを憎む者に善をなし、あなたがたを不当に扱い迫害する者のために祈りなさい。」¹⁸ 「あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。」¹⁹ これこそ「心の痛めるものを癒し、囚人が解放され、……打ちひしがれている者に自由を得させ」²⁰ するために聖別された、わたしたちの救い主の福音なのです。

モルモン書の最後で、モロナイは象徴的に自分の民の残りの者を見ます。モロナイは知っていました。彼らが神の御言葉を忘れず、主の御霊を失わなければ、滅亡は避けられていたことを。モロナイがわたしたちに向けて、あなたとわたしに向けて個人的に、聖文の祝福を求めようように懇願しながら次の言葉を記してくれたとしても、何の驚くことがあるでしょうか。

「この記録を受けるとき、これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問う

ならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてください。

そして聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。」²¹

兄弟姉妹の皆さん、現代は時満ちる末日の世です。世の中がどれほど苦難に満ちていようと、わたしたちはどのような者になるかを自分でコントロールする力を持っています。ニーファイ第一書の民のように、誠実で忠実な者は、地上に解き放たれた敵が火の矢を射るときにも、それに耐えることができるでしょう。²² この世にあらゆる混乱があるにもかかわらず、モルモン書に書かれているように、誠実で忠実な者は、救い主が神殿に来られるときに、主とともにいることでしょう。わたしたちもその中に数えられますように、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. ニーファイ5:10, 21
2. アルマ5:7
3. 教義と聖約68:4
4. ルカ4:17, 21
5. マタイ22:29
6. ルカ24:32
7. 欽定訳ヨハネ5:39から和訳
8. モロナイ10:5
9. アルマ37:4, 14. ニーファイ9:5, モルモン書の言葉1:7も参照
10. ニーファイ5:19
11. エノス1:16
12. モルモン書, タイトルページ
13. 教義と聖約35:20 - 21
14. イザヤ30:8
15. マタイ5:38. 3ニーファイ12:38も参照
16. 3ニーファイ12:47
17. マタイ22:39
18. 欽定訳マタイ5:44から和訳. 3ニーファイ12:44も参照
19. 教義と聖約64:10
20. 欽定訳ルカ4:18から和訳
21. モロナイ10:4 - 5, 強調付加
22. ニーファイ15:24参照

日曜日は 必ずやって来る

十二使徒定員会
ジョセフ・B・ワースリン

世の救い主の生涯と永遠の犠牲のおかげで、わたしたちは大切な人々と再び会えるのです。



本 日皆さんとともに集い、皆さんの証^{あかし}から力を得られることに感謝しています。皆さんの優しい言葉や助け、愛ある言葉と祈りに、言い尽くせないほど感謝しています。

今日は、昔の思い出に少し浸ってみたいと思います。

わたしは善い両親から生まれました。父のジョセフ・L・ワースリンからは勤勉と憐^{あわ}れみの徳を学びました。父は、大恐慌のさなかにビショップを務めていました。困っている人々を親身になって心配していました。助けが必要な人々に対し、単なる義務感からではなく、心から助けたいという思いから手を差し伸べていました。

父は、苦しむ人々のために休むことなく働き、その生活に祝福を与えました。

まさに理想のビショップでした。

父は非常に元気な人として知られていました。3人分の働きをすと言った人もいます。父はめったに疲れませんでした。1938年、事業が成功を収めていたときに、父はヒーバー・J・グラント大管長からある召しを受けました。

グラント大管長は、管理ビショップリックを再組織するに当たり、リグラント・リチャーズの顧問として働いてほしいと父に言いました。驚いた父は、まず祈ってから考えてもよいか尋ねました。

グラント大管長は言いました。「ワースリン兄弟、次の部会まで30分しかなく、休憩を取りたいと思っています。すぐに決めていただけないでしょうか。」

もちろん、父は召しを引き受けました。その後23年間管理ビショップリックで働き、9年間は管理ビショップを務めました。

父は69歳で亡くなりました。父が倒れたとき、わたしは偶然居合わせました。程なく父は亡くなりました。

よく父のことを考えます。父に会いたいです。

母のマデレン・ピトナーからも大きな影響を受けました。母は若いころ優秀なスポーツ選手で、短距離走のチャンピオンでした。親切で愛情深い人でしたが、恐ろしくペースの速い人で、よく「急ぎなさい」と言われました。その言葉を聞くと、子供たちはすぐにペースを速めました。フットボールで素早く動けたのは、そのお

かげかもしれません。

母は子供たちに大きな期待をかけ、最善を尽くすよう求めました。よく「二流になってはだめよ。」「もっと頑張りなさい。」と言っていました。二流というのは母の口癖で、怠けて自分の持てる力を出し切らない人のことを指します。

母は87歳で亡くなりました。どれほど母のことを考え、寂しく思っているか言い表せません。

妹のジュディスは作家であり、作曲家であり、教育者でした。福音や音楽、考古学など多くのものを愛していました。ジュディスの誕生日は、わたしの誕生日の数日前でした。毎年、わたしは妹の誕生日に真新しい1ドル札を贈りました。すると3日後のわたしの誕生日には50セントをくれるのです。

ジュディスは数年前に亡くなりました。寂しく思いますし、妹のことをよく考えます。

そして妻のエライザです。初めて妻と出会ったときのことを覚えています。わたしは友人に頼まれ、妻の妹のフランシスを迎えに行ったのですが、エライザがドアを開けた途端、少なくともわたしの方は、一目ぼれをしてしまいました。

妻も何か感じたのでしょうか。今でも忘れられないのですが、妻はわたしを見るなり、「I knew who you was(ああ、あなたね)」と言ったのです。

妻は英語を専攻していました。(訳注 ワースリン姉妹は気が動転して「I knew who you was」と文法を間違えてしまった。)

今でも、妻の言葉を心に大切にしています。最も美しい言葉の一つです。

妻はテニスが好きで、弾丸サーブを打ちました。最初は妻とテニスをしていましたが、目にも留まらない物を打つことはできないと気づき、やめました。

妻はわたしの力であり喜びでした。妻のおかげでわたしはより善い人、より良い夫、より良い父親になれました。結婚し8人の子供が生まれ、65年間連れ添いました。

妻には言い表せないほどの恩があります。完璧な結婚というものがこの世に存在するかどうか分かりませんが、少なくともわたしの側から言えば、わたしたちの



結婚は完璧でした。

ワースリン姉妹の葬儀で、ピンクレー大管長は「愛する人を失うと、人は心に大きな痛手を受け、打ちのめされます」と話しました。悲しみが心を絶えず苦しめるのだと。

そのとおりでした。エライザはわたしの最大の喜びだったために、その死は最大の悲しみとなりました。

この悲しみの間、わたしは永遠の事柄についてずっと考えていました。慰めを与える、永遠の命にかかわる教義について深く思い計りました。

わたしはこれまで、復活についての多くの説教を聴きました。皆さんと同じように、最初のイースターの日曜日に起こった出来事を暗唱することもできます。聖文の中の復活に関する何十もの記述に印を付けました。末日の預言者が語った復活に関する多くの重要な言葉も手近にあります。

わたしたちは復活が何かを知っています。それは霊と肉体が再び結合して完全な形になることです。¹

ジョセフ・F・スミス大管長は言いました。「わたしたちは、現世で別れた人々と再び会い、今ある姿を見ることができ(ます)。……わたしたちは肉において現世で交わった(その同じ)人々に会うことでしょう。」²

スペンサー・W・キンボール大管長はさらに詳しく述べています。「肉体的、精

神的、霊的に最も良い状態にある自分を想像してください。それこそが、復活したときの姿です」³

復活すると、「この死すべき体は不死不滅の体によみがえる。……〔わたしたちはもう死ぬことはありません。〕」⁴

想像できるでしょうか。全盛期の姿によみがえるのです。病も痛みもなく、現世でしばしば人にまとりつく病気に悩まされることもないのです。

復活は、クリスチャンの信条の核を成すものです。復活なしには、わたしたちの信仰は無意味です。使徒パウロは言いました。「もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、わたしたちの宣教はむなしく、あなたがたの信仰もまたむなししい。」⁵

世界史の中には、偉大で賢い人物が大勢いました。その多くは神に関する特別な知識があることを公言していました。しかし、墓からよみがえられた救い主は、だれもしたことのない、また成し得なかったことをされたのです。

救い主は、御自身だけでなく、義人も悪人も、生を受けたすべての人のために、死の縄目を断たれました。⁶

キリストは墓から出てよみがえりの初穂となり、万人がその賜物(たまもの)を得られるようにしていただきました。その崇高な出来事により、愛する大切な人を失った人々の心を苦しめ、人を打ちのめすひどい悲し

みは和らげられました。

キリストが十字架にかかれた金曜日には、どんなに暗かったことでしょう。

その恐ろしい金曜日、地は揺れ、闇に包まれました。恐ろしい嵐(あらし)が地を襲いました。

主の命をねらった邪悪な者たちは喜びました。イエス亡き今、主に従ってきた人々は、必ずや散り散りになるだろうと思ったのです。その日、邪悪な者たちは勝ち誇りました。

その日、神殿の幕は上から下まで真二つに裂けました。

マグダラのマリヤとイエスの母マリヤは、悲しみと失意に押しつぶされそうになりました。

二人が愛し、たたえた偉大な人物が十字架上で命を失ったのです。

その金曜日、使徒たちの心は悲しみに深く沈みました。救い主であるイエス水の上を歩き、死人をよみがえらせたその御方が、悪人の意のままになったのです。使徒たちは、主が敵に打ち負かされるのをどうすることもできずにただ見ていました。

その金曜日、人類の救い主は辱められ、傷つけられ、打たれ、ののしられました。

その金曜日、神の御子を愛し、たたえた人々は心を痛め、人を打ちのめすひどい悲しみが地に満ちました。

世界の歴史が始まって以来、この金曜

日ほど暗い日はなかったでしょう。

しかし、その悲しみは続きませんでした。

失意は消え去りました。なぜなら日曜日に、復活された主が死の縄目を解き放ったからです。主は墓からよみがえり、栄光のうちに勝利を収め、全人類の救い主として御姿を現されたのです。

一瞬にして、とめどなくあふれる涙でいっぱいだった目は乾きました。苦悩と悲嘆の祈りをささやいていた唇は、驚くべきことを賛美する言葉を語り始めました。なぜなら、生ける神の御子イエス・キリストが、よみがえりの初穂として人々の前に立ち、死が新たな驚くべき人生の始まりにすぎないことを証明したからです。

だれもが自分の金曜日を経験するでしょう。世界が粉々になり、その砕け散ったかけらの中に自分が独りいるように感じる金曜日を。すべてが砕け散ってもう元には戻らないように思える日々を、だれもが経験するでしょう。だれもが自分の金曜日を経験します。

しかし、死に打ち勝った主の御名により、証します。日曜日は必ずやって来ます。悲しみの暗闇の中に、日曜日は必ずやって来るのです。

どんなに失意の底にあり、悲しみが深くとも。日曜日は必ずやって来ます。この世かあるいは次の世に。日曜日は必ずやって来ます。

復活が寓話でないことを証します。主に実際にまみえた人々の証があります。

新旧両世界の何千人もが復活された救い主にまみえました。彼らは主の手、足、わきの傷跡をその手で触れました。主を抱き締め、抑えることのできない喜びの涙を流しました。

復活の後、使徒たちは生まれ変わりました。世界中を巡り、福音の栄えあるおとずれを宣言して回ったのです。

その場を立ち去り、元の生活や職業に戻ることもできたはずですが。そのうちに主と交わりを持っていたことは忘れ去られたでしょう。キリストの神性を否定することもできたのです。

しかし、使徒たちはそうませんでした。

危険やあざけり、死の脅かしの中を、



彼らは宮殿や神殿、会堂に入って行き、生ける神の復活された御子である、イエス・キリストの福音を大胆に宣べ伝えたのです。

使徒たちの多くが、最後の証としてその貴い命をささげました。彼らは殉教者として、復活したキリストの証を宣言しながら死んでいきました。

復活は、それを見た者の人生を変えました。わたしたちも同様ではないでしょうか。

だれもが墓からよみがえります。その日わたしの父は母を抱き締めるでしょう。そして、わたしは愛するエライザを再びこの手に抱くでしょう。

世の救い主の生涯と永遠の犠牲のおかげで、わたしたちは大切な人々と再び会えるのです。

その日、わたしたちは天の御父の愛を知るようになるでしょう。その日わたしたちはメシヤがすべてを克服されたことと、わたしたちが永遠に生きることができることを喜ぶでしょう。

聖なる神殿で受ける神聖な儀式のおかげで、この短い現世を去っても、永遠のひもでしっかり結ばれた家族の関係が、永久に分かたれることはありません。

死が人の存在の終わりではないことを厳粛に証します。「もしわたしたちが、この世の生活でキリストにあって単なる望みをいただいているだけだとすれば、わたしたちは、すべての人の中で最もあわれむべき存在となる」⁸「死は勝利にのまれてしまった」のです。⁸

愛する^{あがな}主のおかげで、わたしたちは真っ暗な金曜日のさなかにも声を上げ、次のように宣言することができます。「死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか。」⁹

ヒンクレー大管長は、愛する人を失った者を襲うひどい孤独感について語り、こう約束しました。夜の静けさの中に声なき声が「すべては良し」とささやき、心は必ずや平安を得ると。

わたしは、崇高な福音の真実の教義と、愛する預言者が約束した慰めと平安の言葉をささやく聖霊の賜物に、計り知れない感謝の念を抱いています。

悲しみの淵にあっても、わたしは福音の栄光の中に喜びを得てきました。預言者ジョセフ・スミスが、この最後の神権時代にあって、完全な福音を地上に回復するために選ばれたことを、わたしは喜んでいいます。わたしたちに預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長が与えられ、この時代における主の教会を導いていることを喜んでいいます。

愛する天の御父の息子、娘であるわたしたちに与えられた価値ある賜物と、墓に勝利を収めて復活するその輝かしい日がやがて訪れるという約束をわたしたちが理解し、感謝の内に生きることができまうように。

どんなに金曜日が暗くとも、日曜日は必ずやって来ることを、常に覚えておくことができますように。イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. アルマ11:43参照
2. 『歴代大管長の教え ジョセフ・F・スミス』91
3. スペンサー・W・キンボール、*The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年),45
4. アルマ11:45
5. 1コリント15:14
6. ヨハネ5:28-29参照
7. 1コリント15:19
8. 1コリント15:55
9. 1コリント15:55

永遠に目を向ける!

中央若い女性会長会第二顧問
イレイン・S・ダルトン

清くあることがなぜ大切か分かる?



初孫が生まれたとき、すぐに家族全員で病院に行きました。長男が愛らしい赤ちゃんを抱いているのを見て、深い感動を覚えました。末の息子のチャドと一緒に、新生児室の窓のそばに立ち、まさに天から来たばかりの、清く汚れのない赤ちゃんの目を見つめました。一瞬、時が止まって、永遠の計画をかいま見た思いがしました。人生の神聖さを実感したわたしは、末の息子にこうささやきました。「清くあることがなぜ大切か分かる?」息子は静かに「分かるよ、お母さん」と答えました。

その瞬間、とても強い力を感じました。わたしは、一人一人の若い男性と女性、一人一人のヤングアダルト、そして、まさにわたしたち一人一人に、ふさわしく清く生きることの大切さを感じてほしいと願っています。現世の使命を果たす資格が得られるかどうかは、まさに個人のふ

さわしさにかかっているのです。

個人の使命は地上に来るはるか前に始まりました。わたしたちは、誘惑や試練がとて過酷な時代に地上に来るように、前世で「召され、備えられ」たのです。これは、「わたしたちの」非常に深い信仰と善い行いのため、そしてわたしたちが「善を選ん」だためです。¹ わたしたちは天の御父の計画を理解し、それが良いものであると知っていました。その計画に従うことを選んだだけでなく、擁護さえしたのです。わたしたちは現世での生活が、誘惑や試練、苦難に満ちていることを知っていました。でも、完全な福音、生ける預言者、聖霊の導きによって祝福されることも知っていました。地上での成功は、ふさわしさと清さにかかっていることを知っていたのです。

ふさわしいとは、どのような意味でしょうか。ラモーナイの父はこう述べています。「あなたの語ったこの永遠の命を得るには、まことに、わたしは何をすればよいのか。」² そして主とこう約束を交わすのです。「わたしはあなたを知(る)ように、自分の罪をすべて捨てます。」³ ラモーナイの父は、自分の真の姿と、神の計画を知り、ふさわしくなることを切望したのです。

ふさわしくなるために、わたしたちは天の御父のみもとに帰るのを可能にしてくれる選択をします。主の用意されたすべての祝福を得るふさわしさを身に付けるために必要なことをするのです。わたしたちは「何であろうと、主なる……神が命じられるすべてのことを……なすかどうかを見」られています。⁴ わたしたちがこの

地上にいるのはそのためです。誘惑を拒むためには、主イエス・キリストを信じる信仰が必要です。⁵ 信仰によって、悪を遠ざけることができるようになります。信仰によって、悪を不快に感じるようになります。なぜなら「光は光に結びつき」「徳は徳を愛[する]」からです。⁶

世の汚れに染まらずに生活するには、信仰だけでなく、悔い改めと従順も必要です。標準に従って生活し、聖霊から導きを受けるために必要なことをしなくてはなりません。なぜなら御霊は清くない宮にとどまらないからです。⁷

知り合いの若い男性が「難しすぎます。僕が生きている世界で標準を守るのは非現実的です。難しすぎますよ」と言いました。それでも、自分が神の息子、娘であると知っているわたしたちは、ふさわしさを身に付けるために努力しなければなりません。別の若人たちには「やればできる」というモットーがあります。彼らは自分の真の姿、果たすべき使命を知っています。また、導きを受ける方法も、聖約を守れば強められることも知っています。さらに、たとえ過ちを犯しても、悔い改められることを知っているのです。サタンは、悔い改めは不可能だと信じ込ませようとしますが、真理はその反対です。主は赦しを約束しておられるのです。⁸ 毎週ふさわしい状態で聖餐を受け、「いつも(救い主)を覚え、[その]戒めを守る」と聖約することで、わたしたちは、清くなることができます。⁹ 主の福音は平易なものです。そのうえ、わたしたちは自分の道をまっすぐで狭いものとするための方法さえ与えられているのですから、道は明るく「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽い」のです。¹⁰

38年前、わたしはゴードン・B・ピンクレー大管長の司式により、ソルトレーク神殿で結婚しました。あの日、ピンクレー大管長から頂いた助言を人生の指針としてきました。式の後、夫とわたしは神殿の近くの公園へ行き、式の中で受けたすばらしい助言を日記に書き留めました。このような助言です。いつも祈りを忘れないでください。夫婦で、家族で、朝晩祈っ



てください。什分の一を正直に、完全に納めてください。毎日聖文を読み、書かれています原則を生活に当てはめてください。ふさわしくあり続けてください。祝福が必要などときには、主に叫び求めてください。いつも、主の祝福を受けられるような生活をしてください。大管長はこう言いました。「人生の中で、いつの日か、今すぐ祝福が必要になる時が来ます。そのとき、^{あわ}憐れみからでなく、ふさわしいからということで、すぐに祝福を受けられるように生きてください。」当時はその意味がよく分かりませんでした。この38年で「今すぐ

祝福してください」と天の御父に祈ることが何度もありました。この義にかなった神聖な習慣は、天の御父のみもとに帰る道を歩めるように毎日助けてくれています。ですから今日わたしは声を大にして言います。「感謝を神に捧げん 予言者の導き。」¹¹

神殿に参入し、「父が持っておられるすべて」を受けるには、ふさわしさがが必要です。¹² 主は言われました。「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増〔す〕であろう。」¹³ 徳で思いを飾るなら、主御自身が来られる神殿に、自

分のふさわしさを自覚しながら、自信をもって参入することができます。ふさわしい人は、神殿に参入するだけでなく、心の中に神殿を持つことができます。救いと幸福の約束はわたしたちのものとなり、わたしたちの人生は主のものとなるのです。

つい先月、末の息子のチャドは、美しくふさわしい女性と永遠の結婚をするために、神殿に参入しました。息子が新婦の手を取り聖壇にひざまずいたとき、両側の壁の鏡を見て、もう一度息子に、そっと聞きたくなりました。「清くあることがなぜ大切か分かる？」でも、その必要はありませんでした。すでに御霊がそうささやっていたのです。

高貴な生得権を持つ若人の皆さん、永遠の窓をのぞいてください。聖なる神殿で自分を見つめてください。ふさわしく清い生活をしている自分を見つめてください。あなたの子孫はあなたを頼りにしているのです。イエス・キリストの贖罪が持つ^{あがな}贖いの力とすべてを可能にする力があれば、ふさわしくなれることを^{あかし}証します。わたしたちが、主から次のように言われますようにお祈りします。「彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩み続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である。」¹⁴ イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. アルマ13:3参照
2. アルマ22:15
3. アルマ22:18
4. アブラハム3:25
5. アルマ37:33; 3ニーファイ7:18参照
6. 教義と聖約88:40参照
7. ヒラマン4:24参照
8. 『若人の強さのために』30参照
9. モロナイ4:3
10. マタイ11:30
11. 『感謝を神に捧げん』『賛美歌』11番
12. 教義と聖約84:38。35-37節も参照
13. 教義と聖約121:45
14. 黙示3:4。5節も参照

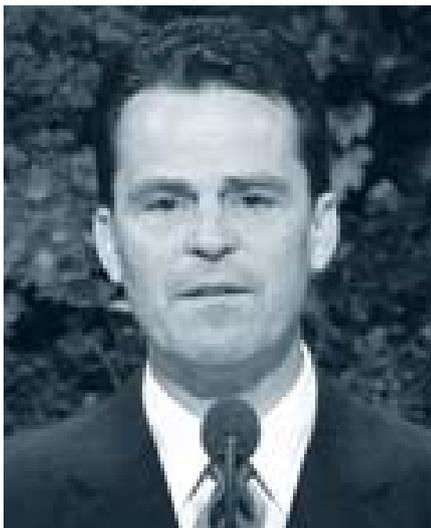
しよくざい

贖罪は 人生を清め、再生し、 聖なるものとする

七十人

シェーン・M・ポーエン

イエス・キリストの贖罪には、わたしたちのだれもがあずかれます。主の贖罪は無限です。



アイダホ州のアイダホフォールズ市には、美しい飛行場があります。この地域でも最大の飛行場の一つで、この空港を利用すると、スネークリバー盆地の上流地域には簡単に行けます。わたしも、若いころ、2年間の伝道を終えた後、チリからの帰還に際してこの空港を利用し、家族と再会しました。同じような光景が、奉仕の召しにこたえた忠実な聖徒たちによって、何千回となく繰り返されてきました。実に便利であり、この市と地域にとっては不可欠な空港です。

この空港の近くに、この市にとって、非常に便利で、美しい場所がもう一つあり

ます。フリーマンパークという名の公園です。この公園に沿って、スネーク川が2マイル(約3キロ)ほど流れています。また、公園の中と川の周辺には、整備された散策用の道が何マイルも続いています。

フリーマンパークは見渡すかぎり緑におおわれ、野球やソフトボールのグラウンド、子供用のブランコ、家族のためのピクニック場なども整備されています。木々の緑豊かな散歩道も整備され、カップルたちが散策しています。この公園から川の方を見渡すと、壮麗なアイダホフォールズ神殿が目に入ります。高台に白亜の殿堂が、^{けが}汚れなく建っています。露出した溶岩の間を縫うように流れるスネーク川のせせらぎのおかげで、この公園は実に魅力的な場所になっています。わたしの大好きな場所の一つであり、愛する妻リネットとともに散歩し、くつろぎ、熟考し、^{めいそう}瞑想するために活用しています。実に平安で、靈感あふれる場所です。

わたしが、アイダホフォールズにある地元の空港やフリーマンパークについてお話しした理由は何だと思えますか。それは、両方とも、同じ種類の土壌の上に造られているからです。この美しく、便利な場所は、いずれも、かつてはごみの埋め立て地だったのです。

ごみの埋め立て地では、廃棄物が土の

層と層の間に埋められていきます。『ウェブスター英英辞典』によれば、埋め立てとは、「ごみや廃棄物を土の層の間に埋め、平坦地を造り上げていく方法」と定義されています。(Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 第11版(2003年), 699)

埋め立て地のほかの定義は、「ごみが埋められ、土地が再生された場所」となっています。さらに、再生の定義は、「間違った、あるいは不適切な行いを改めること。望ましくない状況から救い出すこと」(同1039ページ)となっています。

わたしは、人生のほとんどをアイダホフォールズで暮らしてきました。ですから、50年以上もの間、自分でもたくさんのごみを出して、埋め立てに貢献してきたことになりました。

ある日、わたしがアイダホフォールズ空港の滑走路の上やフリーマンパークの緑豊かな敷地の真ん中に姿を現し、ブルドーザーを使って、大きな穴を開け始めたとしましよう。市の指導者たちは、それをどう思うでしょうか。「何をしているのか」と尋ねられたわたしが、これまで何年間もかけて出してきた昔のごみを掘り起こしているんだと答えたとしましよう。

そうすると、多分、こう告げられることでしょう。「どれがあなたのごみなのか、識別する方法などありませんよ。はるか昔に再生され、埋め立てられているのですから。」きつこうも言われるでしょう。「あなたにはごみを掘り起こす権利はありません。それどころか、あなたは、自分のごみから造り上げられた美しい、役に立つものを破壊しているんですよ。」つまり、わたしの行動は決して喜ばれるものではないということです。「古いごみを掘り起こして、美しいもの、便利なものを破壊しようだなんて、一体どういう見だろ」と思われるでしょう。

ある人が^{ほうじゆう}放縦に身を任せ、汚れたものに埋められてしまったとしましよう。その人が赦されて、人生を再生することなどあり得るのでしょうか。あるいは、ひたむきに努力を続けているものの、何度も罪を犯してしまい、そうした悪癖を断ち切る方法などない、と感じている人についてはど



うでしょうか。せっかく自分の生活を変えたにもかかわらず、ただ昔の自分を赦せていない人についてはどうでしょうか。

イエス・キリストの贖罪に関して、預言者アルマは、ギデオンの人々にこう教えています。

「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。

さて、御霊はすべてのことを御存じである。にもかかわらず、神の御子は御自分の民の罪を負い、御自分の解放の力によって彼らの背きを取り消すために、肉において苦しみを受けられる。さて見よ、これがわたしの内にある証である。(アルマ7:11-13)

贖罪について、ニーファイの弟のヤコブは、さらに次のように教えています。「し

たがって、贖罪は無限の贖罪でなければならない。もしそれが無限の贖罪でなければ、この朽ちるものが朽ちないものを着ることはできない。したがって、人にとって最初の裁きが限りなく続かなければならない。もしそうならば、この肉体は横たえられ、朽ち果てて母なる大地に返り、もう二度と起き上がることがないに違いない。(2ニーファイ9:7)

イエス・キリストの贖罪には、わたしたちのだれもがあずかれます。主の贖罪は無限です。あなたも含め、すべての人に適用されます。贖罪は、あなたを、汚れから清め、再生し、聖なるものとしてくれるのです。それが無限という意味です。完全で、余すところなく、あらゆる人に及ぶ、永遠のものです。ボイド・K・バックー長老はこう説いています。「……悪習、薬物の乱用、反抗、背き、違反などのために、完全な赦しという約束から除外される人は一人もいないのです。これは、キリストの贖罪がもたらす約束です。(「輝かしい赦しの朝」『聖徒の道』1996年1月号, 21)

ちょうど埋め立て作業に熱心な働きと入念な注意が必要とされ、平坦地を作り出すために、ごみに幾層もの土がかぶせられていくように、わたしたちの人生も同

様の注意を払い、悔い改めという癒しの賜物の層を、絶えず重ねていく必要があるのです。

アイダホフォールズ市の指導者たちは、昔のごみを掘り起こそうとしている人を決して快く思わないでしょう。それと同様に、わたしたちの天の御父も御子イエス・キリストも、贖罪によってもたらされた悔い改めという賜物を使って、自分の人生を、その汚れから清め、再生し、聖なるものとしてできるというのに、罪の中にとどまることを選ぶ人がいたら、悲しまれるでしょう。

わたしたちが感謝の心をもってこの貴い賜物を受け入れ、用いるとき、わたしたちは自分の人生を麗しく、かけがえのないものとして享受することができるのです。わたしたちの人生は、神が、その無限の愛により、また、御子でありわたしたちの長兄であるイエス・キリストの贖罪により、再生してくださったものだからです。

わたしは、イエスがキリストであり、生ける神の御子であられること、そしてその贖罪が確かに存在し、さらに、赦しという奇跡を通じて、あなたも含め、わたしたち一人一人が再び清められることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

じゅうぶん

什分の一の律法

七十人

ダニエル・L・ジョンソン

主を信頼してください。主御自身が「これをもってわたしを試みなさい」とおっしゃっているのです。



今 日わたしは、什分の一を完全に納めることの大切さについて、あかし証をお持ちでない方々に、その証を得るようにお勧めします。什分の一を納めない人は様々な理由を口にします。急に病気やけがをした、借金がある、車や家の修理、教育費が要る、保険料の支払いがあるなどです。このような理由やそのほかの同じような理由は現実的で、多くの教会員が日常生活の中で直面しています。それらは家計に響きます。家計を賢く管理しなければ、主への義務である什分の一を納められなくなります。この永遠の律法への不従順を、軽く考えてはいけません。什分の一をなおざりにすると、霊的な成長が大きく損なわれるだけでなく、現世の実生活の中で十分な祝福が受けられなくなります。

スペンサー・W・キンボール大管長はかつてこう言いました。「什分の一は主の

律法であり、主はすべての弟子たちにこれを守るように求めておられます。この神の律法を守ることは、名誉、特権であり、安全、約束、大なる祝福の源となります。この義務を完全に守らない人は、自ら祝福を拒んでいますし、重大な事柄を見逃しています。それはささいな見落としではなく、背きなのです。』¹

では、什分の一とは何でしょう。主はこう定義しておられます。「これがわたしの民の納める什分の一の始まりとなる。その後、このように什分の一を納めた者は、毎年彼らの得る全利益の十分の一を納めるのである。そして、これは……とこしえに彼らにとっての永続的な律法となる……。」² 什分の一は単なる自発の供え物ではなく、毎年利益や収入の20分の1でもなく、収入の単なる一部でもありません。

ハワード・W・ハンター大管長はこのように述べています。「律法はただ『全利益の十分の一』と定めています。利益とは、利潤、報酬、収益のことです。それは、働いて得たお金、ビジネスで得た利益、栽培や生産によって増えた作物や家畜、その他の源から生じた利益のことです。主はこれを『とこしえに』永続的な律法と述べておられます。』³

什分の一はどのように使われるのでしょうか。忠実な教会員は支部会長会またはワードのピショップリックの一員に什分の一を納めます。教会員が納めた什分の一は、主の預言者の指示の下に集められ、世界中の教会の成長と発展のために使われます。例えば、神殿を建設する、

世界中で行われている伝道活動を支える、集会所を建築し維持管理する、あるいはそのほかのふさわしい目的のために使われています。

主はなぜ民に什分の一を求められるのでしょうか。主は父親として、わたしたちを愛しておられます。愛するわたしたちを、物心両面で祝福したいと望んでおられます。聖文に書かれた主の御言葉に耳を傾けてください。「耳を傾けて聞きなさい、おお、わたしの民よ。主であり、あなたがたの神である者は言う。……わたしはあなたがたを、すべての祝福の中で最も大いなるものをもって祝福することを喜びとする。』⁴ 主はこのように言う。すなわち、主なるわたしは、わたしを畏れる者に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。』⁵

主は御自分のすべての子供たちを祝福したいと望んでおられます。ですから主は、すべての人に公平に祝福を与える律法を定められました。主はその律法の原則を、回復された教会の預言者に示されました。「創世の前に天において定められた不変の律法があり、すべての祝福はこれに基づいている。すなわち、神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。』⁶ 「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。』⁷

主は御自分の子供であるわたしたちが地上で生活する間、物心両面で試練を受けることを初めから御存じでした。むしろ、試練はこの試しの生涯に不可欠なものです。わたしたち一人一人が試練を乗り越え、ある程度快適な生活を送り、繁栄を享受するためには、一生を通じて主の祝福を受ける必要があります。主はそのことを御存じでした。

こうして、什分の一の律法が時の初めに定められたのです。聖文から、アブラハムがこの律法に従うことにより祝福されたことが分かります。現在も、同じ律法があります。その律法は、今からおよそ



2,000年前、アメリカ大陸の人々を訪れた救い主によって、繰り返し述べられました。

『わたしの家に食物があるように、什分の一をすべてわたしの倉に携えて来なさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、受け入れる余地がないほどの祝福を、あなたがたに注ぐかどうかを見なさい』と、万軍の主は言う。

『わたしは食い荒らすものをあなたがたのために抑えて、あなたがたの地の産物が荒らされないようにしましょう。また、あなたがたのぶどうの木が熟す前に、その実を畑に落とすことのないようにしましょう』と、万軍の主は言う。

『諸国の民は皆、あなたがたを祝福された者と言うであろう。あなたがたは喜ばしい国となるからである』と、万軍の主は言う。』⁸

何とすばらしい律法でしょう。主は御自分の子供たちを物質的にも霊的にも祝福する力を持っておられ、実際に祝福したいと望んでおられるのです。そこで主は、人が望み、必要とする祝福の扉を開く鍵をくださいました。その鍵こそ什分の一の律法なのです。ジェームズ・E・ファウスト管長が述べたように、「什分の一を納めるだけのゆとりがないと言う人もいるかもしれませんが。しかし、主はわたしたちがすべての戒めを守る道を備えてくださいます。什分の一を納めるには、最

初は大きな信仰が必要です。……でも、納めてみれば分かります。乏しい中から主にお返りする信仰があれば、きつと貧しさを克服できるとわたしは信じています。』⁹ 兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはこの律法を守りさえすればよいのです。

皆さんにお勧めします。まだ什分の一を完全に納めていない人は、今日から地元の神権指導者を通して、什分の一を主に対して完全に納めてください。他の金銭的な義務を果たす前に、まず什分の一を主に納めてください。主を信頼してください。主御自身が「これをもってわたしを試みなさい」¹⁰とおっしゃっているのです。そのようにして、主に対して什分の一を納めるという義務を、すべての金銭的な義務の中で最優先させるならば、主が天の窓を開いて「受け入れる余地がないほど」¹¹多くの祝福を注いでくださるという主の比類ない力についての確かな証人となることでしょう。このきわめて神聖な什分の一の律法に対する自分の証を得、引き続きこの律法を従順に守ることにより、ますます主に近づくことができるでしょう。

すでに什分の一を納めている皆さん、わたしは皆さんの忠実さを称賛します。皆さんは、主がこの戒めに従う人に対して約束を成就されることについて、すでに個人的な証を持っています。そして、什分の一を納めるたびに、皆さんの主に

対する忠誠心はさらに強められています。

わたしには自分自身の証があります。什分の一の律法と、この律法について主が与えられた約束は確かに実現します。個人的な経験から、確かに祝福が来ることを知っています。そのことを知っていることに心から感謝しています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

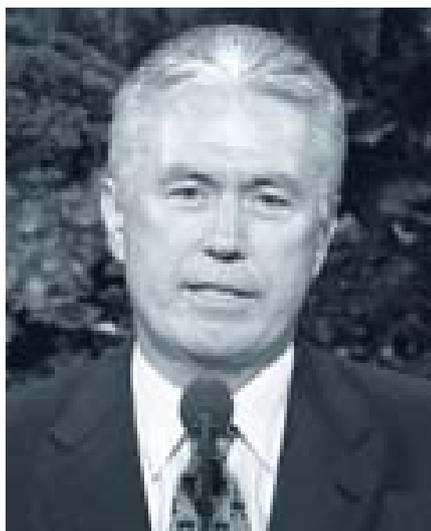
1. 「心をつくして行いこれをなし遂げた」『聖徒の道』1981年8月号、3参照。
“President Kimball Speaks Out on Tithing,” *New Era*, 1981年4月号、6参照
2. 教義と聖約119:3-4
3. Conference Report, 1964年4月, 35
4. 教義と聖約41:1
5. 教義と聖約76:5
6. 教義と聖約130:20-21
7. 教義と聖約82:10
8. 3ニーファイ24:10-12; マラキ3:10-12も参照
9. ジェームズ・E・ファウスト「天の窓を開く」『リアホナ』1999年1月号、63参照
10. 3ニーファイ24:10; マラキ3:10も参照
11. 3ニーファイ24:10; マラキ3:10も参照

あかし 個人の証が持つ力

十二使徒定員会

ディーター・F・ワークトドルフ

わたしたちの揺るぎない証は、自分自身を変えるよう促し、世界に祝福をもたらします。



青年ニーフアイはモルモン書の中で、主から船を造るよう命じられました。ニーフアイはためらうことなく命令に従いましたが、兄たちは疑っていました。ニーフアイはこう記しています。「兄たちは、わたしが船を造ろうとするのを見ると、わたしのことをつぶやいて言った。『弟は愚か者だ。弟は船が造れると思っているし、この大海を渡れると思っている。』」（1ニーフアイ17：17）

けれども、ニーフアイは落胆しませんでした。船を造ったことはありませんでしたが、「主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられて、いるという強い証を持っていました（1ニーフアイ3：7）。この力強い証と動機を胸に、ニーフアイは船を完成させました。そして、不信仰な兄たちの強い抵抗を受けながらも、一行は大海を渡ったのです。

正しい動機がもたらす力について、少年時代に経験したことを話しましょう。

第二次世界大戦後、わたしたち家族はロシア軍が占領する東ドイツに取り残されました。そこでは小学4年生になるとロシア語を学ばなければなりません。初めて学んだ外国語です。キリル文字を覚えるのは簡単ではありませんでした。けれども時間がたつにつれて、何とか身に付いていきました。

11歳になると、父の政治的見解により、突然東ドイツを離れなければならなくなりました。ここでは当時アメリカ軍の占領下にあった西ドイツの学校に通いました。学校ではロシア語ではなく、英語が生徒全員の必修科目でした。ロシア語も確かに簡単ではありませんでしたが、英語は論外でした。わたしの口は英語を話すようにはできていないと思ったものです。先生たちは手を焼き、両親は頭を抱え、わたしは絶対に英語は話せないと思っていました。

そうした少年時代に変化が起きました。当時、わたしは毎日のように自転車で飛行場へ行き、離着陸する飛行機を眺めていました。航空技術に関する、あらゆる資料を読み、研究し、勉強しました。何よりもパイロットになりたいかったです。わたしの眼には、旅客機や戦闘機の操縦席に座る自分の姿がすでに映っていました。これこそ自分のすべき仕事だと思いました。

その後、パイロットになるには英語ができなければならないことを知りました。するとにわかに、変化が起きたのです。わたしの変わりぶりに皆が驚きました。わたし

の口が作り変えられたかのようにでした。英語ができるようになったのです。まだ忍耐しながら何度も繰り返し学ぶ必要がありましたが、英語が身に付いていきました。

なぜでしょうか。それは正しく、強い動機があったからです。

わたしたちの行動に最終的に影響を与えるのは動機と息です。イエス・キリストの回復された福音が真実であるという証は、わたしたちの生活に最も強い動機付けを与える力となります。イエスは善い思いと正しい動機がもたらす力を繰り返し強調し、こう言われました。「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」（教義と聖約6：36）

イエス・キリストと回復された福音に対する証は、神が用意してくださった計画を学び、それに従って行動するうえで助けを与えてくれます。また、神の存在、真理、慈しみを実感させ、イエス・キリストの教えと贖い、末日の預言者たちが神から召されていることを確信させてくれます。証は正しく生きたいという意欲をかき立て、正しい生活は証をいっそう強めてくれます。

証とは何でしょうか？

「testimony(証)」という言葉は、「証人」を表すラテン語の「testimonium(テストimoniウム)」、「testi(テストイ)」に由来し、「物事の真実性に関する厳然たる証拠」という意味があります(「Testimony」, <http://www.reference.com/browse/wiki/Testimony>; Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 第11版(2003年), 「testimony」の項, 1291)

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にとって「証」という言葉は、温かみのある、なじみ深い教会用語となっています。快い響きを持つ言葉であると同時に、常に神聖な意味を含んでいます。わたしたちは「証」というと、論理的で、明白な事実よりはむしろ、心と思いに感じるものを指します。証は御霊の賜物であり、特定の概念が真実であることについて聖霊から受ける確認です。

証とは、末日における主の業が真実で

あり、神聖なものであることに対する、聖霊から授けられる確かな知識であり確信です。証とは、「イエス・キリストの福音が明らかにしている、真理への不変で、生きた、感動を与える確信」です。(マリオン・G・ロムニー、「証を得る方法」『聖徒の道』1976年11月号、510参照、強調付加)

証を述べる時、わたしたちは福音のメッセージが確かに真実であることを宣言します。多くの人が真理を相対的なものとしてとらえている時代にあつて、絶対的な真理を宣言する人はあまりいません。世の中では不適切、または不都合であるのとらえられるのです。「現在のことをありのままに示す」(モルモン書ヤコブ4:13)証は大胆であり、真実で重要なものです。それは人類に永遠の結果をもたらすからです。わたしたちが状況に応じて信仰や福音の教えのメッセージを変えても、サタンは気に留めないでしょう。福音の真理に対する揺るぎない確信は、わたしたちの生活の錨(いかり)です。それは北極星のように不変であり、信頼できるものです。証とは非常に個人的なものであり、人によって少しずつ異なっているかもしれませんが、同じ人は二人とないからです。けれども、回復されたイエス・キリストの福音の証には、次に挙げる明確で純然とした真理が必ず含まれています。

神は生きておられます。神は愛にあふれる天の御父であり、わたしたちは神の子供です。

イエス・キリストは生ける神の御子であり、世の救い主です。

ジョセフ・スミスは、末日にイエス・キリストの福音を回復した神の預言者です。

モルモン書は神の御言葉です。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長とその顧問、十二使徒定員会の会員は、この時代の預言者、聖見者、啓示者です。

聖霊の力と賜物によって、これらの真理と救いの計画について深い知識を得るときに、わたしたちは「すべてのことの真理を知る」ことができます(モロナイ10:5)。

どうすれば証を得られるでしょうか？

わたしたちは皆、証を得ることの方が

述べるより難しいことを知っています。証を得るには、「人は自分のまいたものを、刈り取ることになる」(ガラテヤ6:7)という収穫の法則に従わなければなりません。努力と犠牲なしに良いものを手にすることはできません。証を得るために熱心に努力するならば、わたしたち自身と証を強めることができます。また、人々と分かち合うことで、証はさらに強まります。

証はこの上なく貴重な財産です。それは論理や理屈だけで得ることはできず、この世の富で買い取ることや、贈り物として受け取ること、先祖から受け継ぐこともできないのです。また人の証に依存することもできません。自分で知る必要があります。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語りました。「すべての末日聖徒は、イエスが復活された、生ける神の生ける御子であられることを、はっきりと知る責任があります」(「善を行うことをおそるなかれ」『聖徒の道』1983年7月号、140)

この確かな知識と確信をもたらすのは、神から与えられる啓示です。「イエスのあかしは、すなわち預言の霊」だからです(黙示19:10)。

聖なる御霊が内なる霊に語りかけてくださるときに、わたしたちはこの証を受けます。穏やかで揺るぎない確信は、文化や人種、言語、社会や経済的環境にかかわらず、わたしたちに証と確信をもたらす源となります。人の論理だけでなく、御霊によるこれらの導きに頼ることが、証を築き上げる真の基盤となります。

この証の核となるのが、イエス・キリストとその神聖な使命に対する信仰と知識です。主は聖文の中で御自身のことを、「わたしは道であり、真理であり、命である」とおっしゃいました(ヨハネ14:6)。

では、聖霊の証に基づいた個人の証を得るにはどうすればよいでしょうか。その方法は聖文の中に記されています。

第1 信じようとする望みを持つ。モルモン書はこう勧めています。「もしあなたがたが目覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい」(アル

マ32:27)ある人はこう言うかもしれません。「わたしには信じられません。宗教心がないのです。」信じようとする望みを持つだけでも、神は助けてくださると約束しておられることに注目してください。けれどもそれは真の望みでなければならず、うわべだけの望みであってはなりません。

第2 聖文を調べる。疑問を持ち、それらを研究し、聖文を調べて答えを見つけてください。このことについても、モルモン書は優れた勧告を与えています。神の言葉を熱心に研究することにより、「もしあなたがたが心の中に場所を設けて、種をそこに植えるようにするならば」、そして不信仰によってそれを捨てるようなことがなければ、その良い種は「[あなたがた]の心の中でふくらみ始めるであろう。」そしてこの良い種は「あなたがたの心を広げ」、「[あなたがた]の理解力に光を注いでくれることでしょう」(アルマ32:28)。

第3 神の御心を行ひ、戒めを守る。神の王国が地上に回復されたことを自分で知りたいと思っているなら、学問上の討論だけでは不十分です。ありきたりの研究をしていても知ることはできません。実行してみなければなりません。つまり、神の御心を知って、実行に移すのです。

キリストのもとに来て、キリストの教えに従う必要があります。救い主はこう教えておられます。「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ7:16-17。強調付加)さらに主は言われました。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」(ヨハネ14:15)

第4 深く考え、断食し、祈る。聖霊から知識を受けるには、天の御父にそれを願い求めなければなりません。神がわたしたちを愛しておられること、聖霊の導きに気づくよう神が助けてくださることを信じなければなりません。モルモン書にはこう約束されています。

「あなたがたはこれを読むときに、アダ



部会の後で集まった、メキシコ・チワワテクノロジーステーキの会員と宣教師たち。

ムが造られてからあなたがたがこれを受けるときまで、主が人の子らにどれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし、それを心の中で深く考えてほしい。

これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。(モロナイ10:3-4)

預言者アルマはこう語りました。

「わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている。あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであるのを知ったと思うか。

見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、……断食をして祈ってきた。……主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされた……。わたしの内にある啓示の霊によって知らされたのである。」

(アルマ5:45-46)

愛する兄弟姉妹、アルマは2000年以上の昔に、断食と祈りによって証を受けました。わたしたちは今日、同じ神聖な経験をすることができます。

証は何の役に立つのでしょうか？

証は正しい視野と動機、そして堅固な土台を与えてくれます。その土台の上に人生を築くなら、それは目的と成長をもたらすものとなります。順調なときもつまづいたときも、証は常に確信を与える源となり、真の忠実な伴侶^{ほんりよ}となってくれます。証は希望と喜びを見いだすよりどころとなります。楽観的な精神と幸福を生み、自然の美しさに喜びを感じさせてくれます。証はいつでも、どのようなときも、善を選ぶよう促してくれます。神に近づいていただくために、みそばに近づくよう促します(ヤコブの手紙4:8参照)。

個人の証は防御の盾であり、鉄の棒のように暗黒と混乱の中を安全に導いてく

れます。

ニーファイに勇気を与え、主に従う者たちの中に数えられるよう励ましたのは、彼自身の証でした。ニーファイはどのような状況に置かれても、つぶやくことも、疑うことも、恐れることもありませんでした。苦境に立たされると、ニーファイはこう言いました。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられて(いる)ことを承知しているからです。(1ニーファイ3:7)

主がニーファイを知っておられたように、神はわたしたちを御存じであり、愛しておられます。今はわたしたちの時であり、わたしたちの時代です。わたしたちは最後の神権時代に生きているのです。わたしたちの揺るぎない証は、自分自身を変えるよう促し、世界に祝福をもたらします。わたしは主の使徒としてこのことを証し、祝福を残します。イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。

あがな

贖いは、平安と幸福を 確固としたものとする

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット

最も大きな困難を乗り越える強さと勇気、能力を備え、真に不朽の幸福を得るには、イエス・キリストを生活の中心に据える必要があります。



天の御父は、わたしたちがこの死すべき世で平安と幸福を見いだすことを望んでおられます。争いや目をくらませるような誘惑が増加する、いっそう難しい世の中で、主イエス・キリストと預言者たちは、どうすれば平安と幸福を得られるかを教えてきました。

平安と幸福を得る方法をロッククライミングにたとえて、まずは間違っただり方を、続いて正しい方法を紹介します。クライマーの中には、難度の高い岩の絶壁に「単独登はん」と呼ばれる方法で挑む人がいます。その場合、装備や仲間、保護具など一切無しで、個人の技術と能力を頼りにして、たった独りで登頂します。彼らは自らを危険にさらして、恐怖を楽しんでいます。落下して重症を負ったり、命を落

したりする可能性がありながらも、危険に身をさらすのです。彼らは、神の戒めに従い、御霊の導きを得るといふ防衛手段なしに人生の困難や誘惑に向かって行く多くの人に似ています。今日の困難な世の中において、彼らはほぼ確実に重大な律法を犯し、悲痛と破滅という結果を招くことになるでしょう。人生の「単独登はん」は禁物です。ほぼ間違いなく罪を犯すことになるでしょう。

ロッククライミングには、もっと安全な方法があります。クライマーがペアで困難な斜面に臨むとき、導き手である「リード」は間隔をおいて断崖にアンカーを打ち込み、ロープをカラピナ(訳注 連結に使う登山用具)でアンカーにつなぎます。そして、安定した位置にいる「セカンド」と呼ばれるパートナーが安全を確認します。セカンドがロープを固定し、ロープの繰り出し方を慎重に制御することでリードの安全が確保されます。このようにして、リードが登はんするときの安全が確保されるのです。万が一、足を踏み外したとしても、アンカーによって安全な範囲に落下することができます。セカンドはリードの安全を確保するだけでなく、掛け声や合図で励ましを与えます。彼らの目標は、大きなチャレンジを安全に、かつ楽しみながら乗り越えることです。彼らは何度も試された、実績のあるテクニックや装置を用います。不可欠な装備として、いろいろなものが挙げられます。安全な

ハーネス、信頼性の高いロープ、断崖の表面に固定する種々のアンカー、グリップ力を高めるための滑り止め、リードが切り立った斜面をしっかりとらえることのできるブーツや特殊な靴などです。

クライマーのペアは、ロッククライミングのルールとテクニックを前もって研究します。経験豊富なクライマーからの指示に耳を傾け、適切な動きと装備の使い方がじっくり来るまで訓練を重ねます。ルートを計画し、どのように助け合うのかを決めます。リードが高い所まで登り、安全が確保されたポイントを見つけると、ロープを巻き取りながら固定します。セカンドはピッチ、つまり伸ばされたロープの間隔を登って行きます。リードに追いつくと、また同じ手順を繰り返します。一人が登りながら、不慮の落下に備えて数フィートごとにアンカーを打ち込んでいる間、もう一人がロープを固定します。テクニックを多用するロッククライミングはリスクが高く、危険なように見えますが、これらの予防策と、的確な原則を守ることによって、安全で爽快な経験をすることができます。

実生活に当てはめると、アンカーは、直面するあらゆる困難から人々を保護する神の戒めです。ロープとそれをアンカーに固定するカラピナは、これらの戒めへの従順を象徴しています。神の戒めを学ぶとき、それらを実行して、危険を避けるための計画を立ててください。そうすれば、サタンの誘惑を確実に防御でき、罪から身を守るしっかりとした人格を身に付けることでしょう。もし間違っただり行動を取ってしまったとしても、その結果は長く続かないでしょう。悔い改めを通して得られる歯止めや助けがあるからです。

救い主を人生のリードとしてください。主はおっしゃいました。「わたしは……天の岩である。だれでも門に入り、わたしによって登る者は、決して落ちることがない。」¹ 皆さんの人生において最も困難な試練を切り抜けるよう、贖い主は安全に導いてくださいます。主の律法は、人を確実に守るアンカーであり、危険な世の中に生きている皆さんから恐れを払拭し、成功へと導いてくれます。そのよ



うな生活は、必ずや皆さんに平安と幸福をもたらしてくれるでしょう。

大きな困難を乗り越える強さと勇氣、能力を備え、真に不朽の幸福を得るには、イエス・キリストを生活の中心に据える必要があります。主の教えに従うならば、人生の旅路で頂上を目指して安全に登ることができます。それには努力が必要です。すぐに目に見える結果が得られる保証はありませんが、主がふさわしいとお感じになるときに答えが与えられ、平安が広がり、幸福を手に行けると約束されています。

皆さんが遭遇する試練や成長の機会、平安と幸福がとめどなくあふれる人生の一時的な出来事ではありません。悲嘆、心痛、落胆は人生の一コマでしかなく、人生はそれだけで成り立っているではありません。このような出来事に伴う苦しみを軽んじているわけではありません。重要なことを学ばなければならぬときには、試練が長く続くこともあり

ます。しかし、それを皆さんのあらゆる行動の足かせとしてはなりません。皆さんの人生には、驚くほどの報いが約束されています。神の律法を正しく理解することで、人生の難局を乗り越え、克服するという栄光に満ちた目的が生活の中に生まれるのです。このような考え方は、試練を本来あるべき位置にとどめます。つまり試練は、さらなる成長と達成のための踏み石となるのです。

主は、皆さんが成長し、進歩することを願っておられます。望むと望まざるとにかかわらず、あらゆる成長の機会に主の導きを積極的に求めるとき、皆さんは著しく成長できます。主を信頼し、御霊の導きにより、主の御心みこころを知ることができるようお願い求め、答えを進んで受け入れてください。そうすれば、地上での経験を通して、最高の幸福と、偉業の極みを味わうにふさわしくなるでしょう。

平安と幸福は、義にかなった生活がも

たらす貴重な実りです。これは、イエス・キリストの贖いを通して初めて得られるものです。このことについて話しましょう。

わたしたちはだれもが人生で間違いを犯します。それは永遠の律法を破ることにつながります。正義は、御父の幸福の計画の一部であって、秩序を維持するものです。これは、ロッククライマーが常に向き合う重力と同じです。永遠の律法を守るならば、正義は味方になります。ないがしろにすれば、それに応じて影響を及ぼします。神の律法に従順であれば、正義は皆さんに祝福を約束します。正義はまた、破られた律法の要求を満たすよう求めてきます。神の律法に従えば祝福を受けますが、守らなかった律法の要求を満たすために、その祝福を蓄えておくことはできません。もしも清算しなければ、律法を破ったことにより人生は惨めな状態に陥り、みもとへ帰れなくなるのです。イエス・キリストの生涯、教え、そして特に



贖いだけが、わたしたちをこの苦境から解放してくれます。それ以外に方法はないのです。

踏みにじられた律法に対する正義の要求は、憐れみによって満たすことができます。絶えず悔い改め、神の律法に従順であることにより得られる憐れみです。そのような悔い改めと従順は、人生における完全な奇跡が、贖いを通して起きるために不可欠なものです。贖い主は、正義の個人口座を清算し、悔い改めという憐れみの道を通して赦しを与えてくださいます。わたしたちは贖いのおかげで、たとえ正義の要求があっても、従順を通して得た祝福を持ち続けることができます。主の憐れみは、律法を破ったことでもたらされる結果を取り除くことができます。

贖いは、神の御子の犠牲によって実現された、無限で永遠に重大な意味を持つ無私の行いでした。² 贖いを通して、救い主は死の縄目を断たれました。わたしたちが贖い主によって裁かれる理由もここ

にあります。贖いは、サタンの永遠の支配を防ぎます。また、悔い改めと従順により赦しを受けるにふさわしいとされた者に対して、昇栄への門を開きます。

贖いの壮大さに思いをはせると、畏敬の念と言い表せないほどの感謝、そして心から謙遜な気持ちになります。これらの思いは、さらに大きな平安と幸福を得るために、主の戒めを守り、常に過ちを悔い改めるといふ力強い意志を与えてくれます。

どれだけ熱心に頑張っても、人間の心では贖いの永遠の重要性や、いかにしてそれが成し遂げられたのかを理解することはできません。わたしたちにできるのは、救い主がお受けになった苦痛、苦悩、そして苦難、あるいは、御子が贖いの比類なき試練を経験なさるのをご覧になっていた御父の苦しみに対して、ほんのわずかの感謝を表すことだけです。たとえそうではあっても、贖いについてできるかぎり理解を深めることができるよう、研究

を重ねる必要があります。主の戒めに従い、この世で平安と幸福を得るために何が必要なかを学ぶことができます。

皆さんは従順な家族とともに、天におられる御父と主のみもとで永遠に暮らす資格を得ることができます。

リーハイは息子ヤコブにこう語りました。「聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みによらなければ、だれも神の御前に住める者がいない。」³

イエス・キリストは、だれも得ることのできなかった功德をお持ちでした。ベツレヘムにお生まれになる以前、主は、神すなわちエホバでした。主は愛する御父から霊の体を与えられただけでなく、肉における独り子でもありました。主は完全で罪のない生涯をお過ごしになったため、正義の要求には縛られませんでした。主は、愛、憐れみ、忍耐、従順、赦し、謙虚さを含むすべての特質において完全であられました。わたしたちが悔い改め、主に従うときに、主の憐れみが正義に対する代価を支払ってくれます。最善を尽くして主の教えに従っても、わたしたちはまだ不十分です。しかし、わたしたちは主の恵みによって、「最善を尽くした後、……救われる」のです。⁴

計り知れないほど大きな代価を支払うために、救い主が想像を絶する苦痛と苦悶によって、わたしたちの贖い主、仲保者、裁き主になられたことを証します。主が生きており、皆さんを愛しておられることを知っています。常に主を人生におけるリードとしてください。主の律法という確かなアンカーが、試練を乗り越えようとする皆さんに、安全と成功を保証してくれます。重大な罪を犯すことはないでしょう。皆さんは日の栄えの王国において昇栄の冠を受け、平安で幸福に満ちた生活を送ることができるのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

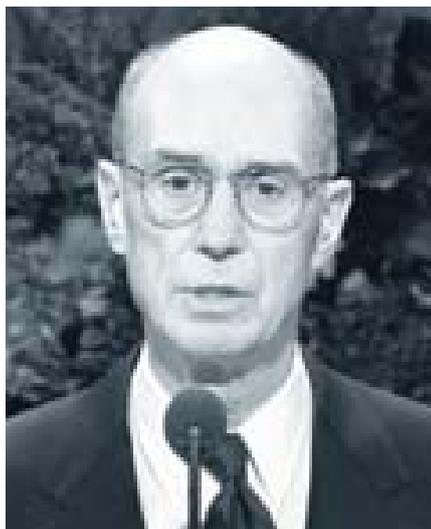
注

1. モーセ7:53
2. 教義と聖約133:50, 52-53参照
3. 2ニーファイ2:8, 強調付加
4. 2ニーファイ25:23

神権定員会

十二使徒定員会
ヘンリー・B・アイリング

定員会の強さは、会員が義においてどれだけ完全に一致しているかということに大いにかかっているのです。



このすばらしい神権部会に皆さんとともに出席できることに感謝しています。わたしたちは皆神権定員会の会員です。驚くべきことではないと思えるかもしれませんが、わたしにとっては大きなことです。わたしは小さな支部でアロン神権の執事に聖任されました。支部には一家族しかいませんでした。教会堂がなく、自宅で集会を開いていました。わたしが唯一の執事で、兄が唯一の教師でした。

ですから、定員会で一緒に働く人がいなくて、一人で神権を行使するというのがどうしたことなのか、わたしには分かりません。わたしは小さな支部で定員会がなくても満足していました。自分が得ていない機会について知るすべがなかったからです。それからわたしたち家族は大陸の反対側に引っ越しました。多くの神権者と堅固な定員会のそろう地域です。

長年かけて学んだことは、定員会の強さはその人数から得られるものではないということです。会員の年齢や成熟度から自動的に得られるものでもありません。むしろ定員会の強さは、会員が義においてどれだけ完全に一致しているかということに大いにかかっているのです。堅固な神権定員会の一致は、わたしが陸上競技のチームやクラブ、世のいかなる組織で経験したものとも異なります。

モーサヤ書に記されたアルマの言葉は、わたしが非常に堅固な神権定員会で感じた一致を最もよく表しています。

「また彼は祭司たちに、決して互いに争うことなく、互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持ち、一つの信仰と一つのバプテスマをもって、一つの目で将来を見詰めるようにと指示した。」¹

アルマは、このような一致に到達するためには、御自分の民を贖われた主を信じる信仰と悔い改めだけを説くべきであると教えています。²

アルマが教えたように、そして多くの一致した神権定員会においてわたしがこれまで見てきたように、会員の心はイエス・キリストの贖いを通して変わっていきます。そのような変化を通して彼らの心は互いに結ばれていくのです。

皆さんは、主が定員会会長に、主の方法で導くよう命じておられる理由がお分かりでしょう。主は教義と聖約第107章で、各定員会の会長の義務をほぼ同じ言葉で言い表しておられます。執事定員会の会長は、定員会会員の義務を「聖約に従って与えられているとおりに」³ 教えなけれ

ばなりません。教師定員会の会長は、定員会の会員にその義務を「聖約の中で与えられているとおりに」⁴ 教えなければなりません。祭司定員会の会長、つまりビショップは、「聖約の中で与えられるとおりに、四十八人の祭司を管理し、彼らとともに評議会の席に着き、彼らにその職の義務を教える」⁵ よう命じられています。

長老定員会の会長は次のように命じられています。

「さらに、長老の職を管理する会長の義務は、聖約に従って、九十六人の長老を管理し、彼らとともに評議会の席に着き、彼らを教えることである。」⁶

各定員会が「聖約に従って」教えられるよう神が望んでおられる理由は、簡単に理解できます。聖約は神聖な約束です。天の御父はわたしたちが聖約を交わし、守るならば、皆永遠の命を受けると約束されました。例えば、わたしたちは神権を受けるときに、神の業において忠実に神に仕えるという聖約を交わします。バプテスマを受け、神の教会に入るときには、イエス・キリストへの信仰を持ち、悔い改め、神の戒めを守ると約束します。どの聖約にもイエス・キリストへの信仰と戒めへの従順が要求されており、それによって赦しと心の清めを受ける資格が得られるのです。この赦しと心の清めを受けることこそが、神のあらゆる賜物のうち最高の賜物である永遠の命を受け継ぐために必要なことなのです。

「定員会でのレッスンでは毎回、信仰と悔い改めだけを教えなくてはならないのでしょうか」と思う人もいるでしょう。もちろん、そうではありません。しかし教師と参加する人は常に、主の御霊が同じ部屋にいる会員の心に注ぎ込まれ、それによって皆の心が清められ、信仰と悔い改めへの決心が生じるように望まなくてはなりません。

その望みは定員会が集う部屋の外にまで及ばなくてはなりません。心から一致している定員会では、その望みはどこにいる会員にも向けられるのです。

数年前、ある執事定員会でそのような状況を目の当たりにしました。わたしはその

定員会を教えるように召されていました。執事の何人かは定員会に来ないことが時々ありました。どの定員会にも言えることですが、その執事定員会を教えることは、鍵を持つ会長の管轄事項でした。会長は定員会の全会員とともに評議会の席に着くよう求められています。ですから、教師であったわたしは、神から責任を受けている定員会会長のアドバイスを求めるために、「何を教えたらいいでしょうか。何を達成するよう努めるべきですか」と、よく尋ねていました。

神は彼にその定員会の会員を教える責任をお与えになりました。わたしが彼のアドバイスに従おうとしたのは、そのことを知っていたからです。ある日曜日、わたしは、神がこの若い定員会会長の責任を尊んでおられることを知りました。わたしは執事たちを教えていて、席が一つ空いているのに目が止まりました。いすの上にはテープレコーダーが置かれていて、レッスンの様子が録音されていました。クラスの後、空席の隣の少年がレコーダーを手に取り、部屋を出ようとしていました。わたしは彼に、どうしてレッスンを録音していたのかと尋ねました。彼は、ほほえみながら、「友達の執事が、今日は定員会に来られないと言っていたので、レコーダーを家に持って行って、後でレッスンを聞いてもらおうです」と言いました。

わたしは、若い定員会会長に定員会に関する責任が与えられていることを信じていました。すると、天からの助けがありました。御霊が部屋にいた会員たちの心に触れました。そして御霊が彼らの一人を友人のもとへ送り、その友人の信仰を強め、悔い改めに導こうとしたのです。レコーダーを持ったその執事は、聖約に従って学び、定員会の中の友人であり仲間である会員を助けるために手を差し伸べました。

神権定員会会員はクラスでのレッスンだけでなく、様々な方法で教えを受けます。定員会は奉仕の組織であり、会員は奉仕を通して学びます。定員会では、会員が一人だけで行うよりはるかに大きな奉仕を行うことができます。そして、単に



人数分の力を合わせた以上の力が発揮されます。各定員会には権能と責任を持つ指導者がいて、神権の奉仕を指揮します。定員会が災害時に支援を行うよう要請されたときに、その力が発揮されるのを何度も目にしてきました。また教会が効率よく支援体制を整えるのを見て、教会外の人々が驚き、称賛している場面にも何度も居合わせました。教会外の人々にとっては驚異的なことのような驚異的な力が生じるのは、神権者のあらゆる奉仕活動において、指導者と会員が、世界中の神権定員会の奉仕を指揮する人々の権能を尊んでいる証です。

驚異的な力は定員会が人々に奉仕するときに生まれます。そのような力は神権者が定員会の会員に奉仕を行うときにも同様に生まれます。ある執事定員会会長は日曜日の早朝、定員会の集会前に顧問や定員会書記とともに集まりました。彼は評議会を開き、祈りを込めて深く考え、ある執事に一つの召しを与えるという靈感を受けました。それは、定員会の集会にこれまで一度も出席したことのない一人の執事を次回の定員会に招待するという召しでした。一度も出席したことのないその執事の父親は教会員ではなく、母親も教会に対してほとんど関心がないという事情を、会長は承知していました。

指名された執事は、その少年と連絡を取るようという会長からの召しを受け入れ、彼を訪問しました。わたしは彼が

訪問する様子を見ていました。彼は、それがとても難しい仕事であるかのように、少しためらいがちに訪問しました。彼が定員会と一緒にいこうと誘った少年はしばらくして引っ越して行きました。しかし、引っ越す前にわずかに数回ではありますが教会に来てくれました。多くの歳月が流れ、わたしはその執事定員会の会員たちの集っていた場所から何千キロも離れた土地のステーキ大会に出席しました。集会の合間に、面識のない男性がわたしのところに来て、ある人を知っているかどうか尋ねました。名前を聞くと、それは執事定員会会長から、失われた1匹の羊のところに行って世話するよう召された、あの少年の名前でした。男性はこう言いました。「その人にわたしが感謝していると伝えてくれませんか。わたしは、何年も前に執事定員会に招待してもらった少年の祖父です。彼はもう大人になっていますが、教会と一緒にいこうと誘ってくれた執事の話は今でもよくしています。」

彼の目にもわたしの目にも涙が浮かびました。年若い定員会会長が、定員会の失われた会員に手を差し伸べるよう靈感を受けたのです。彼は一人の少年を奉仕の業に送り出すよう靈感を受けました。その会長は主がされるであろうことを行いました。そしてその過程でこの若い会長は、神権者になったばかりの少年が聖約に従い、奉仕をするという義務を果たせるよう、訓練していたのです。彼らの心は結ばれ、20年以上たっても、何千キロ離れていても、つながっていました。定員会の一致は主の奉仕の中で、主の方法で築かれるときに、絶えることなく続いていくのです。

堅固な定員会の顕著な特徴の一つは、会員同士の友愛の情です。彼らは互いを思いやり、助け合います。定員会会長たちがその友好関係をよく築くことができるのは、彼らが定員会の一致に対する主の目的を心に留めているときです。もちろんそれは、彼らが互いに助け合うためですが、それ以上のはるかに大切な目的があります。それは彼らが、御父の子らに永遠の命をもたらす主の業にあって、主と

もに義にかなって働けるよう、互いに高め合い、励まし合うためなのです。

それが理解できると、定員会内で友好関係を築く方法が変わります。例えば、教師定員会でバスケットボールをする方法が変わるかもしれません。会員たちはゲームに勝つこと以上に友好関係を築こうと望むようになるでしょう。あまり上手ではないために、いつも取り残されてしまう少年を招待することもできます。もしその少年が招待を受け入れて、来てくれたら、定員会の会員たちは相手チームにマークされていない少年、特に、シュートを決められそうもないその少年を探して、もう少しボールをパスするようになるでしょう。20年後、彼らはその晩のゲームに勝ったかどうかは覚えていないかもしれませんが、どのようにプレーしたか、そしてどうしてそうしたのか、さらには自分たちがどなたのチームの一員となっていたのかはずっと覚えていることでしょう。「もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない」⁷と語られたのは主でした。

主が友好関係を持つよう願っておられる理由が理解できれば、長老定員会のパーティーの計画の仕方も変わることでしょう。わたしはあるパーティーに参加したのですが、そのパーティーを計画したのは改宗者でした。福音を見いだしたのは、彼にとって最も素晴らしいことでした。ですから彼は教会員ではない近所の人や友人をパーティーに招いたのです。わたしは教会がわたしたちにとってどういうものであるか彼らと親しく語り合いました。そのときの友愛の情を、今でも覚えています。主は地上で務めを果たしておられたとき、次のように言って、弟子たちを最初の十二使徒定員会に招かれました。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」⁸ その晩、わたしは主とその弟子たちの友愛の輪の中に入り、主が望んでおられるような人になれたような気がしました。

わたしは自分がアロン神権者だったころの神権指導者からも、同じような友愛の情を感じることができました。彼はい



つまでも続く友好関係の築き方を知っていました。その神権指導者は、わたしたちがある午後、木を切り、束ねてもよいように植林地の所有者から許可を得てくれました。その薪は夫に先立たれた女性たちが寒い冬に暖を取れるようにするためのものでした。その日、神権指導者たちと過ごして感じた友愛の情の温かさを今でも覚えています。しかしそれ以上に覚えているのは、救い主が望んでおられることをすることができたという気持ちです。ですから、主に対する友愛の情も感じることができました。わたしたちはそのかけがえのない友好関係を現世の定員会でも築くことができ、聖約に従って生活するがぎり、栄光のうちに、家族の中で永遠に持ち続けることができるのです。

わたしは皆さんが、神権定員会で一致して一つとなるようにという主の招きを受け入れるよう祈っています。主はそのようにしてこられました。そして主は、主の助けがあれば良い定員会をさらに素晴らしい定員会とすることができると約束されました。主はわたしたちにそうなるよう願っておられます。そして主は、聖約に従って、天の御父の子らを祝福するために、より堅固な定員会を必要とされています。わたしはそう信じていますし、主がそうしてくださ

るといふ信仰を持っています。

わたしは天の御父が生きておられることを知っています。御子イエス・キリストはわたしたちの罪とわたしたちが今後出会うすべての人の罪を贖ってくださったことを知っています。主は復活され、生きておられます。そして御自身の教会を導いておられます。神権の鍵を持っておられます。教会の鍵を持つ人への靈感を通して、主はあらゆる定員会のあらゆる会長を召しておられます。神権がそのすべての鍵とともにジョセフ・スミスに回復されたことを証します。そしてそれらの鍵は今日までに、全地上の神権の長である、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長に受け継がれてきていることを厳粛に証します。

イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。

注

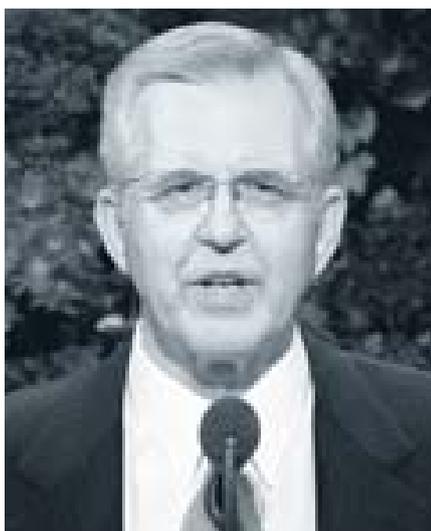
1. モーサヤ18:21
2. モーサヤ18:20参照
3. 教義と聖約107:85
4. 教義と聖約107:86
5. 教義と聖約107:87
6. 教義と聖約107:89
7. 教義と聖約38:27
8. マタイ4:19

真の男になる

七十人会長会

D・トッド・クリストファーソン

神の権能を託されたわたしたちは、わがままという「地」から立ち上がって、男らしくなる必要があります。



何年も前、わたしも兄たちもまだ幼かったころのことです。母が、^{がん}癌の摘出手術を受けることになりました。母は死と隣り合わせの状態でした。首と肩の組織の大半を摘出しなければならず、その後、長い間、母にとって右腕を使うことは大変な苦痛を伴うものとなりました。

その手術から1年ほどたったある朝のことです。父は母をある家電専門店へ連れて行き、その店主に、あるアイロンの使い方を母に説明してほしいと言いました。それは「アイロンライト」という商品でした。このアイロンは、いすに座ったまま、ひざでペダルを押して操作できるようになっていました。ペダルを押すと、熱した金属板の上にローラーが降りて来て回転し、シャツやズボン、ドレスなどにアイロンをかけてくれるのです。これでアイロンかけが随分と楽になったことがお分かりい

ただけだと思います。(実際、5人の男の子のいる家庭では、大変な作業でした。)母は腕を十分に動かせませんでしたから、なおさらです。父が店主に、「このアイロンをください」と言って、全額を現金で支払ったとき、母はほんとうに驚きました。父は獣医としてそこそこの収入を得てはいましたが、それでも、母の手術代と治療費のことを考えると、家計は厳しい状況でした。

家へ向かう途中、母はずっと不機嫌で、こう言いました。「どうやったらあれだけのお金を出せるの。どこからあのお金を工面してきたの。これからどうやって暮らしていけばいいの。」ようやく、父は、そのお金を貯めるために1年近く昼食を抜いてきたことを告げました。「これでアイロンかけを途中でやめて、寝室に入り、腕の痛みが治まるまで泣かなくても済むよ。」そのことを父に気づかれていたとは、母は思いも寄りませんでした。わたしも、当時、父が母のためにそこまで犠牲を払い、愛に満ちた行動を取っていたことなど知りませんでした。でも、それが分かった今、わたしは自分の心にこう言いました。「まさに男の中の男だ」と。

預言者リーハイは、反抗的な息子たちに向かって、こう訴えます。「息子たちよ、地から立ち上がって、男らしくありなさい。(2ニーファイ1:21,強調付加)レーマンとレムエルは、年齢的には大人の男になったものの、人格や霊性の成熟度においては、まだ子供と同様でした。何か難しいことをするように言われると、不平不満を漏らしたのです。また、自分たちを

正そうとする権威も認めず、霊的な事柄を軽視しました。すぐに暴力に走り、弱い者いじめばかりしていました。

現在でも、同じような行動を取る人がいます。人間の最高の目標は自分自身の楽しみを得ることだと言わんばかりに行動する人もいます。寛容さが過度に進んだ社会規範は、いわば「責任回避型人間」を生み出してしまい、その結果、結婚のきずなによらない子供たちを誕生させ、結婚より同棲の方がよいと考える人も数多く存在する始末です。¹ 約束をはぐらかすのは頭の良い証拠で、他人のために犠牲を払うのは未熟な証拠である、と考えられています。勤勉に働き、自己実現を図る生涯などというのはある人にとっては、選択肢の一つでしかないのです。いわゆる「無気力症候群の若者」が増加していますが、この現象について研究しているある心理学者は、それを次のように例示しています。

「大学生となったジャスティンは、1,2年でその大学をやめる。両親の蓄えを何千ドルも無駄にしたというわけだ。そのうち、退屈になって、実家へ戻り、昔自分のいた部屋で生活を再開する。高校生のころに住んでいた部屋だ。今は、週16時間、低賃金のアルバイトをしている。両親は途方に暮れている。『ジャスティン、君はもう26歳だ。学校に行っているわけでもない。キャリアもない。ガールフレンドさえいない。これからどうするつもりなんだ。いつになったら、もっと方向性のある人生を歩み始めるんだい。』

これに対して、ジャスティンは反論する。『何か問題でもあるって言うの。別に逮捕歴があるわけじゃないし、お金をねだっているわけでもないし。少し黙っていてくれないかなあ。』²

なんとご立派な態度ででしょうか。

神の権能を託されたわたしたちには、無為に過ごす時間はありません。わたしたちには果たすべき務めがあります(モロナイ9:6参照)。わがままという「地」から立ち上がって、男らしくなる必要があります。少年が成長して真の男 たくましく、有能な男、建設的、創造的、主導的

な男 となろうとすることは、すばらしい願いです。わたしたち年配の者にとっては、真の男の理想の姿を生活の中で実現し、わたしたちの中に理想を求めている人たちのために良い手本となるということは、実にすばらしい望みです。

端的に言えば、真の男らしさというものは、女性との関係の中で定義されるものです。大管長会と十二使徒定員会は、追求すべき理想像について、次のような言葉で説明しています。

「家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。……神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。」³

これまで何年間も、わたしは数多くの国々の教会員を訪ねてきました。状況や文化は異なっていますが、どの地でも強い印象を受けたことがあります。それは、教会の女性たちの信仰と能力です。そのような女性たちの中には、ほんとうにまだ年若い女性も含まれています。非常に多くの教会の女性たちは、信仰の面でも善良さの面でも見事に成長しています。聖文にもよく通じており、落ち着いていて、自信にあふれています。わたしはこう自問します。「こうした女性にふさわしい男性がいるだろうか。教会の若い男性たちは、このような女性たちから尊敬の念を抱かれる、ふさわしい伴侶となるよう努力しているだろうか。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、1998年4月の神権部会で、若い男性に対して、次のような具体的な勧告をしました。

「皆さんと結婚する女性は、大きなかけをするようなものです。……〔皆さん〕は彼女の残りの生涯にかなりの影響を及ぼすでしょう。……

教育を受けるために努力してください。受けることのできる訓練はすべて受けてください。社会は、皆さんの力にふさわしい



報いを与えてくれることでしょう。パウロはテモテに次のように言いましたが、決して婉曲えんきよく的な言い方をしているわけではありません。『もしある人が、その親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合には、その信仰を捨てたことになるのであって、不信者以上にわるい。(1テモテ 5:8)』⁴

高潔さは男らしくなるための基本です。高潔とは信義あつに篤いことです。それと同時に、責任を引き受け、決意や聖約を尊ぶことでもあります。かつて大管長会第一顧問を務めたN・エルドン・タナー管長は、高潔な人でした。あるとき、助言を求めて来た人について語りました。

「最近、ある青年がやって来てこう言いました。『ある人に毎年一定のお金を支払うという約束をしました。でも今、生活が苦しくて支払いができません。支払えば、家を失います。どうしたらいいでしょう。』

わたしはその青年を見て『約束を守りなさい』と言いました。

『家がなくなってもですか。』

『家のことについては何も言っていないのです。あなたの約束について話しているのです。あなたの奥さんも、家はあっても取り決めや聖約を守らない夫と住むよりは、借家に住むことになっても約束を守り、責任を果たす……夫を望んでいると思えますよ。』⁵

立派な人であっても、ときには過ちを犯します。高潔な人というのは、正直に、その過ちを認め、正す人のことです。それが尊敬される生き方です。人は努力しても失敗することはあります。ふさわしい目標を立てて、正直に最善の努力をしたとしても、その目標がすべて達成できるわけではありません。真の男は、常にその働きの実

によるのみ測られるわけではなく、働きのもの、言い換えれば、どれだけ努力したかによって評価されるのです。⁶

真の男は、決意を尊ぶ中で、幾らかの犠牲を払います。この世での楽しみをあきらめなければならないこともあるでしょう。しかし、真の男は報いに満ちた生活を送ることになります。多くを与えますが、それに勝るものを受け取ります。天の御父に認められることで、満ち足りた生活を送ります。真の男の人生とは、善良な生活そのものなのです。

いちばん大切なのは、男らしくなるという勧告について考えるとき、イエス・キリストについて考える必要があるということです。ピラトは、いばらの冠をかぶらされたイエスを連れて来ると、人々にはっきりとこう言いました。「見よ、この人だ。(ヨハネ19:4-5参照。訳注 この部分は、欽定訳ヨハネ19:5ではBehold the man! となっており、英語のtheには「最高の、無類の、抜群の、超一流の」などの意味がある。)ピラトは、自分自身の言った言葉の意味を完全に理解してはいなかったかもしれませぬ。しかし、主はそのとき、確かに民の前に立たれました。そして現在も、男らしさの最高の理想として立ておられるのです。この御方を、仰ぎ見ようではありませんか。

主は、弟子たちにどのような人物にならなければならないか尋ね、御自分でこうお答えになりました。「まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならぬ。(3ニーフアイ27:27。3ニーフアイ18:24も参照)これがわたしたちの究極の目標です。わたしたちが男らしい男となるための模範として、主はどのような



ことをなさったでしょうか。

イエスは誘惑を拒まれました。大いなる誘惑者であるサタンと向かい合ったイエスは、「誘惑に負け[なかった]とあります(モーサヤ15:5)。イエスは聖文を武器にされました。「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言^{ことば}で生きるものである。(マタイ4:4)福音の戒めや標準もわたしたちの守りとなってくれます。そして、救い主と同様、わたしたちも誘惑に対抗するために、聖文から力を引き出すことができるのです。

救い主は従順な御方でした。「生まれながらの人(モーサヤ3:19)を完全にお捨てになり、御自分の思いを御父にゆだねられました(モーサヤ15:7参照)。パブテスマをお受けになったのは、「肉においては御父の前にへりくだることを人の子らに示(し)、御父の戒めを守ることにについて御父に従順であることを、御父に証明される」ためでした(2ニーファイ31:7)。

イエスは「よい働きをしながら、……巡回されました。(使徒10:38)聖なる神権の神聖な力を行使して、助けに必要な人々に祝福を授けました。「病人を癒し、死者を生き返らせ、足の不自由な者を歩けるようにし、目の見えない者を見るようにし、耳の聞こえない者を聞こえるようにし、すべての病気を癒され」たのです(モーサヤ3:5)。イエスは、使徒たちに

こう教えました。「あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕^{しもべ}とならねばならない。人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである[。](マルコ10:44,45)わたしたちは、その主と同じ業に働く僕として、王国において、愛と奉仕を通して偉大な者となれるのです。

救い主は恐れることなく、悪や過ちに対抗されました。「イエスは宮にはいられた。そして、宮の庭で売り買っていた人々をみな追い出し……た。そして彼らに言われた、『わたしの家は^{いのり}の家となえられるべきである』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしている。』(マタイ21:12-13)イエスはあらゆる人に、悔い改めて(マタイ4:17参照)、赦し^{ゆる}を受けるように勧めました(ヨハネ8:11参照)。ですから、わたしたちも堅く立って、神聖なものを守り、警告の声を上げようではありませんか。

主は、人類^{あがな}を贖うために御自分の命をささげられました。ですからわたしたちも、主から託された人々に対する責任を受け入れましょう。

兄弟の皆さん、主がそうであられたように、真の男になりましょう。イエス・キリストの御名^なにより、アーメン。

注

1. 例として、以下を参照。ジェームス・E・ファウスト「家族が直面しているチャレンジ」『世界指導者訓練集会 2004年1月10日』1-2, エデュアード・ポーター, ミッシェル・オドネル, "Middle-aged, No Degree, No Wife," *New York Times*, *Atlanta Journal-Constitution*, 2006年8月6日号A7に転載, ベグ・タイラー, "The Trouble with Boys," *Newsweek*, 2006年1月30日号, 44-51
2. Leonard Sax, "Project Aims to Study Young Men Stuck in Neutral," *Washington Post*, *Deseret Morning News*, 2006年4月3日号A13に転載。「人口統計局によれば(合衆国内の)22歳から34歳までの若者の3分の1強がなお両親と暮らしている。……これは過去20年間で、約100パーセントの増加である。」
3. 「家族 世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
4. 「いつか結婚する女性にふさわしく生活する」『聖徒の道』1998年7月号, 56-58
5. Conference Report, 1966年10月, 99または*Improvement Era*, 1966年12月号, 1137
6. 1830年代の後半、聖徒たちがカートランドを捨てた後、主は、オリバー・グレインジャーという人物を召し、大管長会の代理としてカートランドに戻って、未解決の問題を整理してくるようと命じられた。預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、主は次のように言われている。「それゆえ(オリバー・グレインジャー)はわたしの教会の大管長会の負債償却のために熱心に働きなさい、と主は言う。彼は倒れるとき、再び起き上がるであろう。彼の犠牲は彼が増し加えるものよりもわたしにとって神聖だからである、と主は言う。……それゆえ、だれもわたしの僕オリバー・グレインジャーを軽んじることなく、わたしの民の祝福がいつまでもとこしえに彼のうえにあるようにしなさい。(教義と聖約117:13,15,強調付加)

偉大な幸福の計画

七十人

マーカス・B・ナッシュ

魚が水を必要とするように、真に深い喜びを得るためには福音が必要であり、御霊を伴いとする必要があるのです。



ここにいる若い皆さんと同じように、わたしが執事だったころ、父に連れられて溪流へニジマス釣りに出かけました。父は、糸の先に付いている釣り針に餌を付けながら、こう言いました。「魚が餌に食いついたら、逃げないように、針をしっかりと口に食い込ませるんだよ。」食い込ませるという意味がよく分からなかったわたしに、父はこう説明してくれました。「魚がかかったら釣り針が外れないようにしっかりと引っかけるんだ。魚が針に食いついたと感じたら、すぐに竿を上げてごらん。そうすれば針が食い込むから。」わたしは釣る気満々で溪流の岸に勇み立ちました。釣り糸を垂れて、全身の筋肉をバネのように緊張させながら、竿先がピクッと動くのを、今か今かと待ちました。数分後、竿先の動きに気づいたわたしは、反射的に竿を力いっぱい引き上げました。魚と格闘す

ることを期待しながら……。しかし、意外なことに、何か小さな物体が水の中からロケットのように飛び出して、わたしの頭上を越えて行きました。振り向いてみると、針がしっかりと食い込んだ小さなニジマスがびちびち跳ねていました。

この経験から二つのことを学びました。第1に、水から上がった魚は惨めだということです。えらやひれ、尾は、水中では優れた働きをしますが、陸の上では何の役にも立ちません。第2に、わたしがその日に釣り上げた運の悪い魚は、命にかかわる危険なものを、価値あるものと思い、あるいは、興味をそそられて近づき、手を出したために命を落としてしまったということです。

愛するアロン神権者の兄弟の皆さん、この経験から大切なことが学べます。第1に、リーハイが言うように、人生の基本的な目的は「喜びを得る」ことです(2ニーファイ2:25)。喜びを得るために理解しなければならぬことがあります。つまり、天のお父様の子供である皆さんには、神聖な特質があり、霊的な養いを受ける必要があるということです。魚が水を必要とするように、真に深い喜びを得るためには福音が必要であり、御霊を伴いとする必要があるのです。皆さんは神の子供です(使徒17:28参照)。ですから、間違った行いから良い気持ちを感じることは、皆さんの永遠の性質に相反していて、不可能なのです。福音に添った生活をすればするほど、平安や喜び、幸福を感じることが、皆さんの霊の遺伝子に刻み込まれているのです。

反対に、福音に添った生活を選ばなければ、水から上がった魚のように惨めになることでしょ(モーサヤ4:30参照)。アルマは、息子コリアントンにこう語りました。

「見よ、あなたに言うておくが、悪事は決して幸福を生じたことがない。

さて、わが子よ、……この世的な状態にあるすべての人は、……この世で神なしに生きている人々であり、神の性質に反して行動してきた。したがって彼らは、幸福の本質に反する状態にある。(アルマ41:10-11)

「この世で神なしに生きる」とは、別の言い方をすると、福音に添った生活を拒み、御霊を伴いとしていない状態であり、幸福とは正反対の状態にあることです。イエス・キリストの福音は、事実上、文字どおりただ一つの「偉大な幸福の計画」です(アルマ42:8)。もしもほかの道を選択したり、福音の中から自分にとって都合の良い部分だけを取り入れて生活したりするのであれば、愛にあふれる天の御父と御子が準備してくださった、完全で輝かしい喜びと幸福を得ることはできません。

魚釣りから学んだ二つ目の教義は、溪流の魚と同じように、水から引き上げられることのないよう、人生の様々な場所に仕掛けられているわなに注意を払うということです。福音を中心とした幸福な生活から引きずり出されないように、皆さんもわたしも、知恵を用いる必要があります。リーハイが教えているように、悪魔は人が「自分のように惨めになることを求めて」いて、人が汚れた悪い行いに手を染めると、その人を「捕らえ」る力を持つということを忘れないでください(2ニーファイ2:27,29)。悪魔は釣り針を垂らしています。ふさわしくない事柄に欺かれたり、触れたりしないでください。この時代の様子を見た古代の預言者モロナイは(モルモン8:35参照)、仕掛けられた釣り針がほんとうに危険で、巧妙で、意表をつくものなので、皆さんやわたしに向けて、こう警告しています「……悪い賜物や清くないものに触れないように。(モロナイ10:30、強調付加)

音楽やインターネット、映画、雑誌、アル



コール、薬物、タバコにはたくさんの邪悪で汚れたものが含まれています。大切な若人の皆さん、邪悪で汚れたものに触れないでください。そのようなものに巧みに仕込まれた釣り針は、あっという間に皆さんを捕らえます。そして、その針を引き抜くには、耐え難いほどの痛みが伴うのです。アルマは、罪を悔い改めるときに味わった苦しみは「死ぬほど」であったと言っています(モーサヤ27:28)。あれほど「激しく、またつらい苦痛」はなかったと(アルマ36:21)。

もしかすると皆さんの中には、すでに邪悪なもの、あるいは清くないものに手を出してしまった人がいるかもしれません。どうか希望を捨てないでください。アルマは自ら、主を信じる信仰によって悔い改め、その結果、キリストの贖いの力による大きな喜びを経験しました。それは教義と歴史に基づいた事実です。こう述べています。「……わたしはほかにあり得ないほど麗しく、また快い喜びを味わった。」(アルマ36:21) 悔い改めによって主を求めるなら、あなたも同じことを経験できるのです。

程度の差こそあれ、わたしたちは皆、

悔い改める必要があります。悔い改めとは、救い主が望まれるとおりに生活を根本から変えて、幸せになるという意味です。悔い改めは、すべてを可能にする偉大な原則です。主への信仰があなた自身に変化をもたらすとき、ヒラマンが述べたように、その悔い改めにより「贖い主の力のもとに導かれ、救いを得ることができのです(ヒラマン5:11)。あなたが変わろうと努力するときに、アルマの言葉を思い出してください。愛にあふれた救い主は「……御名を信じて悔い改めにふさわしい実を結ぶあらゆる人を救う一切の権威を持っておられる。」(アルマ12:15) 何と力強く、自由と希望に満ちた教えでしょうか。

預言者ジョセフ・スミスは自分自身の経験から、主がわたしたちに福音に添って生活して、惨めな境遇から逃れるよう望んでおられること、また、悔い改めが可能なことを理解するように望んでおられることを知りました。人の説得に屈して、116ページにわたるモルモン書の翻訳原稿を失ったとき、ジョセフは惨めな状態に置かれました。そのとき、主はこうおっしゃいました。「……あなたは忠実でなければ

ならなかった。そうすれば、神はその腕を伸べて、敵対する者の放つすべての火の矢からあなたを助けたであろう。また、苦難のときには、いつもあなたとともにいたであろう。(教義と聖約3:8) これは、若人の皆さんにも言えることです。忠実であってください。そうすれば、皆さんも神の御手によって守られるのです。主はまた預言者ジョセフに、そしてわたしたち一人一人に、悔い改めるなら赦されると言われました。主から次の御言葉を受けたとき、預言者ジョセフはどれほど喜んだことでしょう。「しかし、神は憐れみ深いということ覚えておきなさい。それゆえ、あなたが行ったことで、わたしがあなたに与えた戒めに反する行いを悔い改めなさい。そうすれば、あなたはまだ選ばれた者である。……。(教義と聖約3:10)

今晚、皆さん一人一人に勧告します。福音に添った生活を送り、悪と、悪から生じる惨めな状態を避け、真の幸福を得てください。もしも邪悪で清くないものに手を染めてしまったら、主が望んでおられるように生活を変えて、幸福を得てください。主はたぐいえない力によって皆さんに成功を得させてくださることを証します。

この勧告に従う人は、尽きることのない幸福を刈り取ることができます。贖い主という岩の上に人生の基を築くなら、邪悪な者の矢と、この世の嵐に攻められても、ヒラマンが教えたように「不幸と無窮の苦悩の淵に」「引きずり落とされることはありません。「なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ない」からです(ヒラマン5:12、強調付加)。主イエス・キリストについて、心から証します。主はその岩であり、幸福と癒しの堅固な基なのです。主は生きておられ、天においても地においても、一切の権威を授けられた御方です。主は皆さんの名前を御存じであり、皆さんを愛しておられます。主イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

主からの信頼

七十人

スタンレー・G・エリス

わたしたち一人一人は将来主の御前に立ち、神権者としての奉仕……について報告することになるのです。



数年前、エリス姉妹とわたしはブラジル・サンパウロ北伝道部を管理するよう召されました。この召しのために、3年間家を空けることになりました。家族や事業の状況を考えると、ヒューストンの家と事業を売却せずに、残しておくべきだと感じました。

そのための手配をしていくうちに、弁護士に「委任状」を作成させる必要があることに気づきました。だれかに委任状を渡し、わたしたちの代理をする法的権威を与えるのです。委任状を受けた人は家や資産を売却したり、わたしたち名義で借金をしたり、わたしたちのお金を使ったり、事業を売却したりできるのです。そのような力と権威を他人に与えるなんて、考えただけでも恐ろしいことです。

わたしたちは信頼できる友人で、共同経営者でもある人に委任状を渡しました。彼はその力と権威を適切に行使しまし

た。わたしたちの代わりに、すべてを正しく扱ってくれたのです。

兄弟の皆さん、神から委任された神の力と権威について考えてみてください。

神の業に関するあらゆることを神の代理で行う力と権威のことを！

神権の力があれば、そして、必要に応じて鍵を持つ人から委任を受けるなら、主の御名によって救いの儀式を行うことができます。罪の赦しのためのバプテスマ、確認と聖霊の授与、神権の授与、神権の職への聖任、神殿の儀式、これらすべてを行うことができるのです。神の御名により、召し、解任し、聖餐を執行し、困っている人を助けることによって、神の教会を管理することができます。主の御名により、祝福し、ホームティーチングを行い、病人を癒すことができます。

主は何とわたしたちを信頼しておられることでしょう！兄弟の皆さん、考えてみてください。主はわたしたちを信頼しておられるのです！

神権を受ける前にわたしたちは備えられ、試されました。イエス・キリストへの信仰を働かせ、悔い改め、バプテスマを受け、聖霊の賜物を受けました。聖任されるまでにどのような経験を積んできたかは人それぞれです。しかし皆、同じ神聖な手続きを経て聖任されます。神権の鍵を持つ人がわたしたちについて祈り、面接します。そして、所属するユニットの教会員の挙手によって支持を受けます。それから権威を持つ人の手によって聖任されるのです。

このように、主は神権を慎重に扱って

おられます。主の力と権威を行使できるのは主からの信頼の証なのです。

神から信頼されているとは何とすばらしいことでしょう！神は皆さんを信頼し、わたしを信頼しておられるのです！

神権を受けるときは、聖約によって受けます。聖約とは二人の当事者が互いに交わす約束のことです。主は条件付きでわたしたちに祝福を約束されます。わたしたちはその条件に従うことを主に約束します。わたしたちが条件に従えば、主は常に約束を守り、祝福してくださいます。主は寛大な御方で、ほとんどいつも約束された以上に祝福してくださいます。

メルキゼデク神権を受けるときには、神権の「誓詞と聖約」を交わします。このときわたしたちは主に二つのことを約束します。主もわたしたちに二つのことを約束されます。わたしたちは主に対して「忠実で……これら二つの神権を得て、自分の召しを尊んで大いなるものと約束します。主はわたしたちを「御霊により聖め」、終わりまですべてのことに忠実であるなら「父が持つておられるすべて〔を〕与え……」と約束して下さいます（教義と聖約84：33 - 41参照）。

主は神権の奉仕を通して御自分の子供たちを祝福されます。そして、わたしたちが忠実に奉仕を行えるよう、指示と警告を与えられます。神の聖文の中には指示と警告がたくさん記されています。さらに、指導者や聖霊の促しを通して、導きを与えてくださるのです。

聖文には神権者への指示と警告が多く記されています。その最も良い例は教義と聖約の第121章です。その章の中で主は、神権は義にかなった方法でしか行使できないということ、人と接するときは説得と忍耐と優しさが必要であるということ、聖霊を常に伴侶とするには慈愛と徳が大切であることを教えておられます。

この章はまた、態度や行いによって神権の力が取り去られることも警告しています。「人の誉れを得ることを望〔み〕」「罪を覆い隠そうとし」「自分の高慢、自分のうぬぼれた野望を満たそうとし」また人を「制御」しようとするときに、神権の力は



取り去られます(35 - 37節参照)。その瞬間から、わたしたちは偽善売教を行っていることとなります。神にではなく、サタンに仕えていることになるのです。

神権者が教義と聖約第121章を繰り返して学ぶのはよいことです。現代の預言者たちがふさわしさを保つことを強調し、その道しるべとして『若人の強さのために』を与えた理由は簡単に理解できます。

ふさわしさを保つべき理由の一つは、いつ神権を使うことになるか分からないということです。

息子のマシューは5歳のときに、近所のプールの飛び込み台からコンクリートの上に落ちました。頭蓋骨が折れ、脳しんとうを起こし、救急ヘリコプターでヒューストン医療センターに運ばれました。すぐに神権者の助けが必要でした。ホームティーチャーと神権指導者は二人とも、助けを要請されたまさにその時に、ふさわしい状態にあり、助ける備えができていました。彼らの助けを受け、マシューに祝福を授けることができたおかげで、息子は完全に回復しました。

常に備えていなければなりません。スカウトで言うように、「備えよ、常に」です。

もちろん、わたしたちは偽善売教に陥らないようにしなければなりません。使徒パウロは別の危険についても警告しています。パウロは、わたしたちの時代には「信心

深い様子をしながらその実を捨てる」人が出てくると警告しました(2テモテ3:5)。

信心深い様子をしながら、その実を捨てるとは、神権者にとってどのような意味があるのでしょうか。神権を持っていても行使しないということでしょうか。訪問してもホームティーチングをしないということでしょうか。儀式や任命の中で、祝福ではなく、お祈りをしてしまうということでしょうか。主の業を行うときに、まず主の御心と方法を知り、行うことができるようにと願い求めず、自分の知識に頼ってしまうことでしょうか。

主がニーファイを通じて下さった勧告を覚えておきましょう。「まず……祈らずには、主のためにどんなことも行ってはならない。(2ニーファイ32:9)

何年も前、テキサス州ヒューストン北ステークの会長会で働く召しを受けました。当時わたしは、タラントのたとえを研究していました。そのたとえについては、皆さんもよく知っていることでしょう。ある人が旅に出ることになり、僕たちに財産を預けました。ある僕は5タラント、別の僕は2タラント、もう一人は1タラントを預かりました。主人は旅から帰ると、僕たちに報告を求めました。

預かった5タラントを10タラントにして返した僕と、2タラントを4タラントにした僕は、良い忠実な僕と呼ばれました。し

かし、主人の1タラントを大事にしまい込み、無事に返した僕はどうだったでしょうか。わたしは主人がこの僕に言った言葉に驚きました。「悪い怠惰な僕よ、……そのタラントをこの者から取りあげて、10タラント持っている者にやりなさい。……この役に立たない僕を外の暗い所に追いつすがよい。(マタイ25:14 - 30参照)

預かったものを守ろうとした人が、このような仕打ちを受けるのは酷に思えました。しかし御霊が一つの真理を教えてくださいました。主は変化を生じることを求めておられるのだと！ そのとき、わたしは悟りました。わたしたち一人一人は将来主の御前に立ち、神権者としての奉仕と管理の職について報告することになるのです。わたしたちは変化を生じたのでしょうか。わたしの場合、テキサス州ヒューストン北ステークは、わたしが会長会を解任されたときに、召されたときよりも良くなっていたかどうかが問われるのです。

幸いなことに、主は、実を結び、変化を生じる方法を教えてくださいました。「もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。(ヨハネ15:5) 主の僕や主の御霊から受ける指示に従い、主の方法で主の神権を行使するならば、わたしたちは良い忠実な僕になれるのです！

愛する神権者の兄弟たち、救い主、^{あがな}贖い主である主イエス・キリストは生きておられます！ 主はわたしたちを御存じで、愛しておられます。主は御自分の神権の力と権威を与えるほど、わたしたちを信頼しておられるのです。このことが真実であることを証します。わたしたちが主の力と権威を使い、主の方法で主の御心を行えますように。

これからヒンクレイ大管長、モンソン管長、ファウスト管長の話の聞きませんが、わたしには3人が預言者、聖見者、啓示者であるという自分の証があります。わたしは彼らの勧告を切望しています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

霊の栄養

大管長会第二顧問

ジェームズ・E・ファウスト

わたしたちにはもっと霊の栄養が必要です。この栄養は完全な福音についての知識と聖なる神権の力から来るものです。



祖父は夏になるとよく、わたしたち家族が住んでいたユタ中央部の町の東にある高い山に行き、草木が青々と茂る美しい谷間で牛に草を食まさせていました。けれども牛は栄養を補うものを欲し、また必要としていたので、祖父は牛に岩塩をなめさせていました。岩塩は、かなり離れた所にある塩の採掘所で採れました。祖父は荷鞍を付けた頑丈な馬に岩塩をいっぱい積んで帰っては、「塩なめ場」の塩を補充していました。この荷馬をわたしは愛着を込めて「のろ」と呼んでいました。祖父は「のろ」の荷鞍に岩塩を積むと、わたしを上に乗せて手綱を渡しました。祖父は自分の馬に乗り、わたしはその後について手綱を引きながら山を登るのです。

「のろ」は速くはありませんでした。でも、重い荷を積んでいたため、急かせたりはしませんでした。一日がかりで山を

登り、「塩なめ場」に着くと鞍から岩塩を下ろします。暑くなってくると、鞍に積んだ岩塩の塊に汗まみれの足がこすれてひりひりしました。小川を渡る時には馬を下り、足を水で洗って乾かすとひりひりしなくなるので、うれしかったものです。

祖父はほとんど一日中歌を歌っていました。たいていはシオンの歌でしたが、中でも最も印象的だったのは、「仲間を見れば人格が分かる」という歌でした。振り返ってみれば、山間の谷に塩を運ぶのは楽しい経験であったと同時に、牛にとっても、栄養を補給して強められる機会でした。

動物も人間も、体が成長し、癒されるのを促す栄養分を食物から取ります。祖父の牛には岩塩に含まれる栄養分が必要でしたが、人間にはそれ以上のものが 필요합니다。「命は食物にまさり」¹、そして「人のうちには霊があり、全能者の息が人に悟りを与える」²からには、人は霊的な補充を受ける必要があります。人の霊は、愛を必要としています。そして、「信仰の言葉と……良い教の言葉とに養われ」³必要があります。

霊的な養いはバプテスマを受けるための準備となります。この準備には、「神の前にへりくだり、「打ち砕かれた心と悔いる霊」をもって自分のすべての罪を悔い改め、「進んでイエス・キリストの名を受け」、「キリストの御霊を受けたことをその行いによって」明らかにすることが含まれます。⁴

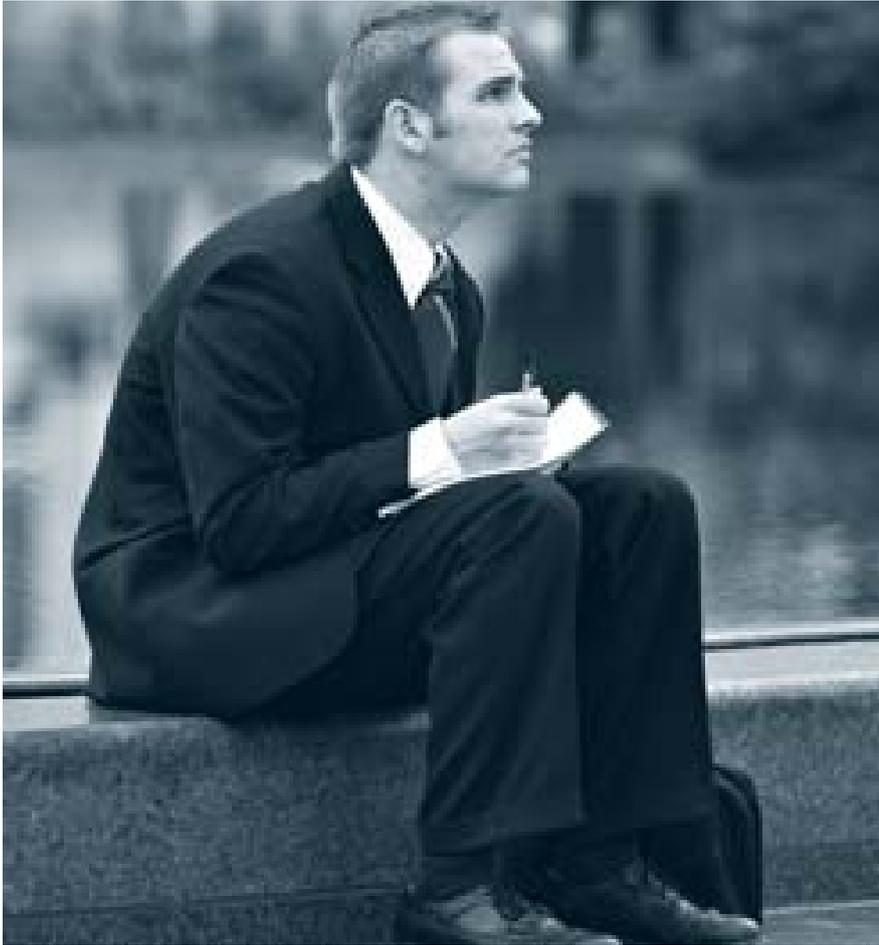
わたしたちにとって最も大切な霊の栄養は、神がわたしたちの永遠の御父であり、イエスがわたしたちの救い主であり

霊の主であって、聖霊がわたしたちの慰め主であるという証です。この証は、聖霊の賜物を通して確認されます。この証から神への信仰と信頼という霊の栄養が生まれ、そこから天の祝福がもたらされます。霊の栄養源は様々ありますが、時間が限られているので、ここでは3つだけを挙げたいと思います。

数年前のことです。高校3年生になったばかりのある若い男性が、毎日30分聖文を研究して自分自身に養いを与えようと決心しました。しかし、新約聖書を読み始めたところで壁にぶつかりました。予想していたような霊的な高揚が感じられず、何の洞察も得られなかったからです。「何が間違っているのだろうか」と自問自答しました。すると、学校であったある小さな出来事が思い出されました。何人かの友人と冗談を言い合っていたときのことです。冗談の中にはおもしろくないばかりか、まったくもって下品なものが含まれていました。この若者は冗談の輪に入り、自分でも下品な言葉を発していたのです。これに気づいたとき、マタイによる福音書にある次の言葉が目にとまりました。「あなたがたに言うが、審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう。」⁵ 彼はこのとき、御霊によってこの言葉に導かれたのだと知りました。そして聖書を置いて、悔い改めの祈りをささげました。

「何が間違っているのだろうか」という疑問の答えは簡単でした。彼は聖文を読んで印を付け、聖文を読むのを楽しみにさえしていたものの、そこに書かれている勧めに従った生活をしていなかったのです。聖文をもう一度読み、キリストの模範に従って生活しよう努めていくと、間もなくこの若者は、自分の人生に新しい境地が開かれようとしていることに気がつきました。⁶ 聖文の教えを実践することによって、大切な霊の栄養を蓄えることができたのです。

不確実なこの世の状況の中で、わたしたちにはもっと霊の栄養が必要です。この栄養は完全な福音についての知識と聖なる神権の力から来るものです。このよ



うな知識が魂に注ぎ込まれると、わたしたちは神に近づけばかりでなく、神と周囲の人々に仕えたいと望むようになります。

数年前、ある祭司定員会が、奉仕活動として困っている人のために食べ物を集めました。祭司のジムは、この活動に参加できることを楽しみにし、だれよりもたくさん食べ物を集めようと思っていました。礼拝堂に集まる時間になりました。祭司たちは同時に外へ出て行くと、夕方の決められた時間に戻って来ました。しかし驚いたことに、ジムのカートは空でした。表情はいたって冷静でした。少年たちがジムをからかうと、それを見ていたアドバイザーは、ジムが車に興味を持っていることを知っていたので声をかけました。「ジム、外に来てくれないか。車を見てほしいんだ。ちょっと調子が悪いんだよ。」

一緒に外に出ると、アドバイザーは、気分を害していないかとジムに尋ねました。すると、ジムはこう言いました。「いいえ、別に。ほんとうは、食べ物を集めに行ったとき、たくさん集まったんです。カートは

満杯でした。でも、教会に戻る途中で、ワードの管轄内に住む、ある教会員でない女性の家に立ち寄りしました。離婚をしている女性で、玄関をノックして自分たちがしていることを説明すると、中に入れてくれました。その人は何か渡せるものがないか探そうとして冷蔵庫を開けましたが、食べ物はほとんど入っていませんでした。戸棚も空っぽでした。そして、やっと小さな桃の缶詰が見つかりました。

信じられませんでした。食べ物が必要な小さな子供たちが走り回っているのに、ぼくに桃の缶詰を提供してくれたんです。ぼくはそれを受け取って手押し車に入れると通りを歩いて行きました。でも、その通りを半分ほど歩いたところで、体中が温かくなり、あの家に戻らなければ、と思いました。そして、彼女に食べ物を全部上げました。」

アドバイザーは言いました。「ジム、今晩感じた気持ちを決して忘れてはいけないよ。それこそが奉仕の真髄なのだから。」⁷ ジムは無私の奉仕という栄養を、

身をもって知ったのです。

伝道地で奉仕する間は主の御業にすべてをささげているので、霊の栄養がたくさん得られます。自分以外の方が霊的に目覚めて福音を受け入れられるよう助けることで、霊の糧が得られるのです。100年余り前、南部諸州伝道部を管理していたJ・ゴールデン・キンボール長老は、長老たちを集めて集会を開きました。人目につかないよう森の奥まった場所に集まることになっていました。長老の一人は足に炎症を起こしていました。足は真っ赤にはれ上がり、もう一方の足の2倍がありました。それでもこの長老は森の中で開かれる特別な神権会に出ると言い張って、二人の長老に運ばれて集会の場所まで行きました。

「兄弟たち、皆さんは何を宣べ伝えていきますか」とキンボール長老は宣教師に尋ねました。

すると宣教師たちは口々にこう言いました。「イエス・キリストの福音を宣べ伝えていきます。」

「信仰によって病人を癒す力と権能が自分にはあると人々に話していますか」とキンボール長老が聞くと、

「はい」という答えが返ってきました。

キンボール長老は続けて言いました。「では、それを信じてみてはどうでしょうか。」

足のはれた宣教師が大きな声で言いました。「信じます。」続けて起こったことを、キンボール長老はこのように語っています。「[その長老が]木の切り株に腰かけると、長老たちが周りに集まりました。油が注がれ、わたしが癒しの祝福を施しました。すると、長老たちの目の前で彼は癒されました。これは非常に大きな衝撃でした。それから、具合の悪いほかの長老たちも、一人残らず癒しの祝福を受け、皆が皆、癒されたのです。神権会が終わり、長老たちはそれぞれ割り当てを受けて出て行きました。そこには、言葉では言い尽くせない喜びと幸せがありました。」⁸ 信仰という栄養が補給され、長老たちは伝道に対して新たな意欲をかき立てられたのです。

霊的な健康を保つための霊の栄養は、

必要な導きを神から受けられるようなふさわしい生活をしていないと効能が失われてしまいます。救い主はわたしたちにご言われました。「あなたがたは、地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味が取りもどされようか。もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである。」⁹ わたしたちは、精神と肉体をあらゆる種類の中毒や汚れから清く保たなければなりません。腐った食べ物や汚れた食べ物をわざわざ選んで食べる人はいません。同様に、品のないものは何であれ、それを選んで読んだり、見たりすることがないように注意するべきです。霊の汚染は、インターネットやコンピューターゲーム、テレビ番組、映画を通してわたしたちの生活に入り込んで来ます。そうしたものの中には、人間のより低俗な側面があからさまに表現され、また露骨に描写されています。このような環境の中で生活しているのですから、わたしたちは霊的にもっと強くなる必要があります。

霊の飢えを感じたエノスは、一日中叫び求め、自分自身のために夜になってもまだ懇願したと語りました。¹⁰ 霊的な真理に対する渇きを癒す霊の栄養を渴望したのです。世の救い主は、サマリヤの井戸で女にご語りました。「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」¹¹

今晚、わたしたちは神の神権を持つ者としてこの会に出席しています。この場に在る人や、他の会場に集っている人を合わせるとその数はかなりのものです。皆の出席理由が霊的な養いを得ることであるよう願っています。そして、わたしたちが神の僕や預言者の語る主の御言葉を求めて常に飢え渇き、毎週聖餐会に出席して聖約を新たにすることによって満たされるように望んでいます。

アロン神権の若い男性の皆さんは、自分の永遠の行く末を決めるのに不可欠な要素をすべて内に秘めています。まだ表面に出てきていない要素も含めて、これ



大会のために集まったフィリピンの若人たち。

らを外側から強め、養っていく必要があります。それらは肉体的なものもあれば、霊的なものもあります。人は自分の永遠の旅路について、心で知る必要があります。自分がどこから来たのか、どうしてこの現世にいるのか、そして喜びと幸福を得てその行く末を全うするには、最終的にはどこに行かなければならないのだろうかという疑問に対する答えを知る必要があるのです。霊的な栄養を霊に補充すると、その効力は永遠に続き、いつまでも失われることはありません。アミュレクが教えているように、「現世を去るときにあなたがたの肉体を所有しているその同じ霊が、あの永遠の世で、あなたがたの肉体を所有する力を持つからです。」¹²

兄弟たち、皆さんの献身と義にかなった思いと行いに感謝しています。皆さんが定員会や支部、ワード、ステークにおいて召しをとてもよく果たしているおかげで、教会は発展し、神のあらゆる御業は世界中で前進しています。家族や周りの人に祝福を頼まれたり、祝福を施すよう割り当てを受けたりするとき、皆さんは神権を通して、主の御名により祝福することができます。この祝福は、主から託された神聖な権能を通して与えられます。主が「だれでもあなたが祝福する者をわたしは祝福」¹³ すると約束してくださっているからです。

兄弟たち、わたしの願いは、わたしたちが交わしたすべての聖約に忠実である

ことです。あらゆる家族関係、とりわけ伴侶に対して、またそればかりではなく両親や子供、孫に対してもすべてをささげることができるように祈っています。この御業が真実であることを命ある限り日々証することができますように。主の僕としてへりくだり、義のうちに前進することができますように、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

1. ルカ12:23
2. ヨブ32:8
3. 1テモテ4:6
4. 教義と聖約20:37
5. マタイ12:36
6. カール・ハートン「何が間違っているのだろうか」『聖徒の道』1988年5月号、42-43
7. ロバート・B・ハーバートソン、「The Atonement: What's So Great about It,」New Era, 1990年5月号、49
8. マックス・ノーラン、「J. Golden Kimball in the South,」New Era, 1985年7月号、10
9. マタイ5:13
10. エノス1:4参照
11. ヨハネ4:14
12. アルマ34:34
13. 教義と聖約132:47

神権者としての 信頼にこたえる

大管長会第一顧問
トーマス・S・モンソン

大切なのは実行することです。ただ夢見ることではありません。実行してこそ、人々の人生が祝福され、導かれ、霊が救われるのです。



数 週間前、わたしのワードの断食証会あかしかいで、後ろの列に座っていた小さな男の子が勇気をふりしぼって証を述べようとしていました。彼は、3回か4回、立ち上がろうとしましたが、だれかに先を越されて、その度に座りました。そして、ついに彼の番が来ました。胸を張り、長いすの間を通過して壇上まで勇敢に歩き、説教壇に届くように用意された踏み段を上り、身を乗り出して説教壇に両手を置き、会衆をじっと見つめ、ほほ笑い、それから回れ右をして、踏み段を降り、来た道を引き返して、母親と父親のもとへ帰って行きました。今晚この巨大なカンファレンスセンターに集っている皆さんを見、また世界中で聞いている人々のことを考えると、あの小さな男の子

の気持ちがとてもよく分かります。

兄弟の皆さん、今晚皆さんに話す特権が与えられたことを光栄に思います。皆さんに何を話したらよいかと考えていたとき、伝道の書の大好きな聖句が心に浮かびました。「神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。(伝道12:13) わたしは、この本分という言葉を愛し大切にしています。

アメリカ南北戦争の名将ロバート・E・リーは言いました。「本分とは、最も崇高な言葉である。……人は本分以上のことをすることはできない。そして、本分以下のことをするべきではない。(ジョン・パートレット、*Familiar Quotations* (1968年)、620に収録)

わたしたちにはそれぞれ、聖なる神権にかかわる本分、あるいは義務があります。アロン神権者もメルキゼデク神権者も、多くのことを期待されています。主御自身が、神権に関する啓示の中で、神権者の責任を次のように要約し、強調しておられます。「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」(教義と聖約107:99)

わたしが心から願うことは、神権を持つすべての若い男性が、神権を尊び、神権が授けられたときに託された信頼にこたえることです。

51年前、当時オグデン南ステーキの会長だったウィリアム・J・クリチロー・ジュ

ニア会長の話を聞きました。彼は後に十二使徒定員会補助となり、総大会の神権部会でも、信頼と名誉と義務について話しました。その話を紹介しましょう。現代にも通じる分かりやすい教えです。

「〔若い〕ルパートは、道路わきに立ち、足早に通り過ぎていく大勢の人を見ていた。友達が通りかかったので、『そんなに急いでどこに行くの』と尋ねてみた。

『君は、まだ聞いていないのかい。』

『何も聞いてないよ。』

『王様が大切なエメラルドをなくされたんだよ。昨日、貴族の結婚式に出られたときに、金の鎖につないで首にかけておられたそうだが、何かの拍子で、落とされたらしいんだ。見つけたら王様から褒美がもらえるから、みんな探しているんだ。さあ、行こう。』

『でも、その前に、おばあさんに聞かなくちゃ。』

『じゃ、お先に。ぼくはなんとしても見つけるよ。』

ルパートは、祖母から許可を得るために、森の外れの家に急いで帰った。『もし見つけたら、この薄暗い家を出て、丘の上に土地が買えるんだよ。』ルパートは懇願した。

ところが、祖母は首を横に振った。『羊はどうするんだい。みんな牧場に行きたくて、囲いの中でうずうずしてるよ。それに、昼になったら水を飲ませなきゃいけないしねえ。』

ルパートはがっかりして、羊を牧場に連れて行った。そして、昼になると今度は小川に連れて行った。ルパートは川のほとりの大きな石に腰かけて、『王様のエメラルドを探しに行けたらなあ』とつぶやいた。うなだれて、川に目をやったルパートは、一瞬自分の目を疑い、今度は目を皿のようにして川底を見つめた。『何だあれは。まさか!』あわてて川に飛び込んで拾い上げると、それは緑色の宝石で、細い金の鎖の切れ端が付いていた。『王様のエメラルドだ!』ルパートは叫んだ。『きっと、王様があの橋を馬に乗って駆け抜けたときに、鎖が切れて、エメラルドが川に落ちて、ここまで流れて来たんだ。』

ルパートは目を輝かせながら走って帰り、事の次第を祖母に話した。『よかったね。でも、羊の世話をしていなかったら、見つからなかったんじゃないのかい。』ルパートもそのとおりだと思った。(Conference Report, 1955年10月, 86, 段落を変更。)

この話の教訓は、次の有名な言葉に要約できます。「全力で義務を果たし、あとは主にゆだねよ。(ヘンリー・ワズワース・ロングフェロー “The Legend Beautiful,” *The Complete Poetical Works of Longfellow* に収録(1893年), 258)

現在定員会の会長である方、あるいは過去に経験した方々に申し上げます。皆さんの義務は解任とともに終わるものではありません。定員会の会員との関係も、会員に対する義務も、一生涯続くのです。

わたしはアロン神権の教師の職にあったときに、定員会の会長に召されました。定員会アドバイザーの助言を受けながら、一生懸命に働いて、若い男性が定員会の集会にいつも出席できるように助けました。中でも特に難しい兄弟が二人いましたが、根気よく愛を示し、少しずつ説得していくうちに、定員会の活動に顔を出すようになってきました。ところが、時が過ぎ、進学や就職で忙しくなると、彼らはまた教会に来なくなりました。

わたしは長年にわたり、いろいろな機会を見つけて、この二人に会ってきました。会う度に彼らの肩を抱き、こう言うのです。「わたしは今でも、君の定員会の会長なんだよ。君はわたしにとってとても大切な人だから、教会の活動に参加して祝福を得てほしいんだ。」二人とも、わたしから愛されていることと、わたしが彼らを決してあきらめないことを知っています。

メルキゼデク神権を持つ人には、常にその召しを尊んで大いなるものとする特権があります。わたしたちはイスラエルを見守る羊飼いです。飢えた羊が目を上げて、命のパンを待っているのです。

昔、ハロウインの夜に、福音の道からそれてしまった人を助ける特権にあずかりました。彼が戻って来るには、導き手が必要でした。その日、職場から家に帰るのが少し遅くなりました。ハロウインの渋



滞に巻き込まれたのです。「トリック・オア・トリート」(訳注 「お菓子をくれなきゃ、いたずらするぞ」の意)と言いながら家々を回る子供たちの相手は妻に任せることになりました。途中、ソルトレーク・シティーのセントマーク病院を通り過ぎたところで、愛する友人、マックスが入院していることを思い出しました。マックスとわたしは数年来の友人でした。後に、わたしたちは、時期はずれているものの、同じワードで育ったということが分かりました。マックスの家族がそのワードから転出して行った後で、わたしは生まれたのです。

そのハロウインの夜、わたしは車を駐車場に止め、病院に立ち寄りしました。受付でマックスの部屋の番号を聞きました。受付の人によると、マックスは入院の際に、末日聖徒ではなく、ほかの教会の会員として登録していました。

マックスの部屋に行き、あいさつをしました。わたしはマックスに、彼の友人であることを誇りに思っていることと、彼を心から気にかけていることを伝えました。また銀行業における彼の功績や、オーケストラのリーダーとしての活躍についても話し

ました。マックスがほかの教会に行くようになったのは、教会員から傷つくようなことを言われたせいだったということが分かりました。わたしは言いました。「君はメルキゼデク神権を持っているよね。今晚君を祝福してもいいかい。」マックスは同意しました。そこで、わたしは祝福しました。それから、奥さんのバーニスも重い病気で、隣の部屋に入院していることが分かりました。わたしの提案で、マックスとわたしは、バーニスを祝福しました。マックスが助けを求めたので、わたしは彼に手ほどきをしました。マックスはバーニスに油注ぎをしました。わたしはマックスとともに油注ぎを結び固めました。マックスの手とわたしの手が、バーニスの頭の上に置かれました。3人で涙を流し、抱き合いました。そのハロウインの夜の出来事を、忘れることはできません。

病院を出るときに、受付の人にこうっておきました。「マックスと奥さんの宗教は、本人に確認して、訂正しておいた方がいいですよ。二人とも末日聖徒イエス・キリスト教会の会員ですから。」わたしは、受付の人がきちんと訂正するのを見届ける



カンボジアの教会の建物の外でポーズを取る宣教師たち。

まで、待ちました。

愛する友人、マックスとバーニスは、今では幕のかなたにいます。しかし二人とも晩年は教会に戻って幸せに暮らし、福音に対する証と^{あかし}、教会に出席することを通して、生涯祝福を受け続けました。

兄弟の皆さん、助けを必要としている人がいれば、どのようなことであれ、手を差し伸べなければなりません。わたしたちに与えられる試練の中に克服できないことなどないのです。わたしたちは主の用向きをしているのですから、当然主の助けを受ける権利があります。しかし、わたしたちは、自ら行動する必要があります。映画『シェナドー河』のせりふには勇気がわかります。「やってみなけりや、何もできない。何もしないのなら、何のためにここにいるんだ。」

わたしたちの責任は、常にふさわしい生活をして、神権の祝福を求められたとき、あるいは助けを求められたときに、いつでも応じられるようにしておくことです。わたしたち一人一人は、常に何らかの形で周囲に影響を与えています。良い影響を与えることができるようにしてください。

わたしたちの手は清く、思いは純粹でしょうか。歴史をさかのぼると、死に瀕し

たダリウス王の言葉から、ふさわしさについての教訓を得ることができます。ダリウスは当時の習わしに従って、エジプトの正式な王に認められていました。宿敵アレクサンダーも、エジプトの神アモンの息子として知られていました。彼もまたエジプトの王ファラオだったのです。アレクサンダーは、ダリウスが戦いに敗れ、死にかけていることを知り、彼の頭に手を置き、立ち上がって王の力を取り戻すように命じました。「ダリウスよ、あらゆる神にかけて誓う、わたしはこれらのことを、真心から行うと。」

ダリウスは穏やかに諭しました。「わが子、アレクサンダーよ……お前はその手で天に触れることができるとでも思っているのか。」(ヒュー・ニブレー、*Abraham in Egypt*(1981年)から翻案、192)

義務を果たすようにとの招きは、神権者が割り当てに応じているときに、静かに訪れます。控えめで有能な指導者だったジョージ・アルバート・スミス第8代大管長は言いました。「皆さんの義務は、第1に、主が望んでおられることを知ること、それから聖なる神権の力と勢力によって、召しを尊んで大いなるものとし、皆さんを見る人々が皆さんに喜んで従うようにな

ることです。(Conference Report, 1942年4月, 14)

では、召しを尊んで大いなるものとするには、どうすればよいのでしょうか。簡単に言えば、召しにかかわる奉仕を行うことです。

兄弟の皆さん、大切なのは実行することです。ただ夢見ることはありません。実行してこそ、人々の人生が祝福され、導かれ、霊が救われるのです。ヤコブは言いました。「御言^{みことば}を行う人になりなさい。おれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけません。(ヤコブの手紙1: 22)

この神権部会に集っているすべての人が、主の導きをさらに受けるために、新たな気持ちで努力することができますように。助けを願い求めている人が大勢います。落胆している人、教会に戻ることを切望しているながらも、どうすればよいのか分からずにいる人もいます。

わたしは次の言葉は真理であると常に信じてきました。「神のすばらしい祝福はいつも、地上で神に仕えている人の手によってもたらされる。(ホイットニー・モンゴメリー、*Revelation*, ジャック・M・リヨン他編、*Best-Loved Poems of the LDS People*に収録(1996年)、283) 喜んで行う手、清い手、そして進んで行く心を持ちましょう。そうすれば、天の御父が与えようとしておられる祝福を携えて行くことができるのです。

最後に、わたしの経験を話します。かつてわたしには、大切な友人がいました。彼が耐えられないほどの重荷と挫折に苦しんできたことは明白でした。やがて彼は末期患者のための病棟に入院しましたが、わたしは彼がそこにいることを知りませんでした。

ある日、妻とわたしはその病院に入院している別の人を見舞いに行きました。病院を出て、車に戻る途中、わたしははっきりとした靈感を受けました。「戻って行って、あなたの友人ハイラムがまだ入院しているかどうか確かめなさい。」受付に行き、聞いてみると、確かにハイラムは何週間も前から入院していました。

病室に行き、ノックして、ドアを開けま

した。すると、まったく予期せぬ光景が目
に飛び込んできました。部屋中至る所に
風船が飾られ、壁には「お父さん、誕生日
おめでとう」と書かれた大きなポスターが
はってありました。ハイラムはベッドに
座っていました。家族も一緒でした。ハ
イラムは言いました。「モンソン兄弟、一
体全体どうして、今日がわたしの誕生日だ
と分かったんですか。」わたしはにっこり
ほほえみました。でもそのときは彼の問
いには答えませんでした。

その部屋の中にいるメルキゼデク神権
者たちは、彼らの父親であり、祖父であ
り、わたしの友人であるハイラムの周りに
集まって、神権の祝福を授けました。

涙が流れ、感謝の笑顔を交わし、優し
く抱き合いました。それから、わたしはハ
イラムに体を寄せて、そっと言いました。
「『わたしはあなたがたを捨てて孤児とは
しない。あなたがたのところに戻って来
る』と主が約束されたのを覚えているで
しょう(ヨハネ14:18)。」

時は行進するようにどんどん経っていき
ます。義務も同じ歩調で行進します。義
務はあいまいになることもその重要性が
減少することはありません。破壊をもたら
す戦いには終わりがありますが、人の魂
を勝ち取る戦いに終わりはないのです。
皆さんに、わたしに、そしてあらゆる場所
の神権者に、主の御声がラッパのように
響き渡っています。わたしは、その声を
繰り返します。「それゆえ、今や人は皆、
自分の義務を学び、任命されている職務
をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。
(教義と聖約107:99)

兄弟の皆さん、わたしたちの義務を学
ぼうではありませんか。義務を果たせる
よう常にふさわしくあろうではありません
か。義務を果たすときに、主の模範に従
おうではありませんか。主は義務を果た
すよう召されたときに、このように応じら
れました。「父よ、あなたの御心が行わ
れ、栄光はとこしえにあなたのものであ
りますように。」(モーセ4:2) わたした
ちもそのように言えますよう、主イエス・キ
リストの御名により、へりくだりお祈りしま
す、アーメン。

立ち上がれ、 神に仕える男たちよ

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

この神権には、ふさわしくなければならないという大きな義務が伴います。



兄 弟たち、皆さんは、だれもが
真っ白いワイシャツを着用し、主
の業に赴く備えができた神権者
であるように見受けられます。そして、御
業に赴く時がまさに到来しています。

何とすばらしい光景でしょう。カンファ
レンスセンターが聴衆で埋め尽くされてお
り、わたしたちの言葉が世界中に届けら
れています。恐らくこれは、これまでで最
大規模の神権者の集会ではないかと思ひ
ます。皆さんが今晚この場に出席してく
ださったことをうれしく思います。

最近テレビでブリガム・ヤング大学男性
コーラスのコンサートを聴きました。「立ち
上がれ、神に仕える男たちよ」という感動
的な曲を歌っていました。わたし自身はこ
れまで歌った記憶はないのですが、1911
年にウィリアム・P・メリルが書いた歌で、

編曲されてわたしたちの教会の賛美歌に
も収められていることを知りました。

この歌詞は、チャールズ・ウェスリーら
が作ったイギリスの古い賛美歌の趣旨を
踏まえて書かれたものです。次のような
歌詞です。

立ち上がれ、神に仕える男たちよ。
つまりぬことはわきに置け。
心も魂も思いも力もささげて、
王の王に仕えよ。

立ち上がれ、神に仕える男たちよ。
結束し、一つの群れとなれ。
兄弟愛で結ばれて働き、
罪の時代の幕を閉じよ。

立ち上がれ、神に仕える男たちよ。
教会はあなたたちを待っている。
教会は使命を果たす手を必要としている。
立ち上がって、教会を大いなるものとなせ。

立ち上がれ、神に仕える男たちよ。
主が歩まれた道を歩め。
人の子の兄弟として、
立ち上がれ、神に仕える男たちよ。
(『賛美歌』[英文]324番。3節は The
Oxford American Hymnal, カール・F・
ファットイカー(1930年), 256番から引用)

兄弟たち、聖文は、わたしたちの生活
にとても容易に当てはめることができま
す。例えば、ニーファイはイザヤ書から引



用して次のように言っています。「おお、あなたはわたしの戒めに聞き従ったらよかったものを。そうすればあなたの平安は川のように、またあなたの義は海の波のようであったであろう。(1ニーファイ20:18。イザヤ48:18も参照)

リーハイの言葉は神権を持つすべての男性、少年に対する明快な呼びかけです。リーハイは確信をもってこう語っています。

「目を覚まさない、息子たちよ。義の武具を身に着けなさい。あなたがたを縛っている鎖を振り払い、^{くらやみ}暗闇を抜け出て、地から立ち上がりなさい。(2ニーファイ1:23)

今夜ここに集った大勢の皆さんの中で、大人でも子供でも、生活を改善することのできない人は、一人としていません。そして、改善する必要があります。なんとと言っても、わたしたちは神の神権を持っているのですから。アロン神権を受けている少年であれば、天使の働きを行って人を導き、指導し、祝福し、守ることができます。何と驚くべき、すばらしいことでしょう。メルキゼデク神権を授かっている人であれば、永遠の力が備わった王国の鍵^{かぎ}を与えられています。これらの力については、御手^{みて}を使徒たちの頭の上に置いたときに主が語っておられます。

この神権には、ふさわしくなければならぬという大きな義務が伴います。汚れた

思いに身を任せてはなりません。ポルノグラフィールにかかわってはなりません。どんな形であれ、虐待の罪を決して犯してはなりません。そのようなものを捨て去らねばなりません。「立ち上がれ、神に仕える男たちよ。」これらのものを捨て去ってください。そうすれば、神は皆さんを導き、支えてくださるでしょう。

預言者イザヤは言っています。「恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。(イザヤ41:10)

若い男性の中には、だらしのない服装をすることに喜びを感じているような人がいます。これが繊細な注意を払って話すべき事柄であることは承知しています。しかし、これは、神の神権に聖任されている人にふさわしいことではありません。言葉遣いも服装に合わせて変わることがあります。主の御名^{みなる}をみだりに唱えて、神を冒瀆^{ぼうとく}することがあります。神は、はっきりとこれを禁じておられます。

これから話すスペンサー・W・キンボール大管長の話は聞いたことがあると思いますが、あえてもう一度話します。キンボール大管長が病院で手術を受けたときのことで、若い男性の看護師が大管長を担架に乗せて運んでくれました。エ

レベーターに乗る際にこの看護師は担架をぶつけ、主の御名を使ったののしりの言葉を口にしました。

キンボール大管長は、もうろうとする意識の中でこう言いました。「どうかやめてください。あなたが口にしているのは、わたしの主の御名なのです。」

凍るような沈黙の後、その若い看護師は押し殺したような声でささやきました。「申し訳ありません。(The Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編[1982年], 198参照)

わたしが非常に心配しているもう一つの事柄に注意を向けてほしいと思います。啓示の中で主は、できるかぎり教育を受けようこの民に命じられました。主はこのことについて非常にはっきりと述べておられます。しかし、困った傾向が見られます。教会教育理事長のロルフ・カー長老から聞いたところによると、アメリカ合衆国では、女子の高校卒業率が73パーセント近くであるのに対し、男子は65パーセントだそうです。女子に比べて、男子の方が中退者の割合が高いということです。

高校卒業後すぐに大学に進学する人の割合は男子が約61パーセントであるのに対し、女子は72パーセントです。

1950年には、大学入学者の70パーセントが男性で、30パーセントが女性でしたが、2010年までには男性が40パーセント、

女性が60パーセントになると予想されています。

大卒者数は1982年以降、また修士号取得者数は1986年以降、それぞれ毎年女性の方が男性よりも多いという結果が出ています。

この統計結果から明らかなことは、より高い教育を受けようとする姿勢の面で男子より女子の方が勝っているということです。そこで、若い男性の皆さんに申し上げます。立ち上がって身を引き締め、教育の機会を活用してください。皆さんは、自分よりはるかに高い教育を受けた女性と結婚したいと思いませんか。「つり合ったくびき」という言葉がありますが、これは教育のことを言っているのではないのでしょうか。

しかも、教育には、教会で奉仕する能力を高める力があります。何年か前の調査によると、高い教育を受けている人ほど信仰が強く、宗教的な活動にも積極的に参加しているという結果が出ています。

わたしは以前、ポルノグラフィーについて語りました。これは、いとも簡単に陥ってしまう非常にたちの悪い中毒です。この中毒の犠牲者からの手紙を読みましょ。

「だれにも話せなかったことをあなたに打ち明けたいと思います。わたしは35歳の男性です。わたしは、大人になってからの大半の時期をポルノグラフィーにおぼれてきました。あまりに恥ずかしいことなので認めたくないのですが、……どの面から見ても、ポルノグラフィーにはアルコール中毒や薬物中毒と同じような中毒症状があるのです。

わたしがこの手紙を書くことにしたのは、ポルノグラフィーを避けるようにという会員たちへの勧告を、教会でさらに徹底するよう訴えたかったからです。この手のものを初めて見たのは子供のときでした。年上のいとこに性的ないたづらをされたとき、ポルノグラフィーを使って興味をかき立てられたのです。このように子供時代に性的なものやポルノグラフィーにさらされたことが、現在の中毒の根底にあるとわたしは確信しています。

皮肉なことに、ポルノ産業を支えている



人たちは、表現の自由だと言います。でも、わたしには自由などありません。選択の自由を奪われています。いまだにこの中毒を克服することができないのですから。わたしはこの中毒に縛られており、逃れることができそうにありません。どうか、お願いですから、教会の兄弟たちに訴えてください。避けるだけではだめです。ポルノグラフィーのたぐいをすべて、生活の中から一掃するよう訴えてください。本や雑誌など形のあるものだけでなく、家庭にあるケーブルテレビの映画チャンネルのスイッチも切る必要があります。多くの人がケーブルテレビを視聴しており、有害な画面はスクリーン機能で遮断できると主張しますが、実際には完全に遮断できないのです。……

ポルノグラフィーや性の倒錯は、日常生活にあまりにも溶け込んでいるため、至る所に見受けられます。道端やごみ捨て場にポルノ雑誌が捨ててあるのを見かけたことがあります。子供たちに話して、このようなものがどれほど有害か説明し、そのようなものに出くわしても見ないように教える必要があります。

最後になりますが、ヒンクレイ大管長、どうか、このひどい苦しみから抜け出す勇氣と力が得られるよう、わたしや教会にいるわたしのような人たちのために祈ってください。

署名は控えます。どうかご理解ください。」
正しく使うかぎり、コンピューターはすばらしい道具です。しかし、ポルノグラ

フィーや有害なチャットルームのたぐいにリンクされている可能性のある場合や、そのほか悪い習慣や悪い考えを助長しかねないような目的で使用する場合には、十分に自制して、いつでも電源を切れるようにしなければなりません。

主は言われました。「あなたがたは、あなたがたの間にある罪悪を清めなさい。わたしの前に自らを聖めなさい。(教義と聖約43:11) これらの言葉の意味を取り違える人などいないでしょう。

主はさらにこう言っておられます。「その元素は神の幕屋である。まことに、人は神の幕屋すなわち神殿である。そして、いかなる神殿でも汚されると、神はその神殿を滅ぼすであろう。(教義と聖約93:35) 誤解の余地はありません。この世で授かった肉体を大切に、肉体にとって有害なものを避けるよう、主ははっきりと言っておられます。

主はわたしたち一人一人に大きな約束をしてくださいました。このようにおっしゃっています。「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。(教義と聖約112:10)

さらにこうもおっしゃっています。「神はその聖なる御霊^{みたま}によって、すなわち聖霊^{けんろん}の言い尽くせない賜物^{たまもの}によって、世界が存在するようになって以来現在まで示されたことのない知識を、あなたがたに与えてくださるであろう。(教義と聖約121:26)

わたしたちは皆、救い主の生涯を研究し、その言葉や行いに倣うべきです。同様に、預言者ジョセフ・スミスの生涯についても研究してください。だれもが自分のなすべきことについて、ジョセフの模範から多くを学べるはずで。

わたしの兄弟たち、これらの永遠に変わらぬ特質にはまことの価値があることを^{あかし}証します。生活を改善しようと努力するなら、きっと成果があるでしょう。愛する兄弟たち、皆さん一人一人のうえに神の祝福がありますように。これらのことを、へりくだり、感謝を込めて、イエス・キリストの聖なる御名によって証します、アーメン。

堅固な土台

大管長会第一顧問
トーマス・S・モンソン

わたしたちは信仰の土台を強め、強い証^{あかし}を築いて、ひるむことも、力を落とすこともなく生きることができるのです。



愛する兄弟姉妹の皆さん、ここに集っている方にも、世界中の会場に集っている方にもお願いします。わたしがこの栄えある割り当てをよく果たせるように、信仰を込めて祈ってください。

1959年、カナダのトロントに本部のあるカナダ伝道部の会長として赴任して間もないころ、わたしはN・エルドン・タナー兄弟に会いました。タナー兄弟は著名なカナダ人で、わたしと出会ってほんの数か月後に、十二使徒定員会補助に召されました。後に十二使徒定員会会員に召され、そして4人の大管長の顧問に召されました。

当時のタナー管長は、カナダ横断パイプライン社の社長であると同時に、カナダ・カルガリーステークの会長でもありました。彼はカナダで「高潔な紳士」として知られていました。初めて会ったときに、とりわけカナダの寒い冬について話し

した。嵐が吹き荒れ、氷点下の気温が何週間も続き、冷たい風のせいで、実際の気温よりも体感温度がかなり低く感じられることなどを話しました。そのような冬でも、カナダ西部の道路は、ひび割れや傷みがほとんど、あるいはまったく見られず、基本的に完全な状態に保たれています。逆に、それほど冬が厳しくない多くの地域では、道路にひび割れや傷みや穴が多く見られます。これはどうしてでしょうと、タナー管長に尋ねました。

彼はこう答えました。「それは舗装用資材の土台がどれだけ深いかによるのです。道路を堅固で完全な状態に保つには、土台の層を厚くする必要があります。土台の深さが不十分だと、道路の表面は厳しい気候に耐えられません。」

タナー管長のこの言葉について、長年にわたって度々考えました。彼のこの言葉の中に、人生に應用できる意義深い教訓が含まれているからです。つまり、もしわたしたちに信仰という深い土台と、真理に対する堅固な証がなければ、逆境というだれにも避けられない嵐が吹き荒れるときに、耐えることが非常に困難になるのです。

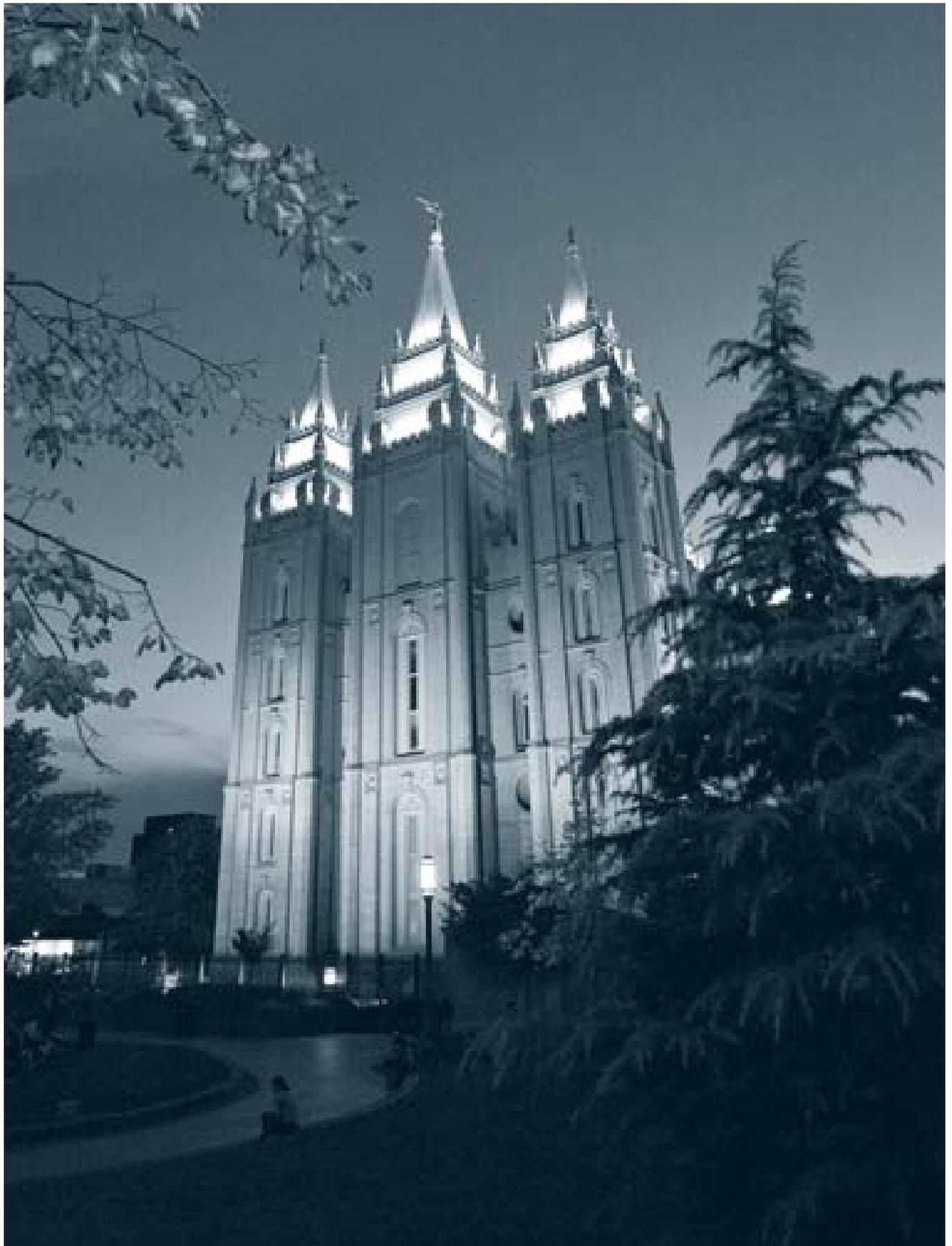
現世は試しの時期であり、天の御父のみもとに戻るためのふさわしさを証明する時期です。ですから試練や困難に遭うのは当然のことなのです。試しによってわたしたちの信仰は打ち砕かれ、魂にひびが入ってしまうかもしれません。それは、信仰の土台と真理に対する証がしっかりしていないからなのです。

一時的であれば、他人の信仰や証に頼

ることもできるでしょう。しかし、最終的には自分自身のしっかりした土台を築かなければなりません。そうしなければ、だれの人生にも必ず訪れる嵐に耐えられないのです。人生の嵐は様々な形でやって来ます。例えば、反抗的な子供が永遠の真理の道から離れ、過ちや失望の危険な道を選んだことによって、悲しみや心痛を経験することがあるかもしれません。自分や愛する人が、病気によって苦しみや死を経験するかもしれません。事故に遭い、つらい記憶が残ったり、命を落としたりするかもしれません。老いが進むと足もとが危うくなり、死が忍び寄ります。死はしばしば、まだ人生半ばの人にも訪れ、幼い子供の笑い声を奪っていくことさえあるのです。

トンネルの先に光が見えないときも、夜明けが来ないかのように思えるときもあります。わたしたちは、絶望している人の痛み、夢に破れた人の失意、希望が打ち砕かれた人の落胆に取り囲まれています。わたしたちは声をそろえて「ギレアデに乳香はないのだろうか」(欽定訳エレミヤ8:22から和訳)という、聖文に記された嘆願を口にします。わたしたちは、自分の不幸を、悲観主義というゆがんだレンズを通して見る傾向があります。そして、見捨てられた、もう希望がない、孤独だと感じるのです。

こうした人生の浮き沈みに耐えられる堅固な土台を築くにはどうすればよいのでしょうか。忠実な人に約束された喜びを味わうために、その前提条件である信仰と証を維持するにはどうしたらよいのでしょうか。一歩ずつ地道に努力することが必要です。涙が出るほど御霊を強く感じ、これから先ずっと忠実であり続けようと決心したことのある人は多いと思います。このように言った人がいました。「このような気持ちを維持できさえすれば、義務を果たすことはとても簡単になるでしょうね。」しかし、そのような気持ちは移ろいやすいものです。このような大会で感じる御霊は、月曜日に来て、仕事や学校、家事や子育てなどの日常の雑務に追われるようになると、次第に薄れてしまうかも



末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

大管長会

2006年10月現在



第一顧問
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二顧問
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング



ディーター・F・ウークトドルフ



デビッド・A・ベドナー

七十人会長会



アール・C・ハンクス



D・トッド・クリストフアーソン



チャールズ・テイデ



メリル・J・ペイトン



ロバート・C・オークス



ニール・L・アンダーセン



ロナルド・A・ラスバンド

七十人第一定員会



カロス・H・アマートー シェルドン・F・チャイルド モンテイ・J・ブラフ シェルドン・F・チャイルド デビッド・S・ハワスター



ジョン・R・クック クラウチョ・R・M・コスタ ベンハミン・チ・オヨス ロバート・K・デレンバック クエイン・L・クック



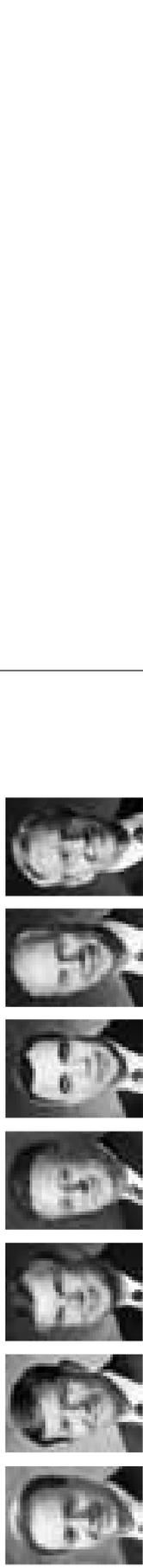
ウォルター・F・ゴザレス ブルース・C・ヘーゲン ドナルド・L・ホルストロム キース・K・ヒルツク C・スコット・クロー



ダニエル・L・ジョンソン ボール・V・ジョンソン ウィリアム・ロルフ・カー フランシス・新地良彦 ケネス・ジョンソン



リン・A・ミケルセン マーガス・B・ナッシュ グレン・L・ベイス アンソニー・D・パーキンス マーガス・B・バイバー



セシル・O・サミュエルズ・ジュニア スティーブン・E・スノー コリンス・ソアレス フランシスコ・J・ビーナス ボール・B・バイバー



ランズ・B・ウイックマン W・クレーク・スウィック フルース・D・ボーター リチャード・C・エッジリー リチャード・C・ハートン



ポール・K・ジブラウスキー カール・B・ブラット マービン・J・スミス 第一顧問 第二顧問

七十人第二定員会



マービン・B・アーノルド ダグラス・L・カリスター クレイグ・A・カード クレイグ・C・クリステンセン



ジェームズ・M・タン キース・R・エドワーズ スタンレー・G・エリス タリル・H・カーン



スベンサー・V・ジョーンズ 高元龍 ジェラルド・N・ランド クレイトン・W・マズク・ジュニア



ウォルフガング・H・ポール ウェイン・S・ピーターソン R・コンラッド・シュルト W・ダグラス・シャムウエー



ロバート・R・スタイアー ローウェル・M・スノー ロバート・F・オートン ウィリアム・W・バームリー



ロバート・R・スタイアー H・ロス・ワグマン ロバート・S・ウット ウィリアム・R・ワーカー



管理ビショップリック 第一顧問 第二顧問



管理ビショップリック H・デビッド・ハートン キース・B・マクマリン



(上から時計回りに)フィリピンの会員たち。大会の部会に出席するため舟で到着したトンガの会員たち。ロシア・サンクトペテルブルクの若い会員。カンボジアの集会所の外に脱いで置かれた履物。



しれません。日々の雑務により、わたしたちの思いは、わたしたちが許してしまえば、神聖なものから世俗的なものへ、靈性を高めるものから、靈的な土台や証をむしばむものへと、流されて行くのです。

確かに、この世界には靈的でないものがたくさんあります。それでも、わたしたちは信仰の土台を強め、強い証を築いて、ひるむことも、力を落とすこともなく生きることができるのです。この世で靈的に生き延びるために必要な土台をしっかりと築き、維持するにはどうすればよいのでしょうか。

3つの役立つ指針を教えましょう。

1. 祈りを通して土台を固める。「祈りは魂の見えぬ望み 述べても述べずも、胸に燃ゆる(『祈りは魂の『賛美歌』83番)

祈るときには、天のお父様とほんとうに話しましょう。ほとんど何も考えずに、同じ言葉を繰り返すという習慣は簡単に身に付いてしまいます。皆、文字どおり、神の靈の息子、娘であることを思い出せば、祈りを通して御父に近づくのは難しいことではないでしょう。神はわたしたちを知

り、愛し、わたしたちの幸福を望んでおられます。心から、意味のある祈りをささげましょう。感謝をささげ、必要なものを求めてください。御父の答えを求めて耳を傾けましょう。そうすれば答えが与えられたときに気づくことができます。そうするうちに、わたしたちは強められ、祝福を受けるのです。わたしたちは、御父を知り、御父の御心を知るようになります。そして、御父を知るようになり、御父の御心を信頼するようになると、信仰の土台が強められるのです。もしもわたしたちの中に、常に祈りなさいという勧告に熱心に従ってこなかった人がいるならば、今こそ従うときです。ウィリアム・クーパーは言いました。「最も弱い聖徒がひざまずいて祈るとき、サタンは、ふるえおののく。(ウィリアム・ニール編、*Concise Dictionary of Religious Quotations* に収録(1974年)、144)

家族の祈りを怠らないようにしましょう。家族で祈ると、効果的に罪を予防できます。ですから、家族で祈ると喜びと幸福で満たされるのです。「ともに祈る家族は、

ともにいる」という昔ながらのことわざは真実です。親であるわたしたちが祈りの模範を示すならば、子供にとって生涯必要な自分自身の信仰と証という堅固な土台を築くのを助けてあげることになるのです。

2. 聖文を研究する。ヨシュア記の中で主が勧告しておられるように、「昼も夜もそれを思」うようにしてください(ヨシュア 1: 8)。

2005年、ゴードン・B・ヒンクレー大管長から出された「年内にモルモン書を読む」という招きに何十万人もの末日聖徒が応じました。恐らく2005年12月は、このチャレンジを期限までに達成しようとする人々により、モルモン書を読む最長時間記録が打ち立てられたのではないのでしょうか。課題を成し遂げたわたしたちは祝福を受けました。証が強まり、知識が増しました。引き続き、聖文を読み、研究してください。そうすれば、聖文を理解し、その中にある教えを生活の中で応用できるようになります。詩人ジェームズ・フィニー・バクスターの言葉を要約するようになります。



何度学んでも悟らない人は、
何度耕しても種をまかない人のようだ。
 (“The Baxter Collection,” バクスター
記念図書館，メイン州ゴースム)

聖文の研究に日々時間を費やせば，問
違ひなく，信仰の土台が堅固になり，真理
に対する証が強められます。

アルマは，ギデオンの地から南方のマ
ンタイの地へ向かって旅をしていたときに
モーサヤの息子たちと再会して，大いに
喜びました。アルマは久しぶりに会った
彼らが「なおも主にあつて兄弟であつた
ので，その喜びはいっそう深かつた。さら
に，彼らは正しい理解力を備えた人々
であり，また神の言葉を知るために聖文
を熱心に調べてきたので，すでに真理を
深く知るようになっていた。(アルマ17:1，
2参照)

わたしたちが神の御言葉を知り，それ
に従つて生活できますように。

信仰と証の堅固な土台を築くための3つ
目の指針は，奉仕です。

ある朝，車で事務所に向かう途中，ク

リーニング屋の窓に次のような看板がか
かっているのに気づきました。「価値ある
奉仕をご提供します。」その言葉がわたし
の頭から離れませんでした。突然，その
訳が分かりました。実際のところ価値あ
る奉仕とは，まさに主の奉仕なのです。

モルモン書には高潔なベニヤミン王に
ついて記されています。ベニヤミン王は，
靈感あふれる指導者で，真にへりくだり，
民に仕え，民を義の道へ導くのが自分の
願いであると述べました。

「わたしは自分の生涯をあなたがたの
ための務めに費やしてきたと言つたが，
それは自慢したくて言つたのではない。
わたしは神のために務めてきたにすぎな
いからである。

そして見よ，わたしがこれらのことを語
るのは，あなたがたに知恵を得させるた
めである。すなわち，あなたがたが同胞
のために務めるのは，とりもなおさず，あ
なたがたの神のために務めるのであると
いうことを悟らせるためである。(モーサ
ヤ2:16 - 17)

これが，価値ある奉仕です。わたした
ち全員が召されている奉仕，すなわち，
主イエス・キリストの奉仕です。

皆さんの人生の旅路で，同じように旅
をしている人に目を留めてください。皆
さんの助けを必要としている人々がいます。
皆さんの確信，助け，励まし，靈感を必
要としている人がいます。皆さんが救うべ
き人がいるのです。

13年前，わたしはジェイミー・パーマー
という美しい12歳の少女に祝福を受ける
機会がありました。彼女は癌に冒され，
おびえ，戸惑っていました。やがて手術
を受け，痛みの伴う化学療法を受けまし
た。今では，癌を克服し，聡明で美しい
26歳の女性となっています。彼女は多く
のことを成し遂げてきました。だいぶ前
に聞いたことですが，彼女は未来が恐ろ
しく思えた最もつらい時期に，癌に冒さ
れた足を治療するために，手術を何度も
受けなければならないことを知らされま
した。彼女が所属する若い女性は，ユタ
州ソルトレーク・シティーの南方約65キロ

のワサッチ山脈にあるティンパノゴス洞窟へのハイキングを前から計画していました。でもジェイミーにとって、それに参加することなど論外でした。ジェイミーは友達に、自分を置いてハイキングに行くように言いました。そうは言っても、心の中では落ち込んでいただろうと思います。しかし若い女性の仲間たちは言いました。「だめよ、ジェイミー。あなたも一緒に行くのよ。」

「でも、わたしは歩けないのよ。」悲痛な返事が返って来ました。

「じゃあ、わたしたちが頂上まで抱えて行ってあげるわ。」そしてその若い女性たちは、その言葉どおりにしたのです。

その出来事には、一つの思い出以上の意味があります。スコットランドの詩人、ジェームズ・バリーはこう宣言しました。「神が人に記憶を与えられたのは、人生の12月に、6月のバラを思い出せるようになるためである。(ジェームズ・バリー、ローレンス・J・ピーター編、*Peter's Quotations: Ideas for Our Time*(1977年)、335に収録された言葉の言い換え)そのすばらしい若い女性たちは、あの日を決して忘れないでしょう。あの日、愛にあふれた天の御父は、彼女たちを見て、ほほえみながらうなずき、喜んでおられたはずです。

主はわたしたちを御自身の業に召され、主に近づくよう招いておられます。わたしたちは主の御霊を生活の中で感じることができるのです。

生活に堅固な土台を築くうえで、主の尊い約束を心に留めておきましょう。

恐るな、われは汝が神
常に汝と共にあり
助け与え、強くして
わが正しき力をもて、汝れを支え、
励まさん
(「主のみ言葉は』賛美歌』46番)

わたしたち一人一人がこの祝福にふさわしくなれますよう、救い主イエス・キリストの御名によりへりくだり祈ります、アーメン。

救いの計画

十二使徒定員会
L・トム・ペリー

わたしたちは、主によって子供たちのために立てられた偉大な計画を知らないまま、現世に独り置かれてさまよっているわけではありません。



夏の間、ある聖餐会に出席したとき、夏休みで帰省していた学生三人の話を聞くことができました。わたしは一つの話に特に興味を引かれました。

彼女は夏休みの間、トラック運転手がよく立ち寄るレストランで働いていました。そのレストランに、毎週同じ曜日に食事をしてきた運転手がいたそうです。やがて顔なじみになって、短い会話をするようになりました。この運転手にどこに住んでいるかと尋ねられ、彼女は、秋に大学に戻るお金を貯めるために、夏休みで帰省しているところだと話しました。すると次に「どの学校に行っているんだい」と聞かれたので、得意げに「ブリガム・ヤング大学アイダホ校です」と答えたそうです。彼が学校についてもっと聞こうとしたので、福音の話になっていきました。彼女はまず知恵の言葉について話し、すばらしい結果を生

みました。この男性は彼女の言葉に納得してタバコをやめたのです。

その後彼女は勤務時間が変わり、彼の接客をすることがなくなったため、短い手紙を添えて、救いの計画についての教会のパンフレットを送りました。それから数日後に、彼からメモを受け取りました。そこには短く「君のおかげで人生が変わった」と書いてあったそうです。この若い女性がきっかけで、この男性は人生で改めるべき事柄を考えるようになりました。一人のウェイトレスとトラック運転手の出会いが、どのような結末になったのかは分かりませんが、運転手の人生が変わったことは確かです。

彼女は続けて、福音のすばらしさを知らせるのがいかに簡単かを説明しました。普段の生活で当たり前に行っていることの中に、口を開いて、今も永遠にも祝福となる福音の真理を伝える機会はいくらでもあるのです。

多くの人が「自分はどこから来たのか」「なぜここにいるのか」「これからどこへ行くのか」という疑問を抱いています。永遠の御父はわたしたちを、目的も意味もない地上の旅に送られたわけではありません。従うべき計画を用意してくださいました。その計画は、人が進歩し最高の救いと昇栄を得るために主が立ててくださったものです。伝道活動のガイド『わたしの福音を宣べ伝えなさい』から引用します。

「神はわたしたちの霊の御父です。わたしたちは文字どおり神の子供です。神はわたしたちを愛しておられます。わたしたちは、この地上に生まれる前、天の御父の



霊の子供として生活していました。けれども、わたしたちは天の御父のような状態ではなく、肉体をもって、この世での生活を経験しないかぎり、御父のようになって、御父が受けておられるすべての祝福にあずかることはできませんでした。

神の大いなる目的、つまり、神の業と栄

光は、わたしたち一人一人が、神のすべての祝福を享受できるようにすることです。神は、この目的を成し遂げるために、完全な計画を用意しておられます。わたしたちは、地上へ来る前に、この計画を理解し、受け入れました。(48)

しかし今日こんにちの世にあって、人生の最も

基本的な疑問に対する答えを一生懸命に探し続けている人が大勢います。「見よ、ここにある」「あそこにある」という叫び声はますます大きくなり、混乱を極めるばかりです。高度な技術により、今や地上を覆い尽くす無数のケーブルを通してあらゆるチャンネルから、こうした叫びが方々に送られ、混乱の度合いは増す一方です。メッセージはますます多様化し、それを広める方法は数知れません。人々が混乱しても驚くには当たらないでしょう。昔、パウロはこう預言しました。

「人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、

そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう。」(2テモテ4:3-4)

しかし混乱する必要はありません。人生の目的についての難問に対する答えは、人類を導くために再び与えられているのです。

わたしたちが最初に救いの計画について聞いたのは、生まれる前、聖文では「第一の位」と呼ばれる状態のときでした(アブラハム3:26参照)。第一の位においてどんなことがあったかは明らかではありませんが、そこでわたしたちが霊として、天の御父の子供として生活していたことは分かっています。また、永遠の霊を地上の肉体に宿す機会に備えるためにある程度成長したことや、御父が大会議を開いて地上の生活の目的を説明してくださったことも分かっています。わたしたちには、その救いの計画を受け入れるか拒むかの選択の機会がありましたが、強制されることはありませんでした。計画の本質は、神の助けを得て自らの救いのために努力する機会が人にはあるという点でした。計画に従う方法を教え、人を罪と死から贖あがなうために、一人の指導者が選ばれました。主はモーセにこう語っておられます。「見よ、初めからわたしが愛し選んだ者であるわたしの愛する子は、わたしに、『父よ、あなたの御心みこころが行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように』と言った。(モーセ

4:2)

長兄であられるイエス・キリストが、御父の立てられた計画を擁護する指導者となられ、わたしたちはその計画と条件とを受け入れました。この選びによって、わたしたちは地上に来る権利を得、第二の位に入ったのです。

神は御自分の形にアダムとエバを創造し、骨肉の体を与え、エデンの園に置かれました。二人には、園にとどまるか、あるいは善悪を知る木の実を取って食べ、死すべき状態を経験する機会を得るかという選択肢が与えられました。二人はこの試しを受け入れ、実を取って食べ、死すべき体となって肉体の死を経験することになりました。自分たちの選びによって、現世のあらゆる試練と困難を受けることになったのです。

現世の生活には二つの目的があります。一つ目は、ほかのどの方法でも得られない経験をするのであり、二つ目は、骨肉の幕屋を得ることです。どちらの目的も、人の存在に不可欠なものです。わたしたちは今、主から命じられるすべてのことをなすかどうかを試されているのです。主の命じられた戒めは福音の原則と儀式であり、イエス・キリストの福音を成すものです。一つ一つの原則と儀式は、試しの持つ目的そのものに関係しています。この試しとは、天の御父のみもとに戻り、御父のようになるために備えることです。ブルース・R・マッコンキー長老は、まっすぐで狭い道を進むことについてこう話しました。

「わたしが思うに、すべての人は、現世のあらゆる分野において何を信じるかを決める必要があります。そのうえで、はっきりとした分かりやすい全般的な概念に基づいて、死すべき状態の試練において成功を収め、試しの状態に合格するために、様々な分野でいかに生きるかを決めるのです。正しい選択をするなら永遠の報いに進み、そうでなければ、準備された王国の、より低い、より劣った場所に行くことになるでしょう。

……まっすぐで狭い道にとどまり、正しいことを行おうと奮闘努力し、また行いたいと切望する教会員はすべて、たとえこの



人生で完全とはほど遠い状態であるとしても、まっすぐで狭い道にとどまったままこの世を去るならば、御父の王国で永遠の報いを受けることになるでしょう。」(The Probationary Test of Mortality, ディポーショナルにおける説教, ソルトレーク宗教インスティテュート, 1982年1月10日, 8-9)

このすべてを可能にしてくださっているのがイエス・キリストです。主は御父の永遠の計画の中心であり、人類の贖いとして備えられた救い主であられます。神はアダムとエバの墮落に打ち勝つために、愛子を送られました。主は救い主、贖い主としてこの世に来られました。そして御自身の命を捨てることにより、人のために肉体の死という障害に打ち勝たれたのです。十字架上で亡くなられたとき、主の霊は肉体から離れ、3日目に霊と肉体が再び結合しました。この結合は永遠のもので、二度と離れることはありません。

地上での人生はほんのつかの間です。すべての人が、死によって霊と肉体とが離れる時を迎えます。しかし、イエス・キリストの復活により、この世で善と悪のどちらを行ったかにかかわらず、すべての人が復活します。不死不滅は、天の御父の死すべき子供全員に与えられる賜物です。死は、新しくより良い人生への入り口であるととらえるべきものです。栄光に満ちた復活を通して肉体と霊は再び結合し、人

は痛みや死を二度と味わうことのない完全な不死不滅の骨肉の体を得ます。しかし、来世で得る栄光は、この世での行いにかかっています。贖いという賜物と福音に従うことによってのみ、わたしたちはみもとへ帰って、再び神とともに住めるようになるのです。

救い主の復活後、主の弟子たちはこの栄光に満ちた教えを宣べ伝えるために地の人々のもとへ出て行きました。救い主の使命を教えながら、長い旅をしたのです。キリスト教の大きなうねりが多くの地に広がり始めました。しかし、教会は次第に背教に陥り、神権は継承されず途切れました。霊的な儀式を執り行う権能が地上から消滅したのです。

徐々に、靈感を受けた人々が改革を提唱するようになりました。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はそのことを、明るい夜明けと表現して、こう語っています。

「しかし、その長い暗黒の時代を経て、やっとのことでろうそくに火がともされました。ルネサンス時代の到来とともに学問、芸術、そして科学の時代が花開くのです。さらには大胆で勇敢な男女による運動が起こりました。彼らは天を仰ぎ見、神と神の御子とを認めようとしました。それがいわゆる宗教改革です。

そしてさらに幾世代もの人々がこの地上に生を受けました。その多くは争い、憎悪、暗黒、そして悪の中で生涯を送りました。しかしついに、回復というあの偉大な更新の時代が訪れました。御父と御子が少年ジョセフに御姿を現され、栄光に満ちた福音の時代の幕が切って落とされたのです。こうして世界は時満ちる神権時代の夜明けを迎えました。過去のすべての神権時代に存在したすべての善なるもの、美しいもの、神聖なものが、この最も注目すべき時代に回復されました。(『明るい夜明けだ』リアホナ』2004年5月号, 82 - 83)

栄光に満ちた最初の示現に続き、神聖な記録であるモルモン書が預言者ジョセフ・スミスに渡されました。これによって、主であり救い主であられる御方とその使命についての新たな証が地上の人々にもたらされたのです。

御父の永遠の計画を学ぶと、御父の愛に限りがないことが分かります。御父の子供たちは一人も欠けることなく、その愛を受けています。すべての人は自分の永遠の行く末を成就するために、同じ受け継ぎと平等な可能性を受けています。

モルモン書の預言者アミュレクは、キリストの御言葉はわたしたちに救いをもたらすことを証し、こう語りました。

「さて、わたしの同胞よ、あなたがたはすでに多くの証拠を得ており、聖文がこれらのことを立証しているのも知っているので、進み出て悔い改めの実を結んでもらいたい。

まことに、進み出て、もはや心をかたくなにしないでほしい。見よ、今があなたがたの救いの時であり、救いの日である。したがって、あなたがたが悔い改めて心をかたくなにしなければ、偉大な贖いの計画はすぐにあなたがたに効果を及ぼすであろう。

見よ、現世は人が神にお会いする用意をする時期である。まことに、現世の生涯は、人が各自の務めを果たす時期である。(アルマ34:30-32)

これ以上、あらゆる世の風や人の教えに吹きまわされることがないようにしましょ(エペソ4:14参照)。天は開かれ、神の永遠の計画に関する真理が再び人類に知らされたことを宣言します。わたしたちは時満ちる神権時代に生きています。聖文を通して、時の初めからこの最後の神権時代に至るまで主が子供たちに与えてこられた偉大な計画についての証が与えられている時代です。証拠はじゅうぶんに記録されています。わたしたちは、主によって子供たちのために立てられた偉大な計画を知らないまま、現世にひとり置かれてさまよっているわけではありません。主の律法に対するわたしたちの従順さに応じて、天の祝福を与えるという神聖な聖約を、御父は必ず守られます。どうぞ、忘れないでください。これらが真実であることを覚えていてください。主なる神が、この永遠の真理を明らかにしてくださいからです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

3本のタオルと 25セントの新聞

管理ビショップリック第一顧問
リチャード・C・エッジリー

正直と誠実という聖なる原則に忠実であるなら、わたしたちは自分の信仰と自身に誠実であると言えるのです。



このように世界中の巨大な聴衆の前に立ち少し不安ですが、わたしは一つの告白をします。この告白を導入にして、長年心に重くのしかかっていたテーマについてお話しします。1955年、大学1年を終えた夏休みに、ワイオミング州モランにできたばかりのジャクソン・レイク・ロッジというホテルで働きました。移動手段は14年前に製造された1941年型ハドソンでした。10年前にスクラップにされて当然の車でした。いちばんの難点は、さびで車の床面に穴が開いているため、ベニヤ板で覆っておかないと、足を道路でこすってしまうことでした。よかったのは、当時の車には珍しく、ラジエーター(訳注 車のエンジンの熱を冷却する装置)に、油ではなく水を使ってい

るところでした。でも、その冷却水がどうして減るのか、またなぜエンジンオイルがどんどん薄く、透き通っていくのかがよく分かりませんでした。

夏が終わり、185マイル(298キロ)の家路に備えて、モランでただ一人の修理工に車を見てもらうことにしました。彼は簡単に点検すると、エンジンブロックにひびがあり、漏れたラジエーターの水がエンジンオイルに混じっているとしました。エンジンオイルが薄くなる原因はそれでした。もしもガソリンタンクの方へ流れ込んでいけば、走っても走っても燃料ゲージが下がらないので、きっと燃費が良くなったんだと喜んでいただことでしょう。

さて、ここからが告白です。そんな車で奇跡的に無事帰宅すると、父がうれしそうに迎えてくれました。抱き合い、言葉を交わした後、父は後部座席に目をやり、ジャクソン・レイク・ロッジの客室用タオルが3本あるのに気づきました。そして、がっかりした顔でこう言ったのです。「お前には失望したよ。」わたしには特別悪いことをしたという意識はありませんでした。わたしにとってそのタオルは、豪華なホテルでひと夏働いた記念にすぎませんでした。けれども、タオルを持ち帰ったことで父の信頼を失ってしまい、心に大きな打撃を受けました。

次の週末、わたしは車の床にベニヤ板を固定し、ラジエーターに冷却水を補充すると、3本のタオルを返すため、ジャク

ソン・レイク・ロッジまでの往復370マイル(595キロ)の旅に出ました。父はわたしがロッジに行く訳を尋ねませんでしたし、わたしも説明しませんでした。言葉は必要なかったのです。出費も痛みも伴いましたが、わたしは正直について生涯忘れられない教訓を得ました。

悲しいことに、今日の社会に最も欠けている徳は、正直と誠実さです。ここ数年、ビジネス界の指導者が不正直やそのほかの汚職を暴かれるケースがますます増えています。その結果、長年誠実に働いてきた無数の人が、勤め口や年金を失いました。家を失い、教育やそのほかの人生設計が狂ってしまった人もいます。学校では不正が横行し、学問を修め、将来に備えることよりも、成績や卒業証書のことばかり心配しているという報道もあります。大学の医学部を不正に卒業して、実際に複雑な医療行為を行っている人について報じられることもあります。高齢者などが詐欺師の犠牲になり、家や老後の貯金を失ったという話もよく聞きます。不正直や誠実さの欠如は、いつも、貪欲、傲慢、無礼な心から生じています。

箴言にはこうあります。「偽りを言うくちびるは主に憎まれ、真実を行う者は彼に喜ばれる。(箴言12:22)

改心し、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民と呼ばれたレーマン人について、モルモンはこう記しています。「また彼らは、ニーファイの民の中にあり、神の教会に属する民の中に数えられた。さらに彼らは、神と人々に貢献する熱心さでも秀でていた。彼らはすべてのことについてまったく正直でまっすぐであり、また最後まで確固としてキリストを信じた。(アルマ27:27、強調付加)

30年程前、ある企業で働いていたころのことです。わたしは仕事上の知り合いとイリノイ州シカゴのオヘア空港の中を歩いていました。その中の一人は、会社を数千万ドルで売却したばかりでした。つまり、大金持ちでした。

新聞販売機の横を通り過ぎたとき、彼は25セント硬貨を1枚入れて扉を開け、新聞を数部取り出して、わたしたち一人一



人に配り始めました。わたしにもくれたので、わたしは自分の新聞代として販売機に25セントを入れ、相手の気分を害さずに自分の信条を伝えるために、冗談めかしてこう言いました。「ジム、25セントで誠実さを売りたいくないよ。1ドルなら、ちょっと考えるけど、25セントではね。」わたし

は、あの3本のタオルと1941年型のぼんこつハドソンの経験を覚えていたのです。数分後、またあの新聞販売機のそばを通りました。ジムは独りで販売機の所へ行って、25セント硬貨を何枚か入れていました。この話をしたのは、わたし自身を並外れた正直の模範として描くためではな

く、3本のタオルと25セントの新聞の教訓を強調するためです。

経済界、学校や家庭、そのほかどのような場所であっても、人の心が正直で満たされないかぎり、正直な行為を見ることはないでしょう。

心に残る大切な教訓はしばしば、3本のタオルや25セントの新聞のように、分かりやすい模範によって教えられます。「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」(マタイ22:39;マルコ12:31参照)や「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりによせよ」(マタイ7:12;ルカ6:31参照)という単純な教えを子供のころに受けるなら、世界はどうなるでしょうか。不正を働いた財界人が、3本のタオルや25セントの新聞のような経験を幼いときにしていたら、働き口と年金を失ったあの何千人もの人たちはどうなっていたでしょう。

正直は真のクリスチャンの生活の基本です。末日聖徒にとって、正直は主の聖なる神殿に参入するための重要な条件です。正直と誠実^{まこと}はわたしたちが神殿で交わす聖約の根幹を成します。毎週日曜日、救い主の体と血の聖なるしるしを受ける度に新たに作る基本的で神聖な聖約には、正直になるということも含まれています。末日聖徒であるわたしたちには、正直の原則を教えるだけではなく、ここに紹介した3本のタオルや25セントの新聞のささやかな例のように、原則に従うという神聖な義務があります。正直は、わたしたちの日々の生活を治める最も基本的な価値観であるべきです。

正直と誠実という聖なる原則に忠実であるなら、わたしたちは自分の信仰と自分自身に誠実であると言えるのです。

末日聖徒であるわたしたちが、世界で最も正直な人々の中に数えられるよう祈ります。アンタイ・ニーファイ・リーハイの民のように、「わたしたちも」すべてのことについてまったく正直で……確固としてキリストを信じた(アルマ27:27)と言われるよう、イエス・キリストの御名^{みな}により祈ります、アーメン。

あなたがたの幼い子供たちを見なさい

中央初等協会会長会第一顧問
マーガレット・S・リファース

こんにち
今日の世において、子供たちは……わたしたち一人一人の守りと教え、愛を必要としています。



この召しを果たす中で、何人かの新しい友人ができました。エライザは初等協会の歌を上手に歌います。ルーカスはスペイン語で信仰箇条を覚えています。ケイトリンは恥ずかしがり屋ですが、好奇心旺盛です。マーサは隣に座ると、腕を組んできてくれました。子供たちの顔には福音の光が輝いています。

皆さんの家庭や近所にはどんな子供たちがいますか。彼らを見て、彼らのことを考えてみてください。救い主は、神の王国に入るには子供のように「従順で、柔和で、謙遜^{けんそん}で、忍耐強く、愛にあふれた者」となる必要があると教えておられます(モーサヤ3:19)。

しかし、どんなに深い信仰をもってわ

たしたちのもとに来て、子供たちは邪悪な世のチャレンジに直面します。子供たちの目に信仰の光を輝かせ続けるにはどうしたらよいでしょう。子供の人生にとって、義にかかった家族に取って代わるものはありません。しかし、今日の世において、子供たちは献身的な母親と父親だけでなく、わたしたち一人一人の守りと教え、愛を必要としています。

兄弟姉妹の皆さん、子供たちを守るとは、生活に御霊^{みたま}を招き、心の中で御霊を確認できるような環境を提供してあげることです。それは同時に、いかなる無関心、無視、虐待、暴力、搾取などとも無縁の生活を意味します。

世の悪がますます深刻化する一方、その他の有害な状況からも、子供たちを守るべきです。それには、いきすぎた期待やあきらめ、過保護、忙しすぎるスケジュール、自己中心的な態度などがあります。厳しすぎても、甘やかしすぎても、子供たちが聖霊を認識し、信頼し、その導きを受け取る能力を鈍らせてしまいます。

子供たちは、ほかのどの年代の人よりも福音の真理に対して柔軟です。ですから、最も守られている子供時代は、彼らに正義を選ぶように教え、強めるうえで、文字どおり一生で一度の大切な時期なのです。

教えるべきことは簡単に分かります。聖文と預言者の言葉には、子供たちに何を教えるべきかがはっきりと記されている



からです。ニーファイは次の聖句でこう要約しています。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、.....どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせる。」(2ニーファイ25:26)

キリストとその福音について教えるべきだということは分かりました。ではどのように教えたらよいでしょうか。預言者の勧告に従って、家族の祈り、聖文研究、家庭の夕べの時間を取ることから始めましょう。その勧告はもう何度も耳にしている、簡単すぎるでしょうか、あるいはあまりに忙しすぎて、これ以上すべきことを増やすのは難しいでしょうか。家族での礼拝が思うようにできないときも、ただ従順に従うことによって、主の祝福を招くことができると証します。

実際に、生活のあらゆる場面で従順になり、模範を示すことは、子供に福音を教える最高の教訓となります。ですから、福音を学んで、実践してください。自分が知らない、または従っていない原則を教えることはできません。子供たちは想像以

上に早く、わたしたちの人格や心の思いを見分けます。

ですから、子供たちを愛してください。わたしは子供のころ、愛をいっぱい感じていました。そのおかげで、救い主がわたしを愛してくださっていると簡単に信じてことができました。両親が、「愛と義をもって子供たちを育てる」.....神聖な義務」があることを理解している家庭において、子供たちはすばらしい成長を遂げます(『家族 世界への宣言』『リアホナ』2004年10月号、49)。

けれども、すべての人が助けになれます。周りの子供たちを心に留め、名前を覚えてください。話しかけ、耳を傾け、励まし、導き、良い関係を築き、仕え、証を分かち合ってください。皆さんの愛によって、子供を救い主の愛に導く助けができるのです。

バシリーは多くの時間を路上で過ごし、真理を見いだすにも両親の助けはありません。この教会の小さな支部を地元で見つけたバシリーは、教会で行われる活動にすべて参加しました。また、バシリーに連れられて3人の弟も教会に集い、ほか

の友達も初等協会に来るようになりました。会員ではないこの男の子たちの集う支部が、この地域でいちばん大きな初等協会となったこともあります。彼らは真理に引き寄せられ、その顔は福音の光に照らされて輝き始めました。少年たちはこの小さな支部のすべての会員、青少年、ヤングアダルト、宣教師、教師、そして神権指導者から温かい歓迎を受け、守られ、教えと愛を受けています。皆さんの近所や初等協会の子供たちについて考えてください。支部やワードには、どんな子供たちがいますか。バシリーのように、皆さんを必要としている子供がいるのではないのでしょうか。

この少年たちや、彼らのような子供たちについて考えるとき、救い主がアメリカ大陸に来られたときの記述から大きな希望を得ます。救い主が御姿を現される前、大嵐や地震、火事が起こり、3日間、深い暗闇に包まれました(3ニーファイ8章参照)。わたしはしばしば、その場にいた子供たちのことを考えます。そのとき両親が感じた恐れや不安はどれほどのものだったでしょう。

救い主は御姿を現されると、群衆に「幼い子供たちを連れて来るように命じられ」ました(3ニーファイ17:11)。両親はどれほど子供たちを救い主のもとへ連れて行きたいと願ったことでしょう。そして彼らは、救い主が子供たちのために涙を流され、一人一人を……祝福し、彼らのために天の御父に祈り、天使を遣わして教えを授けさせられたのを目の当たりにしたのです(3ニーファイ17:21, 24参照)。この部分を読むとき、救い主こそが偉大な守り手であり、究極の教師、愛と癒しの永遠の源であられることを思い出します。

わたしたちはまた、暗闇に囲まれた現代にあって、子供たちを救い主のもとに連れて来るよう命じられています。パレード長老が語ったように、「現代の子供たちを、愛と信仰の炎と、子供たちの真の属性を理解する心で包み込むよう神から任じられているのは、わたしたちなのです。〔「汝らの子供たちを見よ」聖徒の道』1994年10月号, 40参照)

兄弟姉妹、わたしは母親と初等協会の指導者として、子供たちと接するこの業が容易ではないことを知っています。子供たちを守り、教え、愛することは、大変な仕事であり、落胆し、時には疲れて、努力の結果を見るのはずっと先になることも多々あります。しかし、子供たちを救い主のもとに連れて来るのが難しいからこそ、わたしたち自身がみもとに行かなければならないのです。

主と主の御霊による助けを求めるなら、奇跡を見るでしょう。自分自身の心が変化し、わたしたちも「従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者」となるのを感じるでしょう(モーサヤ3:19)。自分自身の顔に福音の光を輝かせ、救い主が言われた次の言葉の意味を理解しましょう。「また、だれでも、このようなひとりの幼な子を、わたしの名のゆえに受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。〔マタイ18:5)

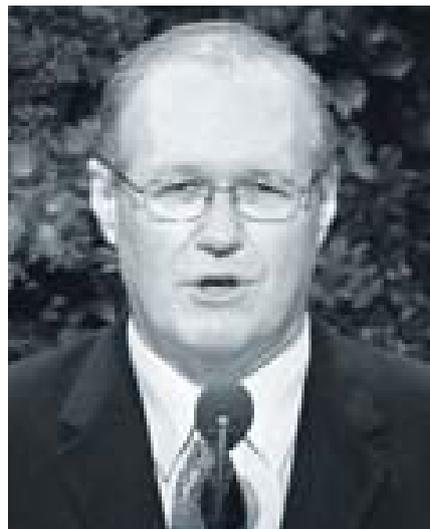
わたしは救い主を愛しています。主はわたしと皆さんと子供たちを贖う力を持っておられます。イエス・キリストの御名により、アーメン。

「大きな驚くべき愛」

七十人

アンソニー・D・パーキンス

天の御父とイエス・キリストの完全な愛を信じる幼子のような信仰は、無力さや不完全さ、罪悪感というサタンのを「断つ」のです。



「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる」¹と、清い信仰を持つ子供たちは宣言します。しかし、青少年や大人は、この簡潔な宣言の持つ力を感じていないことがあります。

サタンは「あらゆる義の敵」²で、神会の属性や神会と義人との関係に疑念を植え付けます。イエス・キリストは、末日には選民でさえも惑わされると預言しておられます。³ ルシフェルがどのように「神の聖なる人々を捕らえるために、わなと落とし穴を仕掛けている」⁴か、3つの事例を挙げて考えてみましょう。

自分は不十分だという落とし穴。忠実な若い人々は、周りの期待にこたえられなと感じてしまうことがあります。家でも学校でも、褒められることはめったにありませんが、批判は度々されます。少女たちの耳にはメディアに乗って、自分は大きく美

しくもないし、賢くもないと聞こえてきます。この義にかなった姉妹は連日、自分が天の御父の愛や救い主の贖いの犠牲、そして御霊の絶えざる導きを受けるにふさわしい者なのだろうかと自問します。

自分の不完全さを誇張する落とし穴。すばらしい宣教師が神の期待にこたえられないと感じてしまうことがあります。このふさわしい長老の思いには、不変の正義を実行する厳しい天の御父や、ほかの人の罪は清めても自分の罪は清めてくださらない救い主、そして不完全な人の伴侶となることを好まれない聖霊が描かれているのです。

不必要な罪悪感を抱く落とし穴。ある中年の女性は、献身的な母親であり、愛の深い友人であり、教会の忠実な僕です。神殿にも頻りに参入しています。しかし心の奥では、何年も前に犯した罪について、悔い改めて神権指導者との間でじゅうぶんな解決をしているにもかかわらず、自分を赦すことができないでいます。そして、自分の人生は主に受け入れられるのだろうかという疑問を持ち、天の御父の御前に出て永遠の命を得るとい希望を失っているのです。

もし皆さんの中にこれらの善良な聖徒と同じように思い、感じている人がいるならば、幼子のようになって「贖い主のこの世への来臨に当たって御父と御子が示された大きな驚くべき愛」⁵を再び感じるように勧めます。天の御父とイエス・キリストの完全な愛を信じる幼子のような信仰は、無力さや不完全さ、罪悪感というサタンのわなを「断つ」⁶のです。



箴言では、「人となりは、その心に思うそのままである」⁷と教えられています。絶えず祈ること、聖文研究、教会に出席し神殿に参入することに加えて、皆さんが神の優しい愛をもっと感じるために、考えや思いを変える5つの項目を提案します。

第1は、自分は愛にあふれた天の御父の大事な子供であると認識することです。子供たちは確信をもって「神の子です、わたしやあなた」⁸と歌います。皆さんが恐らくは忘れていたことを、幼い子供たちは感じ、また知っているのです。皆さんは天の御父の愛する息子、娘であり、「神のかたちに」⁹創造されました。皆さんにはイエス・キリストが命を犠牲にされたほど、計り知れない価値があるのです。

父なる神は慈悲深く、たとえ欠点があっても、皆さんを限りなく愛しておられます。自分に価値がないと思わせるのは、サタンの声だけです。対照的に聖霊は、「神のみこころに添うた悲しみ」¹⁰を経て積極的に変わりたいという希望に満ちた悔い改めの気持ちを与えてくださいます。

自分は価値がないと感じたら、「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えて」¹¹ください。自分を否定するような考えや言葉を繰り返すのはやめましょう。謙遜けんそんと卑下は明らかに別物です。弱点にこだわるよりも、自分にしかない才能を見つけて、使ってください。

第2は、重荷をイエス・キリストに負っていただくことです。期待や試練に押し

つぶされそうになったら、独りで戦ってはなりません。幼い子供の模範なまに倣って、ひざまずいて祈りましょう。

イエス・キリストは、「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない」¹²と命じられました。疑いや恐れ、心配は、人生の重荷や不安をすべて自分で背負っているしるしです。自分は無力だという思いに悩まされている人は、「わたしを強くして下さい(キリスト)によって、何事でもすることが出来る」¹³と自信をもって言ってください。そして「皆さん」の力のかぎりすべてのことを喜んで行¹⁴うならば、あとは主が引き受けてくださり、物事はうまく運ぶと確信を持っていられるでしょう。

救い主は、「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」¹⁵と約束されました。皆さんが「荷を主にゆだね」¹⁶るなら、御霊みたまによる平和を感じるでしょう。¹⁷

第3は、自分の罪や欠点を赦すことです。天の御父はこの世で完全になるよう要求されるわけではありません。御父は、子供たちが現世で経験を通して学ぶときには過ちを犯すことを御存じです。しかし「神は……この世を愛して下さった」¹⁸なので、幸福の計画の中で憐れみ深い救い主を備えてくださったのです。

イエスは言われました。「主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しか

し、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。」¹⁹自分を赦すことから始め、ほかの人も赦してください。わたしたちが悔い改めた罪を神が忘れてくださるとしたら、²⁰なぜわたしたちが覚えていなければならないのでしょうか。過去を思い出して時間や労力を無駄にしてはなりません。

自分や人を赦すためには、イエス・キリストの贖いを信頼しなければなりません。預言者ゼノクは、「おお、主よ、あなたが御子のゆえにこの民にかけてこられた憐れみを、この民が理解しようとしないので、あなたはこの民のことを怒っておられます」²¹と祈りました。わたしたちが御子による贖いの犠牲の力を限定すると、天の御父は悲しまれます。イエス・キリストへの信仰を実践するなら、罪は「ぬぐい去られ」²²ます。心から悔い改めた後でも罪悪感が残るなら、あなたをふさわしいと宣言した神権指導者を信じてください。²³

第4は、永遠の命への希望を持ち続けることです。もし自分が過去に犯した罪、性格的な欠点、誤った決定などのために、神のすべての祝福を受けることができないと考えているならば、父アルマのことを考えてください。邪悪なノア王の義に外れた祭司だった若き日々を引き合いに出して、「わたし自身もわなにかかり、主の目から見て忌まわしいことをたくさん行い、つらい悔い改めをした」²⁴と、認めています。にもかかわらずアルマは完全に悔い改め、



キリストの贖いが無限であったために、アルマは預言者になり、永遠の命の約束を受けました。²⁵ 最善を尽くして従順になって悔い改めるなら、イエス・キリストの贖いと恵みによって日の栄えの王国に場所を得ることができるのです。²⁶

第5は、日々喜びを見いだすことです。喜びをもたらすものの一つに奉仕があります。周囲の人を助けるのに忙しければ、自分の欠点を悩むことは少なくなります。救い主は賢明にもおっしゃいました。「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。」²⁷

人が思う悲観主義を一掃し、幼子のような楽観主義に置き換えるなら、生涯大きな喜びを感じるでしょう。物事を楽観するのは、生活の隅々に神の愛の御手を認められるという長所です。よく歌われる賛美歌に、「み恵み数えあげ 主のみ業ほめたたえよ」²⁸ とあります。

天の御父が大きな愛を子供たちに示してくださることを証します。^{あかし} イエス・キリストが、無力さや不完全さ、罪から「人を救う力を備えておられる」²⁹ ことを証します。聖霊が、不完全でも悔い改めた人の伴侶となってくださることを証します。悪魔がかける末日のわな³⁰ と葛藤^{かくとう}している忠実でふさわしい聖徒の皆さん、「神があなたが

たのために、神の御子の喜びによって重荷を軽くしてくださるように」祈ります。³¹ イエス・キリストの御名^{みな}によって、アーメン。

注

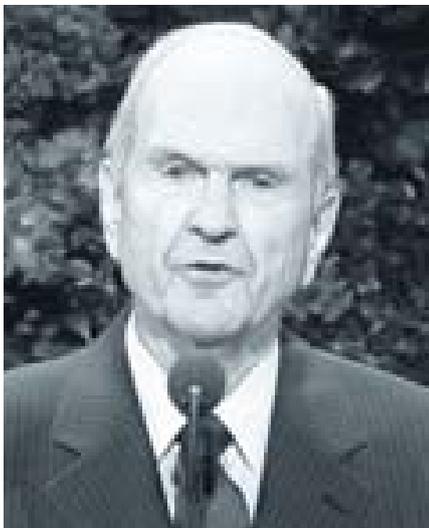
1. 信仰箇条 1:1
2. アルマ 34:23; 使徒 13:10; モーサヤ 4:14; モロナイ 9:6 も参照
3. マタイ 24:24 参照。ジョセフ・スミス・マタイ 1:22, 37 も参照
4. アルマ 10:17
5. 教義と聖約 138:3
6. ヒラマン 3:29
7. 欽定訳箴言 23:7 から和訳
8. 「神の子です」『賛美歌』189 番
9. 創世 1:27。アルマ 22:12; エテル 3:15 - 16; 教義と聖約 20:17 - 18; モーセ 6:8 - 10; アブラハム 4:26 - 27 も参照
10. 2コリント 7:10
11. 教義と聖約 18:10
12. 教義と聖約 6:36。イザヤ 41:10; マタイ 10:31; ルカ 8:50; 教義と聖約 50:41; 122:9 も参照
13. ピリピ 4:13。2コリント 12:7 - 10; ヘブル 11:33 - 34; 1ニーファイ 7:12; 17:3; モルモン書ヤコブ 4:7; アルマ 26:12; エテル 12:27 も参照
14. 教義と聖約 123:17

15. マタイ 11:28
16. 詩篇 55:22
17. ガラテヤ 5:22 参照。教義と聖約 19:23 も参照
18. ヨハネ 3:16.
19. 教義と聖約 64:10
20. 教義と聖約 58:42 参照。詩篇 25:7; イザヤ 43:25; エレミヤ 31:34; ヘブル 8:12; 10:17; アルマ 36:19 も参照
21. アルマ 33:16
22. エノス 1:3 - 8 参照。アルマ 24:10; 36:16 - 19 も参照
23. 「ふさわしさについて」『聖徒の道』1989年7月号, 22 - 24 参照
24. モーサヤ 23:9
25. モーサヤ 26:20 参照
26. テトス 3:7; 1ペテロ 5:10; 2ニーファイ 2:6 - 8; 10:24 - 25; 25:23; エノス 1:27; モロナイ 7:41; 教義と聖約 138:14 参照
27. マルコ 8:35。アルマ 36:24 - 25 も参照
28. 「み恵み数えあげ」『賛美歌』153 番
29. 2ニーファイ 31:19。イザヤ 63:1; アルマ 7:14; 34:18; 教義と聖約 133:47 も参照
30. 2テモテ 2:26 参照
31. アルマ 33:23

散らされた イスラエルの集合

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン

わたしたちは幕の両側で、主の選民を集めるのを手伝っているのです。



愛する兄弟姉妹、皆さんの信仰、献身、そして愛に感謝します。わたしたちは主が望まれている人物になり、主が望まれていることを行うという非常に大きな責任を共有しています。わたしたちは散らされたイスラエルを集めるという偉大な業きょうに携わっています。今日はこの教義について話します。なぜなら、イスラエルの集合は神の永遠の計画において特別に重要な意味を持っているからです。

アブラハムの聖約

古代において、主は父祖アブラハムに、その子孫を選ばれた民にすると約束されました。¹ この聖約に関する聖句は、聖文の至る所にあります。この聖約には、アブラハムの血統に神の御子がお生まれにな

ること、特定の地が受け継がれること、そしてアブラハムの子孫によって地上の国民と種族が祝福されることなどが含まれます。² その聖約の幾つかはすでに成就していますが、このアブラハムの聖約は末日においてのみ成就する、とモルモン書には記されています。³ また、モルモン書には、わたしたちが主の聖約の民に含まれていることも強調されています。⁴ これらの約束の成就に個人的に携われることは、わたしたちの特権です。何とすばらしい時代に生きているのでしょうか。

イスラエルの散乱

古代イスラエルの部族は、アブラハムの子孫として神権の権能と福音の祝福を受けていましたが、次第に背いていきました。彼らは預言者たちを殺し、そのために主に罰せられました。10の部族はアッシリアに捕らわれていきました。それ以降、彼らは人類の歴史記録から姿を消し、失われてしまいました。(主の目には「失われて」いないことは明らかです。)残りの二つの部族は短い間存続し、その後、背いたためにバビロンに捕らえられていきました。⁵ バビロンから戻ったとき、彼らは主の厚い恵みを受けましたが、そのときも主を敬いませんでした。愛にあふれる御父は悲しみながらこのようにはっきりと言われました。「わたしはあなたがたを国々の間に散らす」。⁶ 主はそのとおりに、彼らをあらゆる国々へ散らされました。

イスラエルの集合

散らされたイスラエルを集めるという神の約束も同じように明確なものです。⁷

例えば、イザヤは末日において、「散らされ、はぎ取られた」それらの民に、主が「とく走る使者」を送られるのを予見しました。⁸

聖典の随所に記されている集合に関するこの約束は、イスラエルの散乱に関する預言と同じように確かに成就するでしょう。⁹

時の中間におけるイエス・キリストの教会と大背教

十字架におかかりになる前に、主イエス・キリストは御自身の教会を設立されました。教会には、使徒、預言者、七十人、教師などがおり¹⁰、主は御自身の福音を宣べ伝えるために弟子たちを世に遣わされました。¹¹

しばらくすると、主によって建てられた教会に霊的な腐敗が生じました。主の教えは曲げられ、儀式が変えられました。そして「まず背教のことが起おこらなければ」、主が再臨されないことを知っていたパウロが預言したように、大背教が起こりました。¹²

この大背教は、過去の各神権時代を終わらせたのと同じ足跡をたどりました。最初の神権時代はアダムの時代でした。それからエノク、ノア、アブラハム、モーセへと続きました。それぞれの預言者は、主イエス・キリストの神性と教義を教える使命を負っていました。各神権時代において、これらの教えは人々を助けるために与えられました。しかし、人々の不従順さが背教を生んだのです。そのため、過去のすべての神権時代はその期間と場所が限定されていました。それぞれの神権時代が背教で終わったため、一定の期間と、この地球の比較的小さな区域に限定されていたのです。

万物の回復

このため、完全な回復が必要でした。父なる神とイエス・キリストは、この神権時代の預言者としてジョセフ・スミスを召され



バハマ・ナッソーの集会所に集まった会員と宣教師たち。

ました。過去の神権時代に存在した、神から与えられるすべての力がジョセフ・スミスによって回復されました。¹³ この時満ちる神権時代は、時期や場所が限定されません。背教で終わることはなく、世界中を真理で満たすのです。¹⁴

イスラエルの集合 万物の回復において不可欠な事柄

ペテロとパウロが預言したように、すべてのものがこの神権時代で回復されることになっていました。ですから、その回復の一部として、長い間待っていたイスラエルの集合が起きなければならないのです。¹⁵ イスラエルの集合は、主の再臨の先駆けとして必要なものです。¹⁶

集合の教義は、末日聖徒イエス・キリスト教会の重要な教えの一つです。主はこう宣言されました。「わたしが自分の民、イスラエルの家を長年の離散した状態から集めて、彼らの中に再びわたしのシオンを設ける(ことの).....一つのしるしをあなたがたに示そう。」¹⁷ モルモン書の出現は、主がイスラエルを集め、アブラハム、イサク、ヤコブと交わされた聖約を成就し始められたことを全世界に示すしるしです。¹⁸ わたしたちはこの教義を教えるだけでなく、それに携わっています。幕の両側で主の選民を集めるのを手伝うことで、この業に携わっているのです。

モルモン書はこの業の中心を成しています。集合の教義を宣言し、¹⁹ また、イエ

ス・キリストについて学び、主の福音を信じ、教会に加わるよう人々を促します。

実際のところ、もしモルモン書が出現しなければ、約束されているイスラエルの集合は起きないのです。²⁰

わたしたちにとって、アブラハムという荣誉ある名は重要なものです。この名は聖書のすべての聖句よりも、回復された聖文の中に数多く登場します。²¹ アブラハムは末日聖徒イエス・キリスト教会のすべての会員と結び付いています。²² 主は預言者ジョセフ・スミスを通して、現代に再びアブラハムの聖約について明言されました。²³ わたしたちは神殿の中で、アブラハム、イサク、ヤコブの子孫として究極の祝福を受けます。²⁴

時満ちる神権時代

この時満ちる神権時代は神により、天と地の両方において集合する時代として予見されていました。ペテロは、大背教時代の後に回復が訪れることを知っていました。主とともに変貌の山にいたペテロはこう宣言しました。

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、.....

神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかれねばならなかった。」²⁵ 近代では、使徒のペテロ、ヤコブ、

ヨハネが「終わりの時代のために、また天にあるものと地にあるものすべてを一つに集める時満ちる時代のために、(主)の王国の鍵と福音の神権時代」を携えて主から遣わされました。²⁶

1830年に、預言者ジョセフ・スミスは「万物の回復」をもたらす鍵を持つ、エライアスという名の御使いについて知らされました。²⁷

6年後、カートランド神殿が奉献されました。主がその聖なる宮を受け入れられた後、天使たちが神権の鍵を持って訪れました。モーセが現れて²⁸「地の四方からのイスラエルの集合と北の地からの十部族の導きの鍵を.....ゆだねた。

この後、エライアスが現れ、わたしたちと子孫によってわたしたちの後の時代のすべての者が祝福を受けるであろうと述べて、アブラハムの福音の神権時代をゆだねた。」²⁹

それから預言者エリヤが来て、こう宣言しました。「見よ、マラキの口を通して語られたときがまさに来た。.....主の大いなる恐るべき日が来る前に彼(エリヤ)が遣わされ、先祖の心を子孫に、子孫の心を先祖に向けさせ、全地がのろいをもって打たれることのないようにする。」³⁰

これらの出来事は1836年4月3日に起き、³¹ マラキの預言を成就しました。³² この神権時代の神聖な鍵が回復されたのです。³³

幕の向こう側で壺を集める

憐れみにより、「キリストのもとに来る」³⁴ という招きは福音を知らずに亡くなった人々にも差し伸べられます。³⁵ 死者がみもとに来る備えをするには、他の人々の地上での働きが必要になります。わたしたちは個人を、主とその家族のもとに集めるために系図を集め、家族の記録を作成し、身代わりで神殿の業を行います。³⁶

集合の業に携わる 聖約による責任

この地上において、伝道活動はイスラエルの集合に欠かせません。福音はまず「イスラエルの家の失われた羊」に伝えられることになっていました。³⁷ それに従い、

主の僕たちは出て行って、回復を宣言しました。教会の宣教師たちは多くの国で散らされたイスラエルを探してきました。古代と同じように、彼らを岩の裂け目から狩り出し、すなわち探してきました。³⁸

キリストのもとに来るといふ選択は、物理的な場所の問題ではありません。個人の献身の問題なのです。人々は郷里を離れることなく「主……を知るようにな」³⁹ります。教会初期の時代、改宗はしばしば移民をも意味しました。しかし今日では、それぞれの国に民が集められます。主は聖徒たちに、各々の生まれた国においてシオン⁴⁰を打ち立てよう命じられました。聖文には、人々が「彼らの受け継ぎの地に集め戻され、彼らに約束されたすべての地に定住する」⁴¹と預言されています。「各国はその国民のための集合場所です。」⁴² ブラジルの聖徒の集合地はブラジル、ナイジェリアの聖徒の集合地はナイジェリア、韓国の聖徒の集合地は韓国なのです。シオンは「心の清い者」です。⁴³ 義にかなった聖徒がいる場所ならどこでもシオンです。各言語での出版物や、通信網の発達、集会所の建設のおかげで、ほとんどすべての会員が、居住している地域に関係なく、福音の教義、鍵、儀式、祝福を受けることができるようになってきました。

霊的な安全は、わたしたちの住む場所ではなく、生き方にかかっています。各国の聖徒たちは、主の祝福に対して同等の権利を得ることができるのです。

全能の神によるこの業は真実です。主は生きておられます。イエスはキリストです。この教会は、約束されたイスラエルの集合を含め、その神聖な目的を果たすために回復されたのです。ゴードン・B・ピンクレー大管長は今日の神の預言者です。イエスキリストの御名により証します、アーメン。

注

1. 創世12:1-2;教義と聖約132:29-32;アブラハム2:6-11参照
2. 創世26:1-4, 24, 28;35:9-13;48:3-4;ヨハネ8:33, 39;使徒3:25;1ニーファイ17:40;2ニーファイ29:14;モルモン書ヤコブ5章;エテル



- 13:7-8;教義と聖約52:2参照
3. 例として、1ニーファイ15:12-18参照
4. 1ニーファイ14:14;15:14;2ニーファイ30:2;モーサヤ24:13;3ニーファイ29:3;モルモン8:15;教義と聖約133:26-34参照
5. レビの部族は民の間に祭司を提供したため、部族として数えられることはなく、部族としての受け継ぎもなかった。ヨセフの二人の息子、マナセとエフライムは受け継ぎの土地を与えられた。この二人はヨセフの代わりに部族の中に数えられた。これにより、十二部族の数は保たれた。
6. レビ26:33;エレミヤ9:16も参照
7. 創世22:16-18;3ニーファイ20-22章;アブラハム2:10-11参照
8. 欽定訳イザヤ18:2, 7から和訳
9. レビ26:44;申命4:27-31;28章;29章;30:2-5;ネヘミヤ1:9;イザヤ11:11-12;エレミヤ31:7-8, 10-12;エゼキエル37:21-22;アモス9:14-15;マタイ24:31;モルモン書ヤコブ6:2参照。ラッセル・M・ネルソン「出エジプトの再現」『リアホナ』2002年4月号, 30-39も参照
10. ルカ10:1, 17;エペソ4:11;信仰箇条1:6参照
11. マタイ28:19-20;マルコ16:15参照
12. 2テサロニケ2:3。英語の「Falling away(背教)」は「apostasy(背教)」という意味の「apostasia」から訳されている。
13. 教義と聖約128:18;132:45参照
14. イザヤ27:6参照
15. 1ニーファイ15:18参照;モルモン書タイトルページ, 第2段落も参照
16. 教義と聖約133:17参照
17. 3ニーファイ21:1
18. 創世12:2-3;26:3-4;35:11-12;および3ニーファイ21, 29章の前書きを参照
19. イスラエルの家の散乱と集合に関する教義は、モルモン書で教えられている最初の教えの一つである。「イスラエルの家は散らされてから、再び集められる。……オリーブの木の自然の枝、すなわちイスラエルの家の残りの者たちは接ぎ木される。すなわち彼らの主であり贖い主であるまことのメシヤを知るようになる。(1ニーファイ10:14)
20. ブルース・R・マッコンキー, *A New Witness for the Articles of Faith*, 1985年, 554参照
21. アブラハムは聖文の506か所(節)に登場する。聖書には216か所あり、回復された聖文には290か所ある。
22. 聖約は養子縁組によっても受けられる(マタイ3:9;ルカ3:8;ガラテヤ3:26-29;4:5-7;アブラハム2:9-10参照)
23. 教義と聖約124:58;132:31-32参照
24. 教義と聖約84:33-40;132:19;ア

ブラハム2:11参照

25. 使徒3:19, 21
26. 教義と聖約27:13. パウロはまたこう預言している。「時の満ちるに及んで……神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされる」。〔エペソ1:10〕
27. 教義と聖約27:6
28. 神の子供たちを最初に受け継ぎの地に導いたモーセが、回復された教会にイスラエルの集合の鍵をゆだねたことは適切であった。モーセは変貌の山でペテロ、ヤコブ、ヨハネのもとに来て、彼らの時代に同じ神権の鍵を授けた。1840年の教会の大会で、預言者ジョセフ・スミスはオーソン・ハイドにエルサレムへ行き、ユダヤ人と散らされたイスラエルの帰還のためにその地を奉獻するように任命した。⁴⁴ 1841年10月24日の日曜、ハイド長老はオリブ山の上でひざまずき、ユダヤ人とイスラエルが先祖の受け継ぎの地に集合するように、その地を奉獻した。
29. 教義と聖約110:11 - 12
30. 教義と聖約110:14 - 15
31. モーセ、エライアス、エリヤが過ぎ越しの始まりである復活祭の日曜日に訪れたことには重要な意味がある。
32. マラキ4:5 - 6
33. 教義と聖約110:16参照
34. モルモン書ヤコブ1:7; オムナイ1:26; モロナイ10:30, 32; 教義と聖約20:59
35. 教義と聖約137:6 - 8参照
36. 1コリント15:29; 1ペテロ4:6参照
37. マタイ10:6; 15:24
38. エレミヤ16:16参照
39. 3ニーファイ20:13
40. 教義と聖約6:6; 11:6; 12:6; 14:6参照
41. 2ニーファイ9:2
42. ブルース・R・マッコスキー, Conference Report, メキシコおよび中央アメリカ地域総大会, 1972年, 4参照
43. 教義と聖約97:21
44. 2ニーファイ9:2; 10:7 - 9; 25:16 - 17, 20; 3ニーファイ21:22 - 28; 教義と聖約29:7 - 8参照

山を動かす信仰

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちが最も必要としているのは、さらなる信仰です。信仰がなければ、^{みわざ}御業は止まってしまいます。信仰があれば、だれもその進歩を止めることはできません。



兄 弟姉妹の皆さん、まず個人的な話をさせてください。

教会の大管長は教会全体のものです。その命は自分のものではありません。大管長の使命は仕えることです。

皆さんも御存じのとおり、わたしも大分年をとってきました。6月に96歳の誕生日を迎えました。わたしの健康のことで、たくさん憶測が飛び交っていることを知りました。きちんと話させてください。あと数か月長く生きることができれば、わたしはこれまでのどの大管長より長生きしたことになります。高慢な気持ちで言っているわけではありません。感謝しているのです。今年の1月、わたしは大きな手術を受けました。今まで病院にかかることがなかったわたしにとっては、^{せううつ}憂鬱な経験でした。手術後、さらに治療を受けるべきか考えました。わたしは受けることを

選択しました。医師たちによると、その結果は奇跡的だったようです。皆さんが祈ってくれたおかげで、良い結果が得られたのだと知っています。心から感謝しています。

主はわたしが生き長らえるのをお許しになられました。あとどれくらい生きられるかは分かりません。しかし、それがどれくらいであっても、わたしは最善を尽くして自分の任務を果たし続けます。この大規模で複雑な教会を管理するのは容易なことではありません。けれども、大管長会が見すごすものは何もありません。大管長会の承認なしで大きな決定がされたり、資金が使われたりすることはありません。それだけに、責任もストレスも大きいのです。

しかし主がお望みになるかぎり、わたしたちは前進して行きます。4月にも話したように、わたしたちは主の御手の内にあり、主の御心はわたしたちの思いです。わたしは元気ですし、わたしの健康状態は比較的良好です。しかし、もし後継者の時が来るなら、引き継ぎは円滑に、そしてこの教会の頭である主の御心のままに進められるでしょう。ですから、わたしたちは信仰をもって進みます。そのことについて、今朝皆さんにお話しします。

この教会はその初期から、信仰をもって前進して来ました。信仰は預言者ジョセフの強さでした。

森で祈るようジョセフを駆り立てた信仰に感謝しています。またジョセフの信仰によって、モルモン書が翻訳され、出版され

たことに感謝しています。またジョセフが祈った結果、主の答えとしてアロン神権とメルキゼデク神権が授けられたことに感謝しています。ジョセフが信仰によって教会を組織し、正しい方向へ導いてくれたことに感謝しています。そして、この真理の御業に対する証として命をささげたジョセフに感謝しています。

信仰はブリガム・ヤングを動かす力でもありました。わたしは、非常に多くの聖徒をソルトレーク盆地に定住させたブリガム・ヤングの信仰についてよく考えます。彼はこの地域について、ほとんど知りませんでした。示現でしか見たことがなかったのです。恐らく、当時のわずかな情報を基に調査を行ったことでしょうか、土壌や水質、気候については、ほとんど何も分かりませんでした。それでも最初に見たとき、ブリガムはためらうことなく「まさにこの地です、さあ、行きましょう」と言いました（B・H・ロパーツ、*A Comprehensive History of The the Church*, 第3巻, 224）。

教会の大管長も、皆信仰がありました。ひどい逆境の中でも、彼らは信仰をもって前進しました。作物を食い荒らすバッタや干ばつ、遅霜に遭ったときも同じでした。連邦政府からの迫害に対しても同じでした。さらに近年では、各地での津波、地震、洪水の被災者に対して緊急に人道支援を行う必要があったときも、いつも同じでした。福祉倉庫の物資を供給してきたのも、教会内外の困窮者に向けて多額の義援金を送付できたのも、すべて信仰があったからです。

今年は、皆さんも知っているとおり、教会歴史において記念すべき年です。ウィリー手車隊とマーティン手車隊、そして彼らとともに旅したハント荷車隊とホジェット荷車隊が到着してから150年がたったのです。

彼らについては多くが記されているため、詳しく語る必要はないでしょう。皆さんはよく知っていると思います。少しでも申し上げるなら、信仰をもって、イギリスからグレート・ソルトレーク盆地への長い旅を始めた人々の話です。彼らは、前途に何が待ち受けているか、ほとんど知り



ませんでした。それでも前進したのです。彼らは大きな期待を胸に旅を始めました。しかし、その期待は西部に近づくにつれ、裏切られていきました。プラット川沿いの単調な旅路から、スウィートウォーター盆地へと進むにつれ、多くの人が亡くなっていきました。食糧の配給は制限され、牛は死に、手車は壊れました。満足の寝具も衣服もなく、嵐が猛威を振るいました。避難できる場所を探しましたが、見当たりませんでした。嵐が彼らを打ちのめしました。彼らは文字どおり餓死寸前でした。多数の死者が出て、凍りついた地面に埋葬されました。

そのとき幸いにも、イギリスから戻って

来たフランクリン・D・リチャーズが通りかかりました。リチャーズ兄弟は馬に乗り、荷物が少なかったため、ずっと速く旅することができ、先に盆地に到着しました。ちょうどこの季節のことです。総大会が行われていました。知らせを聞いたブリガム・ヤングは、すぐさま会衆の前に立ち、こう言いました。

「わたしは、これから大会で話をする長老たちに代わって、教会員に申し上げたいことがあります。1856年10月5日の今日この時に、大勢の兄弟姉妹が、平原を手車でこちらに向かっています。ほとんどの人は、ここから1,100キロほど離れた所にいます。彼らをここへ連れて来なけれ



ばなりません。援助を送る必要があります。わたしが申し上げたいのは、彼らをここへ連れて来てほしいということです。話をする予定だった兄弟たちに申し上げます。平原に取り残されている人々がいます。このコミュニティーに今日求められていることは、冬が訪れる前に、彼らをここへ連れて来るということです。……

わたしは、ピショップの皆さんに心からお願ひします。明日やその翌日まで待つつもりはありません。60組の元気なラバと12台から15台の荷車が必要です。牛は要りません。必要なのは元気な馬とラバです。この準州内にいる元気な馬とラバを、ぜひ集めなければなりません。また、12トンの小麦粉と、良い御者を40人そろえる必要があります。……手綱のついた、60組から65組のラバか馬が必要なのです。……

皆さんに申し上げます。わたしが今話しているような原則を実行に移さないかぎり、皆さんの中で、その信仰、宗教、信仰の告白によって神の日の栄えの王国に救われる人はだれもいないでしょう。行って、今平原にいる人々を連れて来てください。そして俗事とも思われるこれらの事柄に厳密に従ってください。そうしな

ければ、信仰は無に帰するでしょう。これまで聞いてきた教えもむなしものとなるでしょう。わたしたちが願ひするこれらのことを行わないかぎり、皆さんは救われないでしょう。(Deseret News, 1856年10月15日, 252)

直ちに馬とラバと丈夫な荷車が差し出されました。大量の小麦粉も提供されました。暖かい衣服と寝具もすぐに用意されました。翌日から翌々日には、荷物を積んだ荷車が雪の中を、東へと向かっていたのです。

窮地に立つ聖徒たちのもとに到着したとき、救助隊は天からの使者のようでした。人々は感謝の涙を流しました。手車隊の人々は急いでソルトレークの入植地に行けるよう、荷車に移されました。

200人以上が亡くなりましたが、1,000人が助かりました。

大平原で悲惨な状況の中にいた一人に、妻の曾祖母がいました。曾祖母はハント荷車隊の一員でした。

現在、ソルトレーク・シティー墓地にある妻の墓は、曾祖母であるメアリー・ベンフォールド・ゴープルの墓を見下ろせる場所にあります。彼女は1856年12月11日、この盆地に入ったときに、娘の腕の中で

亡くなり、翌日に埋葬されました。曾祖母はその長い旅路で娘を3人亡くしました。生き残った娘の足はひどい凍傷にかかっていました。

何ということでしょう。苦しみと飢えと寒さと死に満ちた話です。彼らは凍りかけた川を渡り、荒れ狂う吹雪の中、どこまでも続くロッキー山脈を登り続けました。この記念の年が過ぎると、この話の多くが忘れ去られてしまうかもしれません。しかし、このような話が繰り返し語り継がれ、これからの世代に先祖たちの苦しみと信仰を思い起こさせるものとなるよう願っています。彼らの信仰はわたしたちの受け継ぎです。それは、わたしたちが今日得ている快適な暮らしのために、彼らが払った代価を思い起こさせるものです。

しかし信仰は、手車隊の開拓者の旅のような、偉大で英雄的な出来事の中にだけ示されるものではありません。小さくても意義深い出来事の中にも示されます。

そのような出来事を一つ話しましょう。

約120年前、ユタ州マウント神殿が建設中だったところ、ジョージ・パクスマンは仕上げ大工として働いていました。彼と若い妻マーサには子供が一人いて、二人目が生まれるところでした。

神殿東側の重い扉一枚を取り付けるとき、ジョージは絞扼性ヘルニアになってしまいました。強い痛みが走りました。マーサは彼を荷車に横たわらせ、ニアファイという町に連れて行き、そこから汽車に乗せて、プロボへ向かいました。しかし、ジョージはそこで亡くなりました。それからの62年間、彼女は再婚の申し出を断って、裁縫の仕事しながら独りで子供たちを養いました。

話からそれますが、わたしは妻と婚約したとき、彼女に指輪を贈りました。結婚したときは、結婚指輪を贈りました。彼女は二つの指輪を何年も身に着けていました。ところがある日、妻は二つの指輪を外して、この小さな金の結婚指輪をしていました。それは妻の祖母の物でした。夫のジョージから贈られたものです。夫が唯一残してくれたものでした。ある春の日に、マーサは家を掃除していました。

防衛と避け所

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・バック

教会は避け所であり、防衛です。教会には安全と守りがあります。

家中を掃除するために、家具をすべて外に出していました。マットレスに付いたわらを振り払っていたとき、マーサは下を向いたはずみに指輪を落としてしまいました。注意深くあらゆる所を探しました。それは愛する夫の唯一の形見だったので。わらをかき分けて探しましたが、指輪は見つかりませんでした。涙がこぼれてきました。ひざまずき、指輪が見つかるよう助けてください、と主に祈りました。すると目を開け、下を向いたときに、そこに指輪があったのです。

今わたしはその指輪を持っています。皆さんには小さすぎて見えないかもしれませんが。18金でできた、古く、傷つき、曲がった指輪です。しかし、これは窮地の中、主に懇願した女性の信仰を表しているのです。このような信仰は活発であり続けるための支えとなります。希望や信頼の源となります。わたしたちには、このような素朴な信仰が大いに必要なのです。

この偉大な大義を推し進めるに当たり、わたしたちが最も必要としているのは、さらなる信仰です。信仰がなければ、御業は止まってしまいます。信仰があれば、だれもその進歩を止めることはできません。

救い主はこうおっしゃいました。「もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。(マタイ17:20)

アルマは息子ヒラマンにこう宣言しました。「悔い改めと主イエス・キリストを信じる信仰についてこの民に宣べ伝えなさい。謙遜になるように、また柔和で心のへりくだった者になるように教えなさい。主イエス・キリストを信じる信仰をもって、悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かうように教えなさい。(アルマ37:33)

わたしたちが携わる偉大な大義において、主が信仰を与えてくださいますように。信仰がろうそくの光のように闇夜を照らし、昼の雲のように、わたしたちを導いてくれますように。

このことを、わたしたちの信仰の源である、主イエス・キリストの聖なる御名により、へりくだり祈ります、アーメン。



18 47年7月26日、ブリガム・ヤングと十二使徒、その他の人々は、ソルトレーク盆地に到着した3日目(2日目は安息日であった)に、ここからおよそ1.5マイル(2.4キロ)ほど離れた山の頂へと登りました。そこがもろもろの国民への旗を掲げるのに適した場所だと感じたのです。一行はヒーバー・C・キンボールが身に付けていた黄色のバンダナを、ウィラード・リチャーズの杖に結び、もろもろの国民への旗として空高く振り上げました。ブリガム・ヤングはそこを、エンサイン・ピークと名付けました。¹

山を下り、2,000マイル(3,200キロ)の旅を共にしてきた数少ない持ち物の一つである、くたびれた荷車へと戻りました。彼らを力づけたのは、その持ち物ではなく、真理に対する知識でした。

彼らは、自分たちが主イエス・キリストの使徒であり、天の使者によって神権が

授けられたことを知っていました。全人類に永遠の救いと昇栄の機会を与える戒めと聖約を彼らが携えており、御霊からの靈感がともあることを確信していました。

彼らは迫り来る冬に備えて必死で土地を耕し、避難所を建てました。この新たな集合の地に向かって来る人々のために準備をしていたのです。

その9年前に下った啓示には、このような指示が記されています。「立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためであり、

シオンの地とそのステークに集合することが、防衛のためとなり、また嵐と激しい怒りが全地にありのままに注がれるときに、その避け所となるためである。(教義と聖約115:5-6)

彼らは「光」となり、「旗(標準)」となることを求められました。

啓示によって明らかにされた標準は、イエス・キリストの福音の教義として聖典に記されています。福音に添った生活の原則は教義に基づいており、標準は原則にのっとったものです。わたしたちは聖約によって標準と結びついています。その聖約は、神権と権能の鍵を授かった者による福音の儀式を通して交わしたものです。

信仰深い昔の兄弟たちは、その標準を変更したり、ないがしろにしたりすることを許されていませんでした。わたしたちも同様です。標準に従って生きることが求められているのです。

標準なんてどうでもいいと言ったとして



も、慰めにはなりません。わたしたちのだれもが、それが大切なものだと知っています。すべての人が、「善悪をわかまえることを十分に教えられている」からです(2ニーファイ2:5)。

もしも全力を尽くしているなら、落胆すべきではありません。だれもが失敗をし、つまづきますが、いつでも悔い改めと赦しという改善策が与えられています。

子供たちには、あらゆる種類の不道徳を避けるために、道徳的標準を教える必

要があります。死すべき肉体に与えられている大切な力は、「法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。」² 夫婦関係においては、完全に誠実でなければなりません。

わたしたちは自分の律法に従うよう求められています。また、教会での責任を果たします。聖約を新たにするために毎週聖餐式に集い、パンと水の簡潔で神聖な祝福の中にある約束を受けます。そして神権を敬い、聖約と儀式に従順に

生活します。

エンサイン・ピークに登った兄弟たちは、通常の生活を送りながらも、キリストの面影を受けるべきであることを知っていました(アルマ5:14参照)。

彼らは、ステーキが防御と避け所となることを理解していましたが、当時はまだ地上にステーキは存在しませんでした。そして、地上のあらゆる国にシオンのステーキを確立することが自分たちの使命であると理解していました。

恐らくは、それまでに経験したことがない、どのような嵐と激しい怒りに直面するのだろうかと考えたことでしょう。彼らは激しい敵対や乱暴、組織的な暴力に耐えました。家は焼かれ、持ち物は略奪されました。そして、何度も家から追い立てられました。彼らは、わたしたちが今理解しているように、敵対には終わりがいいことを知っていました。形を変えたとしても、終わりはありません。初期の聖徒たちが経験したような試練に終わりは来ないことでしょう。新たな試練は、彼らが経験したものと異なるかもしれませんが、本質的な激しさに違いはありません。

現在、シオンのステーキは何千という規模に増え、全世界に広がっています。会員数は何百万人にも上り、さらに増加しています。後退することはありません。これが主の御業だからです。会員は160か国に広がり、200か国語が話されています。

会員の中には、自分たちや世界中の教会に近づく、暗黙の不安を感じている人々がいます。それは道徳的にも霊的にも、いつにも増して暗い影を落としています。

けれども、もし教会に集い、福音の簡潔な原則に従い、道徳的に正しい生活を送り、知恵の言葉を守り、神権やその他の義務を忠実に果たすなら、不安を抱く必要はなくなります。

知恵の言葉は肉体的な健康と啓示を授かるための鍵です。お茶、コーヒー、お酒、タバコ、有害な薬物を選んでください。

わたしたちは自分の望む場所に住むことができます。そして裕福かそうでないかにかかわらず、生計を立てるために全力を尽くしています。人生においては何

をしようとも自由です。ただ全能の神がお認めになり、全能の神の交わりを受け、御霊の導きによる確信を絶えず受ける必要があります。

それぞれのステーキは、防御と避け所であり、旗でもあります。ステーキには、そこへやって来る人々の救いと昇栄のために必要なものがすべて整っています。神殿はいまだかつてないほど身近になっています。

敵対に終わりはありません。教会とその歴史に対する誤解と、間違っただけの表現が見られます。中には悪意を含むものもあり、明らかにイエス・キリストの教えと福音に反しています。聖職者や、宗教組織さえもがわたしたちに敵対します。それはわたしたちが決してしないことです。彼らがするような攻撃や批判、敵対を、わたしたちからすることはありません。

現在でさえ、とんでもない教えについて語り、それをわたしたちが信じていると繰り返す人々がいます。その最もたわいのないものの一つが、モルモン教徒には角が生えているというものです。

何年も前のことですが、わたしはオレゴン州でシンポジウムに出席しました。わたし以外には、カトリックの司祭、ユダヤ教のラビ、監督教会の牧師、福音教会の牧師、ユニテリアン教会の聖職者が参加していました。

学長のベネット博士が朝食会を開いてくれたのですが、そのとき参加者の一人が、今日はどの妻を連れて来たのかと尋ねました。わたしには一人しか妻はいないことを伝えました。自分が矢面に立たされていることが分かりましたが、結婚をしないカトリックの司祭にも、伴侶を連れて来たのかとだれかが皮肉めいた質問をしていました。

すると次にベネット博士からこう尋ねられたのです。「モルモン教徒には角があるってほんとうですか？」

わたしはほほえみながら答えました。「ええ、見えないように髪をとかすんですけどね。」

ベネット博士ははげ上がった頭を両手でなでながら言いました。「それじゃあ、



わたしは絶対にモルモンにはなれないなあ。」

奇妙なことこの上ないのは、非常に知的な人々が、わたしたちをクリスチャンではないと主張していることです。それはつまり、彼らがわたしたちについてほとんど何も知らないということです。他人をけなすことでは、自分を高められないことは事実です。

高い標準が成長を妨げていると言う人もいます。それはまったく正反対です。

高い標準は成長を促します。わたしたちは神の子供であり、真理と善を求めています。

わたしたちは、邪悪な黒い雲に覆われた世界で家族を養うという難題に向き合っています。教会員の中には、不安を感じ、次のように考える人がいます。

すべての邪悪なものから身を隠す場所はあるのだろうか。避け所となる安全な町や州、国は、どこかにあるだろうか。おおむね、答えは「いいえ」です。防御と避け所は教会員が現在住んでいるところにあります。

モルモン書にはこう預言されています。「そのとき、父は、御自分の民が彼らの受け継ぎの地に戻されるように、道を備えるためにすべての国民の中で業を始めら

れる。(3ニーファイ21:28)

一般社会から教会に加わり、戒めを守って神権を尊び、活動に参加する人々は避け所を見つけています。

何週間か前に開かれた会合で、七十人会長会の一人であるロバート・C・オクス長老(中央ヨーロッパのNATO空軍の元大将兼司令官)が、第二次大戦が終了したときのことを話してくれました。1945年9月2日に東京湾に停泊していた戦艦「ミズーリ」の艦上で、10か国が協定書に署名したのです。わたしたちの幾人かは、当時アジアにいました。オクス長老(大将)はこう語りました。「今日の状況を見ると、わたしたちを取り巻くテロや邪悪との戦いを終結させるために、そのような会談を開催することや署名を行うことなど想像もつきません。戦争の本質が違います。」

たとえ敵対が終わらなくとも、恐れる必要はありません。啓示で預言された敵対という戦争は、現在も続いています。わたしたちは幸せで前向きに生きる必要があります。恐れるべきではありません。恐れは信仰と対極を成すものです。

教会の活動は家族を中心としています。教会員が世界のどこにいても、子供たちが受け入れられ、「神から賜った嗣業」(詩篇127:3)として大切にされる家庭を築くべきです。ふさわしい末日聖徒の家庭は、社会の模範です。

わたしたちは最も高い標準を守るだけでなく、自分自身が標準となり、防御、避け所となるべきです。わたしたちは、「光を人々の前に輝かし、そして、人々が〔わたしたちの〕よいおこないを見て、天にいます……父をあがめるように」することが求められています(マタイ5:16, 3ニーファイ12:16も参照)。

過去の人々のすべての苦勞と努力により、管理の権能と統治を完成するのに必要なイエス・キリストの完全な福音が現代にもたらされました。これらすべてが、あらゆる物事が完了し、地球を主の再臨に備えるこの時満ちる神権時代に出て来たのです。

わたしたちは、ウィラード・リチャーズの杖に黄色のバンダナを結び、エンサイン・



ピークから下りてきた人々と同様に、この御業に携わっています。高く振り上げられたバンダナは、古代と現代の聖文に預言されている偉大な集合の始まりを告げるものでした。

教会は避け所であり、防御です。教会には安全と守りがあり、イエス・キリストの福音を中心にしています。末日聖徒は自分の中に、全人類に対する救い主の贖いの力を見いだします。教会で教えられ、聖文から学ぶことのできる福音の原則は、わたしたち個人と家族とを導く力となります。

わたしたちが築く家族や、その子孫は、啓示の中に記されている避け所となります。それは、*「もろもろの国民の「光」であり、「模範」、「旗」であり、嵐に対する「避け所」なのです（教義と聖約115:5-6、イザヤ11:12、2ニーファイ21:12参照）*

わたしたちが集まるべき御旗は、神の御子、御父の独り子、イエス・キリストです。これは主の教会であり、わたしたちはその御名を引き受け、主の権能を持っています。

わたしたちは信仰をもって待ち望みます。勇気が試され、信仰が求められる多くの出来事を見てきました。まだ起きていないこともたくさんあります。それでもわたしたちは、「喜び、よろこびます」、天において……受ける報いは大きいからです（マタイ5:12）。

教会の歴史を進んで擁護し、「福音を恥としない」[ください]。それは、「……すべて信じる者に、救いを得させる神の力」だからです（ローマ1:16）。

試練はやって来ます。それは避けることができません。イエス・キリストの福音を教え、救い主、避け所、贖い主である主について人々に伝えましょう。

使い古された黄色いバンダナが国々への旗としての役割を十分に果たしたのであれば、世界中で力を尽くして福音に生きている、普通の家庭の、神権を持つごく普通の男性や、ごく普通の女性、そしてごく普通の子供たちが、何であれ地上に蔓延しているものに対する旗、防御、避け所として光を放つことができるでしょう。

「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。（2ニーファイ25:26）

教会はこれからも栄え、広がります。わたしはこのことに確信を持っています。イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

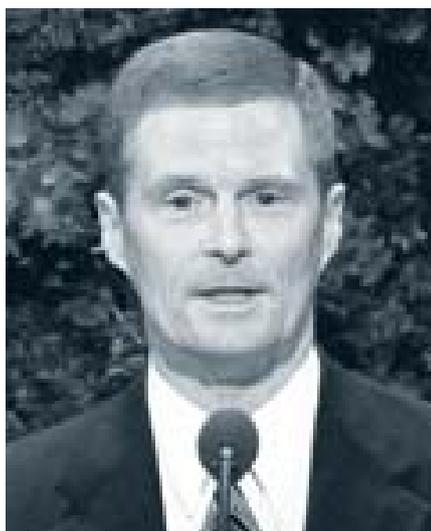
注

1. Journal of Wilford Woodruff, 1847年7月26日付参照, 末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管課, B・H・ロバーツ, *A Comprehensive History of the Church*も参照
2. 「家族 世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49

何ものも彼らを つまずかすことは できません

十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー

イエス・キリストの贖い^{あがな}が持つ、人を強める力を通して、皆さんもわたしも、傷つくことを避け、克服することができます。



今^{きょう}日、大切な福音の原則についてともに考えるとき、聖霊がわたしと皆さんを助けてくださるよう祈っています。

神権指導者としてわたしがいちばん好きな活動は、教会員の家庭を訪問することです。特に、「活発でない会員」と呼ばれている方々を訪問し、言葉を交わすことに喜びを感じます。

ステーキ会長として奉仕していたとき、ビショップと頻りに連絡を取り、お願いしていたことがあります。それは、ともに訪問することが可能な個人あるいは家族を、よく祈って選んでほしい、ということです。家庭を訪問する前にビショップとわたしは

ひざまずき、これから会う会員たちとわたしたちとに導きと靈感があるように祈り求めました。

訪問したときの会話は、次のように、非常に率直なものでした。まず、訪問する機会を得られたことに感謝と愛の気持ちを表しました。そして、わたしたちが主に仕える^{しもべ}僕であることを明確に伝えました。彼らが教会に来ていないことを残念に思い、彼らが必要な存在であることと、彼らには回復された福音による祝福が必要であることを語りました。わたしは彼らとの会話の中で、たびたび次のような質問をしました。「どうしてあなたが教会の祝福とプログラムに積極的に参加なさらないのか、話を聞かせてくださいませんか。」

今までに何百回、何千回とそのような訪問をしてきました。どの個人も家族も家庭も様々に異なり、それぞれの答えも千差万別でした。しかしながら、回数を重ねるにつれ、わたしの質問に対する答えに共通する要素があることに気づきました。よく聞かれた答えには次のようなものがあります。

「何年か前のことですが、ある人が日曜学校で言った言葉に気分を害しました。それから教会には行っていません。」

「支部の人たちは、わたしにあいさつもしてくれませんでした。よそ者扱いされているように感じました。支部の人たちのよそよそしい態度に傷ついたのです。」

「ビショップの勧めには同意できません。彼がビショップである間は、二度とあの建物に足を踏み入れません。」

ほかにもいろいろな理由を耳にしました。成人では教義的な相違、また若人では中傷やいじめ、仲間はずれなどです。しかし、繰り返し聞かれた言葉は「わたしは……に傷つきました」というものです。

ビショップとわたしは熱心に、そして心を込めて耳を傾けました。次にわたしたちのどちらかが、回復された福音への改宗談や証^{あかし}について尋ねました。話が進むと、この善良な人々は聖霊によって証を得た経験を思い出し、過去の霊的な出来事を語りながら目に涙を浮かべることもしばしばでした。わたしが訪問した「活発でない会員」の多くが、回復された福音に対する確かで純粋な証を持っていました。それにもかかわらず、現在は教会の活動や集会に参加していないのです。

そのような話の後、わたしはこのように言います。「あなたにどのようなことが起きたのか、確認させてください。つまり、教会のだれかがあなたを傷つけたので、聖餐^{せいさん}の儀式による祝福にあずかるのをやめ、御霊^{みたま}を伴侶^{はんりよ}とすることから自らを遠ざけているのですね。だれかがあなたを傷つけたので、神権の儀式や聖なる神殿から自分を切り離し、人々に奉仕し、学び、そして成長する機会をも手放してしまったということですか。子々孫々の霊的な成長を妨げる壁を築いたままにしておくのですか。」多くの場合、人々は一瞬考え込み、こう言います。「そんな風に考えたことはありませんでした。」

そこでビショップとわたしはこのように彼らを招きます。「わたしたちは今日、愛する友であるあなたに、傷つくのをやめるときが来たことを、お伝えするために伺いました。わたしたちがあなたを必要としているだけではなく、あなたもイエス・キリストの回復された福音の祝福を必要としています。どうか、今すぐに戻って来てください。」

傷つかないという選択をする

わたしたちが「自分は傷つけられた」と思いこんだり、言ったりするとき、通常そ



これは、侮辱や不当な扱いを受け、冷酷で軽蔑的な態度を執られたことを指します。確かに、人々と接するときに行き違いや困惑、非道義的で不寛容な出来事が起き、それによってわたしたちは傷つくことがあります。しかし突き詰めていくと、ほかの人があなたやわたしを傷つけることなど不可能なのです。はっきりと言えることは、ほかの人々がわたしたちを傷つけたと思いきむのは根本的に間違っているということです。傷つくことは、自らの選択であり、ほかの人々や何かがわたしたちに負わせた状況ではないのです。

神の創造されたすべてのものを分類するとき、そこには作用するものと作用されるものがあります(2ニーファイ2:13-14参照)。天の御父の息子娘として、わたしたちには選択の自由が与えられています。それは、自分で選択し行動する能力です。選択の自由を持つ者として、わたしたち

は行為の主体者なのです。つまり、作用する者であり、単に作用される者ではありません。だれか、または何かがわたしたちを傷つけ、怒らせ、苦々しい思いにさせるのだと思いきむとき、選択の自由の持つ力は小さくなり、わたしたちは作用される者へと変化します。しかしながら、わたしたちは作用する者として、不快で感情を傷つける状況にどのように反応するかを選び、行動する力を持っています。

この神権時代に召された十二使徒定員会の初代会長、トーマス・B・マーシュは、ミルクのクリームを取ったか取らないかというごくささいな事柄で気分を害し、憤るという選択をしました(Deseret News, 1856年4月16日付, 44参照)。それとは対照的に、ブリガム・ヤングは、預言者ジョセフ・スミスから人々の前で厳しく叱責されましたが、傷つかないという選択をしました(トルーマン・G・マドセン, ヒュー・

B・ブラウン, Youthful Veteran, New Era, 1976年4月号, 16参照)。

傷ついて憤るという選択には、多くの場合、もっと深く重大な霊的問題に発展する可能性が潜んでいます。トーマス・B・マーシュは自ら作用されることを許し、背教と悲嘆という末路をたどりました。ブリガム・ヤングは自らの行為の主体者であり、選択の自由を行行使し、正しい原則に従って行動しました。こうして彼は、神の御手に使われる力強い者となりました。

傷つく可能性のある出来事や状況にどのように反応すべきかを学ぶための、最も優れた模範を示してくださったのは救い主です。

「しかし、世の人々は自分たちの罪悪のために、この御方を取るに足りない者と判断する。それで彼らはこの御方を鞭打つが、この御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方につばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさで寛容に富んでおられるからである。(1ニーファイ19:9)

イエス・キリストの贖いが持つ、人を強める力を通して、皆さんもわたしも、傷つくことを避け、克服することができます。「あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何もかも彼らをつまずかすことはできません。(詩篇119:165)

末日における学ぶための研究室

自分を傷つける状況を克服する能力など、とうてい身に付けられないと思うかもしれませんが、この能力はブリガム・ヤングのように教会の偉大な指導者だけに限定して与えられたものではありません。贖い主の贖罪の本質と回復された教会の目的は、まさにこのような霊的強さを身に付ける助けをすることなのです。

パウロはエペソの聖徒たちに、救い主が教会を設立された目的についてこのように教えました。「それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、

わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。(エペソ4:12-13)

「ととのえて」という積極的な言い回しに注目してください。ニール・A・マックスウェル長老が語ったように、教会は「すでに完成の域に達した人が休息する何もかも整った施設」ではありません(「傷ついた兄弟」『聖徒の道』1982年7月号, 69参照)。むしろ、教会は学ぶことを目的とした研究室であり、「聖徒たちをととのえ」る過程において、お互いに試行錯誤しながら経験を積むための実習室なのです。

マックスウェル長老は同様に、回復された教会として知られる、末日における学ぶための研究室で、会員はそれぞれ「実習のためのパートナー」であり、成長と進歩のためには互いが不可欠である、と洞察に満ちた言葉を述べています(“Jesus the Perfect Mentor”, *Ensign*, 2001年2月号, 13参照)。訪問教師は扶助協会の姉妹たちに仕え、愛することで自分の義務を学びます。経験の浅い教師は、協力的、非協力的な参加者の双方に教えることで価値あることを学び、より効果的な教師へと成長します。新しいビショップは、靈感を通して、また、彼の人間としての弱点を知りながら心から支持してくれるワードの会員たちとともに働くことを通して、より良いビショップになるにはどうしたらよいかを学びます。

「教会は学ぶための研究室である」と理解することで、避けようのない現実を受け入れる準備ができます。だれもが時には、何らかの形で、教会のだれかから傷つくようなことをされたり、言われたりすることでしょう。そのような出来事はだれにでも必ず起こり得ます。しかも一度や二度ではありません。悪気はないのかもしれないかもしれませんが、それでもなお、配慮と思いやりに欠けると受け取ってしまうこともあります。

あなたもわたしも、他人の思いや行動をコントロールすることはできません。しかしながら、どのように受け止めて行動するかを決めるのは自分なのです。あな



たもわたしも、選択の自由を授けられた、自分から作用する存在であり、傷つかないことを選ぶことができます。そのことを忘れないでください。

戦争という危険な世時に、ニーファイ人の司令官モロナイと、その地の大さばきつかさで総督のパホーランとの間に手紙のやりとりがありました。政府から十分な支援が受けられずに苦況に陥っていたモロナイは、パホーランを「非難し(アルマ60:2)、無頓着と怠慢、義務の不履行を厳しく糾弾しました。パホーランはモロナイとその言葉に憤慨することもできましたが、彼は傷つかないことを選びました。パホーランは同情をもって返答し、モロナイが知らなかった政府への謀反について伝えました。彼はこう書き送りました。「まことに、モロナイ殿、あなたに申しますが、わたしはあなたがひどい苦難を受けていることを喜ばず、むしろ、そのことを深く悲しんでいます。……ところで、あなたは手紙の中でわたしをとがめましたが、それはどうでもよいことです。わたしは怒っておらず、むしろあなたの心の広さを喜んでいます。(アルマ61:2, 9)

自分の霊の成熟度を測る最も適した指標の一つとして、人々の弱さや未熟さにどう対処するか、そして人々からの自分を傷つけるかもしれない行動にどのように反応するかということがあります。物事や出来事、あるいは表現の仕方が攻撃的であっても、あなたやわたしは傷つかないことを選択することができます。そして、パホーランのように「それはどうでもよいこ

とです」と言うことができるのです。

二つの助言

二つの助言をして話を閉じたいと思います。

助言1

不愉快に思われるような人間関係や出来事について、救い主が語られた教えを学び、実践してください。

『隣り人を愛し、敵を憎め』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、あなたをのろう者を祝福し、憎む者に善をなし、悪意をもってあなたを利用する者、迫害する者のために祈れ。……

あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるだろうか。そのようなことは取税人でもするではないか。

兄弟だけにあいさつしたからとて、なんのすぐれたことをしているだろうか。そのようなことは異邦人でもしているではないか。

それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。(マタイ5:44; 46-48 欽定訳から和訳)

興味深いことに、「あなたがたも完全な者となりなさい」との勧告は、不当な扱いや攻撃に対してどのように反応するべきかという教えのすぐ後に与えられています。このことから、聖徒を完全な者へと

導くための厳しい要求には、わたしたちを試すための課題が含まれていることがはっきりと分かります。もしもある人が気分を害することを言ったり行ったりした場合、わたしたちの最初の責任は、腹を立てないことであり、次にその人と個人的に、率直に、直接話し合うことです。そのような対処の仕方は、御霊の導きを招き、誤解を解消してほんとうの意図を理解できるようにしてくれます。

助言2

傷つかないことを選択することについての、わたしのこのメッセージを最も必要としている人々や家族の多くは、今日この大会に出席していないかもしれません。傷ついて、気分を害するという選択をしたために教会から足が遠のいている人々や、教会に戻ることで祝福を受けることのできる人々を、わたしたちのだれもが知っているのではないのでしょうか。

どうぞよく祈って、あなたが訪問しようと思う人を選び、もう一度礼拝をともにすることを勧めてください。この話のコピーを彼らに渡すこともできますし、今日検討した原則について話し合うのもよいでしょう。肝に銘じていただきたいのですが、そのようなメッセージは愛と柔和の気持ちで伝えてください。独善的な優越感や高慢な思いですることではありません。

このような助言に救い主への信仰をもってこたえるなら、人々の心の扉が開かれ、わたしたちに話すべき言葉が与えられます。わたしは、そのことを証し、約束します。また、聖霊が永遠の真理について証してくださり、彼らの証の炎はもう一度燃え上がることでしょ。

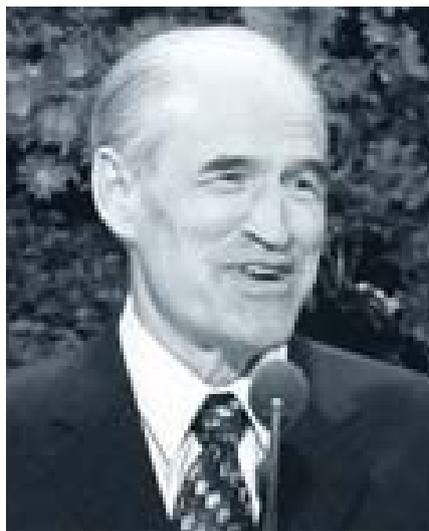
主の僕として、主の宣言された言葉を繰り返します。「これらのことを語ったのは、あなたがたがつまづくことのないためである。(ヨハネ16:1)生ける救い主の实在と神性について証いたします。そして、傷つくことを避け、克服する助けとなる主の力が確かに存在し、その力は神から与えられることを証します。イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。

御霊によって受ける

中央日曜学校会長

A・ロジャー・メリル

御霊を求め、受けることに集中すると、教師や話者に注意を向けることよりも、御霊に心を向けることを意識するようになります。



若いころ、テキサス州ビューモントで伝道していたときのことであります。ある朝、同僚の具合が悪くなり、休養を取る必要がありました。そういう場合のために出ている伝道部会長の勧告に従って、わたしは4階にあったアパートの開け放った窓のそばにイスを持ち出し、モルモン書の研究を始めました。すぐに聖文に夢中になり、やがてアルマ第29章の1節から2節に差しかかりました。

「おお、わたしが天使であって、わたしの心の願いを遂げることができればよいものを。わたしの心の願いとは、出て行って、神のラッパのように地を震わせる声で語り、すべての民に悔い改めを叫ぶことである。

まことに、わたしは雷のような声で、あらゆる人に悔い改めと贖いの計画を告げ知らせ、もはや地の全面に悲しみのない

ように、悔い改めて神のみもとに来ることを彼らに勧めたい。」

アルマの言葉を思い巡らしていると、ほかでもない自分に向けられた聖句のように思えてきました。同僚とわたしは、ビューモントで何百軒もの玄関をノックし、教えを伝えようとしたが、あまり成果は上がっていませんでした。そこで心の目を通して、わたしが天使になって、地を震わせるような声で悔い改めを叫ぶことができたなら、どうなるだろうかと思ひ始めました。窓から見下ろして、通りを行き交う人々を眺めました。想像の中で、自分がそこに立って天使のように光り輝き、両手を挙げて雷のような声で語ったらどうなるだろうかと思ひ、建物が揺れ動き、人々が地面に倒れる様子を思い浮かべました。そのような状況になれば、人々は途端にわたしたちの言葉を聞きたくなくなるだろうと思ひました。

しかし、次の節にはこうありました。

「しかし見よ、わたしはただの人であり、このように願うことさえも罪である。わたしは主から与えられたもので満足すべきだからである。(3節)

主がすべての子供たちを愛しておられ、御業を進めるための計画をお持ちであることに気づき、へりくだりました。わたしの務めは自分の果たすべき分を行うことなのです。

また、ほかにも謙虚な思いにさせられたのは、自分が読んでいるのは架空の物語ではなく、現実にあった話だと分かったことです。静かに、穏やかな気持ちで読んでいるうちに自分が光で満たされ、



このアルマもまた、かつて福音の教えを伝えたいと強く願いながら生きていた、実在の人物であるという思いでいっぱいになりました。

あのとき、「あなたはモルモン書が真実だと知っていますか」と尋ねられたなら、「もちろんです」と答えたことでしょう。そのとき自分が、モルモン書は真実だという霊的な証^{あかし}を受けていることがはっきりと分かりました。

その経験をはじめ、以来似たような証をたくさん受けてきたことを思い返すと、御霊によって受けることがいかに重要であるか、さらによく理解できました。御霊によって教えることの大切さについてはよく強調されます。それは適切なことですが、御霊によって受けることも、同じように大切な事柄として主がお定めになったことを、覚えておく必要があります。(教義と聖約50:17-22参照)

このように、受けることは、福音の基本的な規範です。このことは、まさに教会の会員に確認される儀式の中で、宣言されています。儀式の中の「聖霊を受けな

い」という言葉は、実際にこの偉大な賜物^{たまもの}を受けるようにという正式な勧めです。

この原則を意識するにつれて、聖文のそこかしこに、受けるという教義が見られることに気づきました。ポイド・K・パッカー長老は言いました。「『求めよ、さらば与えられん』(訳注 この「与えられる」と本文中の「受ける」は、英語が両方とも“receive”となっているという言葉ほど、聖典によく出て来る言葉はありません。)(「啓示をもたらす敬虔さ」『聖徒の道』1992年1月号、23)

イエスをキリストとして受け入れるという選びは、この世の試しの生涯におけるまさに中心です。使徒ヨハネはこう教えています。

「彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった。

しかし、彼を受けいれた者……には、彼は神の子となる力を与えたのである。」(ヨハネ1:11-12)

自分が受けていない賜物や祝福が周囲に幾つあるのだろうか。人はこう考えないではいられないものです。しかし主は

こう言われています。「ある人に贈り物が与えられても、彼がそれを受け取らなければ、それは彼にとって何の益があるだろうか。見よ、彼は与えられるものを喜ばず、その贈り物の贈り主をも喜ばない。」(教義と聖約88:33)

教会の集会や、個人や家族の聖文研究において、さらには、今日主^{きょう}の預言者や使徒の話の聞いている間も、ある人々はほかの人々よりも多くを受けています。それはなぜでしょう。わたしが学んできたのは、真に受ける人は、ほかの人がしていないような事柄を少なくとも3つ行っているということです。

まず、彼らは求めます。世の娯楽に囲まれ、観客になりがちなたしたちは、知らず知らずのうちに、「わたしはここにいます。さあ、靈感を与えてください」という態度で大会や教会に出席することがあります。霊的に受け身の姿勢になっているのです。

しかしそうではなく、御霊を求め、受けることに集中すると、教師や話者に注意を向けることよりも、御霊に心を向けるこ

とを意識するようになります。受けるとは動詞であることを忘れないでください。行動の原則であり、信仰を表すための基本的な表現です。

第2に、受ける人は、感じます。啓示は思いと心に与えられますが、最も多くの場合、感じるものです。霊的な感覚に注意を向けられるようにならなければ、御霊を認識することさえできません。

最近、義理の娘と話す中で、助けがあれば幼い子供たちでさえも御霊を受けたときの感じ方に気がつくと思われました。子供たちに次のような質問ができるでしょう。「一緒に聖文を読むと、どんな気持ちがする?」「御霊は何をするように言っているだろう?」これらは、すべての人にとって役立つ質問です。受けたいという望みを表しています。

第3に、御霊によって受ける人は、行おうとします。預言者モロナイが教えているように、モルモン書の証を受けるには、「誠心誠意」尋ねなければなりません。(モロナイ10:4)御霊は、学んだ事柄を誠実に行おうとするときに、教えを与えてくださるのです。

伝道中の経験から学び、理解を深めようと、当時の日記を読み返してみました。それまでもモルモン書を研究したことがありましたが、あの朝、ビューモントで特別なことが起きたのは、わたし自身がいつもとは違っていたからだと分かりました。あのときは、未熟ではあっても、少なくとも心から求め、感じ、学んだ事柄を信仰によって行おうとしていました。今では、受けようという意志があれば、だれもが、日々の生活の中でそのような証を受けられると、分かっています。

モルモン書は神の御言葉です。イエスはキリストです。福音は回復され、まさに目の前に、現代の使徒と預言者がいます。

今日もいつのときも、贈り物と、「その贈り物の贈り主を」さらによく受けられるようになり、真に喜ぶことができるようにと祈ります。

イエス・キリストの御名により、アーメン。

主に近づく

七十人
クレグ・A・カードン

聖任や儀式を通して、個人の性質を清めることにより、また聖霊の作用を通して、神権は人を神に近づけていきます。



何年も前、まだ子供が小さかったころ、わたしたち家族は東側に山が見える新興住宅地に引っ越しました。ある月曜日の朝、着替えを済ませ、仕事に行こうと急いでいると、6歳の息子クレグが4歳の弟アンドリューの手を引いて部屋に入って来ました。クレグは真剣な表情で、わたしを見上げて言いました。「お父さん、昨日プライマリーで先生がね、神権を持っていれば山を動かせるって言ったの。アンドリューにそう言っても、信じてくれないんだ。お父さんには神権があるよね?」そして振り返って窓の外を指し、わたしの方に振り返り向いて言いました。「あそこの山見えるでしょ、お父さん? 動くところ、アンドリューに見せてやって!」

それから少し時間を取って二人に説明しましたが、それはすばらしい経験になりました。幼い息子たちが、神権について

の生涯続く学習の第一歩を踏み出したことをうれしく思いました。

主は自ら神権を授けた人たちに、信仰によって山は動くと確かに教えられました。¹ 実際そのような出来事の記録もあります。² でもわたしは、神権の教義の中で、人を神に近づけるという側面について、皆さんに理解してほしいのです。そうすることで、人は主のようになり、主の御前で永遠に生きる機会を得ることになるのです。この教義には、神の息子と娘の両方が含まれます。ですから、この話が男女双方の役に立つように祈っています。

1823年に天使モロナイがジョセフ・スミスに現れ、幾つかの聖句を引用しました。次のマラキの聖句も含まれていました。「見よ、……わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう。」³ この神権時代において、神権について初めて記されたこの聖句は、その後数十年にわたって起こる出来事に先立つものでした。

1829年、バプテスマのヨハネによってアロン神権⁴ が回復され、その後ペテロ、ヤコブ、ヨハネによってメルキゼデク神権⁵ が回復されました。

1836年、モーセとエライアスが、イスラエルの集合の鍵と、アブラハムの福音の神権時代を回復しました。⁶ そしてエリヤが現れ、結び固めの鍵を回復しました。その啓示の最後に預言者ジョセフはエリヤからこのように言われました。「それゆえ、この神権時代の鍵はあなたがたの手にゆだねられている。」⁷

神権のすべての権能と職と鍵が地上に回復されたところで、1841年、主は預言者

に神殿建設の重要性を強調されました。神殿があれば、主はその子供たちに神権の儀式を受けさせることができになり、その儀式により、神の息子娘は御前に戻るよう備えができるのです。⁸

主はこう宣言されました。「この家を建て、わたしがそこで民に儀式を示すことができるようにしなさい。……

時満ちる神権時代に関することを、……示そうと思うからである。」⁹

それより前に、主はカートランドで、預言者ジョセフに神権の誓詞と聖約について教え、約束された祝福が実現するための条件について説明なさいました。¹⁰ ノーブーでは、神権の力が永遠の広がりを持つことについて理解が進みました。¹¹ 忠実な神の子供たちは、現世でも来世でも祝福されるのです。¹² 神権はふさわしい神の息子たちに与えられますが、それと同時に、神は御自分の民である神の娘たちにも、神権の儀式を明らかにされるのです。そして、イエス・キリストへの信仰を働かせ、儀式を受け、終わりまで信仰のうちに堪え忍んだ男女に「父が持つておられるすべて」¹³ という約束された祝福が与えられます。「それゆえ、この〔メルキゼデク神権の〕儀式によって神性の力が現れる」¹⁴ のです。

神殿の最高の儀式は、男性と女性が結び固められて永遠の家族を築くときのみ、受けることができます。地上の家族が祝福を受けるには、結び固めを含む神権のすべての儀式が必要です。¹⁵ 結び固めの儀式は主の目的のまさに中心を成すものです。ですから主は、忠実な人が何の落ち度もないのに地上で結び固めを受けられなかった場合、次の世でこの祝福を授けると約束しておられます。¹⁶ すべての宗教の教義の中でこの教義ほど、神がその息子と娘を平等に愛しておられることを示すものはありません。

神権にはまた、わたしたちの性質を変える力もあります。パウロは「この神権に聖任される人々は皆、神の御子のようである」¹⁷ と記しています。御子のようであるとは、聖任や儀式を行うだけでなく、完全な心を持っているという点でも似てい



るということです。そのような変化は「時がたつて」¹⁸、「聖なる^{みたま}御霊の勧めに従い、……生まれながらの人を捨て」¹⁹ たときに起こります。人はメルキゼデク神権に聖任されると、一つの「位」²⁰ に入ります。すると、その人はほかの人への奉仕、特に家族への奉仕によって磨かれていきます。さらに、聖霊を常に^{ほんりよ}伴侶とすることによって祝福されるのです。²¹

主は、わたしたちすべての神権者に向

けて、天の力と影響力は不義によって終わるが、義によって強められるということを教えてくださいました。主は「心を大いに広げる」特質として、「説得……、寛容……、温厚と柔和……、偽りのない愛……、優しさ」と純粋な知識²² を挙げられました。さらにこのように教えられました。「またあなたの心が、すべての人に対して、また信仰の家族に対して、慈愛で満たされるようにしなさい。絶えず徳でああなたの思いを飾る

ようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。」²³

主は「すべての人」に対して慈愛を持つようにとおっしゃった後で、「また信仰の家族に対して」と言い添えられました。なぜでしょう。「すべての人」と言えば「信仰の家族」も含まれるのではないのでしょうか。この言葉を、もっと具体的に「あなた自身の信仰の家族」という意味に理解したらどうなるか考えてみてください。残念なことに、教会員の中には、自分の配偶者、子供、兄弟、親よりも、家族以外の人に大きな慈愛を示す人がいます。人前では優しく振舞いながら、家庭では争いの種をまき、本来最も親切に接すべき人の品位をおとしめているのです。それは、あってはならないことです。

主はまた、絶えず徳をもって思いを飾る、つまり思いを清く保つようにと語られました。清い思いは罪を遠ざけます。²⁴ 清い思いから出る言葉は「しかり、しかり、否、否」²⁵ であり、ずる賢さや偽り、策略はありません。清い思いを保つなら、人の長所や可能性に目を向け、だれしも何かしら持っている不完全さには目をつむります。

この聖句は思いが清められるプロセスについてのすばらしい教えで終わっています。日々思いを清めていく中で、この原則を応用する方法をさらに理解するために、水の入った二つのコップを思い浮かべてください。見た目には同じコップが、湿度の高い部屋に置かれています。しばらくすると片方のコップに水滴がつき始めますが、もう片方のコップは乾いたままで、変化しません。実は見た目では分からないように、違う温度の水を入れておいたのです。そのため、空気中の水分が片方のコップに「流れ込[み]」²⁶、水滴ができたのです。これと同じように、心を大いに広げてくれる特質や、人に対する慈愛、特に家族に対する慈愛、そして徳で飾られた思いを持つことにより、わたしたちの霊の温度は調節され、神権の教義が心に滴るのです。

このように、聖任や儀式を通して、個人の性質を清めることにより、また聖霊の作



用を通して、神権は人を神に近づけていきます。こうして、神の子供たちは神に似た者となり、最終的には、永遠に神の御前に住む機会を得るのです。それは、山を動かすことよりも栄光ある業です。²⁷

最後にパーリー・P・プラットが校訂したトーマス・ケリーの祈りを引用します。

草の露は、主のみ旨をなすため
降り来て その草、よみがえらせり
恵みのみ教え 上よりくだし
主の愛のみ業 知らしめたまえ²⁸

イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. マタイ17:20参照
2. エテル12:30; モーセ7:13。モルモン書ヤコブ4:6; ヒラマン10:9も参照
3. ジョセフ・スミス - 歴史1:38
4. 教義と聖約13章参照
5. 教義と聖約18:9; 27:12参照
6. 教義と聖約110:11 - 12参照
7. 教義と聖約110:13 - 16
8. 預言者ジョセフがノーブーの店の2階で

与えた教えによって証明されるように、主は神殿の儀式を地上に回復してから、聖徒たちに神殿の儀式を明らかにし、ノーブー神殿で受けられるようにされた。主は今日も引き続きすべての神殿で同じようになり、個人的な啓示や靈感を受けられるようにしておられる。*History of the Church*, 第5巻, 1 - 2 参照

9. 教義と聖約124:40 - 41, 強調付加。31 - 32, 34, 39節も参照
10. 教義と聖約84:33 - 42参照
11. 教義と聖約128:8 - 9参照
12. 教義と聖約137:7 - 9参照。「神殿と家族歴史」『わたしの福音を宣べ伝えなさい』86も参照
13. 教義と聖約84:38
14. 教義と聖約84:20
15. アブラハム2:11参照
16. 「神の息子や娘が神を愛し、神への信仰を持ち、戒めを守り、終わりまで忠実に堪え忍ぶならば、彼らに祝福が与えられないことはない」と、預言者たちははっきりと語っています。M・ラッセル・パラード, *Counseling with Our Councils: Learning to Minister Together in the Church and in the Family* (1997年), 55。「[神殿の結び固めと永遠の家族]を受けるにふさわしい人は皆、主が定められたときに、現世あるいは次の世においてその祝福にあずかることができます。」リチャード・G・スコット「義の力」『リアホナ』1999年1月号, 74)
17. ジョセフ・スミス訳ヘブル7:3。モーセ1:6も参照
18. モーセ7:21
19. モーサヤ3:19
20. アルマ13:2, 16; 教義と聖約107:3
21. 教義と聖約20:77, 79; 121:46参照
22. 教義と聖約121:41 - 42
23. 教義と聖約121:45
24. アルマ13:12参照
25. マタイ5:37
26. 教義と聖約121:46
27. モーセ1:39参照
28. 「草の露は、主の」『賛美歌』86番

主の御手に使われる者となる

七十人
ドン・R・クラーク

主の御手に使われる者となるには、教会の召しも、人を助けるようにという勧告も、さらには十分な健康さえも必要ではないのです。



母方の祖父のアルマ・ベンジャミン・ラーセンがまだ34歳のときのことでした。ある朝目を覚ますと、目がよく見えないことに気づきました。そして間もなく、完全に視力を失います。祖父は伝道経験のある、ずっと忠実な教会員でした。農夫であり、妻と3人の子供がいました。目の見えない人生など、祖父には想像もできなかったでしょう。妻と幼い子供たちは農作業を手伝うという、それまでになかった重荷を負わなければならない、経済的に苦しくなります。

視力を失い、闇の中を生きる祖父を、多くの人が主の御手に使われる者となって助けてくれました。1919年、祖父の家

族にとって非常に衝撃的な出来事が起きました。その年はひどい不況のために、町中の人々が苦しんでいました。農地は借金のかたに取られていき、会社の倒産が続きます。祖父も農地を多額の借金の抵当に入れており、返済を1年延ばすには195ドルの支払いが必要であるという通知を受け取ります。祖父にとってこの金額を支払うのは、体の肉を1ポンドそぎ取って渡すようなものでした。ほとんどの人が似たような状況にあったので、そのような大金を調達することはまず不可能でした。馬や牛、農機具など農場にあるものをすべてかき集めたところで、195ドルもの金額で売れるはずもありませんでした。祖父は隣人に頼んで自分の牛を2、3頭屠殺してもらい、その肉とその他の産物を幾らか売りました。また、年末には返してもらうという約束で近所の人たちにお金を貸していましたが、返せる人は一人もいませんでした。家族にはお金の見通しがまったく立ちませんでした。

祖父の日記には詳しく書いてあります。「クリスマスを目前にした1919年のあの寒い夕べのことを、わたしは決して忘れない。わたしたちは農地を手放すことになると覚悟していた。すると、娘のグラディスが紙を1枚渡して言った。『今日こんな手紙が来たわ。』わたしはそれを妻のところに持って行き、何が書いてあるのか尋ねた。妻が読んでくれたのは、次のような文面

だった。『愛するラーセン兄弟、今日は一日中あなたのことを考えていました。お金のことで苦しんでおられるのではないのでしょうか。もしそうならば、手もとに200ドルありますから、それをお使いください。』手紙には『ジム・ドリンクウォーター』と署名してあった。ジムは背が低く、体も不自由だ。彼がこんな大金を持っているなど、一体だれが想像しただろう。その夜ジムの家に行くと、彼はわたしに言った。『ラーセン兄弟、今朝わたしは、天から無線の連絡を受けました。それから一日中、あなたのことが頭から離れませんでした。きっとお金に困っておられるのでしょう。』ドリンクウォーター兄弟は200ドルをわたしにくれた。そのうち195ドルを抵当貸付会社に送金し、残った5ドルで子供たちに長靴や服を買ってやった。その年、確かにサントクロースは来た。』

祖父は続けてこう証しています。「主は決してわたしから希望を取り去るようなことをされない。ドリンクウォーター兄弟にされたように、主は必ずだれかの心に働きかけてくださる。わたしの知る限り、安全な生活を手にする方法は、主の戒めを守り、この教会の指導者を支持する以外にないことを証する。」

ジム・ドリンクウォーターについてわたしは何度も思い巡らしてきました。どのようにして彼は主の信頼を得たのでしょうか。多額の借金に苦しみ、しかも3人の子供を抱えた盲目の農夫を助けるために、背が低く、体が不自由なジムに、神は信頼を置かれたのです。ジム・ドリンクウォーターに助けられた祖父の経験から、わたしは多くのことを学びました。主の御手に使われる者となるには、教会の召しも、人を助けるようにという勧告も、さらには十分な健康でさえも必要ではないのです。それでは、主の御手に使われる者となるにはどうすればよいのでしょうか。その方法は預言者と聖典から学ぶことができます。

何よりもまず、わたしたちは神の子供たちに対して愛を持たなければなりません。「先生……どのいましめがいちばん大切なのですか」と律法学者に尋ねられたとき、救い主はこうお答えになりました。



それを行うのがわたしたちの使命であり、わたしたちの宗教の最も重要な課題なのです。(Conference Report, 1917年4月, 4)神の子供たちへの愛を感じるとき、わたしたちは、彼らがみもとに戻れるよう助ける機会を頂くのです。

モーサヤの息子たちの伝道の経験からも、主の御手に使われる者となる方法が理解できます。「そして、彼らは荒れ野の中を幾日も旅をした。(アルマ17:9)わたしたちは喜んで旅に出なければなりません。モーサヤの息子たちは慣れ親しんだ環境を自ら進んで離れて、苦難の道を歩みました。アンモンが進んで旅をせず、野蛮でかたくなで残忍な民が住む異国の地に行かなかったとしたら、ラモーナイとその父、そして多くのレーマン人がイエス・キリストについて知ることはありませんでした。神は旅をするようわたしたちに求めておられます。伝道に出るよう、召しを受けるよう、人を教会に招待するよう、また困っている人を助けるよう求めておられるのです。

レーマン人の兄弟たちを助ける過程で、モーサヤの息子たちは断食と祈りの大切さも学びました。「彼らは、主が御霊の一部を授けて自分たちに伴わせてくださり、またとどめてくださることを願って、大いに断食し、大いに祈った。それは、彼らが神の手に使われる者となり、できれば自分たちの同胞であるレーマン人に真理を知らせ……るためであった。(アルマ17:9)わたしたちは神の御手に使われる者になりたいと心から願っているでしょうか。そうであれば、その願いはわたしたちの祈りに表れ、断食の目的となります。

視力を失ってから祖父は断食して祈りました。盲目のまま生きることになるならば、主の平安を与えてくださるようにと。1時間もしないうちに「わたしの心は照らされ、暗黒の雲はなくなった」と祖父は述べています。祖父は、肉体の目ではなく霊の目で再び見えるようになりました。後にアルマ・ベンジャミン・ラーセンは祝福師に召され、32年間その召しを果しました。モーサヤの息子のように祖父は断食して祈り、その結果何千人もの神の子供たちを

「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』」
(マタイ22:36 - 39)

ジョセフ・F・スミスはこう語りました。「慈愛すなわち愛は、現在ある原則の中で最も偉大なものです。虐げられている人に救いの手を差し伸べ、意気消沈している人や悲しんでいる人を助け、人類の置かれている状況を改善できるならば、

祝福する機会が与えられたのです。

ジム・ドリンクウォーターやわたしの祖父のように、わたしたちも聖霊のささやきに敏感になる必要があります。主の御手に使われる者になりたいと望むなら、啓示が受けられるからです。預言者であった息子アルマは、自分が受けた啓示について次のように語っています。「わたしは主から命じられた事柄を知っており、それに誇りを感じている。……神の御手に使われる者となって幾人かでも悔い改めに導けること、これがわたしの誇りであり、喜びである。(アルマ29:9)アルマは、なすべき事柄について神から啓示を受けていました。

わたしは小さなノートを持ち歩き、御霊から受けた靈感や考えを記録するようにしています。何ということはないノートで、古くなる度に取り替えなければなりません。心に考えが浮かぶと、わたしはそれを書き留めて実行するよう努めました。ノートに書き留めた事柄を実行すると、それがだれかの祈りの答えだったと分かったことが何度もありました。また、書き留めておいた事柄を実行しなかったため、助けることができた人を助けなかったと、後になって気づいたこともありました。神の子供たちについて導きを受けたとき、思いついた事柄や受けた靈感を書き留めておいて実行するならば、神からますます信頼されるようになり、御手に使われる機会が増えていきます。

ファウスト管長の説教に次のような言葉があります。「皆さんはこの偉大な業を成し遂げるために、神の御手に使われる力強い者となることが出来ます。……周りの人のために皆さんにしかできないことがあります。(「神の御手に使われる者」『リアホナ』2005年11月号、115)神は、ご自分の子供たちの助けとなる人を宝のように大切になさいます。預言者の勧告に従い、神の御手に使われる者となるようすべての人に勧めます。これを行うなら、わたしたちは神の宝の一人に数えられるようになります。なぜなら、神の子供たちを助けているのですから。

イエス・キリストの御名により、アーメン。

彼らが主を知るように

七十人

キース・R・エドワーズ

もしわたしたちがキリストに心を向けて苦しみや悲しみに立ち向かうならば、霊的な教訓が得られる、と聖文は教えています。



聖 歌隊が「主イエスよ、わが胸」¹を歌ってくれました。ニーファイはモルモン書の中で救い主についてこう預言しました。

「しかし、世の人々は自分たちの罪悪のために、この御方を取るに足りない者と判断する。それで彼らはこの御方を鞭打つが、この御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方につばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさ²と寛容に富んでおられるからである。」²

救い主の激しい苦しみはわたしたちのためであり、わたしたちが主と同じ苦しみ³を味わわないためでした。しかし苦しみは人生の一部であり、それを経験しない人はいません。苦しみはだれもが過

去に経験したこと、また現在経験していること、未来において経験することなので、もしわたしたちがキリストに心を向けて苦しみや悲しみに立ち向かうならば、霊的な教訓が得られる、と聖文は教えています。いにしへのパウロは、苦しみはわたしたちが救い主についてさらに知る機会になると記しています。パウロはローマ人にこう書き送りました。

「御霊^{みたま}みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。

もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。」⁴

困難や苦しみを求めたりしないでください。そのように教えられているのではありません。むしろ、困難や試練にどう対処するかによって、救い主についてさらに知ることができるようになります。苦しみは、求めなくても降りかかってくる人生の経験の一つです。そのことが、いろいろな経験をするうちに分かるようになります。

個人的な例を話しましょう。何年も前、長男が1歳のときのことです。わたしは不必要と思われる苦しみの原因を作ってしまった。わたしたち夫婦は大学生で、ある晩、わたしは息子と床の上で遊んでいました。そして勉強しようと部屋を出て、後ろ手でドアを閉めました。そのとき、息子がわたしに抱っこしてもらおうと手を伸ばし、指がちょうつがい側の透き間に入り込んでしまいました。わたしがドアを



閉めたことで、息子は指に大けがをしてしまったのです。

病院の救急室に駆け込みました。息子に部分麻酔が施され、医師が部屋に入って来ました。医師は治ると言ってくれました。こんな状況にありながらも、当時1歳の息子の望みは父親の腕に抱かれることだけでした。息子は、視界にわたしが入っている間は、その緻密な手術のために体を固定されるのをとてもいやがりました。しかし、わたしが部屋を出るとおとなしくなり、医師は手術を進めることができました。

手術の間わたしは心配で、開いているドアに近づき、部屋の隅から中の様子をうかがっていました。気づかれないよう、音を立てずに、息子の斜め後ろからのぞいていると、息子は気配を感じて、頭を持ち上げ、わたしがいるかどうか首を伸ばして探していました。

腕を広げた息子が、首を伸ばして父親を探している姿を見ていると、神の御子のことが頭に浮かびました。伸ばした腕を十字架に釘付けにされ、御父を探し求めている、御子の姿です。そして「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」⁵という言葉が心に浮かびました。わたしの人生における衝撃的な瞬

間、突然とても神聖なものとなりました。

聖文の中には、常にキリストに心向けていた男女の話があります。彼らは人生でどんなに傷つき、不公平なことが起きようと、忠実さを保ち、進んで堪え忍びました。受け継ぎの地を取り上げられ、イサクを犠牲にするよう命じられたアブラム、兄たちによって奴隷として売られ、徳と純潔を尊んだために投獄され、心ない召し使いのせいで牢獄での生活を長く強いられたヨセフ、若くして夫を亡くし、貧しくとも姑に忠実であったルツ、三人のニーファイ、二人のアルマ、そしてもちろん、預言者ジョセフなどがそうです。

特にわたしが注目するのはニーファイの忍耐力です。兄たちから常にひどい目に遭っていたニーファイは、約束の地へ向かう船の上で4日間も縛られていました。動くこともできませんでした。4日目に海にのみ込まれそうになって兄たちは死を恐れ、「〔彼の〕手首を縛っていた縄を解いたが、見よ、〔彼の〕両方の手首は大きくはれ上がり、両方の足首もまたひどくはれて、その痛みは激しかった。

それで〔彼は〕神に頼り、一日中神を賛美し、……つばやくことはしなかった。」⁶

次のように記したのは、このニーファイでした。「彼らはこの御方を鞭打つが、こ

の御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方につばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。」⁷ ニーファイは分かっていたのです。

苦しみの目的はそのただ中に分かるとは限りませんが、預言者ジョセフはリパティの監獄にいるときに、とても霊的な経験をしました。主はこう慰められました。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう。」⁸

「……息子よ、あなたはこのことを知りなさい。すなわち、これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。

人の子はこれらすべての下に身を落とした。あなたは人の子よりも大いなる者であろうか。」⁹

わたしたちは、時折、故意により、またはだれかの不注意のために押し付けられる苦しみに耐えるよう求められますが、それは、またとない機会を得たことにもなります。つまり自分でそう意識すればですが、神の御子の苦しみに対して、新たな見解を持てるようになるのです。キリストはわたしたちをどのように救うかを知るために、わたしたちが経験しなくてはならない苦しみをすべて経験された、とアルマは言っていますが、逆もまた真です。¹⁰ わたしたちは自身の苦しみを通して、救い主の贖いの犠牲の深さや重要性に対する理解を深めることができるのです。

何年前にも自分自身の息子に起きたあの出来事について考える度に、贖いの重要性と偉大さに対する新たな見解とより深い理解を得る機会となってきました。御父がわたしやほかの一人一人のために御子に経験させられたことに対して、わたしは深い感謝の念を抱いています。贖いの深遠さに対して、新たな見解を自分自身で得たのです。自分ならこのような

小さなことでさえ、息子を苦しむままにしておくなど想像もつきません。しかし御父は「そのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった」¹¹のです。

息子とこのことについて話し合ったことはないのですが、彼も救い主が次のように説明された聖句の真の意味を悟る日が来るでしょう。「見よ、わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ。あなたの石がきは常にわが前にある。」¹²

この話を聖なる贖いになぞらえるつもりはありませんが、息子はいつも手の傷を目にしている、彼がそう意識すればですが、その傷あとを、わたしたちの罪のために苦しめられた救い主の手のひらの傷を思い起こすものとしてとらえる機会とすることがあります。わたしたちのために恐怖を体験し、殴られ、服をはぎ取られ、引き裂かれた贖い主の愛を、息子ならではの方法で理解する機会があるのです。

苦しみによって洞察が得られるかもしれませんが、比較するのではなく、感謝するようにならなくてはなりません。わたしたちと救い主の間には常に果てしない隔りがあります。救い主がピラトに「あなたは……賜わるのでなければ、わたしに対してなんの権威もない。」¹³と語られたことから、救い主が進んで自発的に贖いを受けられたことが分かります。わたしたちは決して救い主が経験された深く、激しく、大きな苦しみに耐えることはできません。「その苦しきは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおのき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった」¹⁴と記されています。しかし、わたしたちはニーファイのように、救い主がしてくださったことに対する感謝を深め、主の御霊がわたしたちを救ってくれるのを感じ、救い主をほんとうの意味で知ることができます。「永遠の命とは、……〔主〕を知ること」¹⁵なのです。

イエス・キリストが世の救い主であり、主の苦しみと贖いを通して罪の赦しを受け、永遠の命を得ることができることを証します。そして主の穏やかな愛にあふ



ブラジル・サンパウロの家族。

れる優しさについて証します。救い主は御父の独り子であり、なされるすべてのことは御父の御心^{みごころ}なのです。イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。

注

1. 『賛美歌』80番
2. 1ニーファイ19:9
3. 教義と聖約19:16 - 19参照
4. ローマ8:16 - 17
5. マタイ27:46

6. 1ニーファイ18:15 - 16
7. 1ニーファイ19:9
8. 教義と聖約121:7 - 8
9. 教義と聖約122:7 - 8
10. アルマ7:11 - 12参照
11. ヨハネ3:16
12. イザヤ49:16
13. ヨハネ19:11
14. 教義と聖約19:18
15. ヨハネ17:3

だから、心を決めなさい

七十人

ラリー・W・ギボンズ

わたしたちは一方の足を教会の中に入れ、もう一方の足を世俗に入れることはできません。



医学教育を受けた者として、人体の複雑さと秩序と調和を理解し、それによって創造者を信じる気持ちが強められています。わたしは神を信じ、神がわたしたちを創造されたことを信じています。

創造者の存在を信じることに對して、もう一方の選択肢は生命が突如として偶然に始まったと信じることです。けれども、わたしはそうは信じません。

また、もし神がわたしたちを創造されたのなら、神がわたしたちをほうっておかれるというのは論理的ではありません。導きを下さるのなら道理に合います。この導きの一部はすでに、いわゆる戒めという形をとって与えられています。

戒めは重荷や束縛として与えられているわけではありません。むしろわたしたちが苦難から遠ざかり、この世で満ち満ちる幸福を味わって天の家へ無事に帰れ

るように、全知であられる天の御父から与えられている指針なのです。

ユダヤ教の指導者ハロルド・S・クシュナー氏は1994年、ブリガム・ヤング大学でこのように話しました。

「わたしは伝統的なユダヤ人なので、食物について聖書で定められている戒律を守っています。……皆さんはきっとわたしが心の中で『やれやれ、豚肉が食べたいのに、意地悪で時代遅れの神様が許可してくれない』とつぶやいていると思われるでしょうが、そうではありません。実際……は絶えずこう言っているのです。『すごいことじゃないか。この地球上には50億もの人がいるのに、神はわたしが昼に何を食べ、(それに)どんな言葉を使うかを気にかけてくださっているのだ。』

……間違った事柄を行ってはならないと言われたからといって、自分が軽んじられているとは思いません。むしろそれを通して、わたしは高められています。』¹

これについてヘンリー・B・アイリング長老は、第1回世界指導者訓練放送の中でさらに効果的に語っています。「主はわたしたちに御自身のふさわしさの標準を与えてくださいました。主はわたしたちを御自身から遠ざけるためではなく、近づけるためにそうされたのです。』²

兄弟姉妹の皆さん、戒めを守るなら、現世と来世の生活は大きく変わります。日の栄えの王国とその喜びにあずかるには、戒めを守らなくてはなりません。

だれにとっても道理にかなっている唯一の基準は日の栄えの標準です。教義と聖約にはこのように書かれています。「日

の栄えの王国の律法に従えない者は、日の栄えの栄光に堪えられないからである。』³ これほど単純なのです。しかし、日の栄えに行くまで、その喜びを待つ必要はありません。戒めに従った生活をするなら、今この世で喜びを味わえるのです。

わたしが心配しているのは、あまりにも多くの人々がすべての戒めに従った生活することを完全に決意していない点です。そのような聖徒は世俗から完全に決別する気のない人です。つまり、力を出し渋っている人なのです。

ある地区大会の神権指導者会で、賛美歌「イスラエルの長老たちよ」⁴ を歌いました。「バビロン、バビロン いざさらば」というくだりがあります。歌の後、ニール・A・マックスウェル長老が、バビロンに別れを告げることはわたしたちが実際に抱えている課題の一つだと考えられると話しました。あまりにも多くの人たちがそこに別荘を持つ暮らしを楽しんでいるのです。』⁵

わたしたちは一方の足を教会の中に入れ、もう一方の足を世俗に入れることはできません。その理由の一つに、世俗と教会との距離が急速に離れていることが挙げられます。そのようなことをすれば、わたしたちはバランスを失って倒れてしまいます。

「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない」⁶ のです。マリオン・G・ロムニー管長が述べたように、「悪魔を怒らせずに主に仕えようとする人々」がいるのではないかと心配しています。⁷

救い主はこう教えられました。「あなたがたは、地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味が取りもどされようか。もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである。』⁸

効き目はどのようになくなっていくのでしょうか。一つには、世の人々に同化するという方法があります。多くの教会員が世俗の流れに身を任せ、外見も中身も次第に世の人々と同じようになってきています。流れに身を任せるのを止めなくてはなりません。

ロバート・D・ヘイルズ長老はこのように述べています。「末日聖徒としてわたしたちは世の人々と同じように見られる必要はありません。世の人々と同じように楽しむ必要はありません。異なった習慣を持ち、異なった娯楽を持つべきです。」⁹

道徳を相対的なものとする価値観が広まる今日、わたしたちは「これは正しい。これは間違っている」とはっきり言える態度を執らなくてはなりません。大衆に付和雷同してはならないのです。わたしはもちろん荒れ野へ引っ越して、家に鍵をかけるように勧めているわけではありません。この世の中で生活し、学校へ行き、仕事をして、地域社会の有意義な団体で活動することができます。ほかにもできることはあります。しかし、主の標準を守らなくてはなりません。

わたしの友達に、尊敬を集めている医者があります。彼は全国版の雑誌に健康についての記事を書き、しばしば栄養をテーマとして採り上げています。しかし彼には一つ問題があります。ドーナツが大好きなのです。ドーナツはおいしいものですが、栄養価の高い食べ物とは考えられていません。

この矛盾を解決するために、彼は80対20の栄養理論なるものを考え出しました。この理論によると、80パーセントの時間に栄養的に優れた食べ物を取るなら、あとの20パーセントの時間には自分の好きな物を食べてもかまわないのです。

この理論は栄養面では安全かもしれませんが、80対20の原則を賭博、ポルノグラフィ、正直などについて受け入れられることはできません。兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは時折、80対20の教会員になっていないでしょうか。

店で何か買い物をする必要がなければ、安息日を聖く保つ女性を考えてみてください。また、あらゆる取引で正直なのに、税金の控除額を水増しして、1,000ドル以上も納税額を減らす男性はどうでしょうか。さらには、仕事がうまくいかなかった日以外は、妻や子供たちに親切で優しい父親はどうでしょうか。

兄弟姉妹の皆さん、バビロンにある別



荘を売り払おうではありませんか。九分どおりではなく、完全な末日聖徒になりましょう。

ジョセフ・スミス訳のルカによる福音書第14章28節で主はこのように述べておられます。「それであるから、わたしがあなたがたに教え、命じる事柄を行うように心を決めなさい。」わたしは「心を決めなさい」という言葉が好きです。兄弟姉妹の皆さん、わたしたちの「心が決まっている」ように祈っています。心を完全に神に向けることによってのみ与えられる貴重な祝福があるのです。

ヒーバー・J・グラント大管長は言っています。「末日聖徒にとって安全な道は一つだけです。それは義務の道です。証でもなく、驚くような顕現でもなく、イエス・キリストの福音が真実であること知ることでもなく、.....実際また、救い主が贖い主であり、ジョセフ・スミスが救いを与える主の預言者であること知ることでもありません。神の戒めを守って末日聖徒としての生活

をすることなのです。」¹⁰

若い男性と若い女性の皆さん、人生の優先事項を決める時期が来ています。そこで、覚えておいてほしいのは、人生でほんとうに安全な唯一の道は戒めに従った生活だということです。金銭や社会的地位は、義にかなっていなければむなしいものです。このことを皆さんに約束します。

皆さんは前世で天の御父と一緒に住んでいました。神とともにいたのです。皆さんの霊は日の栄えの生活がどのようなものかを知っています。日の栄え以外の生活環境では決してほんとうの幸福を得られないのです。皆さんは、知りすぎているのです。皆さんにとって悪事が決して幸福を生じない理由の一つは、この点にあります¹¹。正直、慎み、純潔、知恵の言葉、神殿結婚に関して、自分が行う事柄と行わない事柄とを人生の早い時点ではっきりと決めることは何とすばらしいことでしょう。

兄弟姉妹の皆さん、まっすぐで狭い道

を外れないでください。いいえ、まっすぐで狭い道の真ん中にとどまってください。押し流されないでください。道を踏み外さないでください。おもしろ半分で道をそれないでください。よく注意してください。

忘れないでください。悪とたわむれてはいけません。悪魔の領域に足を踏み入れてはなりません。悪魔を有利な立場に置いてはなりません。残念ながら大勢の人が別の場所で幸福を探していますが、幸福は戒めに従って生活するときに得られるものなのです。

今朝ネルソン長老が教えたように、これはイエス・キリストの完全な福音です。主の教会です。福音の回復は実際に起こったのです。力を出し渋る理由は何もありません。

わたしはゴードン・B・ヒンクレー大管長が主の現在の預言者であることを知っています。大管長に賛同していることを、また大管長の教えと指導、力強くすばらしい模範に感謝しています。御父である神は生きておられます。イエスはキリストであることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. "The Human Soul's Quest for God," *Brigham Young Magazine*, 1995年2月号, 26
2. 『第1回世界指導者訓練集会 2003年1月11日』13
3. 教義と聖約88:22
4. 『賛美歌』196番
5. *The Neal A. Maxwell Quote Book*, コリー・H・マックスウェル編(1997), 25参照
6. マタイ6:24
7. 「平和の代価」『聖徒の道』1984年2月号, 6
8. マタイ5:13
9. "Gifts of the Spirit," *Ensign*, 2002年2月号, 17
10. "The President Speaks," *Improvement Era*, 1936年11月号, 659
11. アルマ41:10参照

またこの地に 預言者たちが

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド

この教会が全世界に預言や啓示、聖見者の存在を宣言するのは、決して取るに足りないことではありません。わたしたちは文字どおりこのことを宣言しているのです。



わたしの友人でもあるキャロリン・ラスムスは、ブリガム・ヤング大学(BYU)の教授となって間もなく、新しい職場の同僚たちから、プロボ北部の山々への土曜日のハイキングに一緒に行かないかと誘われました。キャロリンは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員ではありませんでしたが、新しくできた仲間たちからこれまでに経験したことのないような歓迎を受けていると感じていました。キャロリンはそのハイキングに張り切って参加することにしました。

少しずつ日が昇るのに合わせて、ハイカーたちも山腹を登って行きました。午前10時近くになると、一行は腰を下ろせる場所を探し始めました。キャロリンは考えました。「ちょうどよかった。この人たち

はどうしてわたしに休憩が必要だと分かったのかしら?」そこで、彼女も手足が伸ばせる快適な場所を探しました。しかし、皆この休憩にひどく熱心な様子で、鉛筆とノートを取り出す人がいるかと思えば、トランジスタラジオのダイヤルを一心に回して選局する人もいました。

その後経験したことは、彼女の人生に永遠の変化をもたらす転機となりました。友人の一人がこう言いました。「キャロリン、少し説明しないといけないね。今日は10月の第1土曜日。この日はね、すばらしい天気や鮮やかな紅葉を楽しむだけの日じゃなくて、教会の総大会が行われる日でもあるんだ。どこで何をしても、末日聖徒は立ち止まって耳を傾けるんだよ。だから、これから2時間、このカシヤマツの木の間に座って、眼下の盆地をはるかに見渡ししながら、神の預言者の言葉に耳を傾けるのさ。」

「2時間も!」とキャロリンは思いました。「この世に神の預言者がまだ生きていたなんて知らなかったわ。それに全部で2時間かかるくらいたくさん預言者がいたなんて、まったくもって初耳だわ!」その日の午後、一行がもう一度立ち止まってさらに2時間の話を聞こうとは、そして翌日、さらに4時間の話があるので家でラジオをつけるように勧められようとは、彼女には知る由もありませんでした。

さて、その後どうなったかは、想像できるでしょう。キャロリンは教え子たちから

革表紙の聖典を贈られ、通い始めた末日聖徒のワードでは友人と家族から愛され、福音の光の中に足を踏み入れたすべての人々にわたしたちが経験してほしいと望んでいる霊的な経験をしました。彼女はバプテスマを受け、教会員としての確認を受けたのです。それ以来、すばらしい教会員生活を送っています。あの日、BYUのYという文字が記された山の頂に腰を下ろし、総大会を初めて経験したラスムス姉妹は、イザヤの預言的な招きが自分自身に成就するのを目の当たりにしたのでした。「『さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられ、われわれはその道に歩もう』と。律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。』¹

もう一つのすばらしい総大会が終わろうとしています。わたしたちは祝福されて、指導者たちからメッセージを聞く機会にあずかりました。特に、この地上において神託を受ける者、生ける預言者、聖見者、啓示者としてわたしたちが支持する人物、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の話も聞くことができました。アダムアダムの時代から今日に至るまでの預言者と同様、ゴードン・B・ヒンクレー大管長も、比喩的な言い方をすれば、わたしたちを世界的規模のアダム・オンダイ・アーマンの谷に呼び集め、わたしたちを愛し、教え、わたしたちに預言者の祝福を授けています。²

この週末、この壇上で話してくれたすべての兄弟姉妹たちの共通の祈りは、総大会が皆さんの霊を鼓舞し、また必要ならば、皆さん一人一人にとって人生を変えるきっかけとなることだと言っても差し支えないでしょう。ちょうどラスムス姉妹や、年に2度、末日聖徒の賛美歌にある「来たれ、予言者よみ言葉聞け」³ という呼びかけにこたえる数え切れないほど多くの人々にとってそうであるようにです。

総大会のメッセージと意義に対するわたし自身の証あかしと感謝という形で、年に2度開かれるこの集会在全世界に宣言している、3つの事柄について提案させてください。

第1に、この集会是、主の御名によって



語る生ける預言者がいにしへの時代と同様この地上に存在するというを、積極的にまたはっきりと宣言しています。このような導きをわたしたちはどれほど必要としていることでしょうか。今わたしたちは、荒れ狂う困難な時代に生きています。世界各地では戦争を、国内では悲惨な事件を目の当たりにしています。至る所で人々は、個人的な苦悩と家族の悲哀に直面しています。大勢の人々がありとあらゆる種類の不安や問題を抱えています。このような状況からわたしたちはあることを思い起こします。リーハイの命の木に関する示現の中で、あの暗黒の霧が鉄の棒に沿って進んでいく人々を包んだとき、暗黒の霧はそこにいたすべての人々、不義な人々だけでなく義人も、年を重ねた人々とともに若人も、新会員とともに教会歴の長い人々も皆同様に、すべての人々を包みました。この象徴的な夢では、すべての人々が反対のものと苦難に直面しています。そして、鉄の棒、すなわち神から宣言された御言葉みことば以外に彼らを安全へと導くことのできるものはありません。すべての人々がこの棒を必要としています。すべての人々がこの言葉を必要としているのです。この鉄の棒がなければ、だれ一人として安全は得られません。なぜなら、この鉄の棒がなければ、聖文に言われているように、だれもが「禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなって」しまうからです。⁴ この2日間、この大会で神の御声を聞き、この鉄の棒の力を感じたわたしたちはどれほど感謝すべきでしょうか。

それほど頻繁ではなくとも昔から、中央幹部について根拠のない情報を流してい

る人々がいます。例えば、中央幹部は現実離れた発言をしている、問題点を理解していない、中央幹部の提示する方針の中には時代遅れで、今の時代にそぐわないものがある、などといった具合です。

この教会から得られる導きを自らの経験として証するよう皆さんから支持を受けた最も小さい者として、わたしは心の底から証します。個人的な生活であれ、仕事の分野であれ、これまで交流があったどのグループと比較しても、世の出来事についてこれほど通じていて、周囲を取り巻く様々な問題についてこれほどよく知り、過去の出来事についてこれほど熱心に研究し、新しい事柄についてこれほど積極的に考え続け、その他のことについてこれほど注意深く、思いやりをもって、また祈りの気持ちで考えている人々の集まりはありません。これらの男性および女性の道徳的、社会的問題に関する理解力は、同様の問題を扱っている、わたしの知るかぎりの地球上のどんな頭脳集団、専門家集団の理解力をも超えることをわたしは証します。中央幹部がどれほど善良で、どれほど熱心に働き、どれほどつつましくへりくだって生活しているかについて、個人的な経験に基づいて証できます。この教会が全世界に預言や啓示、聖見者の存在を宣言するのは、決して取るに足りないことではありません。わたしたちは文字どおりこのことを宣言しているのです。それは暗闇を照らす真実の光であり、総大会の各部会から輝き出ているものです。

第2に、これらの大会はすべて、わたしたち自身の生活のためだけでなく、周囲



の人々、すなわちわたしたち自身の家族、そして信仰を同じくする人々、またそうでない人々のために行動を起こすよう呼びかけています。今朝、ヒンクレイ大管長は、今年はその手車隊の出来事から150周年に当たることを、感動的な言葉で思い起こさせてくれました。1856年の10月、総大会がここソルトレーク盆地で開かれようとしていたとき、手車隊の聖徒たちはネブラスカの凍てつく道をよるめきながら通過し、ワイオミングの高地に吹き荒れる猛烈な吹雪のために立ち往生していました。ヒンクレイ大管長は今大会で、霊を鼓舞する次のメッセージを引用しました。あの総大会でブリガム・ヤング大管長が聖徒に向けて語った簡潔な言葉です。「行って、今平原にいる人々を連れて来てください。」⁵

助けを必要としている人々を救出することは、1856年10月の総大会のテーマでしたが、そのときと同様に確かに、今回の総大会、前回の総大会、また来春の総大会のテーマでもあります。今大会でのわたしたちの焦点は、吹雪や、凍てつく地面に愛する人々を埋葬しなければならないことではないかもしれませんが、しかし、助けの必要な人々は今日もお存在して

います。貧しい人々、疲れ果てている人々、失望している人々、落胆している人々、先に述べたように「禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなって」いる人々、また「見いだす場所を知らないというだけで真理を得られずにいる」非常に多くの人々がいます。⁶ 彼らは皆外に投げ出されています。ひざは弱り、手は垂れ⁷、悪天候が襲いかかろうとしています。より多くのもの、より多くの知識を持ち、より多くの助けができる人々しか彼らを救い出すことはできません。「そのような問題を抱えた人々はどこにいますか」と尋ねるには及びません。至る所にいるからです。わたしたちの右にも左にも、近隣にも、職場にもいます。世界中のすべての地域社会、すべての町、すべての国にいます。牛馬や荷車を集め、そこに愛と証、霊の糧を積み込んでください。それからどの方向であれ進んでください。皆さんがこの大会で学んだイエス・キリストの福音を受け入れさえすれば、主は助けを必要としている人々のもとへ皆さんを導いてくださいます。21世紀のマーティンズ・コーブとデビルズゲート(訳注 開拓者が通った難所)に匹敵する試練に追い込まれて

いる人々のために心を開き、援助の手を差し伸べてください。そうすることによって、わたしたちは、失われた羊、失われた硬貨、失われた魂のために度々繰り返されてきた救い主の嘆願に応じることができるのです。⁸

最後に申し上げますが、教会の総大会は以下のことを全世界に宣言するものです。すなわち、イエスがキリストであること、イエスとその御父、わたしたち一人一人の神であり御父であられる御方が、少年預言者ジョセフ・スミスに御姿を現され、古代の約束が成就されたことです。成就された約束とは、復活されたナザレのイエスが御自身の教会をこの地上に回復され、再び「天に上って行かれるのを〔ユダヤの聖徒たちが見た〕のと同じ有様でまたおいでになる」ということです。⁹ この大会、そしてこの大会と主旨を同じくするほかのすべての大会は、イエスが御自身を低くされ、貧しくつましい環境にお生まれになり、悲しみと拒絶、落胆と死に直面されたことにより、わたしたちが破滅から救われ、わたしたちの命が続くようになったこと、「その打たれた傷によって、われわれはいやされた」ということを宣言するものです。¹⁰ この大会は「そのいつくしみは絶えることがない」という愛にあふれるメシヤについての約束をあらゆる国民、部族、国語の民、民族に告げ知らせます。¹¹

道に迷い、希望を失っているすべての人々、あるいはあまりにも多くのあまりにも重大な罪を、あまりにも長い間犯してしまっただと考えているすべての人々、人生という寒々とした平原に取り残され、道半ばにして手車を大破させてしまったと嘆いているすべての人々に向かって、この大会は幾度となく繰り返されてきたエホバの御言葉を声高らかに宣言しているのです。「わたしは、なお手を差し伸べている。」¹² 「『わたし(は)日々腕を伸べている……。(そしてたとえ彼らがわたしを拒んでも、)彼らが悔い改めてわたしのもとに来るならば、わたしは彼らを憐れもう。わたしは終日、腕を伸べているからである』と主なる神は言われる。」¹³ 主の憐れみはいつ

までも絶えることはありません。また、主の御手は今でも伸べられているのです。主の愛は純粋なキリストの愛、いつまでも絶えることのない慈愛、たとえほかのすべての力が消えうせてしまうときでさえ絶えることのない憐れみなのです。¹⁴

わたしはこのイエスが人に手を差し伸べ、救いをもたらす憐れみに満ちた御方であること、この教会が主の贖いの愛を礎とする、主の贖いをもたらす教会であること、また、モルモン書の預言者も宣言したように、「主から遣わされた預言者たちが〔それを告げるために〕民の中にやって来〔たこと〕、……またこの地に預言者がやって来」たことを証します。¹⁵ わたしはゴードン・B・ヒンクレー大管長が、頭からつま先に至るまで、あらゆる点でそのような預言者であることを証します。わたしたちはヒンクレー大管長が健在であることとその言葉を大切に思っており、大管長のために心から祈ってきました。年に2回開催されるこの集会の結びの言葉を、大管長がこれから語ってくれます。総大会のこの時期、これらすべての祝福とその他のあふれる恵みに対し、心から感謝いたします。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. イザヤ2:3
2. 教義と聖約107:53 - 56参照
3. 「来たれ、預言者より」『賛美歌』13番
4. 1ニーファイ8:28; 23 - 24節も参照
5. *Deseret News*, 1856年10月15日付, 252; リロイ・R・ヘーフェン, アン・W・ヘーフェン, *Handcarts to Zion* (1960年), 120 - 121も参照
6. 教義と聖約123:12
7. 教義と聖約81:5参照
8. ルカ15章参照
9. 使徒1:11
10. イザヤ53:5
11. 詩篇136章参照
12. イザヤ5:25; 9:17, 21参照
13. 2ニーファイ28:32
14. モロナイ7:46 - 47参照
15. エテル7:23; 9:28

閉会の言葉

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちの愛と祝福を皆さんに残します。主の御霊が皆さんの家庭に宿りますように。



わたしの愛する兄弟姉妹の皆さん、このような大会を開けることは、何という奇跡でしょう。世界中どこを探しても、このような大会に匹敵するものはありません。この偉大なカンファレンスセンターに集まっていることを考えるとき、また、わたしたちの話す言葉が世界中に届けられ、すべての大陸に住む人々がともに生ける神を礼拝していることを考えるとき、これが真にすばらしい奇跡であることが分かります。お話はどれも、非常にすばらしいものでした。すべての中央幹部からお話を聞く時間があればよいのですが、残念ながら、それはできません。また、補助組織を代表する方々のメッセージは、わたしたちを鼓舞してくれました。

祈りによっても同様に鼓舞されました。音楽もほんとうにすばらしいものでした。この壮大なカンファレンスセンターに心

から感謝しています。わたしたちはこの偉大なホールで集会を開くことができます。また、世界中の様々な国や地方の末日聖徒に、わたしたちの言葉を伝えてくれる通信技術にも感謝しています。

わたしたちは地に平和が宿ることを願い、これからも祈り続けます。

わたしたちの愛する同僚である皆さん、わたしたちの愛と祝福を皆さんに残します。主の御霊が皆さんの家庭に宿りますように。皆さんが愛を基とした家族関係を築けますように。

6か月後にまたお会いできることを心待ちにしながら、これらのことを、わたしたちの贖い主の聖なる御名によりお祈りし、わたしたちの愛と祝福を主イエス・キリストの御名によって皆さんに残します、アーメン。



主の愛に永遠に抱かれて

中央扶助協会会長
ボニー・D・パーキン

天の御父は、御子イエス・キリストと同じように、わたしたち姉妹を愛しておられます。その愛は決して変わることがありません。



この召しを受けたときに、教会の姉妹たちが何を必要としているかが分かるようにと天の御父に願ひ求めました。そのとき受けた強い印象は、わたしたちは神の娘として、神から愛されていることを知る必要があるということでした。わたしたちは、神がわたしたちの善い点を見てくださっていることを知る必要があります。神の愛を感じれば、前進する勇気がわいてきます。自分が神の子であることを確信し、たとえつまずいたり、一時的に後退したりしたときでも、自分は神にとって大切な存在であるということ思い出すことができます。

今述べたメッセージが真実であるということは、2002年4月の総大会の日曜午後の部会で証をしたときに、はっきり分かりました。その朝、デビッド・B・ヘイト長老が大会に参加しないかもしれないという連絡を受けました。そうならば、わたしが5分

間証することになるというのです。それを聞いたわたしはヘイト長老の体調がよくなるように必死で祈りました！日曜日の朝、ヘイト長老がカンファレンスセンターに入って来るのを見てほっとしました。ところがヘイト長老は、全員で賛美歌を歌っている間に退出してしまったのです。その日の午後、説教壇に立ったわたしには原稿がありませんでした。しかしわたしの心には、女性は日々の生活の中で主の愛を感じる必要があるというメッセージが何度も浮かんできました。わたしは、それがその日わたしが伝えなくてはならないメッセージであると悟ったのです。そして中央扶助協会から皆さんへのメッセージは、その後も変わっていません。

このメッセージに対して、多くの方から優しい手紙を頂き、へりくだる思いがします。このメッセージが皆さんの生活にもたらした祝福を知らせてくださり、ありがとうございます。皆さんの言葉から、一人一人が生活の中で主の愛を感じる権利があること、主の愛を感じる必要があることがはっきり分かります。

天の御父はわたしたちが地上に来る前から愛してくださっていました。天の御父は、御子イエス・キリストと同じように、わたしたち姉妹を愛しておられます。その愛は決して変わることがありません。わたしたちは、その愛を信頼してよいのです。

扶助協会のモットーが、「愛はいつまでも絶えることがない」であるのとちょうど同じように、わたしたちに対するキリストの愛もいつまでも絶えることがないことを信じなくてはなりません。扶助協会で行うすべ

てのことは、救い主と天の御父の愛を表していなければならないのです。この偉大な愛こそ、奉仕の原動力でなくてはなりません。この愛こそ、わたしたちの原点であり、また目標でもあるべきなのです。

5人の小さな子供を持つ若い母親が、よき助言者である年上の姉妹に電話をして「ハイキングに行きませんか？」と誘いました。年上の姉妹は、何か相談事があるのだと察しました。13キロのハイキングコースの折り返し地点に来たところで、若い母親は言いました。「天のお父様から愛されているなんて信じられないわ。わたしの生活は失敗だらけだし。天のお父様から愛される資格なんてないのよ。こんなわたしを愛することなんておできになるはずないじゃない。」姉妹の皆さん、この姉妹は、神殿で聖約を交わし、教会にも熱心に集っていました。それでも、神から愛される資格がないと思っていたのです。年上の姉妹はすぐにこう答えました。「もちろん愛してくださっているわよ。だって、あなたは神様の娘なのよ。」

主から注がれる豊かな愛を、わたしたちはしばしば拒んではいけないでしょうか。主の愛を受けるには完璧でなければならぬと思いついていないでしょうか。「主の愛の御腕に永遠に抱かれている」¹と感ずることができれば、不安は消え、今すぐ完璧になる必要はないということが分かるでしょう。人は少しずつ完成に至るということを感じておいてください。これは永遠の進歩の福音であり、その旅を楽しむことも覚えておく必要があります。「永遠」とは始まりも終わりもないという意味です。ですから、わたしたちは毎日主の愛に抱かれているのです。たとえ主の愛に気づくことができなくても、主から常に愛されていることを心に留めていてください。わたしはこの偉大な賜物^{たまもの}について、ニーファイの言葉が好きです。「[神の愛は]人の子らの心にあまねく注がれる……。だから、どんなものよりも好まし[く]最も喜ばしいものである。」² この言葉が真実であると証します。

主の愛がどのようなものなのか想像するのは難しいと感じる人もいるかもしれませんが

ん。生まれたばかりの赤ちゃんを抱く母親のことを考えてください。赤ちゃんを抱く母親の腕は、温かく、安全で、慈しみと平安に満ちています。主の愛の御手に抱かれる感じもそれに似ています。扶助協会のヤングアダルトの姉妹がこう記しています。「母の愛があったからこそ、救い主の愛の大きさと力を少しずつ理解できるようになったのです。」

母親の皆さん、子供たちに神の愛を教えるのに、皆さんがどれほど重要であるか分かりますか。皆さんが子供たちを愛すれば、子供たちは少しでも主の愛を感じることができるのです。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう勧告しています。「主なるわたしたちの神を愛し、神の御子を愛してください。そして、御父と御子がわたしたちに注いでくださる愛にいつも感謝してください。ほかの愛が腐れていくときでも、わたしたち人間に対する、人知を超えた神の無窮の愛、わたしたちのために命を捨てられた御子の愛は絶えることがありません。」³

神と自分の関係を理解している母親は、子供が神を知り、神の愛に抱かれるよう助けことができます。ある姉妹が100歳になる母親の告別式で述べた言葉に、わたしは大変感動しました。彼女の言葉です。「わたしがまだ10代のころ、どのクラスを受講すべきか決めることができなくて、台所でアイロンがけをしている母のところへ行きました。どういう選択肢があるかを母に話している間、母はずっと耳を傾けていました。様々な選択肢について話し合った後で、母はこう言ったのです。『キャシー、そのことについて祈ったの?』そう言われて恥ずかしくなり、ためらいながら、こう言いました。『お母さんはどんなことについても祈るの?』母は『ええ、祈るわ』と答えました。』⁴

この母親は耳を傾けました。そして主への信仰を分かち合い、模範を示し、娘に常に主のもとに戻ってほしいと思っていることを伝えました。わたしたちが主に近づくとき、主の愛をさらに身近に感じることができます。母親の皆さん、生活の中でいつも主を思い出すように子供に



教え、主の愛に気づくよう子供たちを助けてください。

母とわたしは同時に祝福師の祝福を受けました。わたしが20歳で、母が49歳のときでした。その日のことは決して忘れません。祝福師は母の頭の上に手を置き、母がリュウマチ熱や心臓病、そのほかの病気から何度も助けられてきたことを述べました。そして母がこれまで人々を祝福した数々の出来事について挙げながら、母の人生を詳しく語りました。また主が母のために備えておられるそのほかの事柄について告げ、どうすべきか導きを与えてくれました。わたしは母の人生を知っていました。そのわたしの前で、母のことを知らないあの祝福師は、母の人生について語ったのです。わたしにとってこの経験は、神が生きておられ、わたしたちを愛しておられ、一人一人を御存じであることの証になりました。わたしはその忘れられない日に、母とわたしに対する主の愛を感じました。

救い主の愛の最も偉大な証拠は、主の贖いの業です。主の愛は、主の恵み、忍耐、長く堪え忍ぶこと、憐れみ、救しとともに、あふれんばかりです。

さて、祖母であるわたしたちにも、孫たちを愛の腕に抱くという神聖な責任があります。反抗期の3歳の女の子に対して、その祖母はこう諭しました。「おばあちゃんにそんな口をきくものではありませんよ。わたしたちはこれから何万年も友達にいるのだから。」祖母であるとは、なんとすばらしいことでしょうか。姉妹の皆さん、愛と聖約はわたしたちを永遠の家族として結び付けるということを覚えていてください。

主の愛はしばしば、御霊の促しに従うほかの人を通してもたらされます。わたしたちはその促しを聞き、従っているのでしょうか。

ある姉妹が経済的理由で、22年間慣れ親しんだ大好きな家とワードを離れなければならなくなりました。とてもつらいことで



した。新しいワードでの最初の日曜日について、彼女はこう言いました。「知っている人は少しいましたが、それでも孤独を感じました。その朝、扶助協会の部屋へ行くと、まだほとんどだれもいませんでした。わたしは座って、姉妹たちが入って座る様子を見ていました。どの姉妹も、互いに別の席に座りました。だれかの隣に座ろうとする人はなく、わたしの隣に座る人もいませんでした。自分が離れ小島になったような気がしました。」姉妹たち、わたしたちはどうしてそうなのでしょう。その姉妹は続けてこう言いました。「そのとき、リサが入って来て、わたしを見るなり顔を輝かし、飛んで来てわたしの隣に座り、腕をわたしの肩に回し、抱き締めてくれました。こんな小さな行いに、とても大きな力があることを知り、驚きました。彼女のぬくもりと愛は、わたしの孤独感を一掃してくれました。」

わたしたちは何か大きな出来事を通してでなければ主の愛に気づけないと考え、また、ささいなことの中にも主の愛があることに気づかなくてはなりません。自分の力を過小評価しないでください。皆さんはほかの姉妹の隣に座って心から歓迎するといった、簡単な行動を通して、主の愛を伝えることができるのです。

皆さんは主の愛を生活の中で感じてい

ますか。わたしが主の愛を感じる方法と皆さんが主の愛を感じる方法は違うかもしれませんが、それぞれが主の愛の感じ方を知ることで、一度主の愛を感じたなら、それを分かち合うのです。

わたしたち会長会はハリケーン・カトリナが通過した後、湾岸地域を訪れました。ある晩ファイヤサイドで説教壇に立ったわたしは、集っている姉妹たち一人一人に文字どおり手を差し伸べ、強める必要があるという促しを感じました。集会后、ヒューズ姉妹とピングリー姉妹とわたしは別々のドアに立ち、退出して行く姉妹たちを一人一人抱き締めました。わたしたちは単に愛を示したかったのです。あのとこの姉妹たちが今晚この話を聞いていましたら、皆さんが示してくれた神の愛のおかげで、わたしたちはあの日、元気を得て、皆さんの礼拝堂を後にしたとお伝えします。皆さんが互いを気遣い、またわたしたち3人を気遣ってくださったことに感謝します。

わたしは朝の祈りで、主の業をもっと心を込めて行えるように、神の愛で心が満たされるよう御父に祈り求めています。このように祈ることで祝福を受けてきました。扶助協会の姉妹であるわたしたちは、キリストの愛を表すよう努力しなくてはなりません。

主は御父の御心みこころを行うことで常に御父を喜ばせようと考えられました。姉妹たち、わたしたちはあらゆる努力をして、キリストの最高の模範に従う必要があります。何をするにも、思いや言葉や行いを通してそのような愛を示すよう努力しなくてはなりません。高慢、虚栄心、利己心、個人の都合のせい、愛をもって人に手を差し伸べるのをやめてはいけません。とても単純であり、また深遠なことでもありますが、まず自分が神の愛に抱かれるようにしなくてはなりません。そうするために最も良い方法は、救い主の永遠の贖いを心から信じることです。そうして初めて、神の愛の輪を家族やほかの人に広げていくことができるのです。そのような輪が、確かに天国なのです。

わたしの愛する姉妹の皆さん、神が愛する姉妹の皆さんを祝福されますように。皆さんが聖約を守り、慈愛を実践し、家族を強めることによって、毎日神の愛を感じることができるようになります。イエス・キリストの御名みなによって、アーメン。

注

1. 2ニーファイ1:15
2. 1ニーファイ11:22 - 23, 強調付加
3. 「生ける預言者の言葉」『聖徒の道』
1996年12月号, 8参照
4. 個人的な書簡

主の愛を思い起こす

中央扶助協会会長会第一顧問
キャスリーン・H・ヒューズ

わたしたちは生活の中で主の愛を知り、感じられるよう努めなければなりません。



ネルバ・タイカート作の絵画「緋の衣のキリスト」は、わたしたちが今晚の大会のために選んだ「わたしは……主の愛の御腕に永遠に抱かれている（2ニーファイ1：15）という聖文の意味するところを見事に表現しています。キリストはまさに御腕を伸ばしてわたしたちを迎え入れてくださっています。一人一人みもとに来ようわたしたちを招いておられるのです。「立ってわたしのもとに来」るよ（3ニーファイ11：14）ニーファイ人をお招きになったのと同様です。それは、「〔主が〕全地の神であること、そして世の罪のために殺されたことを」わたしたちも知るためです（3ニーファイ11：14）。この招きを受け入れるならば、主の愛に抱かれるとはどういうことなのか分かります。

だれでも、一度や二度はキリストの腕に抱かれたように感じたことがあるはずで

す。しかし、わたしもそうなのですが、恐れたり、ストレスや生活の忙しさに押しつぶされそうになったり、御霊の助けが得られないように思えたりするときもあるでしょう。見捨てられているように感じることすらあるかもしれせん。こんな気持ちになったときの特效薬は、キリストの平安に包まれて気づけられたときの記憶です。そこで、今晚は、主の愛を生活の中で感じるとはどういうことか、主の腕に抱かれたように感じるとはどういうことか、わたしと一緒に皆さんに思い出していただきたいと思います。

わたしが親になって間もなく、母は亡くなりました。わたしにとって、まだ母の勧告や助言が必要なときでした。癌と診断されてわずか6週間で亡くなったため、最初わたしは残された父のことを心配していました。幸いにも、母は長く患わなかったため、母の死はわたしたちにとってやり切れないほどつらい経験ではありませんでした。ところが、数週間たったころから、母の日や母の誕生日が近づくにつれ、激しい喪失感に襲われました。母の腕が恋しく、母は霊界でどうしているか知りたくなったのです。母を愛していること、母がいなくなって寂しいことを伝えたいと思いました。

ある晩、わたしは泣きながら祈っていました（そのころはこんなことがよくありました）。すると、突然、大きな慰めの力が全身に満ちたのです。そのおかげでわたしは立ち直り、平安を得られました。その力を体感できた時間はそれほど長くなかったのですが、計り知れないほど心が癒さ

れました。それが何か、わたしには分かりました。わたしを包み込み、平安と力を与えてくれる主の愛だったのです。しかし、もう一つ大切なのは、そのときの経験がわたしの記憶に残り、人生で苦難にぶつかったときにそっと開いてみる甘美な思い出の贈り物になったということです。

時には、愛と、愛によってもたらされる平安がふいに訪れることもあります。別に求めていたわけでもなく、特に問題や気になることがあるわけでもないのに訪れるのです。ある美しい秋の安息日のことです。わたしは、いつものいすに座って聖文を読んでいました。隣の家のアンズの木からは黄色い葉が落ちていました。そして、聖典から目を上げた途端、何の前触れもなく平安と充足感に包まれたのです。その感覚は長くは続きませんでした。そのとき感じた愛は、ずっと記憶に残っています。大変な試練に人生で直面したときに思い出すことのできる天からの贈り物なのです。

また、わたしは求めるときに、毎日生活の中で主の愛を感じ、主の腕に抱かれていると感じることができます。朝の散歩のときに澄んだ空気の中、東の空から太陽が昇り始めるのを見るとき、わたしは主の愛が確かに注がれているのを感じます。聖句の一節が急に心に浮かび、その新たな意味を悟ったとき、主の愛を感じます。扶助協会の善良な姉妹から、またわたしを愛してくれる訪問教師の姉妹から教えを受けるとき、主の愛を感じます。美しい音楽や印象深い話に心を打たれるとき、主がいらっしゃることを感じます。姉妹の皆さん、目と心を主に向けて開くとき、主はどこにでもおられるのです。

でも、姉妹たちの中には今、こんなことを考えている人もいることでしょう。「いつ朝の散歩をする時間があるというの。聖文を落ち着いて読む時間が10分取れたことなど最近あったかしら。こここのところ苦労や心配事、心痛のない日なんてないわ。」そして、時に人生が義務と葛藤と落胆の山に見えることがあるのをわたしは承知しています。しかし、主はいらっしゃり、いつも変わらずわたしたちに手を差



し伸べておられます。押しつぶされそうに感じたら、かつて主が平安を語ってくださったときのことを思い出しましょう。主の平安は、この世からは得られない慰めと力を与えてくれます。

末日聖徒イエス・キリスト教会の忠実な女性として、わたしたちには聖霊という祝福が与えられています。生活の中に主を招き入れるならば、御父と救い主である御子がわたしたち一人一人を愛しておられることを聖霊が証してください。しかし、その愛が感じられるかどうかは、わたしたちの望みだけでなく行いにもかかっています。わたしたちは、どのような行いをすべきか知っています。へりくだって具体的な祈りをささげ、主の答に静かに耳を傾けること、定期的に聖文を研究し、時間を取って読んだ聖文について深く考えること、そして最後に、進んで自己を見つめ、「弱さを強さに変え」てくださるという主の約束を信じるのです(エテル12:27)。研究し、深く考えるならば、御霊のささやきを受けることができます。そのささやきに敏感になればなるほど、日々の生活の中に主の御手があることに気づくようになります。ニール・A・マックスウェル長老の言うように、「人生で起こるほんの小さなこと」の中に、わたしたちは主を見いだすことでしよ

う(“Becoming a Disciple,” *Ensign*, 1996年6月号, 19)。そして、主の御手に気づいたときに主の平安を感じ、わたしたちがほんとうに主の愛の腕に抱かれていることを知るので。

2004年1月の世界指導者訓練集会でゴードン・B・ヒンクレー大管長は、世の中に蔓延しつつある悪に対して「力強く確固として立つ」よう教会の女性たちに勧めました(「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会 2004年1月10日』20)。姉妹たち、これこそが、生活の中で主の愛を知り、感じられるよう努めなければならない理由です。これこそが、主の平安を感じて力を得た経験を思い起こし、蓄えなければならない理由です。これこそが、自分の信仰あふれる経験や証を子供たちに伝え、親や愛する人を失った人たちに語らなければならない理由なのです。

家族は生活の中に神の平安を求めています。ですから、もしわたしたちが主を生活の中に導き入れられなければ、またはそうしようとしなければ、わたしたちの心の内の葛藤は家族にも影響を及ぼします。女性は家族に養いを与える者となるよう求められますが、同時に確固としていなければならないなりません。堅固な岩のように、その基の上に家庭を築かなけれ

ばなりません。家族はまさに主が平安を語られたように、わたしたちにも平安を与える言葉を語ってほしいと願っています。家庭は、家族や友人がとどまりたいと思う場所でなければなりません。悪の力が蔓延する世の中にあって問題に立ち向かう力と勇気を、だれもが引き出せるような場所でなければならないのです。子供たちは、わたしたちが「キリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教」するのを聞く必要があります(2ニーファイ25:26)。そうすれば子供たちは、「人知ではとうてい測り知ることのできない」平安をどこに見いだせるか、知ることができるのです(ピリピ4:7)。

姉妹たち、忘れないでください。救い主がわたしたちを招いておられることは明らかです。しかもわたしたちにとって重要なのは、救い主はいつも変わらず招いておられるということです。「すべて重荷を負って苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。……わたしのくびきを負い……なさい。……わたしの荷は軽いからである。(マタイ11:28-30)これは、わたしや皆さんに対する主の約束です。

主が平安を与えてくださったときのことや、愛の腕の中に抱いてくださったときのことを、わたしたち一人一人が思い起こせるよう祈っています。そして、同じくらい重要なことですが、最近そのような愛を感じていない人は、日々の務めを果たす中でその愛に気づき、感じられるよう求めてほしいのです。これらのことを行うなら、人生で日を重ね、年月を重ねるにつれて、主と交わった思い出が甘美な贈り物となります。そして人生で困難にぶつかったとき、それを再び、あるいは何度でも開けて力を得られるようになるのです。

「わたしは平安をあなたがたに残して行く」と主は約束しておられます。「わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。(ヨハネ14:27)平安、力、これこそがわたしたちが求めるものであり、得ることのできるものです。差し伸べられた主の御手に心を向けさえすればよいのです。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

キリストに目を向け、 手を伸ばし、 キリストのもとに来る

中央扶助協会会長会第二顧問
アン・C・ピングリー

メシヤはその憐れみの御腕を差し伸べ、わたしたちが主のみもとに来ることを選ぶなら、いつでも心から受け入れてくださいます。



ネルバ・タイカートの名画「^ひ緋の衣のキリスト」では、両手に釘の跡がある人類の救い主が、両腕を広げて厳かに立っておられます。主は、手を伸ばす女性たちを、優しさで憐れみに満ちた表情で見られます。

わたしは、救い主の方に手を伸ばす女性たちの姿が好きです。わたしたちは主の近くにありたいと切に望んでいます。主が一人一人を愛し、わたしたちをその「愛の御腕に永遠に」¹ 抱きたいと望んでおられることを知っているからです。主の御手は霊的にも、情緒的にも、身体的にも病を癒すことができになります。主はわたしたちの弁護者、模範、良い羊飼い、

そして贖い主です。わたしたちが目を向け、手を伸ばし、この身を寄せるのは、「信仰の導き手であり、またその完成者である」イエス・キリストだけです。²

主はこう宣言されました。「まことに、……あなたがたは、わたしのもとに来るならば永遠の命を得るであろう。見よ、わたしの憐れみの腕はあなたがたに向けて伸べられている。わたしは来る者をだれでも受け入れよう。……」³ 主はこの約束の中で、御自身に向かって手を伸ばすだけでなく、次のきわめて重要な段階を踏むよう招いておられます。それはすなわち、主のみもとに来ることです。

これは勇気と励ましを与えてくれる教義です。メシヤはその憐れみの御腕を差し伸べ、わたしたちが主のみもとに来ることを選ぶなら、いつでも心から受け入れてくださいます。わたしたちが「十分に固い決意をもって」救い主のみもとに来るなら、最も個人的な方法で主の愛の御腕を感じるでしょう。⁴

ある「女」はその選択をして、主の御手を感じました。⁵ 「十二年間も長血をわずらっていて、医者のために自分の身代をみな使い果してしまいましたが、だれにもなおしてもらえなかった女がいた。

この女がうしろから近寄ってみ衣のふさにさわったところ、その長血がたちまち止まってしまった。

イエスは言われた、『わたしにさわったのは、だれか』。人々はみな自分ではないと言ったので、ペテロが『先生、群集があなたを取り囲んで、ひしめき合っているのです』と答えた。

しかしイエスは言われた、『だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ』。

女は隠しきれないのを知って、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわった訳と、さわるとたちまちなおったことを、みんなの前で話した。

そこでイエスが女に言われた、『娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。』⁶

わたしは、もしこの長血の女性が主を十分に信じず、み衣のふさを触る努力をしなかったらどうなっていたらどうかと自問してきました。あの群集の中で、主にあれほど近づいただけでも大変だったことでしょう。しかし、この女性は「疑わないで」⁷ あきらめませんでした。

わたしたちも同様に、行動を起こさないではいられないような、主への深い信仰を示さなければなりません。

ある友人が、悲しみに深く沈んでいたときのことを話してくれました。家族に起きた悲劇を深く悲しんでいた彼女は、ある日、外出することさえできなくなってしまいました。すると扶助協会のある姉妹が突然やって来て、こう言いました。「あなたが助けを必要としているような気がしたの。」その姉妹は詮索したり、詳しい話を聞き出そうとしたりはせず、友人を抱きしめてこう尋ねました。「一緒に祈りましょうか?」祈りが終わると、その姉妹は帰りました。そのような優しい行いと相手の気持ちに配慮した接し方は、傷ついた友人の心を大いに癒しました。

この愛ある扶助協会の姉妹は、御霊に耳を傾けただけでなく、その促しに従って行動しました。救いの教義に見いだされる徳に強く感化された彼女は、日々キリストのようになろうと努めていることを、ほんとうの意味で示していました。彼女の行いは、「慈愛はいつまでも絶えることがない」⁸ という言葉を個人的に理解してい



ることを映し出していたのです。

世界中の扶助協会の姉妹たちは、この思いやりある姉妹のように、キリストの永遠の愛⁹である慈愛を映し出しています。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は皆さんについてこう言いました。「これらのすばらしい、無私の心を持った女性たちは、世界中至る所で失望した人を助け、傷ついた人を介抱し、失意のどん底にある人を励まし、慰め……落胆している人を高め、力づけ、励まし、前進する意志を与えているのです。」¹⁰

救い主のみもとへ前進して行く意志を貫くには、その場、その場で悔い改めることが求められます。過ちを犯したことや、だれかを励ましたり助けたりすることができたのに行わなかったことを認めるのです。思い、行い、または言葉におけるこれらの個人的な軌道修正は、キリストのみもとへ来ることを望むすべての人に欠か

せないことです。わたしたちの言動には、わたしたちが実際に、また象徴的に、人々とどう接しようとしているかが表れるのです。

わたしたちは、愛をもって人々を抱きしめるときに、救い主に近づきます。でも、そうしないこともできます。心身の傷をいたわり、批判的な目ではなく、愛をもって互いを見ます。でも、そうしないこともできます。たとえ故意ではなくても、自分が引き起こした悪影響^{ゆる}に対して赦しを求め、自分を傷つけた相手を赦すという霊的な難しい作業をします。でも、そうしないこともできます。個人的な関係における自分の過ちや落ち度に気づいたときに修正します。でも、そうしないこともできるのです。

皆さんと同じように、わたしも必要な軌道修正を行うことの大変さを知っています。あるとき、過って同じワードの姉妹を

傷つけてしまいました。その問題を解決する必要があったのですが、プライドがじゃましてその姉妹のところに行って赦しを求めることができませんでした。家族や、そのほかの事柄で自分の悔い改めを引き伸ばす言い訳を作りました。時がたてばきっと解決すると思っていました。しかしそうはいきませんでした。

わたしは幾晩も夜の静けさの中で目を覚まして、自分が主の望まれている道を歩んでいないことをはっきりと認識しました。正しく行動すれば、主の憐れみの御腕が伸べられる、という信仰に従っていなかったのです。わたしは力と勇気を求めて祈り、へりくだり、その姉妹の家へ行って赦しを請いました。それはわたしたち二人にとって、すばらしい癒しの経験となりました。

時折、個人的な軌道修正は突然求められます。教会の集会後に、急いでいるの

に玄関ホールを引き返し、話が長くなると分かっている、孤独な姉妹にあいさつをしに行くといったときです。また、前向きな関係を築こうとしているにもかかわらず、自分を心なく扱う家族への憤りを克服するのと同じくらい、軌道修正が長期的なものになることもしばしばです。しかし、悔い改めに不可欠な段階であるこの個人的な軌道修正は、往々にして「平安な義の実を結ばせる」のです。¹¹

ミネルバ・タイカートの荘厳な名画に描かれた女性たちのように、わたしたちがその義の実を求めて、切望と崇敬の念を抱きながら救い主に手を伸ばすのは当然のことでしょう。主が「〔御自身〕に頼る者に憐れみの御腕」を差し伸べられることを知っているからです。¹² この栄えある約束は真実なので、わたしたちが目を向け、手を伸ばし、身を寄せるのは、世の光、神の小羊、わたしたちのメシヤであるイエス・キリストだけです。

「義の御子は」長血を患っていた一人の女性だけでなく、わたしたち一人一人のためにも「翼に癒しを携えて現れる」ことを知っています。¹³ 主はわたしたちが主のみもとに来ることを選ぶなら、わたしたちを導き、祝福し、集めてくださいます。わたしたちが毎日この選びをできますように。

イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 2ニーファイ1:15
2. ヘブル12:2
3. 3ニーファイ9:14
4. 3ニーファイ10:6
5. マルコ5:25
6. ルカ8:43-48
7. ヤコブの手紙1:6
8. モロナイ7:46
9. モロナイ8:17参照
10. 「モルモンとは『より良い』」『聖徒の道』1991年1月号、61
11. ヘブル12:11
12. モーサヤ29:20
13. 3ニーファイ25:2

主の愛の御腕

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

扶助協会は世界最大の女性の組織です。それは神によって創設されました。



愛する姉妹の皆さん、このすばらしい扶助協会の大会でお話できることをたいへんうれしく思います。今晚、大いなる信仰を持ち、才能あふれる姉妹たちからすばらしいお話を伺いました。扶助協会の会長会に、わたしたちが全幅の信頼を寄せていることをお伝えします。あらゆる面で彼女たちに感謝しています。モルモン書の二ニーファイ第二書から「主の愛の御腕に永遠に抱かれている」という一節を選んでくださったことに感謝しています。扶助協会の姉妹たちは文字どおり、主の愛の御腕に永遠に抱かれています。

わたしが知るかぎり、扶助協会は世界最大の女性の組織です。それは神によって創設されました。ジョセフ・スミスは1842年に扶助協会を組織したとき、一人の預言者として語り、行動しました。そして、こう語りました。「キリストの教会の組

織は、女性たちが組織されないかぎり、完全なものとなることはありません。(サラ・M・キンボール; Early Relief Society Reminiscences, "1882年3月17日, 扶助協会の記録, 1880 - 1892年, 末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管課)

現在、扶助協会には500万人ほどの会員がいます。扶助協会は多くの国で組織されており、多くの国の言葉で姉妹たちを教えています。18歳以上のあらゆる年代にまたがる教会の女性たちが所属しています。そこには、独身の若い女性や、結婚する機会がない女性があります。また、夫に先立たれた女性や離婚した女性、夫や家族がいる女性があります。また、年配の女性の中には、永遠の伴侶を亡くしている人も大勢います。

教会員でないある友人はわたしにこう言いました。「末日聖徒(LDS)とは、愛(Love)と献身(Devotion)と奉仕(Service)という意味ですね。」では、扶助協会は何を象徴しているのでしょうか。どのような意味があるのでしょうか。少し話しましょう。

扶助協会は愛の象徴です。善良な女性たちが互いに愛し合う光景を見るのは何とすばらしいことでしょう。姉妹たちは愛のぎずなをもって、友情を培い、互いを尊重します。この組織は実際に、多くの女性が愛をもって交わりを深める唯一のよりどころとなっています。

悲嘆に暮れ、助けを必要としている人々に対して、女性は本能的に愛の手を差し伸べます。教会の福祉プログラムは神権を基盤としていますが、扶助協会なしに



は機能を果たせません。

扶助協会は教育の象徴です。教会のすべての女性には、可能なかぎり教育を受ける義務があります。それは生活の幅を広げ、様々な機会を提供してくれます。必要とするときに、仕事に役立つ技術を身に付けることができます。

先週、独りで子供を育てている、ある母親から1通の手紙を受け取りました。その一部を紹介します。

「1996年10月の総大会で、わたしたち家族について話して下さってから、10年がたちました。……わたしや独身の姉妹たちに話して下さった勧告と励ましの言葉は、毎日の生活の規範となっています。わたしのモットーとなり、キャッチフレーズとなっているのは……『あなたの最善を尽くしなさい』という言葉です。わたしは息子たちとまさにそのように努力しています。

4人の息子全員が高校とセミナーを卒業しました。二人は専任宣教師として奉仕しました。それぞれが自立して働き、福音に忠実であるよう努力しています。過去数年間、自分たちだけでそれを成し遂げてきたことを考えると、すばらしい気持ちになります。……自分の足で再び立ち、家族の必要を満たせるようになった今、ある種の達成感をかみしめています。

……

またわたしは、復学したいと思うようになりました。フルタイムで働いて、それから夜学に通うことは大変です。けれどもそれはわたしの人生観を広げ、より善い人になるのに役立っています。家族とワードの会員、そして職場の同僚たちがほんとうによく助けてくれます。この12月に卒業できる見込みです。

自分の祝福師の祝福について深く考え、断食し、祈りました。その結果、自分の人生に対する現実的な目標を定めることができました。それは福音の原則に従って歩むための道しるべとなっています。わたしは出席すべき集會に出席し、毎日祈り、^{しやうぶん} 十分の一を納め、……訪問教師の召しを熱心に果たしています。……

この教会は真実です。末日聖徒イエス・キリスト教会のふさわしい、祝福された会員の一人に数えられることは名誉であり、特権です。わたしたちは愛にあふれる天のお父様の靈感によって導かれています。お父様は一人一人を御存じであり、わたしたちが進歩し、成長することを願っておられます。10年前に話して下さった大管長の温かい励ましの言葉と、主の僕を通して主から与えられる靈感あふれる言葉に感謝しています。わたしは自分が神の子であり、主の教会の会員であ

ることにより、祝福された生活を送れることをよく知っています。」

扶助協会は自立の象徴です。最も優れた食糧貯蔵は教会の福祉施設にあるのではなく、教会員の家庭で蓄えられている缶やビンの中にあります。小麦や米、豆の入った缶を、ベッドの下や台所の棚に保存している様子を見る度に、わたしの心は満たされます。福祉の責任を実践している女性たちがいるからです。味は不十分かもしれませんが、実際に使用するときには、十分な栄養を与えてくれることでしょう。

扶助協会は犠牲を意味します。自分の子供に思いを寄せた、アン・キャンベルの素朴な詩に、いつも心を打たれます。

あなたはわたしが歩んだことのない道
買うことのできない真珠
ずっと夢見たイタリアの青い湖
そして遠い国の空

(“To My Child,”チャールズ・L・ウォリス編で引用, *The Treasure Chest* (1965年), 54)

皆さんの多くは母親です。皆さんには自分の子供を養い、しつける責任があります。年老いて、髪が白くなると、皆さんは、自分が着ていた斬新なデザイン^{ざんしん}の服、運転していた車、住んでいた大きな家などには関心を向けなくなります。最大の関心は、「子供たちはちゃんと育つだろうか?」ということです。

立派になっていれば、感謝の気持ちでいっぱいになるでしょう。もし、そうでなければ、わずかな慰めしか得られないでしょう。

わたしはこう記したことがあります。「母親の皆さんに神の祝福がありますように。男たちの努力の勝ち負けが評価される時、人生の戦いで舞い上がる^{ふんじん}粉塵が次第に収まってくると、この世の競争に明け暮れることの価値が問われ始めるとき、皆さんはそこにいるでしょう。皆さんはそこにおいて、人類の飽くなき進歩を担う新しい世代を支えなければなりません。どのような進歩を遂げるかは、皆さんにかか



っているのです。(One Bright, Shining Hope(2006年), 18)

何年前に、ソルトレークタバナクルで、マリオン・D・ハンクス長老の司会によってパネルディスカッションが行われました。パネラーの中のある若い女性は、離婚して、当時7歳から16歳までの7人の子供を育てている魅力的で有能な人でした。彼女は、ある晩の出来事を話してくれました。通りを渡って近所の家に届け物をしに行ったときの事です。わたしの記憶している彼女自身の言葉を聞いてください。

「歩いて帰って来るとき、明かりのともった我が家が目に入りました。すると数分前に家を出たときに、子供たちが口々に言っていた言葉が耳にこだしました。『ママ、晩御飯は?』図書館に連れてって。『今日中に画用紙が要るんだけど。』疲れ切って自宅を眺めると、どの部屋も電気がつけばなしでした。わたしが帰って自分たちの必要を満たしてくれるのを待っている一人一人の子供のことを考えると、のしかかる肩の荷に耐えられそうに

ありませんでした。

わたしは涙でかすんだ目で空を見上げて、こう言ったのを覚えています。『愛するお父様、今夜はできません。とても疲れしました。無理です。帰って、独りで全員の世話をするなんてできません。今晚だけでけっこうですから、少しみそばで休ませてください。明日の朝には戻りますから。』

すると、実際に返答する声を聞いたわけではありませんが、心にこご聞こえました。『いいえ、娘よ。今来てはいけません。帰りたくなくなるでしょうから。その代わりに、わたしがそこへ行きましょう。』

この若い母親のような経験をしている女性は大勢います。孤独と絶望の中にあるときに、主を信じる信仰を持っていたおかげで、主の愛と助けを得られたのです。

扶助協会は信仰を意味します。それは第一のものを第一にするという意味です。それは^{しゅうぶん}什分の一を納めることにたとえられます。

七十人のリン・ロビンス長老は、パナマ

のあるステーキ会長の話を紹介してくれました。

伝道から帰還したばかりのころ、彼は結婚したいと思う女性に出会いました。二人は幸せでしたが、生活は非常に質素でした。

それから二人は困難な局面を迎えます。食料もお金も底をついたのです。その日は土曜日で、食器棚は文字どおり空でした。夫のレネは、妻が空腹であることを考えるとひどく動揺しました。什分の一のお金で、食べ物を買に行くしかないと考えました。

家を出ようとする、妻が声をかけて、どこへ行くのかと尋ねました。食べ物を買に行くかと答えました。お金はどうしたのかと尋ねられると、彼は什分の一を使うことを告げました。すると妻は言いました。「それは主のお金よ。……そのお金で食べ物を買うことはできないのよ。」妻は夫よりも強い信仰を持っていました。レネはお金を戻すと、その夜おなかをすかせたまま床に就きました。



中央扶助協会集会のために集まったロシア・サントペテルブルクの姉妹たち。

翌日の朝食はなく、二人は何も食べずに教会へ行きました。レネは什分の一をビショップに渡しましたが、自尊心が強すぎて、助けを必要としていることを言い出せませんでした。

集会が終わると、レネは妻と礼拝堂を出て、家に向かって歩き始めました。間もなく、ある新会員が家から声をかけました。この会員は漁師で、食べ切れないほどの魚が捕れたと言いました。彼は新聞紙に5匹の小魚を包んでくれました。二人は礼を言って歩き始めると、今度は別の会員から声をかけられてトルティーヤ 訳注 トウモロコシの粉や小麦粉で作ったパンを渡されました。さらに別の人から呼び止められて、米をもらいました。別の会員は二人を見つけると、豆を差し出しました。

家に着いたとき、二人は2週間分の食料を手にしていました。もっと驚いたことがありました。魚の包みを開いたところ、中には二人が見たはずの5匹の小魚ではなく、大きな魚が2匹入っていたのです。二人は魚を小さく切り分けると、隣の家の冷凍庫で保管してもらうことにしました。

それからも度々試しを受けましたが、ひもじい思いをしたことは二度とありませんでした。

愛する姉妹の皆さん、扶助協会が象徴

するこれらのすばらしい資質はすべて、主の愛の御腕に永遠に抱かれていることを意味するのです。

これはわたしたち全員の願いです。わたしたち皆が望んでいることであり、祈り求めていることです。

さて、愛する姉妹たち、最後に一言申し上げます。皆さんは神の王国において劣った存在ではありません。皆さんは神によって造られたのです。男性は神権を持っていますが、皆さんには別の役割があります。異なっても同じように非常に重要な役割です。皆さんがいなければ、御父の幸福の計画はくじかれて、何の意味も成さなくなります。皆さんは教会の会員の半数を占めており、残る半数の会員の母親です。いかなる人も皆さんを軽々しく扱うことはできません。

先日ある親しい友人から手紙をもらいました。彼女の名はヘレンといい、夫はチャーリーといいいます。その手紙から一部を読みます。

「今日、チャーリーとわたしは聖餐会で話をしました。話の中で、わたしはアイダホフォールズ高校を卒業したときに、あなたがくれたアドバイスについて話しました。リックスカレッジに進学しようとしていたわたしに、あなたはハワイのチャーチカレッジへ行くように勧めました。そうす

れば中国人を先祖に持つ青年と出会って、結婚する機会がもっとあるからです。

わたしはアドバイスに従って、ハワイのチャーチカレッジへ行き、チャーリーと出会い、結婚しました。結婚して37年になります。その間に5人の子供が生まれました。5人とも伝道に行きました。3人の子供はハワイ神殿で結婚しました。二人の独身の子供がいますが、彼らもふさわしい伴侶を見つけて早く神殿へ行ってほしいと思います。6人のかわいい孫がいて、さらに二人生まれる予定です。

わたしは信仰篤い夫に感謝しています。夫は神権を尊び、ビショップ、ステーキ会長、伝道部会長として主に仕えるために常にふさわしく生活してきました。教会の召しを果たす夫を支えることは特権です。わたしは約5年間ステーキ扶助協会の会長を務めました。

今日、多くの祝福を数え上げるときに、あなたがわたしの人生に与えた大きな影響を考えずにはいられません。あなたのアドバイスに従ったことで、豊かに祝福された人生を送ることができたことを知ってもらいたいのです。香港を離れてアメリカに渡ったときから、わたしが成長するのずっと見守ってくれたことに感謝しています。」

これが、扶助協会が女性のために行っていることです。成長と発展の機会を与え、家族の中で女王としての地位に就かせ、自分の才能を生かして成長する場所や立場を与えます。また、家庭生活において自尊心と指針を与え、善良な永遠の伴侶と子供たちに対していっそう感謝する気持ちを姉妹たちにもたらしめます。

扶助協会は何とすばらしい組織でしょうか。世界中どこを探してもこれに比類する組織はありません。

偉大な扶助協会の活動を通して、皆さん一人一人にこれらのすばらしい特質が主から授けられますように、イエス・キリストの聖なる御名により、へりくだり祈ります。アーメン。

わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンに関する以下の指示は、『教科課程に関する神権指導者と補助組織指導者への情報 2005年 - 2008年』にある指示に取って代わるものです。

毎月の第4日曜日のメルキゼデク神権と扶助協会の集会は、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。「わたしたちの時代のための教え」のレッスンは、す

べて最新の『リアホナ』総大会特集号の説教から教えることとなります。総大会特集号は毎年5月と11月に出版されています。また、大会の説教は <http://www.lds.org> にアクセスすることにより、多くの言語でインターネット上で視聴および閲覧することができます。(訳注 日本語版の文字データを閲覧するには <http://www.ldschurch.jp> にアクセスし、「ライブラリー」大会説教の順にクリックし



てください。)

各レッスンは一つまたは複数の説教を基に準備します。ステーク会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。これらの神権指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日に同じ説教を学ぶことの意義を強調してください。教師はレッスンの焦点をどこに置くかについて指導者に助言を求めてください。

第4日曜日の集会の出席者は、最新の教会機関誌の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。ワードおよび支部の指導者は、すべての会員が教会機関誌を読むよう手配してください。

説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師は時折、大会説教を用いずに、ほかの資料を使ってレッスンを準備したくなることがあるかもしれませんが。しかし、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の

内容を検討してください。また、原則と教義を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。

原則と教義を教えるための大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

教えている説教に含まれる原則と教義を探す。

その原則と教義の意味について考える。

その原則と教義に関する理解や考え、経験、証を分かち合う。

その原則と教義を実生活に応用する。

『教師、その大いなる召し』の31 - 32章を復習する。

「何よりも大切なことは、生徒が御霊の影響を受け、福音をいっそうよく理解し、福音の原則を生活の中で応用することを学び、福音に従って生活しようとする決意を強めることです。(『教師ガイドブック』12)

「わたしたちの時代のための教え」に関するご意見をお寄せください。

あて先 Curriculum Development, 50 East North Temple Street, Room 2420, Salt Lake City, UT 84150 - 3220, USA
電子メール cur-development@ldschurch.org

月	第4日曜日のレッスン教材
2006年11月 2007年4月	『リアホナ』2006年11月号掲載の説教*
2007年5月 2007年10月	『リアホナ』2007年5月号掲載の説教*

*これらの説教は <http://www.lds.org> にアクセスすることにより、インターネットを介して、多くの言語で、視聴および閲覧することができます。(訳注 日本語版の文字データを閲覧するには <http://www.ldschurch.jp> にアクセスし、「教会員の方へ」ライブラリー「総大会説教」の順にクリックしてください。)

指導者の言葉

大会の教えを生活に取り入れるために



以下のアイデアは、個人の学習や家庭の夕べでの話し合いに役立つでしょう。(括弧内の数字は、お話の最初のページを表しています。)次ページの物語のリストも役立つでしょう。

子供たちのために 言葉探し

1. 抜けている言葉を入れましょう。「復活が_____でないことを証します。」(ヒント 28ページのジョセフ・B・ワースリン長老のお話の中から探しましょう。)これはどういう意味でしょうか。復活についての証を持つと、毎日のあなたの生き方は

どのように変わらでしょうか。

2. ジェフリー・R・ホランド長老のお話でハイキングをしていた人たちは、総大会が始まる時間になったときに、何をしましたか。(ヒント このお話は104ページから始まります。総大会が始まる時間になったら、あなたは何をしたらよいと思いますか。

3. モルモン書に登場するバホーランのように、わたしたちは、たとえ人が意地悪なことをしても、自分まで意地悪になる必要はありません。だれかから意地悪なことをされたり言われたりしたとき、何と言えはいいでしょうか。(ヒント 89ページのデビッド・A・ベドナー長老のお話の中から探してください。)

活動

1. ジェームズ・E・ファウスト管長は、弟子になるとは救い主に従うことであると教えました。こう言っています。「弟子になる祝福は、代価を支払う意志のあるすべての人に用意され

ています。」1枚の紙を半分に折ってください。片方にキリストの弟子となるために何を「支払う」必要があるか書いてください。例えば、聖文を勉強する、教会に出席する、真実を語る、人と親切にするなど。反対側には、キリストに従うことによってもたらされる祝福を書いてください。例えば、喜び、平安、守り、導き、永遠に続く家族の関係などが挙げられます。善と悪を選ぶときにいつも、この祝福のリストのことで、それらがあなたにとってどれだけ価値があるかを思い出してください。

2. イレイン・S・ダルトン姉妹はこう言いました。「高貴な生得権を持つ若人の皆さん、永遠の窓をのぞきましょう。聖なる神殿で自分を見つめましょう。ふさわしく清い生活をしている自分を見つめてください。あなたの子孫はあなたを頼りにしています。」神殿のそばにいる自分の絵を描いてください。または、毎日使う鏡に神殿の写真をはってください。毎日、義にかなった目標と、それらを達成するためにどのようにしてふさわしさを保つことができるかを思い出してください。

青少年のために

1. あなたのクラスや定員会の中に、苦難に遭つ



ている人はいますか。その人を助けるために、あなたには何ができますか。トーマス・S・モンソン管長とヘンリー・B・アイリング長老が、義務を果たすことと、人を助けることについて、なんとやっているか、読んでください。(56と43)

2. ホテルのタオルについてのリチャード・C・エッジリー ビショップの話を読んでください(72)。あなた自身の経験の中で、誠実さの模範となる出来事はありますか。正直に人



読んで分かち合えるお話

以下のページで始まるお話には、分かち合うことのできる物語や知恵が含まれています。

- 朝5時からボーリングをした父親と息子, 9
オートバイを倒した息子に対して忍耐を示した父親, 15
ラファエル・モンロイとピンセンテ・モラレスの殉教, 20
欠席した執事のために神権会のレッスンを録音した執事, 43
妻のために特殊なアイロンを買おうとして犠牲を払った父親, 46
魚を釣り上げたマーカス・B・ナッシュ長老, 49
飛び込み台から落ちた後、癒しの祝福を受けた少年, 51
慈善事業で集めた食料を、独りで子供を育てている女性に寄付した祭司, 53
義務を果たしていたときに王様のエメラルドを見つけた少年, 56
入院している友人を訪問し、祝福するようにとの促しを受けたトーマス・S・モンソン, 56
ジェイミー・パーマーを抱えてハイキングをした若い女性たち, 56
トラック運転手と福音について話したウェイトレス, 69
持ち出した3本のタオルを返しに行ったりチャード・C・エッジリー, 72
自動販売機から新聞を盗んだ裕福な男性, 72
なくした指輪を見つけたマーサ・バクスマン, 82
平原で救助された手車隊, 82
国々への旗を掲げた開拓時代の指導者たち, 85
目の不自由な農夫を助けるように靈感を受けた人, 97
ハイキングの途中で友達と総大会を聞いた女性, 104
自分は神様の愛を受ける資格がないと感じた若い母親, 108
深く悲しんでいる扶助協会の姉妹を訪問するように靈感を受けた女性,
113
傷つけてしまった相手に赦しを請い願ったアン・C・ピングリー, 113
7人の子供を独りで育てている女性が、一晩だけ子供の世話を休ませて
くださいと天の御父に祈ったこと, 115
しつもん 什分の一を納め、飢えを免れた若い夫婦, 115



のお話の中から、
えさ 誘惑)に仕掛けられて
いる「針」について
読んでください。

成人のために

1. ゴードン・B・ピンクレー大管長は、なぜ、次の世代が開拓者を覚えているよう望んでいるのでしょうか。わたしたちの「受け継ぎ」すなわち、初期の末日聖徒が払った忠実な犠牲を大切にするにはどうすればよいでしょうか。彼らが始めた業を土台としてわたしたちの業を築き上げていくには、何ができるでしょうか。(82)

2. 臆いに対する理解は、ジョセフ・B・ワースリン長老とワースリン姉妹の生き方に、どのような影響を与えたでしょうか。(28)そのような理解は、ワースリン姉妹が亡くなった後、ワースリン長老にとってどのような慰めとなったでしょうか。ワースリン長老のお話を、愛する人を失った家族や友人に分かち合うことについて考えてください。

3. オートバイを倒してしまった男の子についてのロバート・C・オクス長老のお話を読んでください。(15)この男の子のお父さんの反応はどうだったでしょうか。あなたは、家族やそのほかの人に対して、どのような点で、もっと忍耐強くなれるでしょうか。さらに忍耐強くなるためにオクス長老が教えた4つの提案とは何ですか。



と接することを、今決意してください。

3. 「わたしはここにいます。さあ、靈感を与えてください」という態度に陥っていないか自問してください。そのような態度があれば、どうしたらその態度を変えることができるでしょうか。中央日曜学校会長のA・ロジャー・メリル会長のお話から、お話やレッスンをもっと役立てる方法につい

て復習してください。(92)

4. 「福音を中心とした幸福な生活」の外におびき出されないようにするには、どのような悪を避ける必要があるでしょうか。49ページのマーカス・B・ナッシュ長老

アロン神権者および若い女性用 リソースガイド

以下は『アロン神権2』および『若い女性2』のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。この参考資料の中にある『神への務め』は、小冊子『アロン神権 神への務めを果たす』を表しています。また、『成長するわたし』は、小冊子『若い女性 成長するわたし』を表しています。本ガイドに掲載された『神への務め』および『成長するわたし』の活動の幾つかは、レッスン中に実施することもできますし、家庭で行うよう定員会の会員またはクラスの生徒に勧めることもできます。教えるためのそのほかのアイデアは『リアホナ』の1ページおよび『教師、その大いなる召し』を参照してください。

レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用引きには、復活祭のための特別なレッスンは掲載されていません。復活祭のための特別なレッスンを教えたい場合は、救い主の生涯と使命に焦点を絞った聖句や大会説教、教会機関誌の記事、絵、賛美歌を活用することを検討してください。

インターネットを使用して、英語以外の幾つかの言語でこのリソースガイドを探す場合は、<http://www.lds.org>にアクセスし、世界地図をクリックした後、言語を選択してください。次に『リアホナ』をクリックし、2006年11月号を選択してください。(訳注 日本語の場合は <http://www.ldschurch.jp> にアクセスし、「教会員の方へ」「ライブラリー」を選択してください。あとは上と同じように『リアホナ』をクリックし、2006年11月号を選択してください。)リソースガイドの英語版を閲覧する場合は、<http://www.lds.org>を開き、「Gospel Library (福音図書館)」をクリック

してください。右の欄に最新のリソースガイドへのリンク“Resource Guides”があります。

今後のリソースガイドは『リアホナ』5月号と11月号に掲載されます。幾つかの言語では <http://www.lds.org> にアクセスすれば、教会機関誌をインターネット上で閲覧することができます。

『若い女性2』 用リソースガイド

2007年に第1課から第25課を教える際に用いる

第1課 イエス・キリストに近づく

ゴードン・B・ヒンクレー「御父と御子と聖霊を信じる」『リアホナ』2006年7月号, 2。この話の中にあるイエス・キリストに関する項を用いて「若い女性のだれもがイエス・キリストについて知る必要がある」を補足します。

ディーター・F・ワークトドルフ「キリストのような属性 翼の揚力となる風」『リアホナ』2005年11月号, 100。キリストに似た者となることについての話し合いのまとめとして、話の中の最後の3段落を用います。

キース・B・マクマリン「主イエスを思うとき」『リアホナ』2004年5月号, 33。「努力することによって救い主に近づくことができる」の項を補足するために用います。

『成長するわたし』「徳質の体験 『信仰』」の5

第2課 たまもの みたまの賜

ジュリー・B・ベック「豊かに注がれる祝福」『リアホナ』2006年5月号, 11。癒しの賜物の例として用います。

『成長するわたし』「徳質の体験 『個人の価値』」の7

第3課 神の王国の建設

ステイブーン・B・オープン、デクシー・ランドール・オープン「自らをささ

げる」『リアホナ』2005年9月号, 16。「犠牲は、神のみもとで生活する備えとなる」の項でこの話を用います。

キャスリーン・H・ヒューズ「わたしたちすべてがともに天で座に着けるように」『リアホナ』2005年11月号, 110。この話の中に出てくる例を用いて、教会のために犠牲を払う方法を示します。

第4課 戒めを守ることは、女性としての神聖な役割を果たす助けとなる
ゴードン・B・ヒンクレー「理想の女性となるには」『リアホナ』2001年7月号, 112。レッスンを通じて用い、神聖な価値について説明をするうえで役立てます。

ジェフリー・R・ホランド「若い女性の皆さんへ」『リアホナ』2005年11月号, 28。キリストにつく女性になる方法についてのホランド長老の勧告を用い、戒めを守ることに関する項を強調します。

イレイン・S・ダルトン「確固として力強く進む」『リアホナ』2003年5月号, 105。説教の中の話を用い、神性な務めをどのように果たすかを説明します。

『成長するわたし』「徳質の体験 『神から受け継いだ特質』」の2

第5課 家庭環境

スーザン・W・タナー「将来の母親を強める」『リアホナ』2005年6月号, 16。若い女性が家庭環境の向上に貢献できる方法を示すために、5つの事例を紹介します。

ジュリー・B・ベック「母の心」『リアホナ』2004年5月号, 75。母親の役割についての話し合いの際に用います。

『成長するわたし』「徳質の体験 『神から受け継いだ特質』」の3

第6課 家事を分担する

L・トム・ペリー「互いに愛と関心を示し合う厳粛な責任」『リアホナ』2006年6月号, 56。「家族とともに召しを果たす」の項をレッスンの冒頭で用います。

『成長するわたし』「徳質の体験 『善い行い』」の1

第7課 愛と一致をもって生活する

スーザン・W・タナー「『わたしはあなたに話したでしょうか……』」『リアホナ』2003年5月号, 73。この話をレッスンの導入で用いることを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験 『個人の価値』」の3

第8課 コミュニケーションの技術を向上させる

「質疑応答」『リアホナ』2004年2月号, 30。レッスンの「私たちは家庭内のコミュニケーションの改善に寄与することができる」の項で、この記事の冒頭にある提案を用います。

『成長するわたし』『若人の強さのために』の標準 言葉遣い

第9課 家庭に平和をつくり出す人

スーザン・W・タナー「『あなたがたの掲げる光とは、わたしである。』」『リアホナ』2006年5月号, 103。レッスンの物語の代わりに、ラルカの話を用いることを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験 『神から受け継いだ特質』」の7

第10課 神権 大いなる祝福

ジェームズ・E・ファウスト「万物の回復」『リアホナ』2006年5月号, 61。レッスンの冒頭で用います。

ジュリー・B・ベック「豊かに注がれる祝福」『リアホナ』2006年5月号, 11。神権を通して得た祝福を挙げる際に用います。

第11課 監督に感謝する

ゴードン・B・ヒンクレー「イスラエルの羊飼い」『リアホナ』2003年11月号, 60。最初の引用文を、ピンヨップについてヒンクレー大管長が行った説明に替えます。

第12課 父親の祝福

L・トム・ペリー「父親、永遠の召し」『リアホナ』2004年5月号, 69。「父親は子供に神権を通して祝福を与えることができる」の項で、説教にある「父親の役割」の項について話し合います。

メリル・J・ベイトマン「祝福をもたらす神権、鍵、力」『リアホナ』2003年11月号, 50。学校での祝福を話

し合う際に、ペイトマン長老のマイケルについての話を付け加えることを検討します。

第13課 祝福師の祝福

ジュリー・B・ベック「高貴な生得権『リアホナ』2006年5月号, 106。引用文を声に出して読む際に、ベック姉妹の祝福師の祝福についての勧告をあわせて話します。

「祝福師の祝福『リアホナ』2004年3月号, 18。記事に掲載されている答えを用いて、若い女性の、祝福師の祝福に対する疑問に答えます。『成長するわたし』『徳質の体験』『個人の価値』の6

第14課 神殿の祝福

ラッセル・M・ネルソン「ヤングアダルトと神殿『リアホナ』2006年2月号, 10。この話の「絶えることのない啓示」の項を用いて、啓示についてのレッスンを掘り下げます。

『成長するわたし』『徳質の体験』『誠実』の1

第15課 神殿結婚

ゴードン・B・ピンクレー「永遠に続く結婚『リアホナ』2003年7月号, 2。リグランド・リチャーズ長老の話を、この話の中の「正しく結婚し、正しく生活する」の項に替えることを検討します。

ロバート・D・ヘイルズ「神聖な結婚に備える『リアホナ』2006年2月号, 16。まとめの際に、永遠の進路を決めるようにというヘイルズ長老の勧告を紹介します。

第16課 日記

ゴードン・B・ピンクレー「『神の王国を求めなさい』』『リアホナ』2006年5月号, 81。レッスンの日記に関する預言者の勧告についての項で、ピンクレー大管長の日記の一部を読みます。

第17課 家族の記録を作成する

ジェームズ・E・ファウスト「自分という驚くべき存在』『リアホナ』2003年11月号, 53。ファウスト管長の話を用いて、最初の項にある家族歴史の目的を強調します。

ボイド・K・バック「あなたの家族歴史 始めること』『リアホナ』2003年8月号, 12。この話の中の「ど

のように始めるか」の項を用い、「家族の記録は、系図表と家族の記録の作成から始まる」を補足します。

ヘンリー・B・アイリング「結ばれた心』『リアホナ』2005年5月号, 77。レッスンの「あなたも先祖の鎖につながることができる」の項の導入としてこの話を用います。

『成長するわたし』『徳質の体験』『個人の価値』の5

第18課 正しい伝統

ロナルド・A・ラズバンド「教会の若者たち』『リアホナ』2006年5月号, 46。キンボール大管長の話をする際に、死者のためのバプテスマの話を付け加えます。

H・ロス・ワークマン「罪の鎖を断ち切る』『リアホナ』2006年7月号, 36。レッスンの「正しい伝統と世俗的な伝統とを区別する」の項を教える際に、ワークマン長老が自由と束縛について述べている説明を用います。

第19課 教える準備

M・ラッセル・バラード「福音を伝える家庭を築く』『リアホナ』2006年5月号, 84。レッスンの「福音を教えるために役立つ技術を養う」の項で、この説教で述べられているアイデアを話すことを検討します。

M・ラッセル・バラード「もう一人』『リアホナ』2005年5月号, 69。レッスンの導入でロールプレーを行った後で、宣教師訓練センターの宣教師が何をしておけばよかったかについて、説教の中の答えを紹介します。

シャナ・パトラー、アダム・C・オルソン、ロジャー・テリー「主の福音を宣べ伝える』『リアホナ』2005年9月号, 10。記事の「準備に準備を重ねる」の項に挙げられているアイデアを用い、学んだ事柄を実践するよう促します。

第20課 福音を分かち合う

トーマス・S・モンソン「預言者ジョセフ・スミス 模範による教師』『リアホナ』2005年11月号, 67。モンソン管長が挙げている人格の模範を紹介し、伝道活動における模範の大切さについての話し合いをさらに深めます。



ダリン・H・オクス「福音を分かち合う』『リアホナ』2002年1月号, 7。若い女性が福音を伝えるためにどのような準備を行うかについての話し合いで、説教の「どのように行うか」の項を補足として用います。

『成長するわたし』『徳質の体験』『善い行い』の7

第21課 手紙を通して宣教師を励ます
デビッド・A・ベドナー「宣教師になる』『リアホナ』2005年11月号, 44。説教の適切な項を用い、伝道の責任について話し合います。

第22課 主のみこころを伺う
ジョセフ・B・ワースリン「祈りを改善する』『リアホナ』2004年8月号, 16。祈りについて話し合う際に、この話の「祈りの法則」の項を用います。

『成長するわたし』『徳質の体験』『信仰』の1

第23課 断食は祝福をもたらす
ジョセフ・B・ワースリン「断食の律法』『リアホナ』2001年7月号, 88。断食に関する若い女性の意見を、この説教を用いて補足します。

ロナルド・T・ハルバーソン「天からの雨』『リアホナ』2004年8月号, 42。マシュー・カウリー長老の話をこの話に替えることを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験』『誠実』の6

第24課 日々の生活の中の啓示
ジェームズ・E・ファウスト「聖き御霊との交わり』『リアホナ』2002年3月号, 2。2番目の項で、ファウスト管長が述べている個人の啓示を受ける方法を用います。

ダリン・H・オクス「啓示が必要な8つの理由』『リアホナ』2004年9月号, 8。レッスンのまとめとして8つの理由を紹介します。

第25課 犠牲の律法

M・ラッセル・バラード「犠牲の律法』『リアホナ』2002年3月号, 10。

レッスンの冒頭の補足として、この話を用います。

高元龍「犠牲は喜び、そして祝福である』『リアホナ』2005年11月号, 92。犠牲が祝福をもたらす例として、まとめに用います。

『アロン神権2』 用リソースガイド

2007年に第1課から第25課を教える際に用いる

第1課 人の本質

ジェームズ・E・ファウスト「自分を何者であると考えていますか 青少年へのメッセージ』『リアホナ』2001年6月号, 2。レッスンの適切な箇所での話を用い、補足します。

ジョセフ・B・ワースリン「神権者に成長する』『リアホナ』2000年1月号, 45。天の御父に似た者となる方法を話し合ううえで役立てます。

『神への務め 祭司』学業、人格、職業への備えの面での成長』の7

第2課 天父について知る
ゴードン・B・ピンクレー「靈感を伝える言葉』『リアホナ』2006年3月号, 2。「神を信じる」の項をレッスンの導入に用います。神権の責任に関する項で、「王国の神権者」と教会に忠実な者となる」を用います。

ジェームズ・E・ファウスト「唯一の、まことの神でいますあなたと、イエス・キリストとを知る』『リアホナ』1999年2月号, 2。レッスンを通じて補足として用います。

イレイン・S・ダルトン「主は皆さんの名前を御存じです』『リアホナ』2005年5月号, 109。神が人の名前を御存じであることについての項で、補足として用います。

第3課 イエス・キリストを信じる信仰
ゴードン・B・ピンクレー「御父と御

子と聖霊を信じる『リアホナ』2006年7月号,2。レッスンの冒頭の「イエス・キリストを信じる信仰を持つ」を補足するために用います。

アール・C・ティンギー「偉大な幸福の計画『リアホナ』2006年5月号,72。贖罪しよくざいの説明をするうえで役立てます。

「園から空になった墓へ」『リアホナ』2006年4月号,8。贖罪について話し合う際に補足として用います。

『神への務め 執事』『霊的な面での成長』の1と2

第4課 聖霊との交わり

ジョセフ・B・ワースリン「言い尽くせない賜物」『リアホナ』2003年5月号,26。聖霊の賜物とその働きについて説明する際に役立てます。

デビッド・A・ベドナー「いつも主の御霊を受けられるように」『リアホナ』2006年5月号,28。レッスンを通じて補足として用います。

カーロス・E・エイシー「聖霊を伴侶とする」『聖徒の道』1988年8月号,34。エイシー長老が述べている段階を、御霊がともにあるためにしなければならない事柄を説明するうえで、役立てます。

第5課 自由意志

ロバート・D・ヘイルズ「思いのままに行動する 選択の自由という賜物と祝福」『リアホナ』2006年5月号,4。レッスンの冒頭に用い、選択の自由について説明します。

ウォルフガング・H・ボール「選択の自由の賜物」『リアホナ』2006年5月号,34。レッスンを通じて補足として用います。

「奴隷にならないで」『リアホナ』2003年2月号,33。

第6課 キリストのような奉仕

ゴードン・B・ヒンクレー「さらに親切になる必要性」『リアホナ』2006年5月号,58。ヒンクレー大管長が挙げている親切な行いの例を用いてレッスンを補足します。

ジョセフ・B・ワースリン「思いやりという美德」『リアホナ』2005年5月号,26。ワースリン長老が述べている思いやりのある行いの例をレッ



ソンの冒頭で用います。

『神への務め 教師』『社会の一員としての社会的な面での成長』の3。『神への務め 祭司』『霊的な面での成長』の9

第7課 家族の永遠の重要性

トーマス・S・モンソン「最高の自分になる」『リアホナ』2006年4月号,2。生徒が家族から学んできた事柄を話し合う際に、「家族の道を選ぶ」の項を読みます。

M・ラッセル・バラード「永続するものこそ最も大切なものである」『リアホナ』2005年11月号,41。レッスンの導入を補足するために用います。

ロナルド・A・ラズバンド「教会の若者たち」『リアホナ』2006年5月号,46。レッスンの導入に際し、ラズバンド長老と長老の家族がイザリスのプレストンでした霊的な経験を紹介します。

『神への務め 執事』『社会の一員としての社会的な面での成長』の4

第8課 霊性

ディーター・F・ワークドルフ「わしの翼に乗って」『リアホナ』2006年7月号,14。この話の「自制を身に付ける」の項を用い、物語を使った話し合いを補足します。

「生まれながらの人を捨てる」『リアホナ』2006年7月号,30。レッスンを通じて補足するために用います。

第9課 悔い改めとイエス・キリストの贖罪

ボイド・K・バックー「主なるわたしはもが あなたの罪を思い起こさない。」『リアホナ』2006年5月号,25。アルマとコリアントンについて話し合う際に補足として用います。

ジェフリー・R・ホランド「壊れたものを元どおりに」『リアホナ』2006年5月号,69。悔い改めを教える導入として、キリストのもとに行く方法とし

てホランド長老が第2に挙げている事柄を紹介します。

リチャード・G・ヒンクレー「悔い改め 会員であることの祝福」『リアホナ』2006年5月号,48。レッスンの中の話に代わり、この説教の中にある求道者の悔い改めについて話をうけることを検討します。

第10課 聖典を研究する

L・トム・ペリー「モルモン書を読むことから得られる祝福」『リアホナ』2005年11月号,6。ニーファイとリーハイしんちやう、真鍮の版について話し合う際に、補足として用います。

『神への務め』『執事、教師、祭司用』『家族の活動』の1

第11課 サタンと誘惑

ジェームズ・E・ファウスト「御霊の声」『リアホナ』2006年6月号,2。サタンに屈しない方法を話し合う際に、「義にかなった声を聞く」の項を用います。

ダリン・H・オークス「欺かれてはならない」『リアホナ』2004年11月号,43。「サタンの業は人を滅ぼすことにある」について話し合う際に、サタンが欺く方法についてのオークス長老の説明を用います。

『神への務め 教師』『霊的な面での成長』の5

第12課 祈り

ジョセフ・B・ワースリン「祈りを改善する」『リアホナ』2004年8月号,16。冒頭の物語の代わりに「祈りの法則」を用いることを検討します。

『神への務め』『執事、教師、祭司用』『神権の義務と標準』の3

第13課 断食

カール・B・ブラッド「適切な断食から得られる祝福」『リアホナ』2004年11月号,47。断食についてのブラッド長老の説明を用いて、「断食は絶食以上のことである」について話し合います。

ロナルド・T・ハリバーン「天からの雨」『リアホナ』2004年8月号,42。断食に関する話の一つの代わりとして用いることを検討します。

『神への務め 執事』『定員会活動』の2

第14課 神への従順

ヘンリー・B・アイリング「霊的な備え 早くから始め、絶えず積み重ねる」『リアホナ』2005年11月号,37。レッスンの「従順は自由と幸福をもたらす」の項で、アイリング長老が述べている今できる備えの方法について話し合います。

『神への務め 祭司』『家族の活動』の1

第15課 誓約を守ることによる昇栄
リチャード・J・メインズ「聖約を守る」『リアホナ』2004年11月号,92。聖約を守ることに関する話し合いの中で、アンモンの民の模範を話し合います。

『神への務め 祭司』『定員会活動』の1

第16課 什分の一と捧げ物

アール・C・ティンギー「永遠の規範を確立する」『リアホナ』2004年10月号,20。レッスンの「什分の一と捧げ物を納めるようになる」の項の導入として、「什分の一と献金についての説明を用いることを検討します。

ステイブーン・B・オープンソン、デクシー・ランドール・オープンソン「自らをささげる」『リアホナ』2005年9月号,16。レッスンの導入でバックナー会長の話を紹介する前に、この話の「什分の一以上のもの」の項を用います。

キャスリーン・H・ヒューズ「小さなことから」『リアホナ』2004年11月号,109。レッスンの什分の一の祝福に関する項の冒頭で、この話の中の該当する箇所を紹介します。

『神への務め 執事』『神権の義務と標準』の7と9。『神への務め』『教師、祭司用』『神権の義務と標準』の8

第17課 祝福師の祝福

ジュリー・B・ベック「高貴な生得権」『リアホナ』2006年5月号,106。クイズの8番の回答の際に、祝福師の祝福を受ける備えについてのベック姉妹の勧告を用います。

「祝福師の祝福」『リアホナ』2004年3月号,18。この記事に書いてある事柄をクイズの答えを補足するために用います。

『神への務め 祭司』『家族の

中央補助組織会長会

日曜学校



第一顧問
ダニエル・K・ジャッド



会長
A・ロジャー・メリル



第二顧問
ウィリアム・D・オズワルド

扶助協会



第一顧問
キャスリーン・H・ヒューズ



会長
ボニー・D・パーキン



第二顧問
アン・C・ピングリー

若い男性



第一顧問
ディーン・リード・パージェス



会長
チャールズ・W・ダークリスト



第二顧問
マイケル・アントン・ナイダー

若い女性



第一顧問
ジュリー・B・ベック



会長
スーザン・W・ターナー



第二顧問
イレイン・S・ダルトン

初等協会



第一顧問
マーガレット・S・リファース



会長
シェリル・C・ラント



第二顧問
ピッキー・F・松森

活動』の3

第18課 アロン神権における教師の義務

「回復された神権『リアホナ』2004年4月号,30。レッスンの教師の義務に関する項を掘り下げるために、この記事の中の説明を用います。

『神への務め 教師』『霊的な面での成長』の1

第19課 へりくだる心と悔いる精神 D・トッド・クリストファーソン「あなたが改心したときには『リアホナ』2004年5月号,11。説教の中の打ち砕かれた心と悔いる霊についての説明を用いて、レッスンの「新たな犠牲」の項を掘り下げます。

ロバート・K・デレンバグ「天の恵みのいけにえ」『リアホナ』2002年11月号,33。説教の中の犠牲についての説明を用い、レッスンの「へりくだる心と悔いる精神」の項を掘り下げます。

第20課 聖餐の執行

ジェームズ・E・ファウスト「王国の神権者」『リアホナ』2006年5月号,50。レッスンの「敬虔な態度で聖餐を執行する」の項で、いかに加減な態度で奉仕をしていた執事の話を用います。

ロバート・C・オクス「主の方には『リアホナ』2005年5月号,48。レッスンの「聖餐は神聖な儀式である」の項を補足するために、説教の前半を用います。

『神への務め 執事』『定員会活動』の7

第21課 メルキゼデク神権への備え ジェームズ・E・ファウスト「神の知識の鍵」『リアホナ』2004年11月号,52。まとめに際し、神権を尊んで大いなるものとするために要求される3つの事柄について話し合います。

ラッセル・M・ネルソン「神権の鍵」『リアホナ』2005年10月号,26。メルキゼデク神権の特権について話し合う際に、ネルソン長老が述べた鍵の定義を紹介します。

『神への務め 祭司』『定員会活動』の4

第22課 家庭における族長制度 ジェームズ・E・ファウスト「愛してく

れる父」『リアホナ』2006年9月号,2。父親を支持する方法について話し合う際に、この話の「父親を強める」の項7を用います。

F・メルビン・ハモンド「お父さん、起きていますか?」『リアホナ』2002年11月号,97。若い男性が将来家族をもつ備えをする方法について話し合う際に、あわせて用います。

『神への務め 教師』『霊的な面での成長』の11

第23課 伝道の実用的な備え リチャード・G・スコット「わたしの福音を宣べ伝えなさい」の持つ力」『リアホナ』2005年5月号,29。レッスンを通じて、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に精通することの大切さについて話し合う際に用います。

デビッド・A・ベドナー「宣教師になる」『リアホナ』2005年11月号,44。レッスンの冒頭で、ベドナー長老が伝道に備えることについて述べた勧告について話し合います。

『神への務め 執事』『霊的な面での成長』の9と10。『神への務め 教師』『霊的な面での成長』の8と9。『神への務め 祭司』『霊的な面での成長』の8

第24課 労働のもたらす祝福 ディーター・F・ウークトルフ「初めから終わりを知る」『リアホナ』2006年5月号,42。伯爵夫人の物語の代わりに、ウークトルフ長老の洗濯物の話を用います。

W・ロルフ・カー「ふつつかな僕」『リアホナ』2003年10月号,26。最初の引用文をカー長老の農場の話に替えることを検討します。

『神への務め 教師』『学業、人格、職業への備えの面での成長』の4、『神への務め 祭司』『学業、人格、職業への備えの面での成長』の3

第25課 自制心のもたらす高潔 ジェームズ・E・ファウスト「内なる敵」『リアホナ』2001年1月号,54。最初の引用文を、ファウスト管長の内なる敵についての説明と替えます。

『神への務め 教師』『霊的な面での成長』の5



ヒンクレー大管長、教会は健全な状態にある、と語る

ケイト・マクニール、教会機関誌

コードン・B・ヒンクレー大管長は第176回半期総大会において、教会は健全な状態にあり、また自身の健康も良い状態にあることを報告した。

96歳の預言者はこう語った。「わたしは元気ですし、わたしの健康状態は比較的良好です。」

また、1月に行われた手術とその後治療により快復したことについて、「奇跡的だった」と医師団が述べたことを紹介した。ヒンクレー大管長は11月初旬をもって、回復された教会の歴史を通じて最高齢の大管長となる。デビッド・O・マッケイ大管長(1873 - 1970年)が他界したのは96歳と132日だった。ヒ

ンクレー大管長は6月23日に96歳の誕生日を迎えている。

ソルトレーク・シティのカンファレンスセンターで開かれた大会の部会には10万人以上の人々が出席し、さらに世界各地で数百万の人々が大会の様態を視聴した。大会の説教は、今回から加えられたトルコ語を含む85の言語に翻訳されている。

土曜の午前の部会でヒンクレー大管長は、教会が進歩を遂げていることについてこう報告した。「要するに、主は御自身の教会を豊かに祝福してくださっています。そして、わたしたちの義務は全力を尽くして前進することです。」

教会で123番目と124番目とな



上段 大会に出席するチャンスを求めてテンプルスクウェアに並ぶ会員たち。上 大会の出席者にあいさつする大管長会のゴードン・B・ヒンクレー大管長とトーマス・S・モンソン管長。

る神殿は、先ごろカリフォルニア州サクラメントとフィンランドのヘルシンキで奉献された。ヒンクレー大管長は、教会の所有する衛星放送受信施設は1982年の時点でわずか300にすぎなかったが、現在では83か国で6,066となっていると語った。

ヒンクレー大管長はまた、テ

ンプルスクウェアのソルトレーク・タバナクルで、現在改修工事が行われており、2007年の春から再び使用できる予定であると説明した。タバナクル合唱団は毎週の放送番組「ミュージック・アンド・スポークン・ワード」のために同建物を使用していたが、改修工事期間中、カンファ

レンスセンターから放送を行っている。

土曜の午後の部会において、七十人第二定員会の8人が教会の中央幹部として専従する務めを解かれた。解任となったのは、ロナルド・T・ハルバーソン、デール・E・ミラー、H・ブライアン・リチャーズ、ドナルド・L・ステューリー、デビッド・R・ストーン、H・ブルース・ストゥーキ、ロバート・J・ホエトン、リチャード・H・ウインケルの各長老である。

さらに、ドイツ、フランクフルトのエリック・W・コピシュカ(49歳)が地域七十人として召された。土曜の部会では以下の3人の地域七十人も解任された。セザール・A・S・ミルダー、関恵基、中

野正之^{のまさゆき}の各長老である。

2006年は開拓者の手車隊がソルトレーク盆地に到着して150周年を記念する年である。

ピンクレー大管長は開拓者についてこのように語った。「彼らの信仰はわたしたちの受け継ぎです。それは、わたしたちが今日^{こんにち}得ている快適な暮らしのために、彼らが払った代価を思い起こさせるものです。……この偉大な大義を推し進めるに当たり、わたしたちが最も必要としているのは、さらなる信仰^{みまご}です。信仰がなければ、御業は止まってしまいます。信仰があれば、だれもその進歩を止めることはできません。」

エライザ・ヤング・ロジャーズ・ワースリン姉妹、死去

十 二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老の夫人エライザ・ヤング・ロジャーズ・ワースリンは2006年8月16日、老衰のため死去した。

ワースリン長老は総大会の土曜の午後の部会で、自分の永遠^{はんりよ}の伴侶についてこう語っている。(28ページ参照)妻はわたしの力であり喜びでした。妻のおかげでわたしはより善い人、より良い夫、より良い父親になれました。……妻には言い表せないほどの恩があります。完璧^{かんぺき}な結婚というものがこの世に存在するかどうか分かりませんが、少なくともわたしの側^{がわ}から言えば、わたしたちの結婚は完璧でした。……エライザはわたしの最大の喜びだったために、その死は最大の悲しみとなりました。」



エライザ・ヤング・ロジャーズ・ワースリン

エライザ・ロジャーズは1919年6月22日ソルトレーク・シティにおいて4人の子供の末子として誕生した。彼女は1941年5月26日ソルトレーク神殿において、当時大管長会の顧問であったデビッド・O・マッケイ管長の司式によりワースリン長老と結婚した。ワースリン長老が

使徒に召されたのは1986年のことである。

ワースリン姉妹はユタの開拓者の直系の子孫である。父オーソン・マドセン・ロジャーズは、1878年にユタで組織された初等協会の初代会長オーレリア・スペンサー・ロジャーズの孫であった。母バーニス・ヤングは、ブリガム・ヤング大管長の兄ジョセフ・ヤングの孫娘だった。

ユタ大学で商業実務教育を専攻したワースリン姉妹は卒業後、大学事務局の秘書として働き始め、最初の子供が生まれるまで同職にあった。後に夫が自営業を始めたとき、彼女は事務的な仕事を手伝っている。

ワースリン夫妻には7人の娘と1人の息子がいる。全員が、母が若いころに通ったユインタ小学校、ルーズベルト中学校、イースト高校に通った。子供たちの在学中、ワースリン姉妹はPTA活動に積極的にかかわるとともに、オペラクラブの会員として、子供たちのオペラ鑑賞クラスを教えた。

子供たちが幼い間、彼女はほとんど旅行をしなかった。初めて飛行機に乗ったのは50代になってからのことである。それからは教会の割り当てを果たす夫とともに多くの国々を訪れた。ワースリン家はドイツで5年間暮らす機会があった。その間に、彼女はドイツとドイツ国民に対して大きな愛を抱くようになった。

教会の補助組織で働いている間、ワースリン姉妹は病気で苦しんでいる人々や助けを必要としている人々を支援する機会が訪れる度に大きな感動を覚えた。「あなたが今いる場所が奉仕を行う最善の場所である」という人生哲学に基づいて、彼女はあらゆる機会をとらえて自

分をささげていた。

家の中には彼女の特別な場所があった。それは母からもらった古いイスだった。彼女はよくそのイスに座って、聖典や書物を読み、慰めと励ましと楽しみを得ていた。ワースリン姉妹はほかに、テニス、編み物、散歩を趣味としていた。また夫とともに、8人の子供、46人の孫、49人の曾孫^{ひまご}と交わるのを楽しみとしていた。

ミューチャルの2007年度テーマが発表される

2006年、教会の青少年は、ミューチャルの年間テーマを活動の中心に据え、才能^{あかし}と証を分かち合ってきた。2006年のミューチャルのテーマは「立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためである」(教義と聖約115:5)であった。

2007年のテーマでは個人の霊的な強さが強調される。ミューチャルの新年度のテーマは、リバティーの監獄で絶望の淵に立たされていた預言者ジョセフ・スミスへの啓示に由来している。「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増す」(教義と聖約121:45)

若い男性と若い女性の中央会長会は共同宣言の中で、不安や疑問と闘っている青少年はミューチャルの新年度のテーマに希望を見いだすであろうと



リバティアーの監獄に囚われの身となった預言者ジョセフ・スミス。彼がここで受けた啓示は、教義と聖約121章と122章に記されている。ミューチャルの2007年度のテーマは教義と聖約121:45から取られている。

述べている。「『神の前における』自信こそ、ほんとうの自信なのです」と宣言文の中で述べられている。「もし神の前において自信を持つことができるなら、だれのそばにいても自信を持つことができるでしょう。」

「主は心を見られる(サムエル上16:7)。そこで、徳高い思いを持つ若人は主が自分を受け入れておられることを確信して、徳高い生活を送ることだろう。若い女性と若い男性の中央会長会は若人に対して、徳高い生活を送るために『若人の強さのために』(カタログ番号36550 300)から指針を

見つけるよう奨励している。

若人はどのようにして、徳で思いを飾ることができるのだろうか。大管長会第二顧問のジェームズ・E・ファウスト管長はこう述べている。「徳という言葉には、道徳的に優れていること、正しい行動と考え、人格的に優れていること、……清純さなど、様々な意味があります。(『天使に近い者となるために』『聖徒の道』1998年7月号, 103)

「多くの人徳の意味を十分に理解していません」とファウスト管長は語った。「一般的には純潔であること、道徳的に清いことと理解されていますが、完全

な意味での徳には、人格を形成するうえで助けになるあらゆる義の特質が含まれます。(『義にかなった神の娘の持つ徳』『リアホナ』2003年5月号, 108)

十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老は義がわたしたちの自信にどのような影響を及ぼすかについて説明している。「正しいことを行うとき、おどおどせずに堂々と神から導きを受けることができます。わたしたちは、主が祈りにこたえ、困難なときに助けてくださることを知ることができるでしょう。『高潔な人』『聖徒の道』1990年7月号, 37参照)

徳高い生活を送るなら聖霊を伴侶とすることができ、聖霊を伴侶とすることができるなら主の導きを得ることができ、主の前において自信を持つことができる。

大管長会は2006年8月1日付けの手紙でミューチャルの2007年度のテーマを発表し、ミューチャルの開会行事と他の青少年の活動においてこのテーマを強調するよう、若い男性と若い女性の指導者を励ました。

このテーマに関する資料が2007年1月号の『リアホナ』と『ニューエラ』(New Era)に掲載される予定である。



「聖なる坂」デビッド・リン

1856年10月23日、ウィリー手車隊は猛烈な吹雪の中、ロッキーリッジの5マイル(8キロ)に及ぶ険しい坂を上った。キルトを身にまとい進んだ彼らだったが、命を落とした者もいた。それでも手車隊は希望を胸に前進した。



「アルマは息子ヒラマンにこう宣言しました。『悔い改めと主イエス・キリストを信じる信仰についてこの民に宣べ伝えなさい。謙遜けんそんになるように、また柔和で心のへりくだった者になるように教えなさい。主イエス・キリストを信じる信仰をもって、悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かうように教えなさい。』(アルマ37:33)わたしたちが携わる偉大な大義において、主が信仰を与えてくださいますように。信仰がろうそくの光のように闇夜を照らし、昼の雲のように、わたしたちを導いてくれますように。」第176回半期総大会の日曜午前の部会で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はそう語った。

